

中公新書	3
分野別分類	151
著訳編者名索引	227
書名索引	240

中公新書

2024年 解説目録



- この目録には、2024年4月1日現在発売中の書籍を収録しております。それ以降の新刊については、中央公論新社ホームページ (<https://www.chuko.co.jp/>) をご覧ください。
- この目録の表示価格は、2024年4月1日現在の本体価格です。また、重版の際に価格が改訂されたり、品切れとなる場合がありますことをご了承ください。
- 価格の下の数字は当該書のISBNコード978-4-12に続く7桁です。書店でのご注文にご利用ください。
- 電子書籍版については、上記の中央公論新社ホームページをご覧ください。書籍で品切れとなった作品も多数販売しています。
- 電子書籍版は主要電子書店にてお求めください。

当社刊行物の無断複製（コピー）は著作権法上での例外を除き禁じられています。また、代行業者等に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用を目的とする場合でも著作権法違反です。

1 日本の名著 改版
— 近代の思想

桑原武夫 編

われわれは、過去の文学作品に接する機会は多くても、明治初年から終戦までの日本人の思想的苦闘のあとをどれだけ知っているだろうか。人間は虚無から創造することはできない。われわれが日本の未来を構築するためには、まず日本近代の思想遺産を活用しなければならぬ。本書は、未来への意欲の出発を意図する現代知識人が、前進のための足場を自由に見いだしうるようにできるだけ幅ひろく、福沢諭吉から丸山真男まで五十の名著を紹介する。

3 アーロン収容所 改版
— 西欧ヒューマニズムの限界

会田雄次 著

英軍は、なぜ日本捕虜に家畜同様の食物を与えて平然としていられるのか。女性兵士は、なぜ捕虜の面前で全裸のまま平然としていられるのか。ビルマ英軍収容所に強制労働の日々を過ごした歴史家の鋭利な筆はたえず読者を驚かせ、微苦笑させつつ西欧という怪物の正体を暴露してゆく。激しい怒りとユーモアの見事な結合がここにある。強烈な事実のもつ説得力の前に、私たちの西欧観は再出発を余儀なくされるだろう。

7 かん 宦官 改版
— 側近政治の構造

三田村泰助 著

中国の歴史において宦官のはたした役割は実に大きい。清朝の歴史家は、各王朝ともその衰亡の原因が宦官にあったことを指摘する。過去四千年にわたる専制君主と表裏一体をなして生きながらえた宦官の研究は、単なる好奇心を越えて、中国史の重要な課題の一つである。宦官とはなにかから説きおこして、宦官のもっとも活躍した漢・唐・明代を中心に、それぞれ、時代を背景にした特色を指摘する。

12 史記

— 中国古代の人びと

貝塚茂樹 著

『世界の歴史』『諸子百家』等々の著書で示されたように、難解な中国古典の含蓄深い精神を現代に伝える名手の著者が、青年時代より敬愛し、研究しつづけてきた司馬遷の名著『史記』の精髓を展開し、その歴史観に近代的な照明をあたえて解釈をほどこす。古代中国の群像は、宮刑の屈辱に堪えてまで歴史家としての使命に徹した司馬遷によって不朽となった。竹簡百三十巻の大著を書いた人、書かれた人の精神は、新鮮な感動を伴って再現される。

15 科 挙
— 中国の試験地獄

宮崎市定 著

かつて中国では、官吏登用のことを選挙といい、その試験科目による選挙を「科挙」と呼んだ。官吏登用を夢みて、全国各地から秀才たちが続々と大試験場に集まってきた。浪人を続けている老人も少なくない。なかには、七十余万字にもおよぶ四書五経の注釈を筆写したカンニング襦袢をひそかに着こんだ者もある。完備しきつた制度の裏の悲しみと喜びを描きながら、試験地獄を生み出す社会の本質を、科挙制度研究の権威が解き明かす。

27 ワイマル共和国

— ヒトラーを出現させたもの

林 健太郎 著

ワイマル共和国史は、第二次大戦後からナチスが政権を取るまでのドイツの歴史である。「史上最大の民主的憲法」をもつこのワイマル共和国がわずか十四年あまりで潰えざるを得なかったのはなぜか。そしてその中から、ナチスのような怪物が出現した原因はどこにあるのか。この十四年の不幸な時代の歴史を担ったエーベルト、グレイナー、ローザ・ルクセンブルク、ノスケ、シュトレイゼマン等々の人間像に焦点をあてつつ、その解答を試みる。

36 荘子

— 古代中国の実存主義

福永光司 著

人間はだれでも自由でありたいと願う。昔から人類の教師、哲人賢者ともよばれる人びとは、人間の自由について多くを語り、教示をなす。その教説をさまざまに書き残してきた。特に荘子は、親念的な思考方法ではなく、いかに囚われることのない自由な自己をもちうるかを明らかにした。荘子を敬愛し、『荘子』によって人生の苦境を乗り越えてきた著者が「生を善し」とし、「死を善し」とする思想を深い感動をもって伝える。

39 医学の歴史

小川鼎三 著

医学は人類の歴史とともに古い。呪術にたよっていた古代人の薬草発見を医学のあけぼのとするれば、ヨーロッパにおける大学の誕生と人体解剖こそ近代医学の第一歩である。東洋医学の伝統をうけてきた日本の医学はまた、蘭学の伝来によって急速に近代医学へと発展した。本書は、日本の医学の歩みを東洋と西洋との接点としてとらえながら、異なる人命観によって独自の道を進んだ東洋医学と西洋医学の歴史を説く。

76 二・二六事件 増補改版
— 「昭和維新」の思想と行動

高橋正衛 著

昭和十一年二月二十六日、降りしきる雪を蹴って決行された青年将校たちのクーデターの結果は全員処刑により終った。本書は、多くの資料によって事件の経過を再現し、彼らが意図した「昭和維新」「尊王攘夷」の意味を探り、軍隊のもつ統帥権意識を解釈の軸として、昭和初期からの農村の疲弊に喘ぐ社会との反応、軍部の政治への結合と進出の過程を追う。なお、改版に当り「命令・服従」という日本軍隊の特性について増補・加筆する。

84 太平洋戦争(上)

児島 襄 著

民族の興廃を賭け、二五〇万の尊い人命を失って敗れた太平洋戦争は、日本人にとってなんであったか。単なる回想や懺悔の対象であってよいであろうか。そのために著者は、何よりも戦争を語りせよと努めて五年の歳月を費やし、国内資料の渉猟はもちろんで、アメリカへ調査に渡り、南洋諸島、東南アジア各国の旧戦場を隈なく訪ね、相戦った双方の資料を突き合わせて戦争の赤裸な姿を再現する。

90 太平洋戦争(下)

児島 襄 著

米軍の反攻が本格化し、日本軍の退勢が明らかになりはじめた昭和十八年以降——日本軍將兵の勇戦敢闘に、米兵はタラワの恐怖に身震いし、硫黄島の砂を鮮血で染め、カミカゼの機影におびえていた。その能力と気力に優劣なき両軍の戦士が相対峙したとき、将軍は何を策し、指導者は何を企図していたのか。すべての戦闘戦略について双方の資料を照合して描く。本書は、新鮮なイメージで戦争をとらえる。

毎日出版文化賞受賞

920円
100090-3

92 肉食の思想

——ヨーロッパ精神の再発見

鯖田豊之 著

ヨーロッパ人は、いったいなぜ動物を屠畜して食う一方で、動物を愛護するのか——。本書は、ヨーロッパ思想の原型を、きびしい歴史的・地理的条件が生み出した特有の食生活のパターンに求め、そのパターンにもとづいて形成されてきた思想的伝統を明らかにし、それによって規制される彼らの日常生活や心理・行動を、日本とも比較しながら平易に説く。食生活という新しい視点の導入によってヨーロッパの歴史を見直す、西洋史学究の問題作。

700円
100092-7

108 国際政治 改版

——恐怖と希望

高坂正堯 著

世界平和を実現するために人類は古くから寂習を傾けたが、戦いは繰り返された。戦争の危機はなぜ去らないのか——この問いに答える書物は少ない。国際関係を単純に図式化・理想化するごとくなく、また「複雑怪奇」といって正確な認識を諦めることもない追い求めた著者が、軍縮、経済交流、国際機構などを具体的に検討しながら、国家利益やイデオロギーがからみあう現実世界を分析し、組織的に論じた国際政治の入門書。

760円
180108-1

113 日本の外交

——明治維新から現代まで

入江 昭 著

日本の外交思潮のパターンである「政府の現実主義」と「民間の理想主義」とは、日本が日露戦争の勝利によって二十世紀の国際外交の舞台に躍りだすまででできあがっていたが、大陸への野心から太平洋戦争へ、そして敗戦から日米安保体制下の今日にいたるまで、百年の尺度で日本の近代外交の思潮をかえりみると、そこにとどのような歴史の教訓を引きだすことができるだろうか。長期の展望にたつて、今日の外交への指針を示そうとする。

660円
100113-9

118 ファイレンツェ

——初期ルネサンス美術の運命

高階秀爾 著

ブルネレスキ、ドナテロ、マサッチオ等々、相次ぐ巨匠の輩出によって、十五世紀のファイレンツェは美術の黄金時代を迎えていた。しかし世紀の変わり目になって、レオナルド、ポライウオーロ、ペロッキオ等の優れた芸術家の芽を育てながら、ついにその成果を果らせることなく衰退に向かい、盛期ルネサンスの栄光をローマにゆずる。このファイレンツェ美術の実相を究明し、芸術の運命について考える。

700円
100118-4

125 法と社会

——新しい法学入門

碧海純一 著

社会においては個人の行動を規制し、秩序を維持していくことが不可欠であるが、これは主として「社会化」および「社会統制」という過程を通じて行なわれる。本書は、法を社会統制のための特殊な技術とみる立場からその社会的機能を論じ、法と他の文化領域——言語、神話、宗教、道徳などとの関係を明らかにする。古代社会や未開社会における社会秩序の問題にも考慮がはらわれており、従来の書とはやや異なった法学入門である。

820円
100125-2

134 地獄の思想

——日本精神の一系譜

梅原 猛 著

日本人は、生の力を肯定する思想とともに、生の暗さを凝視する思想を愛した。この地獄の思想こそ、人間の苦悩への深い洞察と、生命への真摯な態度を教え、日本人の魂の深みを形成してきた。源信、親鸞、紫式部、世阿弥、近松門左衛門、宮沢賢治、太宰治などは、みな現世に地獄を見た人びとであった。これら先人の深い魂の苦闘の跡を知らなければならぬ。生命の強さは、どれだけ暗い生の事実を見つめるかによって示されるからである。

780円
100134-4

136 発想法 改版

——創造性開発のために

川喜田二郎 著

ここで語られる「発想法」つまりアイデアを創り出す方法は、発想法一般ではなく、著者が長年野外研究をつづけた体験から編みだした独創的なものだ。「データそれぞれ自体に語らしめつつそれをどうして啓発的にまとめたらいか」という願いから、KJ法が考案された。ブレイン・ストーミング法に似ながら、問題提起・記録・分類・統合にいたる実技とその効果を用をのべる本書は、会議に調査に勉強に、新しい着想をもたらす。

720円
180136-4

147 騎馬民族国家 改版

——日本古代史へのアプローチ

江上波夫 著

日本国家と日本民族の起源は東北アジア騎馬民族の日本征服にあるという説にたつ著者が、大陸と古代日本との比較・対照によって、その社会・政治・軍事・文化などのそれぞれの面で具体的に符合することを証明する。第1部では、騎馬民族であるスキタイ・匈奴・突厥・鮮卑・烏桓などの興亡の歴史とその特質を描き、第2部では日本における征服王朝とありあけて、大陸騎馬民族との比較研究を綿密に行なう。

毎日出版文化賞受賞

980円
180147-0

161 秩父事件

——自由民権期の農民蜂起

井上幸治 著

明治十七年秋、明治国家がまさに確立せんとする時期、秩父盆地を中心舞台に武装蜂起し、一時「無政の郷」を現出した農民たちのエネルギーは、どのようにして生みられたのか。事件の策源地に生まれ育ち、この事件を歴史家としての原点と考える著者は、国民党の反権力意識、行動形態、組織など、事件において農民たちの主体的基盤をなしたものを解明する。ここでは、商品経済の波にのみこまれた農民の変革精神が生き生きと流れている。

780円
100161-0

210 続・発想法
— KJ法の展開と応用

川喜田二郎 著

前著『発想法』で公開したKJ法の実技をさらに発展させ、加えて事例・応用例・図解等を豊富にとり入れた本書は、自己革新のために、会議運営の効率化のために、新製品開発のために、チームワークのために、あるいはカウセンキングにと、その効用は著しいものがある。情報化社会といわれる今日、ソフトウェアのなかにもソフトな部分をうけもつKJ法の効力が再確認されている。『発想法』との併読をとおくにおすすめしたい。

820円
100210-5

220 詩経

— 中国の古代歌謡

白川 静 著

『詩経』は潑刺たる古代人の精神と豊かな生命の胎動を伝える中国最古の詩歌集である。それにもかかわらず、儒教の聖典の一つとして特殊な解釈の上に早くから古典化し、詩歌本来の姿が見失われて久しい。この古代歌謡の世界を回復するために、その発想基盤の類似性をわが国の『万葉集』に求め、比較民俗学的な立場から、古代人の民俗と生活感情に即しつつ、哀歓をこめて歌われた民謡や貴族社会の詩のうちにある生命と感動を蘇らせる。

740円
100220-4

244 東京裁判(上)

児島 襄 著

ニールンベルク国際軍事裁判とともに歴史上前例のない戦争犯罪人を裁く極東国際軍事裁判は、戦争に敗れた日本人に何を問うたか。昭和二十一年五月三日の開廷以来二年半余三百七十回に及ぶ公判で「平和」人道、戦争に対する罪「の名のもとに、満州事変から太平洋戦争に至る、侵略」の事実を問い、七人の絞首刑を含む二十五人全員に有罪を宣した東京裁判の全容を、膨大な公判速記録、公判資料、関係諸国・内外関係者の取材から解明する。

720円
100244-0

248 東京裁判(下)

児島 襄 著

極東国際軍事裁判は、毎回波乱をきわめた。苛烈な検事側立証に続き、本巻は一般、満州、中国、ソ連、三国同盟、太平洋戦争と六段階に分けた弁護団の反証に入り、最大の問題点天皇の不起訴を決めて立証合戦は終った。二十三年十一月十二日、二十五人全員有罪といふニールンベルク以上苛酷な判決で歴史的な大裁判の幕は閉じた。勝者が敗者を裁いた東京裁判とはいったい何であったのか。太平洋戦争とともに日本を考え直す。

700円
100248-8

252 ある明治人の記録 改版

— 会津人柴五郎の遺書

石光真人 編著

明治維新に際し、朝敵の汚名を着せられた会津藩。降伏後、藩士は下北半島の辺地に移封され、寒さと飢えの生活を強いられた。明治三十三年の義和団事件で、その沈着な行動により世界の賞讃を得た柴五郎は、会津藩士の子であり、会津落城に自刃した祖母、母、姉妹を偲びながら、維新の裏面史ともいべき苦難の少年時代の思い出を遺した。「城下の人」で知られる編著者が、その記録を整理編集し、人とその時代を概観する。

700円
180252-1

275 マザー・グースの唄

— イギリスの伝承童謡

平野敬一 著

マザー・グースの唄とはイギリスの伝承童謡の総称である。格言あり、なぞなぞあり、ナンセンスあり、英語国民の生活感覚や言語感覚の機微に満ち、そのことばは、現代英語のイデオロムとなっている。このような英語文化の基盤をなすものへの理解を欠いては、高遠な文化論も文学論もむなし。本書はマザー・グースの唄を紹介し、伝承童謡が英語文化のなかで果たした役割を考える、英語に関心をもつすべての人にすすめる好著である。

740円
100275-4

285 日本人と日本文化

司馬遼太郎／ドナルド・キーン 著

雄大な構想で歴史と人物を描き続けてきた司馬氏と、日本文学・文化の秀れた研究者として知られるキーン氏。平城宮址、銀閣寺、適塾で共に時間を過ごし、歴史の香りを味わうなかで語りすすめられた。「ますらおぶり」と「たおやめぶり」、忠義と裏切り、上方と江戸の違い、日本にきた西洋人等々をめぐって楽しく話題が展開するうちに、日本人のモラルや美意識が、また日本人独得の大陸文化・西歐文化のこなし方が掘り下げられる。

700円
100285-3

290 ルワンダ

中央銀行総裁日記

増補版

服部正也 著

一九六五年、経済的に繁栄する日本からアフリカ中央の小国ルワンダの中央銀行総裁に就任した著者待ったものは、財政と国際収支の恒常的赤字であった——。本書は物理的条件の不利益に屈せず、様々な驚きや発見の連続のなかで、あくまで民情に即した経済改革を遂行した日本人総裁の記録である。今回、九四年のルワンダ動乱をめぐる一文を増補し、著者の業績をその後のアフリカ経済の推移のなかに位置づける。

毎日出版文化賞受賞

960円
190290-0

318 知的好奇心

波多野諠余夫／稲垣佳世子 著

伝統的な心理学の理論は、人間を「ムチとニンジン」がなければ学びも動きもしない怠けも、とみなしてきた。それははたして正しいか。興味深い実験の数々を紹介しつつ、人間は生まれつき積極的に情報的交渉を求め旺盛な知的好奇心を持ち、それこそが人間らしく生きる原動力であることを実証し、怠けもその説に基づく現在の学習・労働観を鋭く批判する。楽しい学習の設計や幼児の知的教育の可能性を具体的に追求する。

毎日出版文化賞受賞

720円
100318-8

352 日本の名作

— 近代小説62篇

小田切進 著

二葉亭四迷の『浮雲』に発するといわれる、日本の近代・現代文学の長い歴史のなかから、名作・佳品六十二篇を選び、各作品の原文を生かしたつつ梗概をたどり、あわせて鑑賞のための解説と批評を附す。大学、読書サークル、季節大講等における、著者の豊富な経験から生れた、高校生や大学生はじめ文学愛好家のための名作への案内。日本近代文学館理事長でもある、最適の著者に編まれた本書は、初めて文学に接する人々の恰好の文学入門でもある。

720円
100352-2

385 カラー版

近代絵画史 増補版(上)

—ロマン主義、印象派、ゴッホ

高階秀爾 著

絵画における近代は、印象派とともに始まる、といわれる。しかし、印象派の「革命」をもたらし、要因がロマン主義の運動にあるとすれば、広い意味でのロマン主義に始まる大きな歴史の流れの中で近代絵画は理解される必要がある。本書は、十九世紀前半から第二次世界大戦にいたるおよそ一五〇年間の西洋絵画を概観。上巻は近代絵画の先駆者ゴッホから、ポナールに代表されるナビ派まで。名著をカラーで刷新。

840円 190385-3

386 カラー版

近代絵画史 増補版(下)

—世紀末絵画、ピカソ、シュルレアリスム

高階秀爾 著

二十世紀の美術は、思いがけない多面的展開によって私たちを驚かす。しかし、抽象絵画やシュルレアリスムの作品は、決して画家の気まぐれや偶然の産物ではない。それぞれの美術運動は、印象派で頂点を極めた写実主義を想像力で乗り越えようとするものであった。本書は、十九世紀前半から第二次世界大戦にいたる一五〇年間の西洋絵画を概観。下巻は、世紀末絵画から抽象絵画まで。増補にあたり、あとがきを新規に収載。

860円 190386-0

410 取材学

—探求の技法

加藤秀俊 著

取材の立場とは積極的・主体的に情報を使う立場のことである。そのためには氾濫する情報を受け取るだけの立場ではなくて、まず何よりも問題意識をもつ必要がある。取材したいテーマをきめて目的を達成するまでにとどいたらダメ。本書は著者の体験をふまえて、図書館の利用法から索引の使い方、見出し読みの効用、さらにはもの知りに関く方法からその作法、あるいは自分の眼で現地をたしかめる取材旅行にいたるまでを説き明かす。

760円 100410-9

416 ミュンヘンの小学生

—娘が学んだシュタイナー学校

子安美知子 著

学者夫妻がミュンヘンに留学して、娘さんを入学させた学校のユニークな教育——。語め込みをさせて授業を進めて行き、落第もさせないし、能力による選別もやらない。しかし十二年間の一貫教育のあとでは、実力が身についている。「エポック授業」「オイリュトミー」など子どもの能力発達に適した方法も……。日本の教育が直面している難問題を解決している学校を、娘の生活を通して母親が綴る。

毎日出版文化賞受賞

760円 100416-1

433 日本語の個性 改版

外山滋比古 著

もともと日本語は「終りなければすべし」の構造で、重心は末尾の動詞にあった。だが次々と登場した名詞群に関心が移り、バランスが崩れた結果、長く培われてきたおもしろさは失われた。それは翻訳文化の影響だといえる。日本語本来の魅力を取り戻すうえで、話し言葉がもつ豊かさこそ重要なカギとなるのではあるまいか——。日常の言語生活にひそんだ盲点の数々を、英語表現と比較しつつ軽やかな筆致で示唆するエッセイ。

800円 180433-4

448 詭弁論理学 改版

野崎昭弘 著

知的な観察によって、人を悩ます強弁・詭弁の正体を見やぶろう。言い負かし術には強くならなくとも、そこから議論を築く「ゆとり」が生まれる。人食いワニのパラドックスや死刑囚のパラドックスなど、論理パズルの名品を題材に、論理のあそびをじっくり味わおう。それは、詭弁術に立ち向かうための頭の訓練にもなる。ギリシャの哲人からルイス・キャロルまでが登場する、愉快な論理学の本。「鏡と左右」問題の付録つき。

720円 180448-8

455 戊辰戦争

—敗者の明治維新

佐々木 克 著

戊辰戦争に勝利することによって薩長討幕派は明治政権の主体となりえた。だが幕藩制国家にかわる統一国家の構想は討幕派だけがもっていたのではない。徳川慶喜、榎本武揚、河井継之助、そして会津、庄内および奥羽越列藩同盟も自ら描いた国家像があった。彼らは「朝敵」とされながらも何故に、何を求めて戦い、敗北したのか。敗者に負わされたマイナスの遺産はなにか。敗者の側に分析の視座を置いて戊辰戦争に新たな照明をあてる。

780円 100455-0

476 江戸時代

大石慎三郎 著

小説・映画・演劇が作りあげた江戸時代のイメージは、歴史学の研究成果と合致しないものが少なくない。また膨大な史料や事実の中で、全体像を見失った歴史書もある。あるいは、近代社会が前の近世社会をことさらに古く見せようとした傾向も少なくない。本書は、二五〇年あまり内外とも戦争のなかつた時代、しかも今日の一般庶民大衆の歴史が直接始まった時代の全体的特徴を、捉え直す。江戸時代イメージを一新する通史である。

860円 100476-5

481 無意識の構造 改版

河合隼雄 著

私たちは何かの行為をしたあとで「われ知らずにしてしまった」ということがある。無意識の世界とは何なのか。ユング派の心理療法家として知られる著者は、種々の症例や夢の具体例を取り上げながらこの不思議な心の深層を解明する。また、無意識のなかで、男性・女性によって異性像がどうイメージされ、生活行動にどう現れるのか、心のエネルギーの退行がマザー・コンプレックスに根ざす例なども含めて鋭くメスを入れる。

700円 180481-5

482 倭国

—東アジア世界の中心

岡田英弘 著

本書は中国の史料を基礎に、確実な事実を積み重ねて、日本をとりまく国際情勢を把握し、東アジア全体の民族の興亡と政治の動向、大陸から日本にまで及んだ巨大な商業ルートを通りかかして、華僑の来日とその背景、卑弥呼の王権がどのような状況で成り立ちえたかなど、意外なドラマを展開する。大きな流れを踏まえた視点で『日本書紀』の傳承に新たな光をあてて日本古代史の謎に大胆な解釈を加え、日本民族と国家の誕生過程を描く。

680円 100482-6

500 漢字百話

白川 静著

漢字の伝統は、中国では字形を正す正字の学として、わが国ではその訓義を通じて漢字を国語化する問題として存在した。中国が正字を捨て、わが国で訓義的使用を多く廃するの、それだけの伝統の否定に連なる。また、両国の文字改革にみる漢字の意味体系の否定は、その字形学的知識の欠如に基づく。甲骨・金文に精通する著者が、漢字のような現状認識から、漢字本来の造字法やその構造原理に即しつつ、漢字の基本的語問題を考察する。

720円
100500-7

515 少年期の心

―精神療法を通してみた影

山中康裕著

一歩家を出ると一言も口をきかない太郎君、不登校を続ける庭子さん、自分の母親が母親と分からなくなった霧子さん、執拗な心気症から自殺まではかった誠君……。ごく当り前の小学生・中学生を辛い危うい淵に追いやった原因は何か。「箱庭療法」はじめ、イメージの境界で彼らとことんつきあうことを通じその心の治療に取組んできた著者が、一つ一つのケースを如実に描きだし、親が、教師が忘れてはならないことを愛情をこめて説く。

780円
100515-1

518 刑吏の社会史

―中世ヨーロッパの庶民生活

阿部謹也著

かつて社会にとって最も神聖な儀式であった「処刑」は、十一、十三世紀を境にして、名誉をもたない。刑吏の仕事に変わっていった。職業としての刑吏が出現し、彼らは民衆から蔑視され、日常生活においても厳しい差別を受けた。都市の成立とツプノットの結成、それにならなう新しい人間関係の展開、その中で刑罰観はどう変化していったか。刑罰観の変遷と刑吏差別の根源を追究する中で、庶民生活の実態を明らかにし、民衆意識の深層に迫る。

760円
100518-2

530 チャーチル 増補版

―イギリス現代史を転換させた一人の政治家

河合秀和著

植民地での従軍・観戦に、福祉政策の着手に、第一次大戦の作戦指揮に、時には反革命に情熱を傾け、歴史を書きこめて政治家としての背骨を作ってきたチャーチル。彼は一九四〇年、ただ一国でナチ・ドイツに対峙する祖国を率いて立つ。イギリスの過去と現在を一身に体現した彼は、帝国没落の暗黒の時を、輝ける一ページに書き変えた。資料を博搜し、貴重な見聞を交えて描く巨人の伝記に、新たに「チャーチルと日本」の一章を増補した。

940円
190530-7

533 日本の方言地図

徳川宗賢編

相手の出身地も知らずに「シアサツテに会おう」などと約束するのは危険であろう。西日本と東日本では、その意味内容が同じでない。このようなことばの地域差を分布図に読み取る方法は、柳田国男の『蝸牛考』にはじまる。以来、約半世紀の空白時代を経て、国立国語研究所の行なった全国的な言語調査の成果『日本言語地図』（全六巻）の中から代表的な五〇枚を選び出して略図化し、そこに投影されたことばの生成・発展・衰滅を明らかにする。

720円
100533-5

557 対象喪失

―悲しむということ

小此木啓吾著

肉親との死別・愛の喪失・転勤・浪人等々、日ごろ馴れ親しんだ対象を失ったとき、その悲しみをどう耐えるかは、人間にとって永遠の課題である。ところが現代社会はいつのまにか悲しむことを精神生活から排除してしまい、モラトリアム人間の時代を迎えて「悲しみを知らない世代」が誕生し、いたずらに困惑し、絶望にうちひしがれている。本書は具体例によって悲哀の心理過程と悲哀の意味を説き、自立することへの関係に及ぶ。

680円
100557-1

560 文化人類学入門 増補改訂版

祖父江孝男著

文化人類学とは、社会・文化・経済・宗教をはじめ諸分野にわたって、またそれぞれに異なる世界の民族を比較検証する広範な研究対象を視野に取めた学問である。その方法論は、フィールド・ワークによる具体的でしかも忍耐強い実証的な調査が重視される。本書は、この多岐にわたる学問を系統的に要約整理した入門の書として、一九七九年刊行以来、多くの読者を得て版を重ねてきたものを増補改訂し、学界の新しい情報を提供する。

800円
190560-4

561 明治六年政変

毛利敏彦著

明治六年十二月、西郷隆盛は、板垣退助ら四参議とともに、自らの手でつくった政府を去った。西郷はなぜ野に下ったのか。征韓論に敗れたからという。また不平士族の棟梁として殉じたのだともいえる。当時の内政外交の激動の過程を先人見を去って正確にたどってみると、驚くべき事実が浮かび上がってくる。―西郷は、日本への法治主義導入をめぐる深刻な政争の犠牲者だった。「征韓論」政変の名の下に隠されていた事件の真相に迫る。

780円
100561-8

563 幼い子の文学

瀬田貞二著

子どもと子どもの本の世界を愛しつつ逝った著者の真骨頂を伝える連続講話。東西のさまざまな、わらべ唄、民話についての造詣を自在に語り、確かな目で選ばれた詩や物語を朗読し鑑賞するなかで、幼い子どもの心を深くゆさぶり、そして大人の読者も惹きつけずにはおかない、本当の幼年文学の姿がありありと浮かびあがる。楽しい作品、数々の優れた翻訳によって日本の児童文学を豊かにした著者ならではの道案内。

800円
100563-2

565 死刑囚の記録

加賀乙彦著

一九五四年、松沢病院の医師として一人の殺人犯を診察したときが、著者の死刑囚とのはじめの出会であった。東京拘留所の精神科医官となつてから、数多くの死刑囚と面談して、彼らの悩みの相談相手になることになる。本書では著者がとくりに親しくつきあった人たちをとりあげてその心理状況を記録する。極限状況におかれた人びとが、一様に拘禁ノイローゼになつている苛酷な現実を描いて、死刑とは何かを問いかけ、また考える異色の記録。

820円
100565-6

956 茶の世界史 改版
— 緑茶の文化と紅茶の社会

角山 栄著

一六世紀に日本を訪れたヨーロッパ人は茶の湯の文化に深い憧憬を抱いた。茶に魅せられ茶を求めることから、ヨーロッパの近代史は始まる。なかでもイギリスは独特の紅茶文化を創りあげ、茶と綿布を促進剤として伸長した資本主義は、やがて東洋の門戸を叩く。突如世界市場に放り出された日本の輸出品「茶」は、商品としてははもや敗勢明らかだった。読者がいま手に茶碗をお持ちなら、その中身は世界史を動かしたのである。

760円
180596-6

599 無気力の心理学 改版
— やりがいの条件

波多野諠余夫／稲垣佳世子著

「どうせダメだ」——現代社会に蔓延する無気力。衣食住が満たされた豊かな環境というだけでは、「効力感」つまり意欲的に環境に働きかける態度は生まれない。本書は、心理学の研究成果を広く紹介し、自律性の感覚、他者との交流、熟達のもつ意義など、さまざまな角度から効力感を発達させる条件を掘りさげる。さらに子どもも大人も、やりがいを持って生きられる教育や社会のあり方についてヒントを示す。

800円
180599-7

605 絵巻物に見る
日本庶民生活誌

宮本常一著

日本の絵巻物は、時代の民衆生活を知る貴重な宝庫でもある。民衆の明るさを語る「陽気な日本人」から始まり、次いで「人生」「農耕」「人間と動物」「海的生活」「工匠と民俗」「旅と交易」「住居」「火と生活」「衣生活」「飲食と生活」「信仰と生活」といった民俗誌的な章立てで、絵巻物に描かれた庶民の生活とさまざまな習俗を読みとる。本書は、多年全国の田舎を隈なく歩き回り、庶民と民俗に愛情深い眼を注ぎつけた著者の遺著となった。

820円
100605-9

608 中世の風景(上)

阿部謹也／網野善彦／石井進／樺山紘一著

これまで私たちにとって、中世の明瞭なイメージを結ぶことはむずかしかった。しかし、近年の中世史研究の新しい動向はめざましいものがあり、具体的な中世の諸相が浮かび上がってきた。本書は、四人の中世史家による中世についての活発な討論の記録である。上巻は、「海・山・川」などの縁辺に暮らす民の文化、社会に独自の地位を築く多種多様な「職人」、中世の忘れられない景観である「馬」、そして「都市」がテーマとなる。

800円
100608-0

613 中世の風景(下)

阿部謹也／網野善彦／石井進／樺山紘一著

長い緩慢な時の流れを想わせる中世は、日本にとってもヨーロッパにとっても、うねりのような大転換にあたっていったことがしがたに明らかになってゆく。また人の心の内側でも、新旧の壮大な葛藤がくりひろげられていた時代だといってもよい。下巻では、歴史学に聴覚の世界を導入した「音と時」、徳政を待望する庶民の意欲を掘り起す「売買・所有と法・裁判」ほか、「農業」「家」「自由」「異端」がテーマとなる。

720円
100613-4

624 理科系の作文技術

木下是雄著

物理学者で、独自の発想で知られる著者が、理科系の研究者・技術者・学生のために、論文・レポート・説明書・仕事の手紙の書き方、学会講演のコツを具体的にコーチする。盛りこむべき内容をどう取捨し、それをどう組み立てるかが勝負だ、と著者は説く。文のうまさ、主眼を置いた従来の文章読本とは一線を劃し、ひたすら明快・簡潔な表現」を追求したこの本は、文科系の人たちにも新鮮な刺激を与え、「本当に役に立った」と絶賛された。

700円
100624-0

632 海軍と日本

池田 清著

極東無名の非白人国日本を、国際政治の檯舞台に引き上げるのに大きく貢献した海軍は、またその日本を破滅の淵に追いこんだもう一人の主役でもあった。近代日本にあつて、ひときわ抜きん出た人材と技術とすぐれた国際認識とをもちえたはずのこの集団が、何故あの戦争にのめりこんでいったのか。短剣と白手袋に象徴されるスマートさの奥に潜む、ある見逃しがたい体質を追及するとともに、太平洋戦争をより広い国際環境の枠組のなかで捉え直す。

660円
100632-5

650 風景学入門

中村良夫著

環境問題が景観問題を素通りして公害問題というかたちで深刻化し、美しい国土の景観は悪化の一途をたどりつつある。本書は、人間環境の眺めである景観の意味と価値を問いなおすために、風景の視覚像の特性を明らかにし、古今のさまざまな風景体験を精査することから生活環境を整える技術的知識体系として「風景学」を構想する。風景を目きし、風景への愛着を培うための一書である。

サントリー学芸賞受賞

820円
100650-9

666 犯罪心理学入門

福島 章著

日常的にさまざまな犯罪が頻発している。幼いときの環境のひずみから犯罪に走る場合もあれば、まじめなサラリーマンとして過してきたひが、突然犯罪をおかす場合もある。動機は何か、また犯罪者の気質や性格・環境はどうだったかなど、さまざまなケースを多次元診断によって追究し、犯罪という極限状況にあらわれた人間の心理と行動とをさぐる。具体例によって説かれており人間について多くのことを教えられる。

780円
100666-0

674 時間と自己

木村 敏著

時間という現象と、私が私自身であるということとは、厳密に一致する。自己や時間を「もの」ではなく「こと」として捉えることによって、西洋の独我論を一気に超えた著者は、時間と自我の同時の誕生をあざやかに跡づけ、さらに、ふつうは健全な均衡のもとに蔽われている時間の根源的諸様態を、狂気の中に見てとる。前夜祭的時間、あとの祭的時間、そして永遠の今に生きる祝祭的時間——「生の源泉としての大いなる死」がここに現前する。

760円
100674-5

691 胎児の世界

— 人類の生命記憶

三木成夫 著

赤ん坊が、突然、何かに怯えて泣き出したり、何かを思い出したようにいつこり笑ったりする。母の胎内で見残した夢の名残りをしているのかという。私たちは、かつて胎児であった「十月十日」のあいだ羊水にとづぶり漬かり、子宮壁に響く母の血潮のざわめき、心臓の鼓動のなかで、劇的な変身をとげたが、この変身劇は、太古の海に誕生した生命の進化の悠久の流れを再演する。それは劫初いらいの生命記憶の再現といえるものであろう。

700円
100691-2

700 戦略的思考とは何か 改版

岡崎久彦 著

先進国の大学で、戦略や軍事と題した講義を聴けない国は日本だけだ。しかし、日本が自らの意思にかかわらず戦争に直面せざるをえない場合を考えておくのは、平和を望む者にとつて、ごくふつうの教養の一部ではないだろうか——。国家戦略の欠如を憂えた著者は、歴史と地政学を入り口に日本の戦略的環境を解明、その歩むべき道を示した。情報の役割を重視し、冷静かつ現実的な分析に徹した国家戦略論の名著。

920円
180700-7

721 地政学入門 改版

— 外交戦略の政治学

曾村保信 著

地政学とは地球全体を常につの単位と見て、その動向をリアル・タイムでつかみ、そこから現在の政策に必要な判断の材料を引き出そうとする学問である。誤解されがちな、観念論でも宿命論でもない。本書は現代の地政学の開祖マッキンダー、ドイツ地政学を代表するハウスホーファー、そしてマハランによるアメリカ地政学を取り上げ、その歴史と考え方を紹介する。地図と地球儀を傍らに、激動の国際関係を読み解こう。

740円
180721-2

740 元禄御豊奉行の日記

— 尾張藩士の見た浮世

神坂次郎 著

尾張徳川家に二百五十年間秘匿されてきた「鸚鵡籠中記」という稀有の日記がある。筆者は御豊奉行朝日文左衛門。知行百石役料四十俵、元禄に生きた、酒好き女好き芝居好きのありふれた侍だが、好奇心旺盛で無類の記録マニア、当時の世相を赤裸々に書きとめて倦むことなく、二十七年に及ぶ。文左衛門の記述を読み解いていくと、華やかなイメージとは裏腹な滑稽と悲愴が渦巻く、元禄の真の時代像が浮かび上がってくる。

780円
100740-7

757 問題解決の心理学

— 人間の時代への発想

安西祐一郎 著

人間が目標達成に向けて自在にコントロールできる心理的機能や、それに基づく特徴は、最新の情報処理的アプローチによる認知心理学によって、はじめて明らかにできるようになった。本書は、問題解決のシステムをめぐるさまざまな実験的成果を踏まえながら、われわれが生きていくなかで直面する大小の事態に、どのように対応する機能があるかを具体的に考察し、人間だけがもつ「自由に目標を創り出す能力」について考察。

820円
100757-5

784 豊臣秀吉

小和田哲男 著

日本の歴史上、最も大衆に愛されている豊臣秀吉の生涯は、出生から二十八歳まで完全な謎に包まれている。しかし、今日流布する秀吉の立身出世譚は、人気者ゆえに創作が重ねられて、江戸期には反権力・反徳川の思潮の中で庶民の共感を得、明治期に入ると、海外侵略の輝かしい先駆者伝として教科書にまで登場する。本書は、創作の過程で虚と実を混在させた史伝群を確かな史料と史眼で検証し、真の秀吉像を洗い出す。

760円
100784-1

795 南京事件 増補版

— 「虐殺」の構造

秦 郁彦 著

満州事変以来、十数年にわたって続いた中国侵略の中で、日本軍が最も責められるべき汚点を残した南京事件とは？ 日本軍の戦闘詳報「陣中日誌」、参戦指揮官・兵士たちの日記など多数の資料を軸に据え、事件の実態に迫る。初版刊行以降二十余年、虐殺の有無や被害者数など、国の内外で途切れることなく続いた論争の要点とその歴史の流れをまとめる章を新たに増補。日中双方の南京戦参加部隊の一覧、詳細な参考文献、人名索引を付す。

940円
190795-0

799 沖繩の歴史と文化

外間守善 著

沖縄は地理的に遠く、日本本土と趣きの異なる歴史と文化をもっているため、歴史を区切る概念も、文化を貫く美意識も、それらを表現する言語も、すべて本土的な尺度では計れない。本書は、単に日本列島の一島嶼群として捉えるのではなく、広く太平洋文化圏の中に位置づけ、日本人および日本文化のルーツの一つともいえるべき沖縄の歴史と文化を、諸分野の研究成果を取り入れながら紹介する。沖縄の実相を識るための入門書である。

700円
100799-5

804 蝦夷

— 古代東北人の歴史

高橋 崇著

「蝦夷とはなにか」という問題を含めて、古代東北史の戦後四十年間の研究は、質量ともに「歴大なものがある。その中で多くの通説や定説が生れたものの、それらは必ずしも厳しい史実検証が行われたものとはいえない。本書は、最近の目覚ましい考古学の成果を取り込み、数少ない史料を丹念に検討しなおして、古代史の中でも、最も深い闇の奥底に閉ざされてしまつた、まつろわぬ民「蝦夷」の古代東北人の実像と、その軌跡の解明を試みる。

820円
100804-6

807 コミュニケーション技術

— 実用的文章の書き方

篠田義明 著

英文ドキュメント作成法で知られる実用英語の第一人者が、今度は学生、ビジネスマンのために、日本語のわかりやすい文章を苦しまないで、早くまためるコツを具体的に解説する。ワンフッド/ワンミニニング、文章センテンス/ワンアイデア、ワンパラグラフ/ワントピックのルールを紹介し、そのルールを駆使した例題文を通じて、論文、レポート、説明書、提案書、カタログなどの実用的な文章の上達法を明快・簡潔に解説する。

660円
100807-7

819 アメリカン・ロイヤルの誕生

— ジョージタウン・ロー・スクール留学記

阿川尚之 著

弁護士社会といわれるほどロイヤルの活動の場と機会が多いアメリカで、ロイヤルはいかにして生まれるのか。本書は一九八一年当時、ロー・スクールのJ・D・プログラムに進む日本人が極めて少なかった頃、正規の三年コースを修めるために留学した一企業人の奮闘記である。名門ロー・スクールの厳しい学業を卒え、無事司法試験に合格するまでを描いて、アメリカ社会の一面面を鮮やかに浮び上がらせる。

780円
100819-0

824 辞世のことば

中西 進 著

つひにゆく道とはかねて聞しかどきのみふけふとは思はざりしを。世に知られたる在原業平の臨終の歌である。この歌を契沖や本居宣長は死に臨んでの人間の偽りのないまことの心として、契沖も万感こもることばを遺し、宣長にも有名な遺言状に添えた「詠草」がある。このように古来、日本人は末期の感懐を様々のことばに託してきた。その中から六〇人を選び出し、死へのまなざしが生んだ純粹な自己発見の姿を探り出す。

660円
100824-4

828 清沢 冽

増補版

— 外交評論の運命

北岡伸一 著

『暗黒日記』の著者として知られる清沢冽は、戦前期における最も優れた自由主義的言論人であり、その外交評論は今日の国際関係を考える上で、なお価値を失っていない。石橋湛山、馬場恒吾ら同時代人のなかでアメリカに対する認識が例外的に鋭くあり得たのはなぜか。一人のアメリカ移民が邦字新聞記者となり、活躍の舞台を日本に移してから孤独な言論活動の後に死すまでを、近代日本の動きと重ねて描く唯一の評伝。

サントリイ学芸受賞

840円
190828-5

832 外国人による 日本論の名著

— ギンチャロフからパンゲまで

佐伯彰一／芳賀 徹 編

幕末日本は異国人に扉を開いた。「謎と神祕の国」であった。以来一三〇年、世界第二の経済大国に成長した「奇蹟」に至るまで、外国人のわが国に対する関心は、書き手・内容共に多彩な日本論を生み出した。このうち、ギンチャロフの「日本渡航記」からM・パンゲ「自死の日本史」まで、創見に富み、思いもかけぬバースペクトタイプを示し、それによって日本人の自己認識を深め豊かにしてくれる秀れた日本人論42篇を選んで解説する。

780円
100832-9

853 遊女の文化史

— ハレの女たち

佐伯順子 著

遊女とはかつて「性」を「聖なるもの」として生き、神々とともに遊んだ女たちであった。本書は従来の遊女史の枠を越え、万葉集、謡曲、梁塵秘抄から御伽草子、近松、西鶴、荷風、吉行淳之介に至るまで、文学に現われた遊女像の系譜を辿りつつ、文化を育んだ「遊び」の姿を明らかにする。ホイジンガの遊戯論に示唆され、比較文学的手法を駆使して試みられた遊女論であるとともに、新しい文化論、女性論への展望を拓く意欲作。

760円
100853-4

881 後藤新平

— 外交とヴィジョン

北岡伸一 著

後藤新平が、台湾総督府民政長官や満鉄総裁として植民地経営に辣腕を振い、鉄道院総裁として国鉄の発展の基礎を築き、都市計画に雄大なヴィジョンを示したことは今日なお評価されるが、外交指導者としては、ほとんど忘れられている。しかし、当時あつては矛盾と飛躍に満ちた言動ながら後藤の人氣は高く、「唯一の国民外交家」とまで評されるほどであった。本書は、外交指導者の条件を問いつつ、後藤新平の足跡を辿る評伝である。

820円
100881-7

907 人はいかに学ぶか

— 日常的認知の世界

稲垣佳世子／波多野誼余夫 著

遊びや職業活動に必要な知識・技能を身につけていくとき、人が必要を超えて上達を望み、理解を深めようとするのはなぜか。日常生活での可能性と有能さを支えるものとはなにか。本書は伝統的学習観による「人間怠け者」説をくつがえし、「みずから学ぶ存在」としての人を実証的に描き出して、学び手の心的装置と文化の役割を探索すると同時に、「学習」のもつ暗いイメージを再考し、新しい学習観にもとづく教育のあり方を提言する。

720円
100907-4

925 物語 韓国史

金 両 基 著

五千年の歴史と文化が彩る韓半島には、中国・韓国（朝鮮）・日本など、東アジア諸国の歴史が孕むダイナミズムのなかに、韓民族の諸王朝が興亡する。鴨緑江のかなたを原郷とする扶餘族が、韓半島を南下し諸小国平定を進める建国神話に、民族の歴史形成の背景を読み、また周辺諸国との戦いのなかに、民族のアイデンティティ形成の過程を追う。本書は、檀君朝鮮の建国から一九四八年の南北分断までを「父が子に語る韓国史」として描く。

760円
100925-8

939 発 酵

— ミクロの巨人たちの神秘

小泉武夫 著

酒、チーズ、納豆等の嗜好食品から医薬品、洗剤の製造、さらには抗生物質、アミノ酸、ビタミン、微生物タンパク質の製造まで、発酵の作用は広く利用されている。自然界における環境浄化もまた微生物の活動に依存する領域で、発酵は地上の動植物の生存に不可欠の作用である。フグの毒抜き、中国の「奇跡の発酵」等、世界各地の発酵文化に今日のバイオテクノロジーの原点を探り、目に見えない微生物の神秘的世界を宇宙的スケールで捉える。

660円
100939-5

978 室町の王権

— 足利義満の王権篡奪計画

今谷 明 著

強大なカリスマ性をもって、絶対主義政策・中央集権化を支持する官僚・公家・寺社勢力を擁し、武家の身で天皇制度の改廃に着手した室町将軍足利義満は、祭祀権・叙任権などの諸権力を我が物にして対外的に「國王」の地位を得たが、その死によって、天皇権力篡奪計画は挫折する。天皇制度の分岐点ともいべき応永の時代に君臨した義満と、これに対抗した有力守護グループのせめぎあいの中に、天皇家存続の謎を解く鍵を模索する。

760円
100978-4

989 儒教とは何か 増補版

儒教は宗教というより、単なる倫理道徳として理解されがちだ。古い家族制度を支える封建的思想という暗いイメージもつきまとう。しかし、その本質は死と深く結びついた宗教であり、葬儀など日本人の生活の中に深く根を下ろしている。本書は、死という根本の問題から、儒教を問い直し、その宗教性を指摘する。そして孔子以前に始まる歴史をたどりながら、現代との関わりを考える。全体を増補し、第六章「儒教倫理」を加えた。

1009 トルコのもう一つの顔 加地伸行 著

言語学者である著者はトルコ共和国を一九七〇年に訪れて以来、その地の人々と語言の魅力にとりつかれ、十数年にわたり一年の半分をトルコでの野外調査に費す日々が続いた。調査中に見舞われた災難に、進んで救いの手をさしのべ、言葉や歌を覚えてくれた村人たち。辺境にあつて歳月を越えてひそやかに生き続ける「言葉」とその守り手への愛をこめて綴る。とかく情報不足になりがちなトルコという国での得がたい体験の記録である。

1041 蝦夷の末裔 小島剛一 著

平安時代中期、陸奥の北上川中流域を席巻していた安倍氏と、出羽の山北地方一帯を押さえていた清原氏は、その勢力が最大に拡張したとき、国家権力の介入を招いて滅亡の災禍に見舞われる。前九年、後三年の役の両合戦である。古代東北史を語る上で不可欠の大事件にも拘わらず、顛末を伝える史料に乏しく、検証も疎かにされてきた両合戦の実像を、厳密な史料批判のもと再検討し、蝦夷の末裔である安倍・清原両氏の興亡を描く。

1042 物語 アメリカの歴史 高橋 崇 著

アメリカは民主主義の理念を具体的に政治に実現させた最初の国である。独立宣言（一七七六年）の中心「すべての人間は生まれながらにして平等である」は、今なお民主主義国家の道標として輝き続けているもの。人種間の問題や戦争など、建国から二百年余、その歴史は平坦ではなく、生々しい傷がまだ癒えることなくその跡をとどめている。この超大国の光と影を、戦後深いつらがりをもつて歩んできた日本との関係もまじえて描く。

1045 物語 イタリアの歴史 藤沢道郎 著

皇女ガラ・ブラキディア、女伯マティルデ、聖者フランチェスコ、皇帝フエデリコ、作家ボッカチオ、銀行家コジモ・デ・メディチ、彫刻家ミケランジェロ、国王ヴィットリオ・アメデオ、司書カサノヴァ、作曲家ヴェルディの十人を通して、ローマ帝国の軍隊が武装した西ゴート族の難民に圧倒される四世紀末から、イタリア統一が成就して王国創立宣言が国民議会会で採択される十九世紀末までの千五百年の「歴史」物語を描く。

1085 古代朝鮮と倭族 鳥越憲三郎 著

中国雲南省辺りの湖畔で水稲栽培に成功し、河川を通じて東アジアや東南アジアの広域に移住していった人々があった。これら文化的特質を共有する人々を、著者は「倭族」という概念により捉える。この倭族の中で朝鮮半島を経て縄文晩期に日本に渡ってきたのが弥生人である。著者は、倭族の日本渡来の足跡を理解するため、径路となった朝鮮半島および済州島を踏査。そこには日本では失われつつある倭族の習俗・慣習が脈々と息づいていて。

1087 ゾウの時間 ネズミの時間 本川達雄 著

動物のサイズが違うと機敏さが違い、寿命が違う。総じて時間の流れる速さが違ってくる。行動圏も生息密度も、サイズと一定の関係がある。ところが一生の間に心臓が打つ総数や体重あたりの総エネルギー使用量は、サイズによらず同じなのである。本書はサイズからの発想によって動物のデザインを発見し、その動物のよって立つ論理を人間に理解可能なものにする新しい生物学入門書であり、かつ人類の将来に貴重なヒントを提供する。

1095 コーヒーが廻り 世界史が廻る 白井隆一郎 著

東アフリカ原産の豆を原料とし、イスラームの宗教的観念を背景に誕生したコーヒーは、近東にコーヒーの家を作り出す。ロンドンに渡りコーヒー・ハウスとなって近代市民社会の諸制度を準備し、パリではフランス革命に立ち合い、「自由・平等・博愛」を謳い上げる。その一方、植民地での搾取と人種差別にかかわり、のちにドイツで市民社会の鬼子フアンシズムを生むに至る。コーヒーという商品の歴史を、現代文明のひとつの寓話として叙述する。

1103 モーツァルト 石井 宏 著

歿後二百年を経た今、モーツァルトの功績を無視する者はいないが、世の天才の常として、その評価は、生存中から死後まで一定したものではなかった。しかし、価値観の変化に伴う毀誉褒貶はさて置き、彼は、音楽史の上にとればどの貢献を行なったのか。本書は、政治状況、流通事情、人的関係、作曲のプロセスなどの多角的資料を整理して、モーツァルト像のエッセンスを新たに抽出しようとするものである。

1130 仏教とは何か 山折哲雄 著

仏教を考える上でもっとも根本的な難問は「仏教をどう生きるか」ということではないか。現代、日本人にとって、この問いに応えることが集約の急務になっている。その難問に対処するには、まずブッダの人生と仏教の歴史を等分の視野におさめる必要がある。この問い日本においてのみ繁栄を誇り、しかし今や、その生命力を枯渇させつつ自滅の道を突き進んでいる大乘仏教——日本の仏教を、ブッダ誕生の原点に立ちもどって検証する。

1131 物語 北欧の歴史

—モデル国家の生成

武田龍夫 著

中世においては西ヨーロッパの人々を恐怖に陥れたバイキングとして、現在では高度な福祉を実現させた国家として世に名高い北欧の国々。その歴史は平坦ではなく、隣接する強国ロシアとドイツを交えた度重なる戦争や民族独立運動、緊迫した国際情勢の中での苦難に満ちた中立外交などからなる。本書はデンマーク、スウェーデンを中心に、両国から分離・独立したノールウェー、フィンランド、アイスランド北欧五カ国の通史である。

820円
101131-2

1138 キメラ — 満洲国の肖像

増補版

山室信一 著

一九三三年三月、中国東北地方に忽然と出現し、わずか一三年五カ月後に姿を消した国家、満洲国。今日なおその影を色濃く残す満洲国とは何だったのか。本書は建国の背景、国家理念、統治機構の特色を明らかにし、そこに凝縮して現れた近代日本の国家観、民族観、そしてアジア観を問い直す試みである。新たに満洲・満洲国の前史と戦後に及ぼした影響など、その歴史的意義を想定問答形式によって概観する章を増補した。

吉野作造賞受賞

960円
191138-4

1144 台湾

—四百年の歴史と展望

伊藤 潔 著

一六二四年、大航海時代のオランダ支配に始まり、今日までの四百年に近い台湾の歴史は、「外来政権」による抑圧と住民の抵抗の記録である。外来政権はオランダ(スベイン)、鄭氏政権、清国、日本そして国民党政権である。では近年の目覚ましい経済発展の要因はどこにあったか。また急速な民主化の進捗は、対中国との関係で台湾をどのように変貌させるだろうか。一九九三年の「シンガポール会談」も踏まえ、歴史を描き、将来を展望する。

800円
101144-2

1159 「超」整理法

—情報検索と発想の新システム

野口悠紀雄 著

情報洪水のなかで書類や資料を保存し検索するには、従来の整理法では対処できない。本書は、「整理は分類」という伝統的な考えを覆し、「時間軸検索」という新しい発想から画期的な整理法を提案する。机の上は魔法のように片付け、「整理する時間がないほど忙しい」人に対する福音となるはずだ。さらに、パソコンを用いた情報管理体系、アイデア生産を支援するシステムなど、知的活動の生産性を高める新しい方法論を提案する。

800円
101159-6

1169 色彩心理学入門

—ニュートンとゲーテの流れを追って

大山 正 著

色彩の研究は、ニュートンの実験に始まり今日の色表示体系に至る流れと、ゲーテの観察に始まる、色の主観的な体験の現象学の流れとがあり、そこに両者に欠けた色覚の生理学の流れが加わっている。さらに色には、感情や文化と結びつく複雑な側面もある。この広範囲におよぶ色彩のさまざまな問題を、主要な人物の貢献を紹介しつつ解説する。色彩への実用的知識が要求される現在、その課題にも応えてくれる格好な入門書となっている。

880円
101169-5

1213 流浪の戦国貴族 近衛前久

—天下一統に翻弄された生涯

谷口研語 著

朝廷最高の官職の家柄に生まれた近衛前久(一五三六一—一六一二)は、群雄割拠する戦国時代に自ら身を投じた。上杉謙信と盟約を結んで関東を下り、その後は織田信長と密接な関係を築いて大坂本願寺との講和などに貢献。豊臣秀吉の関白就任にも関与し、家康の叙任や徳川改称について朝廷に斡旋するなど、公家でありながら武家に伍して旺盛な活動を展開した。乱世に奔走した彼の軌跡から、転換期の世相が見えてくる。

880円
101213-5

1215 物語 アイルランドの歴史

—欧州連合に賭ける。妖精の国。

波多野裕造 著

アイルランドは人口僅か三五〇万余の小国ながら現在、世界各地に住むアイルランド系の人々は七千万を越すといわれる。大統領メアリー・ロビンソンは就任演説で「七千万同胞の代表として」と抱負を語った。紀元前数世紀らしい古いケルト文化と伝統を継承するこの国は、いま統合ヨーロッパの息吹の中で、新たな飛翔を試みている。本書は五千年に及ぶ民族の哀歎の歴史を跡づけ、北アイルランド問題の本質にも迫ろうとする。

860円
101215-9

1216 理科系のための英文作法

—文章をなめらかにつなぐ四つの法則

杉原厚吉 著

文法的に正しい英文でも、つながりが良くないと明快な文章にはならない。本書は、コンピュータで開発された文章解析技術と、言語学の新分野である「談話文法」が明らかにした英文をつなぐ画期的法則を紹介する。この法則は、自分で書いた英文を客観的に眺め、自然な英文をつないでいくための道標となり、気のきいた言い回しよりもまず英文で主張を明確に表現しなければならぬ多くの人にとって、すぐに役立つ道具となるだろう。

660円
101216-6

1220 書とはどういう芸術か

—筆蝕の美学

石川九楊 著

書は筆と墨と紙の芸術であり、墨跡には深さと速度と力が秘められている。書の美は楷・行・草書体と共に成立し、その背景には書の基本連筆三折法をめぐる石と紙の争闘史が隠されている。筆と紙の接点に生ずる力——筆蝕——こそ書の美の核心であり、文字ではなく言葉を「書くところ」に書の価値はある。本書は「書は美術ならず」以来の書論を再検討し、甲骨文から前衛書までを読み解いて、言葉の書体としての書の表現を歴史的、構造的に解き明かす。

680円
101220-3

1227 保科正之

—徳川将軍家を支えた会津藩主

中村彰彦 著

徳川秀忠の子でありながら、庶子ゆえに嫉妬深い正室於江与の方を怖れて不遇を託っていた正之は、異腹の兄家光に見出されるや、その全幅の信頼を得て、徳川将軍輔弼役として幕府の経営を真摯に精励、武断政治から文治主義政治への切換えの立役者とめた。一方、自藩の支配は優れた人材を登用して領民の生活安定に意を尽くし、藩士にはちに会津士魂と称される精神教育に力を注ぐ。明治以降、闇に隠された名君の事績を掘り起こす。

800円
101227-2

1242 **社会学講義**
—人と社会の学

富永健一 著

人間と社会を扱う社会学は、かつては比較的狭い領域の学問であったが、いまや専門化が進み、各々の分野で深化が試みられている。本書は、理論的研究、経験的研究、歴史的研究等多くの分野を見通してきた著者があらためて現代社会学を総合的に捉え、専門分野のみならず一般読書人を対象にして、可能な限り高い水準で平易に説くことにより、この学問の面白さと真価を伝えようとする、「富永社会学の展示室」というべき作品である。

900円
101242-5

1243 **石橋湛山**
—リベラリストの真髓

増田 弘 著

在野のエコノミストとして、また悲劇の宰相として名高い石橋湛山の原点と真骨頂は言論人としての存在にある。即ち一九一〇年以降の政府・軍部にみられる武断政治、対外膨張政策に真向から対峙して「小日本主義」を掲げ、ラディカルな大正デモクラシーの論客として軍国主義批判を貫いた。新資料を踏まえて言論人湛山の思想を検討するとともに、戦後、日中貿易再開、脱冷戦の思想を説いた政治家の顔を照射して巨人の全貌を明示する。

920円
101243-2

1249 **大衆教育社会のゆくえ**
—学歴主義と平等神話の戦後史

荻谷剛彦 著

高い学歴を求める風潮と、それを可能にした豊かさに支えられ、戦後日本の教育は飛躍的な拡大を遂げた。一方で、受験競争や学歴信仰への批判も根強くあるが、成績による序列化を忌避し、それこそが教育をゆがめる元凶だとして嫌う心情は、他国においてはユニークであるとみなされている。本書は、このような日本の教育の捉え方が生まれた経緯を探り、欧米との比較もまじえ、教育が社会の形成にどのような影響を与えたかを分析する。

700円
101249-4

1272 **アメリカ海兵隊**
—非常利型組織の自己革新

野中郁次郎 著

一七七五年に英軍を模して創設されたアメリカ合衆国海兵隊は、独立戦争以来、二度の世界大戦、朝鮮・ベトナム・湾岸戦争などで重要な任務を遂行し、遂にはアメリカの国家意志を示威するエリート集団へと成長した。はじめは海軍内にとどまらなかったが、自ら存立を懸けて新たな戦術を考案し、組織の自己革新を遂げたとされた。本書は、その戦績をたどりながら、「最強組織」とは何なのかを分析する試みである。

800円
101272-2

1290 **がん遺伝子の発見**
—がん解明の同時代史

黒木登志夫 著

80年代になってがん研究は様変わりした。原因別のメカニズムがあると考えられていたが、今は、今やがん遺伝子という共通のメカニズムで説明できるようになった。生命にとって大事な遺伝子が次々に変異を重ね、行き着いた一つの悲しい結末、それががんなのだ。がん遺伝子と抑制遺伝子の発見をめぐる熾烈な競争を繰り広げる研究者たちのドラマと、徐々に明らかになるがんの本態を、自らががん体験をふまえてヴィヴィッドに描く。

840円
101290-6

1293 **壬申の乱**
—天皇誕生の神話と史実

遠山美都男 著

六七一年十月、天智天皇の弟大海人皇子（天武天皇）は王位継承を断わり吉野に隠棲。翌月、天智の子大友皇子は大海人を討つべく五人の重臣と盟約を結んだ。天智後継の座をめぐる壬申の乱の発端である。天智は大友がわいさで大海人を疎外したのか。大友は絶えず後手にまわり敗れ去ったのか。王位継承をめぐる対立はなぜ大規模な戦争に発展したのか。通説を再検討し、古代最大といわれる攻防のドラマを再現、その歴史的意義に迫る。

820円
101293-7

1296 **美の構成学**
—パウハウスからフラクタルまで

三井秀樹 著

人間は古くから美しい形やプロポーションに憧れ、造形における調和の美を求めてきた。しかし、この美の摂理は長いこと伝統的な様式の踏襲と芸術家の直感に支えられてきた。一九一九年に創設されたドイツの造形学校、パウハウスで「構成」という理念がはじめて体系化され、教育に採り入れられた。フアッションや生活用品のデザインからコンピュータ・グラフィックスまで、様々な物の美を読み解く際の鍵となる造形文法「構成学」とは。

780円
101296-8

1324 **サブリミナル・マインド**
—潜在的人間観のゆくえ

下條信輔 著

人は自分で考えているほど、自分の心の動きをわかっていない。人はしばしば自覚がないままに意志決定をし、自分のとった行動の本当の理由には気づかないのである。人間科学の研究が進むにつれ、「認知過程の潜在性・自動性」というドグマはますます明確になり、人間の意志決定の自由と責任に関する社会の約束ごとさえくつがえしかねない。潜在的な精神を探求する認知・行動・神経科学の進展からうかがひがあがった新しい人間観とは。

800円
101324-8

1345 **考えることの科学**
—推論の認知心理学への招待

市川伸一 著

日常生活での思考は推論の連続といえる。その多くは論理形式に従うより、文脈情報に応じた知識を使ったり、心の中のモデルを操作してなされる。現実世界はまた、不確定要素に満ちているので、可能性の高さを直観的に判断して行動を決めている。推論はさらに、その人の信念や感情、他者にも影響される。推論の認知心理学は、これら人間の知的能力の長所と短所とをみつめ直すことよって、それを改善するためのヒントを与えてくれる。

760円
101345-3

1353 **物語 中国の歴史**
—文明史的序説

寺田隆信 著

中国の遠い祖先が黄河の中流域（中原）に創始した文明は、時とともに周辺各地に拡がり、また子孫たちの手に継承され発展をつづけ、断絶することなく現代にいたっている。中国の人々は何千年來、一貫して文明の歴史の現役でありつづけていた。この事実こそ、中国の歴史と文明が他国のそれと決定的に異なる特徴である。本書は文明をキー・ワードにして、文明のかたちを中心に、「史記」が描く五帝の時代から清朝滅亡までの歴史を叙述。

800円
101353-8

1367 物語 フイリピンの歴史

―「盗まれた楽園」と抵抗の500年

鈴木静夫 著

時代を超えてフイリピン史に徹底しているのは、民族抵抗の精神である。それがフイリピン人意識として浮上ってこなかったのは、政治と教会がそれを押しつぶし、覆いかくしてきたからである。これまでフイリピン史はこの精神の連続した存在に十分な評価を与えてきたかった。スペインの武装宣教師団来航後の長い植民地時代を通じて、西欧と闘い続けたアジア唯一の戦闘的民族の軌跡に、本書は肯定的な光を当てたものである。

山本七平賞受賞

1372 物語 ヴェトナムの歴史

―一億人国家のダイナミズム

小倉貞男 著

ヴェトナムは一億人の国になろうとしている。ヴェトナム戦争では大きな犠牲を払いながら独立を堅持、経済成長のダイナミズムは二十一世紀のヴェトナムの発展を約束している。このエネルギーはどこから生まれるのだろうか。ヴェトナム人のこころ、民族の象徴として親しまれている建国の王フンウォン（雄王）から、独立の指導者ホ・チ・ミンに至る歴史群像を語り、あくなき抵抗と独立の戦いに勝ち抜いてきた逞しい国民性の根源を探る。

1392 中世都市鎌倉を歩く

―源頼朝から上杉謙信まで

松尾剛次 著

源頼朝に始まる鎌倉幕府が滅亡すると、鎌倉は急速に衰退しゴーストタウンとなったと考えられがちだが、実態は違っていた。京都室町に幕府が移った後も、鎌倉は東国を管轄する鎌倉府の所在地として十五世紀半ばまで繁栄を続けた。武家の首都として誕生し、幕府滅亡後はほとんど知られることのない都市鎌倉とはいかなるものだったのか。源氏、北条氏、足利氏、上杉氏の足跡を寺社や史跡に尋ねながら、謎に包まれた鎌倉の中世を歩く。

1420 物語 ドイツの歴史

―ドイツのとは何か

阿部謹也 著

ヨーロッパの中央にあつて四囲に国境をもつドイツは、隣国とさまざまな軋轢を経験する中で特有の国民感情を醸成してきた。しかも中世以来のアジュール（庇護権）の理念は近代以後も呪術的なものを抱え込みながら生き残っている。ヨーロッパが結成され、国境線が事実上の意味を失いつつある現在、その進捗はドイツにどのような変化をもたらすのだろうか。ドイツの誕生から今日にいたる歴史に、「ドイツ的」とは何かを思索する。

1437 物語

ラテン・アメリカの歴史

―未来の大陸

増田義郎 著

かつては高度の神殿文化を生み出しながら、一六世紀以来ラテン・アメリカは常に外部の世界に従属してきた。スペイン、ポルトガルの征服と植民地支配、イギリスはじめ列強の経済的支配、アメリカの政治的影響。独立後も独裁制から民主制へ、統制経済から自由経済へと激動が続く。ラテン・アメリカ諸国は共通の文化的伝統を基盤に、いかに苦闘の歴史と訣別し、自立と自己表現を達成するか。恐竜の時代から現代まで、長大なタイムスケールで描く。

1479 安心社会から信頼社会へ

―日本型システムの行方

山岸俊男 著

リストラ、転載、キレル若者たち―日本はいま「安心社会」の解体に直面し、自分の将来に、また日本の社会と経済に大きな不安を感じている。集団主義的な「安心社会」の解体はわれわれにどのような社会をもたらそうとしているのか。本書は、社会心理学の実験手法と進化ゲーム理論を併用し、新しい環境への適応戦略としての社会的知性の展開と、開かれた信頼社会の構築をめざす、社会科学的の文明論であり、斬新な「日本文化論」である。

1502 日本書紀の謎を解く

―述作者は誰か

森 博達 著

七二〇年に完成した日本書紀全三十巻は、わが国最初の正史である。記述に用いられた漢字の音韻や語法を分析した結果、渡来中国人が著わした多群と日本人が書き継いだ多群の混在が浮き彫りになり、各巻の性格や成立順序が明らかとなった。記述内容の虚実が厳密に判別できることで書紀研究は新たな局面を迎えたと見える。これまでわからなかった述作者を具体的に推定するなど、書紀成立の真相に迫る。

毎日出版文化賞受賞

1503 古文書返却の旅

―戦後史学史の一齣

網野善彦 著

日本には現在もなお、無尺蔵と言える古文書が未発見、未調査のまま眠っている。戦後の混乱期に、漁村文書を集集・整理し、資料館設立を夢見る壮大な計画があった。全国から大量の文書が借用されたもの、しかし、事業は打ち切りとなってしまふ。後始末を託された著者は、四〇年の歳月をかけ、調査・返却を果たすが、その過程で、自らの民衆観・歴史観に大きな変更を迫られる。戦後歴史学を牽引した泰斗による史学史の貴重な一齣。

1532 新版 日中戦争

―和平か戦線拡大か

白井勝美 著

日中戦争に関しては、その終焉から五十年を経て、新事実の発掘や新視角からの研究の深化が今日も続いている。しかし、太平洋戦争については、批判・擁護いづれの立場をとるにせよ、その位置づけが明らかになりつつあるが、日中戦争の全体像への言及は、いまだに十分とはいえない。本書は、勃発の原因、取捨の失敗、太平洋戦争への拡大過程、敗戦に至る状況などを克明にたどる、旧版「日中戦争」の全面改稿版である。

1533 英語達人列伝

―あっぱれ、日本人の英語

斎藤兆史 著

「日本人は英語が苦手だ」という通念など、信じるに足らない。かつての日本には、驚嘆すべき英語の使い手がいいた。日本にいながらして、英米人も舌を巻くほどの英語力を身につけた（達人）たちは、西洋かぶれになることなく、外国文化との真の交流を実践した。岡倉天心、斎藤秀三郎、野口英世、岩崎平、白洲次郎ら、十人の「英語マスター法」をヴィジュアルに紹介する本書は、英語受容をめぐる日本近代文化史を描き出す。

1537 不平等社会日本
— さよなら総中流

佐藤俊樹 著

実績主義や自由競争の市場社会への転換が声高に叫ばれている。だがその「実績」は本当に本人の力によるものか。著者は社会調査の解析から専門職や管理職につく知識エリートの階層相続が戦前以上に強まっていることを指摘。この「階級社会」化こそが企業や学校の現場から責任感を失わせ無力感を生んだ現在の閉塞のゆえんとする。一億総中流の果てに日本が至った「階級社会」の実態を明かし、真の機会平等への途を示す。

1551 海の帝国

— アジアをどう考えるか

白石 隆 著

「海のアジア」、それは外に広がる、交易ネットワークで結ばれたアジアだ。その中心は中国、英国、日本と移ったが、海で結ばれた有機的なシステムとして機能してきた。世界秩序が変貌しつつある今、日本はこのシステムとどうかかわっていくべきか。二世紀にわたる立体的歴史景観のなかにアジアを捉え、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、タイを比較史的に考察する。

1564 物語 カタルーニヤの歴史
増補版

— 知られざる地中海帝国の興亡

田澤 耕 著

バルセロナを中心にスペイン随一の繁栄を誇るカタルーニヤ。かつてイタリアや遠くギリシヤまで地中海全域を支配した大帝国だった。建国の父・ギブレ毛むくじやら伯、黄金時代のジャヤム征服王や、騎士・錬金術師・怪僧らが地中海狭しと活躍する栄光の中世から、長い衰退期と混乱を経ながらも再生への努力を続ける現代へ。20世紀初頭のバルセロナの繁栄、スペイン内戦、21世紀の独立運動までを増補した決定版！

1566 月をめざした二人の科学者

— アポロとスプートニクの軌跡

的川泰宣 著

宇宙開発競争をくりひろげた冷戦期の米ソは、それぞれ稀有な才能を擁していた。ソ連には、粛清で強制収容所に送られながら、後に共産党中央委員会を「恫喝」して世界初の人工衛星スプートニクを打ち上げたコロリョフ。アメリカには「ナチスのミサイル開発者」と白眼視されながらも、アポロ計画を成功に導いたフオン・ブrawn。遠く離れた地にありながら、同じように少年の日の夢を追い、宇宙をめざした二人の軌跡。

1574 海の友情

— 米国海軍と海上自衛隊

阿川尚之 著

日本海軍は、戦場でまみえた相手であるアメリカ海軍に対して、意外なほどの尊敬と共感を抱いていた。それは、戦後の海上自衛隊にも脈々と受け継がれ、彼らの協働態勢が、日米同盟を基底で支えていた。本書は、日米関係の中で特異な地位を占めるこの海の絆を軸にしなから、帝国海軍の英雄たちと異なり、ひたすら訓練に励み、戦うことなく名も知られぬまま去った海上自衛隊指揮官たちの誇り高き姿を綴るものである。

1585 オペラの運命

— 十九世紀を魅了した「二夜の夢」

岡田暁生 著

オペラ——この総合芸術は特定の時代、地域、社会階層、そしてそれらが醸し出す特有の雰囲気と密接に結びついている。オペラはどのように勃興し、隆盛をきわめ、そして衰退したのか。それを解く鍵は、貴族社会の残照と市民社会の熱気とが奇跡的に融合していた十九世紀の劇場という「場」にある。本書は、あまたの作品と、その上演・受容形態をとりあげながら「オペラのな場」の興亡をたどる野心的な試みである。サントリー・学芸賞受賞

1594 物語 中東の歴史

— オリエント五〇〇〇年の光芒

牟田口義郎 著

キリストを生みムハンマドを生んだ中東は、歴史上の転換点となった数々の事件の舞台であり、まさに世界の富と知の中心だった。ソロモン王とシバの女王の知恵くらべ。新興イスラーム勢力のバビロニア帝国への挑戦と勝利。ムスリム商人による商業の隆盛と都市文化の繁栄。「蛮族」十字軍やモンゴル帝国の侵攻とその撃退。しかし、やがて地中海世界は衰退し、中東は帝国主義の蹂躪する所となる……。ドラマティックな歴史をたどろう。

1596 ベトナム戦争

— 誤算と誤解の戦場

松岡 完 著

米軍の撤退完了から、三十年が過ぎようとして、ベトナム戦争は忘却の淵に沈みかけている。ベトナムでもアメリカでも、この戦争を知らない世代が増えてきた。だが一方で、その実態を明らかにし、両国の誤算と誤解の解明を目指す試みも始まっている。ベトナムは、「民族の世紀」と「アメリカの世紀」が激突した戦場であり、各地に飛び火する地域紛争の原型だった。広い視野に立つ精密な記述で、ベトナム戦争の全体像が浮かび上がる。

1617 歴代天皇総覧

— 皇位はどう継承されたか

笠原英彦 著

天皇は古代より連綿と代を重ねてきた。壬申の乱、承久の乱、南北朝動乱などの激動を乗り越え、その系譜は千年以上わたって続いている。皇位継承はどのように行われ、どう変質をとげたのか。時の権力との関わりはいかなる推移をたどったのか。記紀に記される初代神武天皇から平成の天皇までの百二十五代と北朝天皇五代の生涯と事績を丹念に叙述する。皇統の危機を論じた新稿を収録し、巻末の系図・年表を更新した決定版。

1622 奥州藤原氏

— 平泉の栄華百年

高橋 崇 著

奥州藤原氏は平泉を拠点として平安末期の東北地方に君臨した。産金をもとに財をなし、京風の絢爛たる仏教文化を花開かせた。初代清衡は三代秀衡へ、支配権はどのように伸長したのか。秀衡の死後わずか二年で源頼朝に攻め滅ばされたのはなぜか。京都との関わりを軸に、百年の歴史を多角的に検証。併せて、中尊寺金色堂に眠る歴代のミイラの学術調査結果も紹介する。『蝦夷』『蝦夷の末裔』に続く東北古代史三部作完結編。

1625 織田信長合戦全録
— 桶狭間から本能寺まで

谷口克広 著

家督を継いだ十九の年より本能寺に没するまで、織田信長は四方の敵と戦い続けた。初期には、劣勢を覆した桶狭間の戦いのように少数精鋭の部隊を自ら率いて戦い、後には、浅井・朝倉氏攻めや対本願寺戦のように、羽柴秀吉らの部将を配して多方面にわたる戦線と同時に指揮した。際だった戦巧者ぶりを示す戦略や戦術への考察も併せ行い、天下統一の基礎を作った信長のすべての戦いをたどる。

840円
101625-6

1635 物語 スペインの歴史
— 海洋帝国の黄金時代

岩根閑和 著

キリスト教国の雄スペインは、カステイリヤ、アラゴン両王国の婚姻により成立した。八世紀以来イベリア半島を支配したイスラム勢力を逐い、一四九二年、レコンキスタを完了。余勢を駆って海外へ雄飛し、広大な領土を得て「太陽の没することなき帝国」の名をほしいままにする。— 国土回復戦争の時代から、オスマン・トルコとの死闘を制して絶頂をきわめ、宿敵イギリスに敗れて斜陽の途をたどるまでを流麗な筆致で描く。

820円
101635-5

1636 オーラル・ヒストリー
— 現代史のための口述記録

御厨 貴 著

個人や組織の経験をインタビューし、記録を作成して後世に伝えるオーラル・ヒストリーは、著者史料としてばかりではなく、意思決定のケース・スタディーでも利用価値が高い。歴史家、政治家、官僚、実業家への聞き取り調査を蓄積し、政策決定プロセスの解明を目指している。本書は、オーラル・ヒストリーの準備、実施、速記の整理から、資料としての利用法までを実践的に手ほどきするものである。

760円
101636-2

1644 ハワイの歴史と文化
— 悲劇と誇りのモザイクの中で

矢口祐人 著

ハワイ—世界中の観光客を魅了する太平洋の美しい島々。十八世紀以来、欧米、そしてアジア諸国から多くの移民が来島し、定着・活動してきた。しかし、異人種、異文化との接触が、ネイティブ・ハワイアンに苛酷な歴史を強いてきたことも忘れてはならない。本書は、日本との交流に光をあてながら、楽園イメージの奥に横たわる、もう一つの現実を浮かび上がらせ、ハワイ文化の力強い流れを描き出すのである。

840円
101644-7

1647 言語の脳科学

— 脳はどのようにことばを生みだすか

酒井邦嘉 著

言語に規則があるのは、人間が言語を規則的に作ったためではなく、言語が自然法則に従っているからである。— こうしたチオムスキーの言語生得説は激しい賛否を巻き起こしてきたが、最新の脳科学は、この主張を裏付けようとしている。実験の積み重ねとMRI技術の向上によって、脳機能の分析は飛躍的な進歩を遂げた。本書は、失語症や手話の研究も交えて、言語という究極の難問に、脳科学の視点から挑むものである。 毎日出版文化賞受賞

900円
101647-8

1655 物語 ウクライナの歴史
— ヨーロッパ最後の大国

黒川祐次 著

ロシア帝国やソビエト連邦のもとで長く忍従を強いられながらも、独自の文化を失わず、有為の人材を輩出し続けたウクライナ。不撓不屈のアイデンティティは、どのように育まれてきたのか。スキタイの興亡、キエフ・ルーシ公国の隆盛、コサックの活躍から、一九九一年の新生ウクライナ誕生まで、この地をめぐる歴史を俯瞰。人口五〇〇万を数え、ロシアに次ぎヨーロッパ第二の広い国土を持つ、知られざる「大国」の素顔に迫る。

860円
101655-3

1656 詩歌の森へ
— 日本詩へのいざない

芳賀 徹 著

一篇の詩が、苦境から脱出するきっかけになったり、人情の興行きをかいま見せたりするのは、誰しも経験するだろう。そんな、心に働きかけてくる詩を知れば知るほど、人生は豊かになる。本書は、記紀万葉のいしえから近現代までの、日本語ならではの美しい言葉の数々を紹介するエッセイである。古今東西の文学・藝術に精通した著者が、みずからの体験を回想しつつ、四季折々の詩歌味読のコツを伝授する。

940円
101656-0

1658 戦略的思考の技術
— ゲーム理論を実践する

梶井厚志 著

自分の利害が、自分の行動だけでなく、他人の行動によってどう左右されるか、という状態が戦略的環境であり、その分析ツールがゲーム理論である。ビジネス交渉はもちろん、恋人とのかけひき、バーゲンでの買い物や合コンの席順といったことまで私たちは他人の行動を織りこみつつ戦略を立て実行しているのだ。本書は身近な題材をふんだんに使い、コミットメント、シグナリングなどゲーム理論のキーワードを解説しながら読者の戦略的思考を磨く。

840円
101658-4

1662 「超」文章法
— 伝えたいことをどう書くか

野口悠紀雄 著

企画書、評論、論文など論述文の目的は、伝えたいメッセージを確実に伝え、読み手を説得することだ。論述文の成功は、メッセージが「ためになり、面白い」かどうかで決まる。それをどう見つけるか。論点をどう提示するか。説得力を強めるために比喩や引用をどう用いるか。わかりやすい文章にするためのコツは、そして、読み手に興味を持ってもらうには、これまでの文章読本が扱ってこなかった問題への答がここにある。

780円
101662-1

1664 アメリカの20世紀(上)

— 1890年〜1945年

有賀夏紀 著

一九世紀末、アメリカは急速な工業化に起因する社会の混乱を克服し、政府、企業・研究機関との三者が協力する体制を確立した。このシステムの下で経済発展は加速し、未曾有の大恐慌と二度の世界大戦を経て、世界をリードする超大国にのし上がっていく。— 自由と民主主義の理念、物質的な豊かさが一体となった「アメリカ文明」が世界を席捲する二〇世紀前半を、社会・文化的側面に光を当てながら叙述する。

740円
101664-5

1665 **アメリカの20世紀(下)**

—1945年〜2000年

有賀夏紀 著

第二次世界大戦後、「バックス・アメリカーナ」は危機を迎える。ソ連との対立、ベトナム戦争の泥沼化でアメリカの国際的地位は著しく低下した。他方、国内では公民権運動、マイノリティの地位向上や女性解放の運動、ベトナム反戦運動など、社会変革を求め動きが活発化する。冷戦終結により唯一の超大国となったアメリカは、どこへ向かおうとするのか。国内外の新たな試練にさらされる二〇世紀後半を描く。

780円
101665-3

1670 **ドイツ 町から町へ**

池内 紀 著

ドイツの町には、おどろくほど個性がある。通りや建物、広場から、民家の屋根や壁の色、窓のつくりにいたるまで、土地ごとに様式があり、みごとに造形美を生み出している。長らく領邦国家が分立していた歴史的背景から、町ごとの自治意識が強く、伝統や風習に誇りを持っている。港町、川沿いの町、森の町、温泉の町……。ドイツ各地をめぐる、見過ごされがちな風物や土地に根ざした人々の息づかいを伝える紀行エッセイ。

760円
101670-6

1686 **国際政治とは何か**

—地球社会における人間と秩序

中西 寛 著

人類のおかれた状況が混沌の度を深め、希望と苦悩が錯綜する時代にこそ、断片的な情報ではなく、深い考察が求められる。本書はまず、国際政治の起源を近代ヨーロッパにたずね、現代までの軌跡を追うことで、その基本的な性質を明らかにする。その上で安全保障、政治経済、価値意識という三つの角度から、差し迫る課題に人間が人間を統治する営みとしての政治がどう答えられるのか、的確な視座を提示する。

講義・吉野作造賞受賞

860円
101686-7

1687 **日本の選挙**

—何を変えれば政治が変わるのか

加藤秀治郎 著

選挙制度が政治全般に及ぼす影響力はきわめて大きい。「選挙制度が適切なら何もかもうまくいく」という哲学者オルテガの言をまつまでもなく、選挙は民主主義をいかなる形態にも変えよう力を秘めている。本書は、小選挙区制や比例代表制の思想的バックボーンをわかりやすく紹介し、「選挙制度のデパート」とも揶揄される日本のシステムを改善する道筋を示すものである。巻末に、近年の議論をふまえた補足解説を付す。

800円
101687-4

1690 **科学史年表**

増補版

小山慶太 著

科学の歴史を辿ると、偉大な発見は、地道な観察・研究だけでなく、偶然の結果から生まれたものも多い。そこには、自然の原理を解明しようとする情熱を傾けた「科学者」たちの創意工夫と試行錯誤があった。「近代科学」が生まれた十七世紀から、宇宙や生命の神秘に自然科学が迫る現代まで、物理・天文・化学を軸に、四百年の歩みを年表形式で読み解く科学史ガイド。二〇一〇年までを新たに増補した最新版。

980円
191690-7

1695 **韓非子**

—不信と打算の現実主義

富谷 至 著

紀元前三世紀、韓の王族に生まれ、荀子に学んだ韓非は、国を愛えて韓王を諫めるも容れられず、憤慨して著述に向かう。その冷徹な思想は秦の始皇帝をも魅了し、「この人物に会えたら死んでもよい」と言わしめた。人間の本性は善か悪か。真の為政者はいかにあるべきか。「韓非子」五十五篇を読み解くのみならず、マキアベリ、ホッブズらの西洋思想と比較して、いまなお輝きを放ち続ける「究極の現実主義」の本質に迫る。

740円
101695-9

1696 **日本文化論の系譜**

—「武士道」から「甘え」の構造」まで

大久保喬樹 著

奈良・平安のいにしえから、日本人は自らの文化の特質について、さまざまな角度から論じてきた。それは、常に異国文化の影響下で自分たちの考え方やふるまう方を築いてきたことと密接な関係がある。本書は、明治以降、西欧文化が激しく流入する時期に焦点を絞り、五人の思想家、学者、作家などによる代表的な日本文化論を比較文化的視点から読み解くことによって、近代日本人の自画像を検証する試みである。

740円
101696-6

1701 **英語達人塾**

—極めるための独習法指南

斎藤兆史 著

英語力は会話力にあらず。文法無視で、「ペラペラ」しゃべる癖がついてしまうと、そこで学習が頭打ちになる。何ごとも、基本をおろそかにした我流では伸びない。本書は、日本が誇る英語達人も実践し、効果を実証されている学習法を、実例を交えて紹介するものである。ハイレベルな英語力がなければ、英語での交渉や口頭発表、さらには通訳・翻訳など望むべくもない。達人レベルを志す方々よ、いざ、当塾の門を叩かれよ。

760円
101701-7

1702 **ユーモアのレッスン**

外山滋比古 著

しゃれて気の利いたユーモアは、その場かぎりのものでなく、開く者の記憶に長くとどまる。気まずい場の雰囲気をつちまちは明るくし、ときに、厳しい追及をさらりと受け流すのにも役立つ。だが、ユーモアを発揮する側はもとより、それを感じ取る側にも、洗練されたことばの感覚が必要である。本書は、思わず頬がゆるんでしまうエピソードをまじえながら、その効用に光を当てる。このレッスンには、教則本も近道はありません。

740円
101702-4

1704 **教養主義の没落**

—変わりゆくエリート学生文化

竹内 洋 著

一九七〇年前後まで、教養主義はキャンパスの規範文化であった。それは、そのまま社会人になったあとまで、常識としてゆきわたっていた。人格形成や社会改良のための読書による教養主義は、なぜ学生たちを魅了したのだろうか。本書は、大正時代の旧制高校を発祥地として、その後の半世紀間、日本の大学に君臨した教養主義と教養主義者の輝ける実態と、その後の没落過程に光を当てる試みである。

780円
101704-8

1707 ヒンドウー教—インドの聖と俗

森本達雄 著

弁財天信仰、輪廻転生の思想などヒンドウー教は、直接には、あるいは仏教を通して、意外にも古くからの日本人の暮らし、日常の信仰、思想に少なからぬ影響を与えてきた。本書は、世界四大宗教の一つでありながら、特定の祖もなく、核となる聖典もないいわばとらえどころのない宗教の世界観を日常の風景から丹念に追うことによって、インド社会の構造から、ガンディーの「非暴力」の行動原理までも考察する。

1709 親指はなぜ太いのか

—直立三足歩行の起原に迫る

島 泰三 著

一本だけ離れて生えている太くて短い親指、ガラスさへ噛み砕くほど堅い歯。人類の手と口は、他の霊長類に例のない特異なものである。霊長類の調査を長年続けてきた著者は、サルと名づけた。なぜアイアイの中指は細長いのか、なぜチンパンジーは拳固で歩くのか、そして人類は何を食べ、なぜ立ちあがったのか。スリリングな知の冒険が始まる。

1728 会津落城

—戊辰戦争最大の悲劇

星 亮一 著

慶応四年春、幕府軍は鳥羽伏見の戦いで敗れて瓦解した。江戸城無血開城を経て戦場は東北に移る。長岡での激戦、白河の攻防、日光口での戦い……。会津藩をはじめ奥羽越列藩同盟軍は各地で戦いつづけるが、薩長軍がついに国境を破り会津若松に突入、一月月日及ぶ籠城戦が始まる。なぜこれほどまで戦わねばならなかったのか。会津藩の危機管理、軍事・外交、人材育成を検証しつつ、戊辰戦争最大の悲劇を浮き彫りにする。

1729 俳句的生活

長谷川 權 著

俳句は十七音からなる、地球上でもっとも短い定型詩である。そのうち何字かは季語を含むのだから、作者が独創を発揮する余地はさらに少ないように見える。だが、それだからこそ、ひととひととの言葉は磨かれ、詠む人の感覚や記憶が凝縮されるのだ。本書では、俳壇の気鋭として知られる著者の「俳句的生活」をとり、美の哲学をくみとる「美学入門」である。増補にあたり、第九章「美学の現在」と第一〇章「美の哲学」を書き下ろす。

1741 美学への招待

増補版

佐々木健一 著

二〇世紀の前衛美術は「美しさ」を否定し、藝術を大きく揺さぶった。さらに二〇世紀後半以降、科学技術の発展に伴い、複製がオリジナル以上に影響力を持ち、美術館以外で作品に接することが当たり前になった。本書は、このような変化にさらされる藝術を、私たちが抱く素朴な疑問を手がかりに解きほぐし、美の本質をくみとる「美学入門」である。増補にあたり、第九章「美学の現在」と第一〇章「美の哲学」を書き下ろす。

1742 ひとり旅は楽し

池内 紀 著

ひとり旅が自由気ままと思うのは早計というもの。ハードな旅の「お伴」は、厳選された品々でなければならぬ。旅の名人はみな、独自のスタイルをもっている。山下清の下駄や寅さんの革トランクにしても、愛用するには立派なワケがあるのだ。疲れにくい歩き方や良い宿を見つけたら、温泉を楽しむ秘訣、さらには土産選びのヒントまで、達人ならではのノウハウが満載。こころの準備ができたら、さあ旅に出かけよう。

1750 物語 スペインの歴史人物篇

—エル・シドからガウディまで

岩根園和 著

国土回復のイスラム掃討戦で勇名を馳せた伝説の騎士エル・シド、皇帝カルロスの生母ながら幽閉の半世紀をすごした悲劇の女王フアナ、新大陸支配における同胞の悪行を告発した修道士ラス・カサス、不朽の名作『ドン・キホーテ』の著者セルバンテス、数多の傑作を描き残した宮廷画家ゴヤ、そして未完の聖堂サグラダ・ファミリアの建築家ガウディ。時代や出身地、活躍した分野もさまざまな六人の生涯を通して千年の歴史を描く。

1754 幕末歴史散歩 東京篇

一坂太郎 著

東京は、幕末史のテーマパークだ。道端や空き地にも、ときには堂々と、ときにはひっそりと過去のドラマが息づいている。桜田門、坂下門など頻発するテロの現場、新選組のふるさと、彰義隊の落武者にまつわる怪談……。本書はベリール来航から西南戦争までの四半世紀に繰り広げられた有名無名さまざまな事件の跡をたどる、「一足で読む幕末通史」である。巻末に幕末維新関係者千名の詳細な墓地所在地リストを付す。

1755 部首のはなし

—漢字を解剖する

阿辻哲次 著

なぜ「卍」は《十》部6画なのか？「巨」はなぜ《工》部なのか？なぜ女へんがあつて男へんはないのか……。漢字が誕生して三千年、漢字の字体はさまざまに変化していった。そのなかで、多くの部首が生まれ、消えていった。所属する部首を移動したり、部首が分かれてなくなってしまうものも多い。漢字を分解してみると、その合理性と矛盾がはじめて見えてくる。50の部首ごとにたどる楽しい漢字エッセイ。

1758 物語 バルト三国の歴史

—エストニア・ラトヴィア・リトアニア

志摩園子 著

二〇〇四年五月、エストニア、ラトヴィア、リトアニアは念願だったEUへの加盟を果たした。これまで三つのように扱われてきた三国は、なぜ「バルト」と一括されるのか。その答えは、中世から東西南北の交易の十字路として注目されたバルト海東南岸地域でくりひろげられた歴史の中にある。周辺大国ドイツ、ロシアの狭間にあって、それぞれの民族のまとまりを失うことなく、二〇世紀にやっと建国した三国の道のりを辿る。

1759 言論統制

—情報官 鈴木庫三と教育の国防国家

佐藤卓己 著

言論界で「小ヒムラー」と恐れられた軍人がいた。情報局情報官・鈴木庫三少佐である。この「日本思想界の独裁者（清沢潤）が行った厳しい言論統制は、戦時下の伝説として語りつがれてきた。だが鈴木少佐とはいったい何者なのか。極貧の生活から刻苦勉勵の立志伝。東京帝国大学で教育学を学んだ陸軍将校。学界、言論界の多彩なネットワーク。「教育の国防国家」のスローガン。新発見の日記から戦時言論史の沈黙の扉が開かれる。

吉田茂賞受賞

980円
101759-8

1769 苔の話

—小さな植物の知られざる生態

秋山弘之 著

庭の隅や道端にひっそりと息づく苔たちは、見るものに安らぎを与えてくれる。インテリアとしても人気があり、美しい苔を求めて寺院や庭園を訪れる人も少なくない。ふだん見慣れた苔だが、その一生はどのようなものなのか？ 乾燥や寒暖など厳しい環境を耐え抜く適応能力の秘密とは？ コケ植物の専門家が、知られざる生態をわかりやすく解説。私たちの生活や文化との深い関わりにふれながら、その魅力を余すところなく伝える。

780円
101769-7

1771 物語 イタリアの歴史 II

—皇帝ハドリアヌスから
画家カラヴァッジョまで

藤沢道郎 著

ローマ、テヴレエ河畔に威容を誇るカステル・サン・ジェロ（聖天使城）は、紀元二世紀に皇帝ハドリアヌス自らの陵墓として築かれて以来、数々の歴史的事件に立ち会ってきた。本書はハドリアヌス、大教皇グレゴリウス、ロレンツォ・デ・メディチ、画家カラヴァッジョら八人をおとして、古代ローマ帝国の最盛期からバロック文化が咲き誇った十七世紀までの千五百年を描く、もうひとつの「歴史」物語である。

740円
101771-0

1773 新選組

—「最後の武士」の実像

大石 学者

嘉永六年（一八五三）のペリー来航から明治二年（一八六九）の箱館五稜郭陥落までの幕末維新期、さまざまな国家構想が錯綜する中で政争や戦乱が展開された。こうした時代に生まれ、滅んだ新選組とは、どのような集団で、いかなる歴史的位置を占めていたのか。近藤勇が幕末の京都で活躍できた政治的基盤や、近代性・合理性といった組織としての先駆的性格に着目しつつ、各種史料を丹念に検証する新選組全史。

920円
101773-4

1781 マグダラのマリヤ

—エロスとアガペーの聖女

岡田温司 著

聖母マリヤやエヴァと並んで、マグダラのマリヤは、西洋世界で最もポピュラーな女性である。娼婦であった彼女は、悔悟して、キリストの磔刑、埋葬、復活に立ち会い、「使徒のなかの使徒」と呼ばれた。両極端ともいえる体験をもつため、その後の芸術表現において、多様な解釈や表象を与えられてきた。貞節にして淫ら、美しくしてしかも神聖な、「娼婦」聖女）が辿った数奇な運命を芸術作品から読み解く。画像資料多数収載。

800円
101781-9

1782 信長軍の司令官

—部將たちの出世競争

谷口克広 著

武田・上杉・本願寺・毛利などの強敵と領土を接した織田信長は、一万を超える大軍団を柴田勝家・明智光秀・羽柴秀吉・滝川一益らに預け、四方の平定に当たさせた。この「方面軍司令官」こそ、信長麾下の部將たちにとって究極の地位であった。尾張一國から畿内平定、天下統一へと邁進する信長軍にあって、彼らはどういう出世を遂げたのか。時代を追い、並み居る名將たちの顔ぶれと与えられた権限、具体的な活躍をたどる。

780円
101782-6

1790 批評理論入門

—「フランケンシュタイン」解剖講義

廣野由美子 著

批評理論についての書物は数多くあるが、読み方の実例をおとして、小説とは何かという問題に迫ったものは少ない。本書ではまず、「小説技法論」で、小説はいかなるテクニクを平易に解説した。技法と理論の双方に通じることによって、作品理解はさらに深まるだろう。多様な問題を含んだ小説「フランケンシュタイン」に議論を絞った。

820円
101790-1

1792 日露戦争史

—20世紀最初の大国間戦争

横手慎二 著

日露戦争は、日本とロシアにとってそれぞれにきわめて影響の大きい戦争であったが、客観的にいかなる評価が確定していない。戦後一〇〇年にあたり、その地球規模の意味に言及する試みが多くなっているが、本書は、ロシア近現代史の視点も含めて、戦争の背景・経過・影響を通覧しようとするものである。双方の認識に極端な差があったことが、戦争の帰趨にどのように影響を及ぼしたかを明瞭に伝える。

740円
101792-5

1798 ギリシア神話

—神々と英雄に出会う

西村賀子 著

数多い英雄たちの複雑な関係、神々も介在する入り組んだ物語、重複や矛盾に満ちた展開……アポロンやアテナなどの名前は身近であるものの、実は読みこなしにくいギリシア神話だが、古代人の世界観を探るといふ視点から見ると、意外に理解しやすい。本書は、古代ギリシアの詩や悲劇がどんな話をどのように語っているかを踏まえながら、西欧文明にきわめて深い影響を与えた伝承の数々を紹介する。

820円
101798-7

1810 日本の庭園

—造景の技とこころ

進士五十八 著

石と水、そして木。日本庭園はこれらを美しく組み合わせ、その地の自然と歴史と文化を一体として表現した。方寸のなかに宇宙を展望しようとしたのである。その構成はどのように考へたのか、魅力はどこから生じるのか。神仏の庭、貴族の庭、大名庭園、庶民の庭を訪ねて考察する。また、植栽、石組、水工などの作庭技術を詳細に解説する。名庭名園三十六景の見方、味わい方も具体的に紹介する。本格的な日本庭園入門書。

820円
101810-6

1812
——西太后
——大清帝国最後の光芒

加藤 徹 著

内憂外患にあえぐ落日の清朝にあつて、ひときわ強い輝きを放った一代の女傑、西太后。わが子同治帝、甥の光緒帝、「帝母」として国政を左右し、死に際してなお、幼い溥儀を皇太子に指名した。その治世は半世紀もの長きにわたる。中級官僚の家に生まれ、十八歳で後宮に入った娘は、いかにしてカリスマの支配を確立するに至ったか。男性権力者とは異なる、彼女の野望の本質とは何か。「稀代の悪女」のイメージを覆す評伝。

800円
101812-0

1816
——西洋音楽史
——「クラシック」の黄昏

岡田暁生 著

一八世紀後半から二〇世紀前半にいたる西洋音楽史は、芸術音楽と娯楽音楽の分裂のプロセスであった。この時期の音楽が一般に「クラシック音楽」の歴史と呼ばれている。本書は、「クラシック」音楽の歴史と、その前史である中世、ルネサンス、バロックで何が用意されたのか、そして「クラシック後」には何がどう変質したのかを大胆に位置づける試みである。音楽史という大河を一望のもとに眺めわたす。

820円
101816-8

1818
——シユメル——人類最古の文明

小林登志子 著

五千年前のイラクの地で、当時すでに文字やハンコ、学校、法律などを創り出していた民族がいた。それが今までほとんどその実像が明らかにされてこなかったシユメル民族である。本書は、シユメル文明の遺物を一つ一つ紹介しながら、その歴史や文化を丹念に解説するものである。人類最古の文明にして現代社会の礎を築いた彼らの知られざる素顔とは——。多様かつ膨大な記録から、シユメルの人々の息づかいを今に伝える。

940円
101818-2

1820
——丸山眞男の時代
——大学・知識人・ジャーナリズム

竹内 洋 著

戦後の市民による政治参加に圧倒的な支配力を及ぼした丸山眞男。そのカリスマ的な存在感の背景には、意外なことに、戦前、東大法学部の助手時代に体験した、右翼によるヒステリックな恫喝というトラウマがあった。本書は、六〇年安保を思想的に指導したものの、六〇年代後半には学生から背を向けられる栄光と挫折の遍歴をたどり、丸山がその後のアカデミズムとジャーナリズムに与えた影響を検証する。

920円
101820-5

1821
——安田講堂
1968-1969

島 泰三 著

一九六九年一月、全共闘と機動隊との間で東大安田講堂の攻防戦が繰り広げられた。その記憶はいまも鮮烈である。青年たちはなぜ戦ったのだろうか。必至の敗北とその後的人生における不利益を覚悟して、なぜ彼らは最後まで安田講堂に留まったのか。何を求め、伝え、残そうとしたのか。本書は「本郷学生隊長」として安田講堂に立てこもった当事者によって、三十七年を経て、はじめて語られる証言である。

980円
101821-2

1824
——経済学的思考のセンス
——お金がない人を助けるには

大竹文雄 著

「お金がない人を助けるには、どうしたらいいのですか？」小学5年生が発したこの問いに、経済学者はどう答えるだろうか。女性が背の高い男性を好む理由からオリンピックの国別メダル獲得数まで、私たちのまわりには、運や努力、能力によって生じるさまざまな格差や不平等がある。本書は、それらを解消する方法を、人々の意思決定メカニズムに踏み込んで考えることによって、経済学の本質をわかりやすく解き明かす。

780円
101824-3

1827
——カラー版
——絵の教室

安野光雅 著

たとえば、天使がラッパを吹きながら空を舞う名画は、技術の蓄積だけでは描けなかった。目には見えないその姿を描く画家は、人体のデッサンに習熟し、想像力に助けられた。絵画という世界を構築していったのだろう。この本では、クールベやゴッホなどのたくらみや情熱の跡を辿り、美の宇宙の源泉へ旅してみたい。描く技術、鑑賞する感性を会得するには、近道も終着点もないが、創造の歴史には「絵の真実」が現われてくる。

980円
101827-4

1833
——ラテン語の世界
——ローマが残した無限の遺産

小林 標 著

かつてローマ文明を支えたラテン語の生命力は、二千年経った現在でも衰えていない。ラテン語は、生物学などの学問やキリスト教に使われるとともに、イタリア語やフランス語、スペイン語なども生み出した。さらに、その言語構造が持つ普遍性ゆえに、英語や日本語にも影響を与えている。身近な言葉や感言、いまも残る碑文などの豊富な例をひきながら、ラテン語の特徴やその変遷、ラテン文学のエッセンスを楽しく語る。

860円
101833-5

1836
——華族
——近代日本貴族の虚像と実像

小田部雄次 著

明治維新後、旧公卿・大名、維新功労者などから選ばれた華族。「皇室の藩屏」として、貴族院議員選出など多くの特権を享受した彼らは、近代日本の政治、経済、生活様式をリードした「恵まれた」階級のはずだった。日清・日露戦争後、膨大な軍人や財界人を組み込み拡大を続けたが、多様な出自ゆえ基盤は脆く、敗戦とともに消滅する。本書は、七八年間に一〇一家存在したその実像を明らかにする。巻末に詳細な「華族一覽」付。

940円
101836-6

1838
——物語 チェコ
——森と高原と古城の国

薩摩秀登 著

九世紀のモラヴィア王国の誕生以来、歴史に名を現わすチェコ。栄華を誇った中世のチェコ王国は、そののち、ハプスブルク家に引き継がれ、さらに豊かな文化を生み出した。二十世紀に至って、近代の共和国として生まれ変わったのち、第二次世界大戦の共産化によって沈滞の時代を迎えるが、ビロード革命で再出発した。ロマンティックな景観の背後に刻印された歴史を、各時代を象徴する人物のエピソードを核に叙述する。

820円
101838-0

1843 科学者という仕事

— 獨創性はどのように生まれるか

野矢茂樹 著

多くの研究者には、共通した考え方や真理に対する独特のこだわりがある。アインシュタイン、ニュートン、チャムスキー、朝水振一郎、キユーリ夫人が残してくれた、真理を鋭く突き、そして美しい言葉を手がかりに、獨創性がどのように生まれるかを考えてみよう。科学者という仕事を通して科学研究の本質に触れることは、「人間の知」への理解を深めることにつながるだろう。第一線の研究者によるサイエンスへの招待。

780円
101843-4

1845 首相支配 — 日本政治の変貌

竹中治堅 著

細川連立政権崩壊から一〇年以上が過ぎ、日本政治は再び自民党の長期政権の様相を呈している。しかしその内幕は、かつての派閥による「支配」とは全く異なる。目の前にあるのは、一九九〇年代半ばから進んだ選挙制度改革、政治資金規正法強化、行政改革などによって強大な権力を手にした首相による「支配」なのだ。一九九四年以降の改革のプロセスを丹念に追ひ、浮かび上がった新しい日本の「政治体制」をここに提示する。

900円
101845-8

1854 映画館と観客の文化史

加藤幹郎 著

映画はいったいどこで見るべきものなのだろうか。ホームグランドの普及以降一般的になった、個人的な鑑賞は、はたして映画の本来的な姿から遠ざかってしまったものなのだろうか。本書は、黎明期から今日までの一〇〇年間の上映形態を念にたどりながら、映画の見かたが、じつは本来、きわめて多様なものだったことを明らかにする。作品論、監督論、俳優論からは到達し得ない映画の本質に迫る試みである。

900円
101854-0

1862 入門！ 論理学

野矢茂樹 著

論理の本質に迫る、論理学という大河の最初の一滴を探る冒険の旅！ あくまでも日常の言葉を素材にして、ユーモアあふれる軽快な文章で説き明かされていく。楽しみ、笑いながら著者とともに考えていく知的興奮。やがて「考え、話し、書く」という実際の生活に生きている論理の仕組みが見えてくる。論理学ってなんだかむずかしく、と思っているあなたにこそ、ぜひ読んでほしい「目からうろこ」の入門書。

740円
101862-5

1867 院政 増補版

— もうひとつの天皇制

美川 圭 著

院政とはすでに譲位した上皇（院）による執政をいう。平安後期に白河・鳥羽・後白河の上皇が百年余りにわたって専権を振るい、鎌倉初期には後鳥羽上皇が幕府と対峙した。承久の乱で敗れて朝廷の地位は低下したが、院政自体は変質しながらも江戸末期まで存続する。上皇が権力を行使できたのはなぜか。その権力構造はいかなるものだったか。ロングセラーに終章「院政とは何だったのか」を収録し、人名索引を付した決定版。

900円
191867-3

1869 カラー版 将棋駒の世界

増山雅人 著

インターネットを介したオンライン将棋が盛んだ。しかし、盤駒を使う将棋の魅力が減じたわけではない。木の宝石といわれる黄楊に、美しい漆で文字をあしらった将棋駒は、遊具を超えた工芸品としての魅力をもっている。材質や木目の種類、さまざまな表情で見る者を魅了してやまない書体をはじめ、鑑賞やコレクションに必要な知識を美しい写真とともに紹介する。駒の世界を豊かにした名工たちの息をのむ作品をどくとどご覧いただきたい。

980円
101869-4

1875 「国語」の近代史

— 帝国日本と国語学者たち

安田敏朗 著

明治維新後日本は歴代的な統一国家を目指し、ことばの地域差・階層差を解消するため「国語」を創始する。「国語」は国民統合の名の下に方言を抑圧し、帝国日本の膨張とともに植民地・占領地にも普及が図られていく。この「国語」を創り、国家の国語政策に深く関与したのが、国語学者であった。仮名文字化、ローマ字化、伝統重視派、普及促進派などの論争を通じ、国家とともに歩んだ「国語」と国語学者たちの戦前・戦後を追う。

1000円
101875-5

1891 漢詩百首

— 日本語を豊かに

高橋睦郎 著

返り点と送り仮名の発明によって、日本人は、ほんらい外国の詩である漢詩を自らのものとした。その結果、それを鑑賞するにとどまらず、作詩にも通曉する人物が輩出した。本書は、中国人六〇人、日本人四〇人の、古代から現代に及ぶ代表的な漢詩を精選し、詩人独自の読みを附すとともに、詩句の由来や作者の経歴、時代背景などを紹介。外国文化を自家薬籠中のものとした、世界でも稀有な実例を、愉しみとともに通読する。

780円
101891-5

1898 健康・老化・寿命

— 人といのちの文化誌

黒木登志夫 著

糖尿病、心臓病、がん、感染症——生命を脅かす疾患の解明は進み、治療法も進歩した。しかし寿命には限界がある。いつたい何が寿命を決めるのか。人はなぜ太り、歳をとり、病気になるのか。本書は、がんと狭心症を体験した著者が、歴史と生物進化の視点から、遺伝子と病原微生物の狩人たちの人間ドラマを背景に描く、臨場感あふれる医学物語である。生と死をめぐる文学作品や映画の名場面が知的好奇心に彩りを添える。

880円
101898-4

1899 国連の政治力学

— 日本はどこに在るのか

北岡伸一 著

国家を超える結束の場として構想された国連が誕生して六十余年、冷戦とその後の激動を経て、その地位と役割は大きく変動した。国際社会でアメリカ中心のシステムが機能するなか、国連は世界と安全の維持という最大の目的を果たしているのか。また、一九二の「対等」な加盟国をもつ組織の意思決定はどうなされているのか。研究室から外交の現場へ身を移した著者の二年半の体験から、国連の現在と未来を照らし出す。

880円
101899-1

1905 日本統治構造

— 官僚内閣制から議院内閣制へ

飯尾 潤 著

880円
101905-9

1907 信長と消えた家臣たち

— 失脚・肅清・謀反

谷口克広 著

独特の官僚内閣制のもと、政治家が大膽な指導力を発揮できず、大統領制の導入さえ主張されてきた戦後日本政治。しかし一九九〇年代以降の一連の改革は、首相にアメリカ大統領以上の権能を与えるなど、日本国憲法が意図した議院内閣制に変えた。本書は、議院内閣、首相、政治家、官僚、政党など議院内閣制の基盤を通し、その歴史的・国際的比較から、日本という国家の統治システムを明らかにする。サントリー学芸賞、読売・吉野作造賞受賞

信長は天下統一の過程で多くの配下の者を肅清した。反逆が疑われる者は無論のこと、拔擢に応えられなかった者も容赦なく切り捨てた。なぜ信長は周囲の理解を超えた過酷な処分を行ったのか。一方、趨勢が明らかにもかかわらず、結果的に少なくない数の武将が反旗を翻したのにはなぜなのか。着々と進む天下統一の裏で練っていた信長と家臣、そして恭順した大名たちとの駆け引き。その生々しい局面から、信長の戦略と素顔に迫る。

840円
101907-3

1910 人口学への招待

— 少子・高齢化はどこまで解明されたか

河野稠果 著

860円
101910-3

1912 数学する精神

増補版
— 正しさの創造、美しさの発見

加藤文元 著

900円
191912-0

1913 物語 タイの歴史

— 微笑みの国の真実

柿崎一郎 著

920円
101913-4

一三世紀以降、現在の領域に南下し、スコタイ、アユッタヤーといった王朝を経て、一八世紀に現王制が成立したタイ。西欧列強の進出のなか、東南アジアで唯一独立を守り、第二次世界大戦では日本と同盟を組みながらも、「敗戦国」として扱われず、世渡りの上手さを見せてきた。本書は、ベトナム、ビルマなどの周辺諸国、英、仏、日本などの大国に翻弄されながらも生き残った、タイ民族二〇〇〇年の軌跡を描くものである。

1916 ヴイクトリア女王

— 大英帝国の戦う女王

君塚直隆 著

860円
101916-5

植民地を世界各地に築き、「太陽の沈まない帝国」と呼ばれた19世紀イギリス。18歳で即位し、この繁栄期に64年間王位にあったのがヴィクトリアである。後に「君臨すれども統治せず」の確立期と言われ、女王の役割は小さいとされたが、実態は違う。自らの四男五女で欧州各王室と血縁を深めた女王は、独自外交を繰り広げ、しばしば時の政権と対立した。本書は全盛期の大英帝国で、意思を持って戦い続けた女王の実像を描く。

1927 西南戦争

— 西郷隆盛と日本最後の内戦

小川原正道 著

820円
101927-1

明治維新後、佐賀の乱、神風連の乱、萩の乱などに続く、不平士族による最後の戦いとなった西南戦争。九州全土で八ヵ月間にわた行われた近代日本最大の内戦である。それはまた誕生してまもない「日本軍」が経験した最初の本格的戦争でもあった。本書では、反乱軍の盟主である西郷隆盛の動向を柱に、熊本城籠城戦、田原坂の戦いをはじめ、九州各地での戦闘を丹念に追ひ、日本最後の内戦の実態と背景を明らかにする。

1928 物語 京都の歴史

— 花の都の二千年

脇田 修／脇田晴子 著

940円
101928-8

桓武天皇により平安京遷都が行われて以来、京の都は千年もの長きにわたり日本の中心だった。貴族の邸宅や寺社が立ち並び、都市の基礎が作られた王朝時代。武家政権が興り戦乱の舞台となるとともに、商工業が発展した中世。豪商が生まれ、学問・文化の興隆著しかった近世。今も多くの人が訪れる寺社・名所の縁起をひもときつつ、花の都と詠われた京の歴史を一望する。カラの歴史地図を付した。

1930 ジャガイモの世界史

— 歴史を動かした「貧者のパン」

伊藤章治 著

840円
101930-1

南米生まれのジャガイモは、インカ帝国滅亡のち、スペインに渡った。その後、フランスやドイツの啓蒙者たちも普及につとめ、わずか五百年の間に全世界に広がった。赤道直下から北極圏まで、これほど各地で栽培されている食物もない。痩せた土地でも育ち、栄養価の高いジャガイモは「貧者のパン」として歴史の転機で大きな役割を演じた。アイルランドの大飢饉、北海道開拓、ソ連崩壊まで、ジャガイモと人々をめぐるドラマ。

1931 物語 イスラエルの歴史

— アブラハムから中東戦争まで

高橋正男 著

980円
101931-8

イスラエルという民族名は、紀元前十三世紀のエジプトの碑文にはじめて登場する。文明が交錯する東地中海沿岸ではさまざまな民族が興亡してきた。そのなかでイスラエル（ユダヤ）民族はバビロニア捕囚やローマ帝国による迫害など、民族流亡の危機を乗り越え、第二次世界大戦後に再び自らの国を持つに至った。本書は、民族の祖とされるアブラハムから中東戦争後の現在まで、コンパクトに語る通史である。

1935 物語 メキシコの歴史

— 太陽の国の英傑たち

大垣貴志郎 著

「太陽の国メキシコ」と言えば、わたしたちは陽気なマリアッチや古代文明を思い起こす。だが重層的な民族構成や文化をもつメキシコは、「仮面をかぶった国」と言われ、なかなか素顔を見せない。この複雑なメキシコの歴史を、マヤやアステカにはじまり、植民地時代、レフォルマ戦争、メキシコ革命などをへて現代まで概説するとともに、イダルゴやサパタなど、それぞれの時代を特徴づける神がかり的な英雄たちを紹介する。

1936 アダム・スミス

— 「道徳感情論」と「国富論」の世界

堂目卓生 著

政府による市場への規制を撤廃し、競争を促進することによって経済成長率を高め、豊かで強い国を作るべきだ——「経済学の祖」アダム・スミスの『国富論』は、このようなメッセージをもつと理解されてきた。しかし、スミスは無条件にそう考えたのだろうか。本書はスミスのもう一つの著作『道徳感情論』に示された人間観・社会観を通して『国富論』を読み直し、社会の秩序と繁栄に関する一つの思想体系として再構築する。サントリー学芸賞受賞

1939 ニーチェ

— ツアラトウストラの謎

村井則夫 著

ある日「水劫回帰」の思想がニーチェを襲う。この着想をもとに一気呵成に書き上げられた『ツアラトウストラ』はこう語った「二〇世紀の文学者、哲学者の多くを惹きつけ、現代思想に大きな影響を与えた。文学の伝統的手法を駆使しつつも、ときにそれを逆手にとり、文体の実験までも行うニーチェ。一見、用意周到な筋立てや人物造形とは無縁と思われるこの物語は何を目論んでいるのか。稀代の奇書に迫る。

1943 ホロコースト

— ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌

芝 健介 著

ヒトラー政権下、ナチ・ドイツによって組織的に行われたユダヤ人大量殺戮「ホロコースト」。「劣等民族」と規定されたユダヤ人は、第二次世界大戦中に六〇〇万人が虐殺される。だが、ヒトラーもナチ党幹部も、当初から大量殺戮を考えていたわけではなかった。本書は、ナチスのユダヤ人政策が、戦争の進展によって「追放」からアウシュビッツ絶滅収容所に代表される巨大な「殺人工場」に行き着く過程と、その惨劇の実態を描く。

1948 電車の運転

— 運転士が語る鉄道のしくみ

宇田賢吉 著

時速一〇〇キロ以上の速さで数百トンの列車を率いて走行し、時刻通りにホームの定位置にピタリと停める……。このような職人技をもつ運転士は、何を考え、どのように電車を運転しているのだろうか。また、それを支える鉄道の仕組みとはどのようなものだろうか。JRの運転士として特急電車から貨物列車まで運転した著者が、電車を動かす複雑精緻なシステムと運転士という仕事をわかりやすく紹介する。

1959 韓国現代史

— 大統領たちの栄光と蹉跌

木村 幹 著

一九四八年、日本の植民地から米国の占領を経て、建国した大韓民国。六〇年の間に、独裁国家から民主国家、途上国から先進国へと大きく変貌した。本書は、歴代大統領の「眼」と「体験」を通して、激変した韓国を描くものである。「建国の父」李承晩、軍事クーデタで政権を奪った朴正熙、民主化に大きな役割を果たした金泳三、金大中、そして「ポスト民主化」時代の盧武鉉、李明博。大統領たちの証言で織りなす現代史の意欲作。

1963 物語 フランス革命

— バスチーユ陥落からナポレオン戴冠まで

安達正勝 著

一七八九年、市民によるバスチーユ襲撃によって始まったフランス革命は、「自由と平等」という光り輝く理想を掲げ、近代市民社会の出発点となった。しかし、希望とともに始まった革命は、やがて恐怖政治へと突入、ナポレオンを登場させ、彼の皇帝即位をもって幕を下ろす。本書は、ドラマに満ちた革命の有為転変をたどりつつ、当時を生きた人々の息づかいや社会の雰囲気や丁寧な追いつき、革命の時代を鮮やかに描き出す。

1971 英語の歴史

— 過去から未来への物語

寺澤 盾 著

5世紀半ばは、ブリテン島の一部のみ使われていた英語は、現在、15億人が使う国際言語へと成長した。英語は8世紀以降、北欧語、ラテン語、フランス語といった「侵入者」たちから、16世紀以降は英国人の海外進出に伴いアメリカ、アジアの言語から、語彙・綴り・文法など様々な影響を受けて創られてきた。本書は、現代英語を意識しながら1500年の歴史を概観し、近年英米社会で急変する姿とその未来を描くものである。

1974 毒と薬の世界史

— ソクラテス、錬金術、ドーピング

船山信次 著

毒にしても薬にしても、人類との関わりは、きわめて長く深い。古くから人類は毒を避け、効能のある物質は活用してきた。そして、それらを合成することが可能になってからは、良きにつけ悪きにつけ、その使用法は無限に拡大している。しかし、実は、同じものが毒にもなれば薬にもなる。本書は、ソクラテスの飲まれた毒から、錬金術、ドーピングにいたるまで、古今東西の毒や薬をめぐる秘話・逸話を紹介するものである。

1976 大平正芳

— 「戦後保守」とは何か

福永文夫 著

戦後、「保守本流」の道を歩み、外相、蔵相などを歴任し、一九七八年に首相の座に就いた大平正芳。その風貌から「おとちゃん」「鈍牛」と親名された大平は、政界屈指の知性派であり、初め、「戦後の総決算」を唱えるなど、二二世紀を見据えた構想を数多く発表した。本書は、派閥全盛の時代、自由主義を強く標榜し、田中角栄、三木武夫らと切磋琢磨した彼の軌跡を辿り、戦後の保守政治の価値を問うものである。

1977 シュメル神話の世界

—粘土板に刻まれた最古のロマン

岡田明子／小林登志子 著

いまから五千年前にティグリス、ユーフラテス河畔に栄えた人類最古の都市文明シュメル。粘土板には多くの神話が残され、ギルガメシュ叙事詩や大洪水伝説など、後世に伝えられたものも多い。これらの神話の世界では、酔っ払う大神、死後の国を覗こうとする女神、蛮族を征服する王、怪獣など、様々なキャラクターがいきいきと活躍している。代表的な神話のストーリーを紹介し、神々の役割や性格、舞台背景などを詳説する。

900円
101977-6

1984 日本の子どもと自尊心

—自己主張をどう育むか

佐藤淑子 著

自分の頭で考え、はっきりと意見を言える子どもに育ててほしいというのは親の自然な願いだろう。しかし、自己主張の発達と深く結びついている「自尊心」は、謙虚さが賞賛される日本において、常に歓迎されるとは限らない。そこに矛盾があるとしたら、自己主張できる子を育てるためにはどうすればいいのか。日本人独特の自尊心を考察し、教育学の視点から、保護者の価値観の影響や、子どもの成長との関わりを明らかにする。

740円
101984-4

1989 諸子百家

—儒家・墨家・道家・法家・兵家

湯浅邦弘 著

春秋戦国時代、諸国をめぐって自らの主張を説いた思想家たち。彼らの思想は、その後の中国社会の根幹を形づくったのみならず、日本をはじめ東アジアにおいても大きな影響力を持った。一九九〇年代には大量の古代文献が発掘され、これまで謎とされてきた事柄も解き明かされつつある。新知見をふまえて、儒家（孔子・孟子、墨家（墨子）、道家（老子・莊子）、法家（韓非子、兵家（孫子））などの思想と成立の過程を平易に解説する。

840円
101989-9

2000 戦後世界経済史

—自由と平等の視点から

猪木武徳 著

第二次大戦後の世界は、かつてない急激な変化を経験した。この六〇年を考える際、民主制と市場経済が重要なキーワードとなることは誰もが認めるところであろう。本書では、「市場化」を軸にこの半世紀を概観する。経済の政治化、グローバル化の進行、所得分配の変容、世界的な統治機構の関与、そして「自由」と「平等」の相剋―市場システムがもたらした歴史的变化の本質とは何かを明らかにする。

940円
102000-0

2004 大学の誕生(上)

—帝国大学の時代

天野郁夫 著

日本の大学はどのような経過をたどって生まれたのだろうか。本書は、その黎明期のダイナミックな展開を二巻にわたって、つぶさに描くものである。上巻では、明治一〇年の「東京大学」の設立と一九年の帝国大学誕生の成立から説き起こす。その後、帝国大学が自己変革していきさまと、帝国大学に対するかのように生まれる官立・私立の専門学校の隆盛へと物語は進んでゆく。人と組織が織りなす、手に汗握るドラマ。

940円
102004-8

2005 大学の誕生(下)

—大学への挑戦

天野郁夫 著

日本の大学はどのような経過をたどって生まれたのだろうか。そのダイナミックな展開をつぶさに描く本書の下巻は、東京と京都の帝国大学との距離を縮めようとして、官立・私立とも専門学校などの高等教育機関が充実してゆくありさまを見る。帝国大学はその数を増し、一方で、専門学校はそのなかに序列を生じていった。そしてついに、大正七年の大学令の成立により、現在につながる大学が誕生するのである。

980円
102005-5

2006 教育と平等

—大衆教育社会はいかに生成したか

荻谷剛彦 著

戦後教育において「平等」はどのように考えられてきたのだろうか。本書が注目するのは、義務教育費の配分と日本的な平等主義のプロセスである。そのきわめて特異な背景には、戦前から地方財政の逼迫と戦後の人口動態、アメリカから流入した「新教育」思想とが複雑に絡まり合っていた。セーフティネットとしての役割を維持してきたこの「戦後レジーム」がなぜ崩壊しつつあるのか、その原点を探る。

840円
102006-2

2007 物語 数学の歴史

—正しさへの挑戦

加藤文元 著

古代バビロニアで粘土板に二次方程式の解法が刻まれてから四千年、多くの人々の情熱と天才、努力と葛藤によって、人類は壮大な数学の世界を見出した。通約不可能性、円周率、微積分、非ユークリッド幾何、集合論―それぞれの発見やパラダイムシフトは、数学史全体の中でどのような意味を持ち、どのような発展をもたらしたのか。歴史の大きなうねりを一望しつつ、和算の成果や一九世紀以降の展開についても充実させた数学史決定版。

940円
102007-9

2009 音楽の聴き方

—聴く型と趣味を語る言葉

岡田暁生 著

音楽の聴き方は、誰に言われるまでもなく全く自由だ。しかし、誰からの影響や何らかの傾向なしに聴くこともまた不可能である。それならば、自分はどうな聴き方をしているのかについて自覚的になってみようというのが、本書の狙いである。聴き方の「型」を知り、自分の感じたことを言葉にしてみるだけで、どれほど世界が広がって見えることか。規則なき規則を考えるためにはどうすればよいかの道筋を示す。

780円
102009-3

2015 「大日本帝国」崩壊

—東アジアの一九四五

加藤聖文 著

「大日本帝国」とは何だったのか。本書は、日本、朝鮮、台湾、満洲、樺太、南洋群島といった帝国の「版図」が、一九四五年八月一日、どのように敗戦を迎えたのかを追うことになった。帝国の本質を描き出す。ポツダム宣言の通告、原爆投下、ソ連参戦、玉音放送、九月二日の降伏調印。この間、各地域で日本への憎悪、同情、憐憫があり、その温度差に帝国への意識差があった。帝国崩壊は、東アジアに何を生み、何を喪わせたのか。

820円
102015-4

2030 上海

— 多国籍都市の百年

榎本泰子 著

アヘン戦争後、一八四二年の南京条約によって開港した上海。外国人居留地である「租界」を中心に発展した街は二〇世紀前半には中国最大の「華洋雑居」の地となり繁栄を極める。チャンスと自由を求めて世界中からやってくる移民や難民たち。英米日の角逐、勃興する中国の民族運動。激動の時代の中で人々はいかに暮らし、何を思ったのか。本書は国籍別の検証を通じ、上海という都市独特の魅力を余すところなく伝える。

800円
102030-7

2034 感染症の中国史

— 公衆衛生と東アジア

飯島 渉 著

一九世紀末、列強に領土を蚕食されるなか、中国では劣悪な栄養・衛生状態、海外との交流拡大によって、感染症が猛威を振るう。雲南の地方病であったペストは、香港や満洲に拡大し、世界中に広がることになる。中国は公衆衛生の確立を迫られ、モデルを帝国日本に求めた。本書は、ペスト、コレラ、マラリアなどの感染症被害の実態、その対応に追われる「東亜病夫」と称された中国の苦悩とその克服に挑む姿を描く。

820円
102034-5

2041 行動経済学

— 感情に揺れる経済心理

依田高典 著

完全無欠な人間が完全な情報を得て正しい判断をする——これが経済学の仮定する経済人である。だが、現実にはこのような人間はいない。情報はあまりにも多く、買ひ物をしたあとでもっと安い店を知って後悔する。正しい判断がいつも実行できるわけではなく、禁煙やダイエットも失敗しがちだ。本書は、このような人間の特性に即した「行動経済学」を経済学史の中に位置づけ直し、その理論・可能性を詳しく紹介する。

780円
102041-3

2042 菜根譚

— 中国の処世訓

湯浅邦弘 著

中国では長く厳しい乱世が多くの処世訓を生んだ。中でも最高傑作とされるのが、明末に著された『菜根譚』である。社会にあつて身を処する世知と、世事を離れ人生を味わう心得の双方を記したこの書は、江戸期に和訳されて後、生涯の道を説くものとして多くの日本人の座右の書となった。本書では内容を精選して解説するとともに、背景となる儒教・仏教・道教の古典や故事、人物を丁寧に紹介、より深い理解へと読者を誘う。

820円
102042-0

2045 競争と公平感

— 市場経済の本当のメリツト

大竹文雄 著

日本は資本主義の国なので、なぜか例外的に市場競争に対する拒否反応が強い。私たちは市場競争のメリツトをはたして十分に理解しているだろうか。また、競争にはどうしても結果がつきまとうが、そもそも私たちはどういう時に公平だと感じるのだろうか。本書は、男女の格差、不況、貧困、高齢化、派遣社員待遇など、身近な事例から、市場経済の本質の理解を促し、より豊かで公平な社会をつくるためのヒントをさぐる。

780円
102045-1

2047 オランダ風説書

— 「鎖国」日本に語られた「世界」

松方冬子 著

日本人の海外渡航を禁じた江戸幕府にとって、オランダ風説書は最新の世界情勢を知るほぼ唯一の情報源だった。幕府はキリスト教禁令徹底のため、後には迫り来る「西洋近代」に立ち向かうために情報を求め、オランダ人は貿易上の競争相手を蹴落とすためにそれに応えた。激動の世界の中で、双方の思惑が交錯し、商館長と通詞が苦闘する。長崎出島を舞台に「鎖国」の二〇〇年間、毎年続けられた世界情報の提供の実態に迫る。

740円
102047-5

2051 伊藤博文

— 知の政治家

瀧井一博 著

幕末維新期、若くして英国に留学、西洋文明の洗礼を受けた伊藤博文。明治維新後は、憲法を制定し、議会を開設、初代総理大臣として近代日本の骨格を創り上げた。だがその評価は、哲学なき政治家、思想なき現実主義者、また韓国併合の推進者とされ、極めて低い。しかし、事実は違う。本書は、「文明」「立憲国家」「国民政治」の三つの視点から、丹念に生涯を辿り、伊藤の隠された思想・国家構想を明らかにする。

サントリー学芸賞受賞

940円
102051-2

2053 老いのかたち

黒井千次 著

「かつてのように歳を取りにくくなった。昨今の老人はどのように日を過ごし、何を考えたり感じたりしてどう生きているか（あ）がきより。昭和・桁生まれの作家が、自らの日常を通して「現代の老いのかたち」を探る。同級生の葬儀に同窓会になぞらえ、男女の老い方の違いに思いを馳せ、「オジキヤン」と呼ばれて動揺、平均余命の数字が気にかかり——。冷静な観察眼と深い内省から紡がれる、珠玉のエッセイ五六篇を取録。

760円
102053-6

2056 日本語作文術

— 伝わる文章を書くために

野内良三 著

読みにくい日本語では、誰にも読んでもらえない。説得力のある、わかりやすい文章をどう書くか。短文を意識すること、語順や読点に敏感になること、段落の構成や論証の仕方に気配を配ること。そして、起承転結ではなく、「起」「承」「展」。これだけで、文章の説得力はぐんとアップする。本書では、作文に役立つ「使える定型表現」のリストも大々的に披露。日本語力を、生きていく上での強力な武器とするための指南書。

840円
102056-7

2058 日本神判史

— 盟神探湯・湯起請 鉄火起請

清水克行 著

神仏に罪の有無や正邪を問う裁判——神判は、前近代の世界各地で広く見られ、日本では中世、湯起請や鉄火起請が犯罪の犯人探しに、村落間の境界争いに多用された。熱湯の中に手を入れ、あるいは焼けた鉄片を握り、火傷の有無で判決が下される過酷な裁判を、なぜ人々は支持したのか。為政者、被疑者、共同体各々の思惑をはかれば、神の名を借りた合理的精神すら見え隠れする——豊富な事例から当時の人々の心性を読み解く。

860円
102058-1

2601 認知症

— 専門医が語る診断・治療 ケー

池田 学 著

一度身につけた記憶や能力が失われていく認知症。いまだ根治療法はないが、治療においても介護においても、早期発見と病気の正しい知識の果たず役割は大きい。本書では、認知症のうちアルツハイマー病やレビー小体型認知症など主要な病気の特徴をやさしく解説し、病気の治療とケアのポイントを紹介する。正常な物忘れと認知症の違いはどこにあるのか、若年性認知症固有の問題とは。悩んでしまう前に読んでほしい一冊。

740円
102061-1

2606 いじめとは何か

— 教室の問題、社会の問題

森田洋司 著

一九八〇年代にいじめが「発見」されて以来、三度にわたる「いじめの波」が日本社会を襲った。なぜ自殺者が出るような悲劇が、繰り返されるのか。いじめをその定義から考察し、国際比較を行うことで、日本の特徴をあぶり出す。たしかに、いじめを根絶することはできない。だが、歯止めのかかる社会を築くことはできるはずだ。「いじめを止められる社会」に変わるため、日本の社会が、教育が、進むべき道を示す。

740円
102066-6

2607 物語 エルサレムの歴史

— 旧約聖書以前から
パレスチナ和平まで

笈川博一 著

一九八〇年代、イスラエルが占領地でユダヤ人入植を推進した際、パレスチナ人がオスマン・トルコの土地所有権を根拠に所有権を主張すると、入植者たちは旧約聖書に記された神とアラハムの契約を示したという。ダビデから古代の王の事績から、イスラム教徒の統治と十字軍、二回の大戦とイスラエル建国、そして戦争と和平交渉が繰り返される現代まで、聖書の記述が息づく「聖地」の複雑な来歴を、エピソード豊かに綴る。

1000円
102067-3

2672 日本的感性

— 触覚とずらしの構造

佐々木健一 著

花の好みに表れるように、日本人には西洋人とは違う感じ方がある。「おもかげ」「なごり」「なつかしさ」など、日本人にとってそのものに「詩」を感じる言葉がある。「世界」が「われ」のなかでどどのように響き合うか。それこそが感性であるならば、その多くは文化的な環境のなかで育まれ、個々の文化に固有の感性が生まれるだろう。本書は日本的感性を和歌を素材として考察し、その特性である「ずらし」と「触覚性」を明らかにする。

860円
102072-7

2675 歌う国民

— 唱歌、校歌、うたごえ

渡辺 裕 著

日本人の心の原風景として語られることの多い唱歌だが、納税や郵便貯金、梅雨時の衛生などの唱歌がさかんに作られた時期がある。これらは、近代化をめざす政府から押しつけられた音楽でもあった。だが、それさえも換骨奪胎してしまふ日本人から、歌が聞こえなくなることはなかったのである。唱歌の時代から「うたごえ」、そして現代までを辿る。推理小説を読むような興奮あふれる、もう一つの近代史。

芸術選奨文部科学大臣賞受賞

840円
102075-8

2076 アメリカと宗教

— 保守化と政治化のゆくえ

堀内一史 著

アメリカは二億人を超えるキリスト教徒を抱え、その八割が「天地創造」を信じ、教会出席率・回心体験でも群を抜く保守的な宗教大国である。一九七〇年代以降、宗教右派が政治に参入し、レーガンの大統領当選に貢献するなど、表舞台に登場。二一世紀以降、ブッシュ、オバマは宗教票を無視できなくなった。本書は世俗への危機意識からリベラル派が衰退し、保守化・政治化していく過程を中心に、アメリカの宗教の実態を描く。

840円
102076-5

2084 戦国武将の手紙を読む

— 浮かびあがる人間模様

小和田哲男 著

戦国の武将たちは筆まめだった。合戦の前には各地の武将を味方につけようと調略の手紙を出し、平時にも年貢の取り立てや金の輸送などについて指示を出す。子どもの手習いを褒める手紙もあれば、兄弟相和すようにさとす家訓も書く。そして、死を覚悟した文面からは武将の心奥を覗くことができる。代表的な戦国武将の手紙二〇通を取り上げ、原文・翻刻・現代語訳をのせ、文章の内容や時代背景を解説する。

840円
102084-0

2088 チョコレートの世界史

— 近代ヨーロッパが磨き上げた
褐色の宝石

武田尚子 著

カカオは原産地の中米では飲み物であると同時に薬品であり、貨幣にもなった。ヨーロッパに到来したときも、この貴重な実の食用について激論が交わされたが、19世紀にはココアパウダーや固形チョコレートが発明・改良され、爆発的に普及する。イギリスの小さな食料品店だったロウントリーマもまた、近代的なチョコレート工場を作り、キットカットを開発、世界に販路を拡大するが……。ヨーロッパ近代を支えたお菓子の通史。

780円
102088-8

2095 『古事記』神話の謎を解く

— かくされた裏面

西條 勉 著

『古事記』は明治神宮のようなものである。見た目は古いが、作られた時代は、実は新しい。『古事記』の神話も、古来のものをそのまま採録したのではなく、新しく誕生した国家「日本」の要請が作り出した新たな神話である。イザナキ、イザナミ神話は男尊女卑か？ イナバのシロウサギは白色なのか？ 浦島太郎が玉手箱を開けなかったらどうなったか？ 古くからの神話が解体・編成されて誕生した『古事記』神話を解説する。

800円
102095-6

2097 江戸の思想史

— 人物・方法・連環

田尻祐一郎 著

荻生徂徠、安藤昌益、本居宣長、平田篤胤、吉田松陰——江戸時代は多くの著名な思想家を生み出した。だが彼らの思想の中身を問われて答えられない人は多くないだろう。それが見え難い解なしの壁を越え、江戸の時代背景をつかめば、思想家たちが何と格闘したのかが見えてくる。それは、「人と人との繋がり」という、現代の私たちにも通じる問題意識である。一三のテーマを通して、刺激に満ちた江戸思想の世界を案内する。

860円
102097-0

2099 三国志

— 演義から正史、そして史実へ —

渡邊義浩 著

日本人をも魅了し続ける、三国志。しかし、「三国志演義」や、それを下敷きにした小説・ゲームの世界は「虚構」に満ちている。また、「正史」と呼ばれる歴史書の「三国志」も書き手の偏向がつきまとう。本書は、一般に親しまれている「演義」を入り口に、「正史」の記述を検討。そして、史実の世界へと誘う。暴君董卓の意外な美点、曹操が文学に託したのも、劉備と諸葛亮の葛藤——あなたの知らない三国志がここにある。

760円
102099-4

2101 国会議員の仕事

— 職業としての政治 —

林 芳正／津村啓介 著

国会議員の仕事とはどのようなものだろうか。言うまでもなく、国会議員は私たちが有権者が選挙で投票することによって存在している。では、私たちは彼らに何を期待し、何を託しているのだろうか。そこに齟齬はないか。本書は二人の現役国会議員が、その来歴と行動を具体的に記すことにより、政治家の仕事とは何か、そして、混迷する現代日本を変えていくために何が必要かを明らかにする試みである。

820円
102101-4

2105 昭和天皇

— 理性の君主 — の孤独

古川隆久 著

新時代の風を一身に浴び、民主的な立憲君主になろうとした昭和天皇。しかし、時代はそれを許さなかった。本書は今までもあまりふれられることのない青年期に至るまでの教育課程に注目し、政治のどのような思想信念をもっていたかを実証的に探る。そしてそれは実際の天皇としての振る舞いや政治的判断にいかなる影響を与えたか、戦争責任についてどう考えていたか、さらに近代国家の君主のあり方をも考察する。 **サントリイ学芸賞受賞**

1000円
102105-2

2107 近現代日本を史料で読む

— 「天久保利通日記」から
「富田メモ」まで —

御厨 貴編著

「歴史は史料に基づき描かれる——『昭和天皇独白録』や「富田メモ」をはじめ、新たな史料の発掘は、歴史的事実の変更や確定をもたらす。なかでも「原敬日記」「高松宮日記」「真崎三郎日記」「佐藤策作日記」など政治家、皇族、軍人が残した日記は貴重な史料であり、ここから歴史が創られてきた。本書は、明治維新期から現代に至る第一級の史料を四十数点取り上げ、紹介・解説し、その意義を説く。近現代日本史の入門書。

880円
102107-6

2109 知的文章とプレゼンテーション

— 日本語の場合、英語の場合 —

黒木登志夫 著

40年にわたって論文執筆と審査に携わってきたがん研究者が、卒業論文から学会発表まで、説得力あるドキュメントと惹きつけるプレゼンテーションの極意を指南する。文系、理系を問わず、知的三原則『簡潔、明解、論理的』がその秘訣。三原則にしたがって論文、申請書をどう書くかを具体的に説明する。グローバル化が進む21世紀、英語とのつきあい方、学び方についても実践的に説く。待望の知的表現力講座開講。

800円
102109-0

2110 日中国交正常化

— 田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦 —

服部龍二 著

一九七二年九月、戦後三〇年近く対立していた中国と国交が結ばれた。この国交正常化交渉は、その後も続く歴史認識、戦争賠償、台湾問題、尖閣諸島など日中間の論点が凝縮されていた。また冷戦下、アメリカとの関係維持に腐心しながら試みられたものだった。本書は、外交記録、インタビューなどからこの過程を掘り起こし、政治のリーダーシップに着目し、政治家、官僚たちの動きを精緻に追う。 **大佛次郎論壇賞、アジア・太平洋賞特別賞受賞**

800円
102110-6

2117 物語 食の文化

— 美味しい話、味な知識 —

北岡正三郎 著

長く人類はまずいものを繰り返して食ってきた。「美味しいものをお腹いっぱい食べたい」という欲求が強いのも無理はない。美味、珍味の探求は世界の人々の日常行為となっており、たべものへの関心は高まり続けている。本書は、食材、調理法、食事のしきたり、さらに各地各時代の食文化などを広く紹介するものである。味覚の満足、心躍る会食、そして健康増進のために、たべものについての正確な知識は欠かせない。図版多数。

940円
102117-5

2127 河内源氏

— 頼朝を生んだ武士本流 —

元木泰雄 著

十二世紀末、源頼朝は初の本格的武士政権である鎌倉幕府を樹立する。彼を出した河内源氏の名は武士の本流として後世まで崇敬を集めるが、祖・頼信から頼朝に至る一族の歴史は、京の政変、辺境の叛乱、兄弟間の嫡流争いなどで浮沈を繰り返す苛酷なものだった。頼義、義家、義親、為義、義朝と代を重ねた源氏嫡流は、いかにして栄光を手にし、あるいは敗れて雌伏の時を過ごしたのか。七代二百年の、彼らの実像に迫る。

800円
102127-4

2129 カラー版 地図と愉しむ東京歴史散歩

— カラー版 —

竹内正浩 著

文明開化、関東大震災、空襲、高度成長……建設と破壊が何度も繰り返された東京だが、思わぬところに過去の記憶が残っている。日比谷公園の岩に刻まれた「不」の記号、神田三崎町に残る六叉路、明大前駅の陸橋下の謎のスペース、一列に並ぶ住宅など、興味深い構造物、地形を紹介し、その来歴を解説する。カラーで掲載した新旧の地図を見比べ、現地を歩いて発見すれば、土地の記憶が語りかけてくるだろう。

940円
102129-8

2133 文化と外交

— パブリック・ディプロマシーの時代 —

渡辺 靖 著

いかに相手国の人びとの「心と精神を勝ち取る」か——。政府要人同士の伝統的外交と異なり、相手国世論に直接働きかけるパブリック・ディプロマシー。世界各地の反米主義へのアメリカの対抗策として急速に広まったこの文化戦略は、対外広報、人物交流、国際放送など多彩であり、日本でも「クルール・ジャパン」といった形で取り入れられてきた。欧米中韓が積極展開する中、文化と外交の融合戦略の実態と思想を明らかにする。

780円
102133-5

2135 仏教、本当の教え

— インド、中国、日本の理解と誤解

植木雅俊 著

紀元前五世紀のインドで生まれた仏教。中国では布教に漢訳の經典が用いられたのに対し、日本は漢文のまま經典を輸入した。両国においてサンクリットの原典は、ほとんど顧みられていない。中国は漢訳ならではの解釈を生み出し、日本では特権的知識階級である僧が、意図的に読み替えた例もある。ブツダの本来の教えをサンクリット原典から読み解き、日中両国における仏教受容の思惑、計算・誤解を明らかにする。

800円
102135-9

2138 ソーシャル・キャピタル入門

— 孤立から絆へ

稲葉陽二 著

東日本大震災のさい、人々は互いに譲り合い、整然と行動した。自分を犠牲にしても弱い者を救った。これは、見返りを期待しての行動では決してなく、絆や他者への信頼、思いやりの表れであった。このような絆や互酬性の規範をソーシャル・キャピタル(社会関係資本)という。ふだんは目に見えない。しかし、教育や健康等に大切な役割を果たしている社会関係資本をどう育み、活かすのか。第一人者が理論と実践を紹介する。

760円
102138-0

2139 贈与の歴史学

— 儀礼と経済のあいだ

桜井英治 著

贈与は人間の営む社会・文化で常に見られるものだが、とりわけ日本は先進諸国の中でも贈答儀礼をよく保存している社会として研究者から注目を集めてきた。その歴史は中世までさかのぼり、同時に、この時代の贈与慣行は世界的にも類を見ない極端に功利的な性質を帯びる。損得の釣り合いを重視し、一年中贈り物が飛び交う中世人の精神を探り、義理や虚礼、賄賂といった負のイメージを纏い続ける贈与の源泉を繙く。

角川財団学芸賞受賞

800円
102139-7

2144 昭和陸軍の軌跡

— 永田鉄山の構想とその分岐

川田 稔 著

昭和十年八月十二日、一人の軍人が執務室で斬殺された。陸軍軍務局長永田鉄山。中堅幕僚時代、陸軍は組織として政治を動かすべきだとして「一夕会」を結成した人物である。彼の抱いた政策構想は、同志であった石原莞爾、武藤章、田中新一らにどう受け継がれ、分岐していったのか。満蒙の領有をめぐる中ソとの軋軋、南洋の資源をめぐる英米との対立、また緊張する欧州情勢を背景に、満州事変から敗戦まで昭和陸軍の興亡を描く。山本七平賞受賞

940円
102144-1

2150 近現代日本史と歴史学

— 書き替えられてきた過去

成田龍一 著

近代日本の始まりは、ベリイ来航ではなく、かつては天保の改革とされていた。高度成長期の公害問題が起るまで、田中正造は忘れられた存在だった。歴史は、新史料発見・新解釈により常に書き替えられる。特に近現代史は、時々の政治・社会状況の影響を受けてきた。本書は、マルクス主義の影響下にあった社会経済史をはじめ、民衆史、社会史という三つの流れから、近現代の歴史がどのように描かれ、修正されてきたかを辿る。

1000円
102150-2

2151 国土と日本人

— 災害大国の生き方

大石久和 著

山地が七割を占め、地震や台風にはしばしば見舞われる日本。この試練の多い土地に住みついた日本人は、古来、道を通し、川筋を変え、営々と自然に働きかけてきた。私たちが見る風景は、自然と人が共に造り上げたものなのだ。本書は、まず日本の地形的・社会的特徴を明らかにする。さらに大震災に見舞われ、財政危機にある今、海外に伍して豊かな国土を築き上げ、日本人が再び活力を取り戻すために何が必要かを提言する。

840円
102151-9

2152 物語 近現代ギリシャの歴史

— 独立戦争からユーロ危機まで

村田奈々子 著

ヨーロッパ文明揺籃の地である古代ギリシャの輝きは、神話の世界そのままに、人類史の栄光として今も憧憬の的であり続けている。一方で現在のギリシャは、経済危機にあえぐバルカン一小国であり、EUの劣等生だ。オスマン帝国からの独立後、ギリシャ国民は、偉大すぎる過去に囚われると同時に、列強の思惑に翻弄されてきた。この、辺境の地の数奇な歴史を掘り起こすことで、彼の国の今が浮かび上がる。

860円
102152-6

2156 源氏物語の結婚

— 平安朝の婚姻制度と恋愛譚

工藤重矩 著

平安時代の婚姻制度は法的に「一夫一妻制」であり、正妻とそれ以外の女性たちとの間には立場・社会的待遇に大きな差があった。恋愛譚としての「源氏物語」は、正妻の座をめぐる葛藤がストーリー展開の要となっており、婚姻制度への正確な理解を踏まえてこそ、はじめて紫の上、明石の君ら、作中人物の心情を深く味わうことができる。一夫一妻制をキーワードに「源氏物語」の構想を読み解く、かつてない試み。

840円
102156-4

2158 神道とは何か

— 神と仏の日本史

伊藤 聡 著

日本(固有)の民族宗教といわれる神道はどのように生まれ、その思想はいかに形成されたのか。明治維新による神仏分離・廃仏毀釈以前、日本は一〇〇年以上にわたる神仏習合の時代だった。両部・伊勢神道を生み出した中世を中心に、古代から近世にいたる神道の形成過程を丹念にたどっていく。近代における再編以前の神をめぐるさまざまな信仰と、仏教などとの交流から浮かび上がる新しい神道の姿。

880円
102158-8

2163 人種とスポーツ

— 黒人は本当に「速く」「強い」のか

川島浩平 著

オリンピックの陸上男子100m決勝で、スタートラインに立った選手56人は、ここ30年すべて黒人である。陸上以外の競技でも、彼らの活躍は圧倒的に見られる。だが、かつて彼らは劣った「人種」と規定され、スポーツの記録からは遠い所にあった。彼らは他の「人種」に比べ、本当に身体能力が優れているのか。本書は、人種とスポーツの関係を歴史的に辿り、最新の科学的知見を交え、能力の先天性の問題について明らかにする。

840円
102163-2

2164 魏志倭人伝の謎を解く

— 三国志から見る邪馬台国

渡邊義浩 著

考古学調査と並び、邪馬台国論争の鍵を握るのが「魏志倭人伝」（『三国志』東夷伝倭人条）である。だが、『三国志』の世界観を理解せずに読み進めると、実像は遠のくばかりだ。なぜ倭人は入れ墨をしているのか、なぜ邪馬台国は中国の東南海上に描かれたのか、畿内と九州どちらにあったのか、『三国志』研究の第一人者が当時の国際情勢を踏まえて検証し、真の邪馬台国像に迫る。「魏志倭人伝」の全文と詳細な訳注を収録。

2167 イギリス帝国の歴史

— アジアから考える

秋田 茂 著

かつて世界の陸地の約四分の一を領土として支配したイギリス帝国。その圧倒的な影響力は公式の植民地だけにとどまらなかった。本書は近年のグローバルヒストリーの研究成果をふまえて、アジアとの相互関係に注目しつつ、一八世紀から二〇世紀末までの帝国の形成・発展・解体の過程を考察する。今や世界経済の中心はアジア太平洋経済圏にシフトしつつある。そのシステムの基盤を作り上げた帝国の意義を明らかにする。

読売・吉野作造賞受賞

2168 飛鳥の木簡

— 古代史の新たな解明

市 大樹 著

かつて日本古代史は、「日本書紀」「古事記」や中国の史書に頼らざるを得なかった。だが一九九〇年代後半以降三万円以上に及ぶ飛鳥時代の木簡の出土が相次ぎ、新たな解明が進み始める。本書は、大化改新・中国・朝鮮半島との関係、藤原京造営、そして律令制の成立時期など、日本最古の木簡から新たに浮かび上がった史実、「郡評論争」など文献史料をめぐる議論の決着など、木簡解説によって書き替えられた歴史を描く。

古代歴史文化賞大賞受賞

2170 カラー版

地図と愉しむ東京歴史散歩

都心の謎篇

竹内正浩 著

戦前の地図では、皇居はほとんど空白地として描かれてきた。戦後の地図にも、不可解な地形が表示されている。わずかに残された地図と空中写真を手がかりに、皇居の建物・地形の変遷を追う。さらに、二三区内にたくさんあった飛行場、開通しなかった新幹線の痕跡、東京駅の残る近代化の名残を新旧の地図とカラー写真で訪ねる好評第二弾。

940円 102170-0

2171 治安維持法

— なぜ政党政治は「悪法」を生んだか

中澤俊輔 著

言論の自由を制限し、戦前の反体制派を弾圧した「稀代の悪法」。これが治安維持法のイメージである。しかし、その実態は十分理解されているだろうか。本書は政党の役割に注目し立案から戦後への影響までを再検証する。一九二五年に治安維持法を成立させたのは、護憲三派の政党内閣だった。なぜ政党は自らを縛りかねない法律を生み、その後の拡大を許したのか。現代にも通じる、自由と民主主義をめぐる難問に向き合う。

860円 102171-7

2174 植物はすごい

— 生き残りをかけたしくみと工夫

田中 修 著

身近な植物にも不思議がいっぱい！ アジサイやキョウチクトウ、アサガオなど毒をもつ意外な植物たち、長い年月をかけて巨木を枯らすシメコロシノキ、かさぶたをつくって身を守るバナナ、根も葉もないネナシカズラなど、植物のもつさまざまなパワーを紹介。動物たちには真似できない植物のすごさを、「洗みと辛みでからだを守る」「食べられる植物も毒をもつ」「なぜ、花々は美しく装うのか」などのテーマで、やさしく解説。

840円 102174-8

2179 足利義満

— 公武に君臨した室町將軍

小川剛生 著

公家社会と深く交わるなかで王朝文化に精通し、明国の皇帝には日本国王の称号を授与され、死後、朝廷から太上天皇の尊号を宣下される。三代將軍足利義満の治世はしばしば「皇室位纂奪」「屈辱外交」という悪評とともに語られる。だが、強大な権力、多様な事績に彩られた生涯の全貌は、いまだ明らかにはなっていない。本書では、新史料にも光を当て、公武に君臨した唯一無二の將軍の足跡をたどる。

900円 102179-3

2183 アイルランド紀行

— ジョイスからU2まで

榎木伸明 著

北海道より少しだけ広い島国だが、魅力を表す言葉は果てを知らない。それがアイルランド。ケルト文明の地、スウィフト、ワイルド、ワイズ、ジョイス、ベケット、ヒーローらによる世界文学の生地、ヴァン・モリソンやU2が歌い上げる音楽の島「虐げられてへつらう者たち」英国からの独立闘争の国「一木一草に至るまで言葉が刻まれているこの土地を、達意のエッセイと美味しい訳文でまるごと味わい尽くす。

840円 102183-0

2184 コミュニティデザインの時代

— 自分たちで「まち」をつくる

山崎 亮 著

孤立死や無縁社会という言葉が毎日口にされる現在の日本。今こそ人とのつながりを自らの手で築く必要が痛感されている。この時代の声に応え、全国で常時50以上のコミュニティづくりを携わる著者が初めて明かす、住民参加・思考型の手法と実際。「デザインしないデザイン」によって全員に参加してもらい結果を出すには？ 話の聴き方から服装にいたるまで、独自の理論を開陳する。ビジネスの場でも役立つ、真に実践的な書。

860円 102184-7

2185 経済学は何ができるか

— 文明社会の制度的枠組み

猪木武徳 著

さまざまな「価値」がぶつかり合う、現代の自由社会。その結果、数々の難問が私たちの前に立ちはかかっている。金融危機、中央銀行のあり方、格差と貧困、知的独占の功罪、自由と平等のバランス、そして人間にとって正義とは、幸福とは。本書は、経済学の基本的な論理を解説しながら、問題の本質に迫る。鍵を握るのは「制度」の役割である。デモクラシーのもとにおける経済学の可能性と限界を問い直す試み。

820円 102185-4

2186 田中角栄

―戦後日本の悲しみ自画像

早野 透 著

「コンピュータ付きブルドーザー」と呼ばれた頭脳と行動力で、高等小学校卒から五四歳で首相の座に就いた田中角栄。「新潟三区」という雪深い地盤に、利益誘導、を行い、「日本列島改造」を掲げた角栄は、戦後政治の象徴だった。だが彼の金権政治は強い批判を浴び、政権は二年半で終わる。その後も巨大な「田中派」を背景に力を持ったが、ロッキード事件で有罪判決が下った。角栄を最期まで追いつけた番記者が語る真実。

940円
102186-1

2187 物語 哲学の歴史

―自分と世界を考えるために

伊藤邦武 著

哲学とは何だろうか――人間が世界と向き合い、自分の生の意味を顧みるとき、哲学は生まれた。古代から二一世紀の現代まで、人間は何を思考し、その精神の営為はどのような歴史を辿ってきたのだろうか。本書は、その歴史を「魂の哲学」から「意識の哲学」「言語の哲学」を経て「生命の哲学」へと展開する一つのストーリーとして描く。ヘーゲル、シュベンクラ、ローティの歴史哲学を超えた、新しい哲学史への招待。

900円
102187-8

2188 アダムとイヴ

―語り継がれる「中心の神話」

岡田温司 著

『旧約聖書』に登場する、最初の間人間アダムとイヴ。二人の名前は「禁断の木の実」「楽園開放」などのキーワードとともに語られ、日本人にとっても馴染み深い。しかし彼らの物語から生まれた、文化、思想、文学、美術作品の多様さは、私たちの想像を遥かに超えるものがある。本書では、美術史的な解説・解釈にとどまらず、アダムとイヴが歴史上いかに語られ、いかに現代社会に影響を及ぼしてきたかを探っていく。

820円
102188-5

2189 歴史の愉しみ方

―忍者・合戦・幕末史に学ぶ

磯田道史 著

忍者の子孫を訪ね歩き、東海道新幹線の車窓から関ヶ原合戦を体験する方法を編み出し、龍馬暗殺の黒幕を探る――著者は全国をめぐって埋もれた古文書を次々発掘。そこから「本の歴史映像」を描き出し、その魅力を伝えてくれる。同時に、歴史は厳しいものでもあり、地震史研究にも取り組む著者は、公家の日記などから、現代社会への警鐘を鳴らす。歴史を存分に愉しみ、現代に活かせる「歴史通」になりたいあなたへ。

740円
102189-2

2190 国際秩序

―18世紀ヨーロッパから21世紀アジアへ

細谷雄一 著

「均衡」「協調」「共同体」――近代ヨーロッパが生んだ国際秩序の基本原理である。本書はこの三つの体系を手がかりに、スペイン王位継承戦争から、ウィーン体制、ビスマルク体制、二度の世界大戦、東西冷戦、そして現代に至る三〇〇年の国際政治の変遷を読み解く。平和で安定した時代はいかに築かれ、悲惨な戦争はなぜ起こってしまったのか。複雑な世界情勢の核心をつかみ、日本外交の進むべき道を考えるための必読書。

880円
102190-8

2192 政友会と民政党

―戦前の二大政党制に何を学ぶか

井上寿一 著

待望の二大政党時代が到来したのにメリットが実感できない。そうした幻滅の声がしばしば聞かれる。だが歴史を振り返ると、二大政党が交互に政権を担うシステムは戦前にも模索されている。大正末年の第二次加藤高明内閣発足から、五・一五事件による犬養毅内閣崩壊までである。政友会と民政党の二大政党制が七年足らずで終焉を迎えたのはなぜか。その成立・展開・崩壊の軌跡をたどり、日本で二大政党制が機能する条件を探る。

840円
102192-2

2195 入門 人間の安全保障

―恐怖と欠乏からの自由を求めて

長 有紀枝 著

一九九四年、国連開発計画によって「人間の安全保障」が提唱された。国家ではなく、一人ひとりの人間を対象とするこの概念は、頻発する紛争・暴力、世界を覆う貧困や飢餓からの自由を目指し、国際社会のキーワードとなった。本書では人道支援、地雷禁止条約策定交渉などの活動が続けてきた著者が、国際政治学の知見をふまえて、エッセンスを解説。増補版では新章を加え、全面的にデータを刷新した。SDGsなど最新動向にも対応。

900円
192195-6

2196 大原孫三郎

―善意と戦略の経営者

兼田麗子 著

「わしの目には十年先が見える」「新事業は、十人のうち二―三人が賛成したときにはじめるべきだ、七―八人が賛成したときには、遅すぎる」――経営者と社会事業家の二足のわらじを履き続けた大原孫三郎。クラブハウスやクラレなど、多くの企業を創立・発展させるとともに町づくりに貢献。三つの研究所を設立し、総合病院や美術館をつつた。社会改良の善意をいかにして行動に移していったか、その波瀾にみちた生涯を辿る。

980円
102196-0

2200 夫婦格差社会

―二極化する結婚のかたち

橋本俊詔／迫田さやか 著

格差が拡大しつつある日本。家族の最小単位である「夫婦」もその流れに拍車をかけている。さまざまなデータに基づき、日本の夫婦の今を探ると見えてくるのは、夫の所得と無関係に働くようになった妻の影響力の大きさだ。医師夫婦に代表されるパワーカップルと、対極にある若いウイークカップルなど、興味深い事例を紹介。また、結婚できない人たちから、離婚、そして地域差まで視野を広げ、夫婦をめぐる格差を考える。

760円
102200-4

2202 言語の社会心理学

―伝えたいことは伝わるのか

岡本真一郎 著

「わたしの孫はおじいさんですよ」「わたしの孫はおばあさんですよ」。この会話は、一見すると不自然である。だが当人たちは何の問題もなく意思疎通ができていて(第2章参照)。私たちは、これは「文字どおり」に使っていない。話していないのに伝わることもあれば、丁寧に説明していても誤解されることがあるのはなぜか。社会心理学の視点から、敬意表現や皮肉など、対人関係のことばの謎に迫る。

880円
102202-8

2205 聖書考古学

— 遺跡が語る史実

長谷川修一 著

聖書の記述には、現代の我々からすると荒唐無稽に思えるエピソードが少なくない。いったいどの程度まで史実を反映しているのだろうか。文献史料の研究にはおのずと限界があり、虚実を見極めるには、遺跡の発掘調査に基づくアプローチが欠かれない。旧約聖書の記述内容と考古学的知見を照らし合わせることで、古代イスラエルの真の姿を浮かび上がらせる。本書は現地調査に従事する研究者の、大いなる謎への挑戦である。

840円
102205-9

2207 平和主義とは何か

— 政治哲学で考える戦争と平和

松元雅和 著

平和を愛さない人はいないだろう。だが平和主義となろうだろうか。今日では単なる理想と片付けられがちだが、実はその思想や実践は多様である。本書は、「愛する人が襲われても無抵抗でよいのか」「正しい戦争もあるはず」「平和主義は非現実的だ」「虐殺を武力で止めないのは無責任」といった批判に丁寧に答え、説得力ある平和主義の姿を探る。感情論やレッテル貼りに陥らず、戦争と平和について明晰に考えるために。

820円
102207-3

2208 物語 シンガポールの歴史

— エリート開発主義国家の200年

岩崎育夫 著

一人当たりのGDPで日本を抜きアジアで最も豊かな国とされるシンガポール。一九六五年に、マレーシアから分離独立した華人中心の都市国家は、英語教育エリートによる一党支配の下、国際加工基地・金融センターとして発展した。それは表現・言論の自由を抑圧し、徹底的な能力別教育を行うなど、経済至上主義を貫いた。成果、でもあった。本書は、英国植民地時代から、日本占領、そして独立し現在に至る二〇〇年の軌跡を描く。

860円
102208-0

2209 アメリカ黒人の歴史

— 奴隷貿易からオバマ大統領まで

上杉 忍 著

黒人たちはアメリカ社会の底辺にいととされてきた。だが、二〇世紀の後半、徐々に社会的上昇をとり、中産階級の仲間入りをする者も現れた。政財界に進出した例も多く、文化や芸能、スポーツなどの分野でも活躍は目覚ましい。本書は、アメリカ独立以前から南北戦争、公民権運動を経て現代まで、差別にさらされながらも、境遇改善への努力を積み重ねてきた彼らの歩みを辿るものである。また、今なお残された諸問題も指摘する。

820円
102209-7

2212 近代日本の官僚

— 維新官僚から学歴エリートへ

清水唯一朗 著

明治維新後、新政府の急務は近代国家を支える官僚の確保・育成だった。当初は旧幕臣、藩閥出身者が集められたが、高等教育の確立後、全国の有能な人材が集まり、官僚は「立身出世」の一つの到達点となる。本書は、官僚の誕生から学歴エリートたちが次官に上り詰める時代まで、官僚の人材・役割・実態を明らかにする。激動の近代日本の中、官僚たちの活躍・苦悩と制度の変遷を追うことにより、日本の統治内部を描き出す。

920円
102212-7

2213 漢字再入門

— 楽しく学ぶために

阿辻哲次 著

漢字の宿題が苦痛だった人も多いでしょう。小中学校では約二千字の漢字一つひとつについて、筆順・とめ・はねなどの字形、音読みや訓読み、部首などを習います。しかし、漢字を学び、楽しむために本当に大事なものはなんでしょう。漢字学の第一人者が、漢字の意外な成り立ちや読み方の歴史、部首のふしぎなど、学生時代に知っておけばよかった知識を伝授し、真に必要な知識を解説。さらに望ましい漢字教育を提言します。

780円
102213-4

2214 腎臓のはなし

— 130グラムの臓器の大きな役割

坂井建雄 著

一つ減っても大丈夫。そう軽視できるほど、腎臓の人体における役割は小さな。主な働きは尿を作ることだけだが、それがなぜ生命の維持に必須なのか? 一日二〇〇リットル作られその九九%を再吸収する尿生成の方法から全身の体液バランス調整のしくみ、脳と同じくらい複雑で繊細かつ壊れにくい構造、一三〇〇万人以上と推計される慢性腎疾患の治療まで。背中に収まるソラメ型の臓器について、第一人者がすべてを解説。

820円
102214-1

2215 戦略論の名著

— 孫子、マキアヴェリから現代まで

野中郁次郎 編著

戦略とは何か。勝ち抜き生き残るために、いかなる戦略をとるべきなのか。古今東西の戦略思想家たちの睿智が結集された戦略論の中から、「失敗の本質」で知られる編者らが現代人必読の12冊を厳選。孫子、マキアヴェリ、クラウゼヴィッツの三大古典から20世紀の石原莞爾、リデルハート、クレフェルト、そして21世紀の最新理論まで網羅し、第一線の研究者が詳細に解説する決定版。各章末に「戦略の名言」を付す。

800円
102215-8

2218 特別支援教育

— 多様なニーズへの挑戦

柘植雅義 著

小中学校の通常学級で六%、全国で六〇万人を超えると思われる「知的障害のない発達障害児」(彼らを含む)すべての障害のある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた取り組みが、教育の場で始まっている。一人ひとりの教育上のニーズを把握し、学習面や生活面の問題を解決するための指導と支援を行う。これが特別支援教育だ。すべての親や教師、そして子どもたち自身が知っておくべきことを収めた現代の新基準の書。

880円
102218-9

2220 言語学の教室

— 哲学者と学ぶ認知言語学

西村義樹 / 野矢茂樹 著

「雨に降られた」はよくて「財布に落ちられた」がおかしいのは、なぜ? 「西村さんが公園の猫に話しかけてきた」の違和感の正体は? 「認知言語学」という新しい学問の、奥深い魅力に目覚めた哲学者が、専門家に難問奇問を突きつける。豊富な例文を用いた痛快な議論がくり返されるなかで、次第に明らかになる認知言語学の核心。本書は、日々慣れ親しんだ日本語が揺さぶられる、知的探検の生きた記録である。

840円
102220-2

2221 バチカン近現代史

ローマ教皇たちの「近代」との格闘

松本佐保 著

フランス革命以降、「政教分離」を推進する近代国家の登場で、ローマ教皇は領土や権威を失っていく。20世紀に入り、教皇はイタリア政治に介入し続け、ムッソリーニの思惑もあり、バチカン市国が成立する。その後バチカンは「反宗教」の共産主義者に敵視。ナチスに秋波を送り、戦後は米国に接近、「人権外交」を繰り返す。それは「東欧革命」に繋がった。本書は、カトリック総本山バチカンの生き残りや賭けた200年を描く。

860円
102221-9

2227 カラー版 地図と愉しむ東京歴史散歩 地形篇

竹内正浩 著

東京の街は、意外と複雑な地形の上にてできている。海に突き出した前方後円墳、谷底の渋谷駅、人工的に作られた御茶ノ水の渓谷、川を埋めて生まれた戸越銀座、消えた日暮山の坂など、山と坂、濠と川に彩られた東京の姿を古地図で紹介。さらに、「城南五山」をはじめ、麻布や高輪、本郷や目白など、あちこちの山の上に存在した華族や富豪の邸宅の移り変わりや解説する。一八〇以上の「都心の「山」のお屋敷」リストを収載。

1000円
102227-1

2229 真珠の世界史

富と野望の五千年

山田篤美 著

古来、真珠は高価な宝石で、貴重な交易品だった。「魏志倭人伝」は邪馬台国の大量の真珠について記し、マルコ・ポーロやコロンブスは日本の真珠に憧れた。新大陸で新たな産地が発見されると、一大ブームが巻き起こる。そして二十世紀初め、価格を吊り上げていたカルティエやティファニーに衝撃を与えたのが、日本の養殖真珠だった。こうして真珠王国日本が誕生する。本書は誰も書かなかった交易品としての真珠史である。

940円
102229-5

2233 民主党政権 失敗の検証

日本政治は何を活かすか

日本再建イニシアティブ 著

二〇〇九年九月に国民の期待を集めて誕生した民主党政権は、一二年二月の総選挙での惨敗により幕を閉じた。実現しなかったマニフェスト、政治主導の迷走、再建できなかった財政、米軍基地をめぐる混乱、中国との関係悪化、子ども手当の挫折、党内対立、参院選敗北。多岐にわたる挑戦と挫折は、日本政治にどんな教訓を残したのか。ジャーナリスト・船橋洋一を中心にしたシンクタンクによる、民主党政権論の決定版。

900円
102233-2

2237 四大公害病

水俣病、新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市公害

政野淳子 著

四大公害病とは、水俣病、新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市公害を指す。工場廃液などが揮発、激痛、発作といった重い障害を多くの人にもたらした。当初、企業は工場との関係を否定。だが医師・研究者らが原因を究明し、1960年代末以降、患者が各地で提訴。70年代半ばまでに次々と勝利した。本書は高度成長の「影」である公害病の全貌を明らかにすると同時に、21世紀の今なお続く、認定、めぐる国と被害者との訴訟・醜態も追う。

880円
102237-0

2238 人はなぜ集団になると怠けるのか

「社会的な手抜き」の心理学

釘原直樹 著

人は集団で仕事をすると、しかし集団になると人は怠け、単独で作業を行うよりも一人当たりの努力の量が低下する。これを「社会的な手抜き」という。例えば非効率な会議や授業中の問題行動、選挙の低投票率、スポーツの八百長などは「社会的な手抜き」の典型である。本書では、このような「手抜き」のメカニズムを、多様な心理学的実験の結果から明らかにしている。その防止策とは、はたまた功罪とは。リーダー・企業人必読書。

880円
102238-7

2242 オスカー・ワイルド

「犯罪者」にして芸術家

宮崎かすみ 著

『サロメ』『幸福な王子』『ドリアン・グレイの画像』など多くの著作と数々の警句で知られる「世紀末芸術の旗手」オスカー・ワイルド。アイルランドに生まれ、オックスフォード大学在学中から頭角を現した青年期に始まり、同性愛裁判に敗北し、保守的なイギリス社会から追放される晩年まで。「私は人生にこそ精魂をつぎ込んだが、作品には才能しか注がなかった」とどの作品よりも起伏と魅力に富んだ彼の生涯をたどる。

1000円
102242-4

2247 日本写真史(上)

幕末維新から高度成長期まで

鳥原 学 著

19世紀半ばは、日本へ輸入された写真。日露戦争を経て新聞・出版メディアが拡大するなか報道写真が成長。第二次世界大戦時にはプロパガンダに利用され、また敗戦直後には「マッカーサーと天皇」の写真のように、社会に大きな影響力を持つようになった。戦後は戦禍や公害問題を追及するリアリズム写真が隆盛を誇ったが、経済成長とともに私的テーマ、広告へと多彩化する。本書は1974年まで120年に及ぶ歴史を描く。

820円
102247-9

2248 日本写真史(下)

安定成長期から3・11後まで

鳥原 学 著

1970年代半ばは、消費社会が爛熟するなか「an・an」を筆頭にヴィジュアル雑誌が次々と創刊。新しい写真家たちが陸続と登場する。さらに『写楽』『写真時代』『FOCUS』の売り上げ拡大によって、写真は黄金時代を迎え、宮沢りえのスリッド写真集は社会現象ともなった。他方で、90年代半ば以降のデジタル写真の普及は、150年に及ぶ写真史を一刷新する。本書は1975年以降の写真黄金期とデジタルの衝撃の歴史を描く。

820円
102248-6

2249 物語「ビルマ」の歴史

王朝時代から現代まで

根本 敬 著

民主化運動の指導者アウンサンリーダー、壮麗なバゴダ、「ビルマの竖琴」などで知られ、潜在力の高い新興市場としても注目されるビルマ(ミャンマー)。王朝時代に始まり、イギリス植民地時代、日本軍による占領期。戦後の独立後は、ビルマ式社会主義、一三年間にわたる軍政期。そして二〇一一年に民政へ移管し、改革の進む現代まで。知られざる多民族・多言語・多宗教国家の歩みをたどり、未来を展望する。

1000円
102249-3

2250 睡眠のはなし
— 快眠のためのヒント

内山 真著

なぜ眠くなるのか、どうして夢を見るのか、どのくらい眠れば健康的なのか……睡眠をめぐる疑問はつきない。脳と眠りの関係、体内時計の働き、夢や金縛りなどのトビックから、人間にとつての睡眠の意味を解き明かす。さらに不眠症や過眠症の実像、うつ病と睡眠の関連など、睡眠と健康についてわかりやすく解説。長年臨床の現場に立ってきた第一人者が、最新成果を踏まえて、人間学的にアプローチする睡眠学入門の決定版。

760円
102250-9

2253 禁欲のヨーロッパ
— 修道院の起源

佐藤彰一著

多くの宗教で、性欲・金銭欲などの自らの欲求を断ち切り、克服することが求められる。キリスト教も同様だが、それではヨーロッパにおける「禁欲の思想」はいっつ生まれ、どのような変化していったのか。身体を鍛錬する古代ギリシアから、法に縛られたローマ時代を経て、キリスト教の広がりとともに修道制が生まれ、修道院が誕生するまで——。千年に及ぶヨーロッパ古代の思想史を「禁欲」という視点から照らし出す意欲作。

880円
102253-0

2257 ハンナ・アーレント
— 「戦争の世紀」を生きた政治哲学者

矢野久美子著

「全体主義の起源」「人間の条件」などで知られる政治哲学者ハンナ・アーレント（一九〇六一—七五）。未曾有の破局の世紀を生きた抜いた彼女は、全体主義と対決し、「悪の陳腐さ」を問い、公共性を求めつづけた。ユダヤ人としての出自、ハイデガーとの出会いとヤスパースによる薫陶、ナチ台頭後の亡命生活、アイヒマン論争……。幾多のドラマに彩られた生涯と、強靱でラディカルな思考の軌跡を、繊細な筆致によって克明に描き出す。

820円
102257-8

2259 カラー版 スキマの植物図鑑

塚谷裕一著

街を歩けば、アスファルトの割れ目、電柱の根元、ブロック塀の穴、石垣など、あちこちスキマから芽生え、花開いている植物が見つかる。一見、窮屈で居心地の悪い場所に思えるが、こうしたスキマはじつは植物たちの「楽園」なのだ。タンポポやスミレなど春の花からクロマツやナンテンなど冬の木まで、都会のスキマで見つけられる代表的な植物110種をカラーで紹介。季節の植物図鑑として、通勤通学や散策のお供に。

1000円
102259-2

2263 うわさとは何か
— ネットで変容する「最も古いメディア」

松田美佐著

デマ、流言、ゴシップ、口コミ、風評、都市伝説……。多様な表現を持つ「うわさ」。この「最も古いメディア」は、トイレットペーパー騒動や口裂け女など、戦後も社会現象を巻き起こし、東日本大震災の際も大きな話題となった。事実性を越えた物語が、人々のつながり「関係性」を結ぶからだ。ネット社会の今なお、メールやSNSを通じ、人々を魅了し、惑わせるうわさは、新たに何をもたらしているのか。人間関係をうわさから描く意欲作。

840円
102263-9

2266 アデナウアー
— 現代ドイツを創った政治家

板橋拓己著

第2次世界大戦の敗北により、人心・国土とも荒廃したドイツ。その復興を担ったのが、73歳で首相に就任、14年間の座にあったアデナウアーである。戦前、ケルン市長として活躍した彼だが、ナチに迫害され引退。戦後、保守政党を率い、「復讐」「反動」のレッテルを貼られながらも、常に自国のナショナリズムを懐疑し、米仏などとの「西側結合」に邁進、ユダヤ人との「和解」にも挑んだ。「国父」と呼ばれる保守政治家の生涯。

820円
102266-0

2269 日本鉄道史 幕末・明治篇
— 蒸気車模型から鉄道国有化まで

老川慶喜著

一八五四年、来航したペリー提督は蒸気車模型を幕府に献上。以来、日本は鉄道時代に突入した。幕末の外国人たちによる敷設計画に始まり、新橋・横浜間の開業、官設鉄道を凌ぐ私設鉄道の全盛期を経て、一九〇六年の鉄道国有化と開業距離五〇〇〇マイル達成に至る半世紀……。全国的な鉄道網はいかに構想され、形成されたのか。鉄道の父・井上勝をはじめ、渋沢栄一、伊藤博文などの活躍とともに日本鉄道史の草創期を描く。

820円
102269-1

2270 日清戦争
— 近代日本初の対外戦争の実像

大谷 正著

1894年の夏、日清両国が朝鮮の「支配」をめぐり開戦に至った日清戦争。朝鮮から満州を舞台に戦われた近代日本初の国家間戦争である。清の講和受諾によっていったん終わりをみるが、割譲された台湾では、なお泥沼の戦闘が続いた。本書は、開戦の経緯など通説に變更を迫りながら、平壤や旅順の戦いなど、各戦闘を詳述。兵士とほぼ同数の軍夫を動員、虐殺が散見され、近代代戦の様相を見せたこの戦争の全貌を描く。

860円
102270-7

2272 ヒトラー演説
— 熱狂の真実

高田博行著

ナチスが権力を掌握するにあたっては、ヒトラーの演説力が大きな役割を果たした。ヒトラーの演説といえは、声を張り上げ、大きな身振りで聴衆を煽り立てるイメージが強いが、実際はどうだったのか。聴衆は演説にいつも熱狂したのか。本書では、ヒトラーの政界登場からドイツ敗戦までの二五年間、一五〇万語に及ぶ演説データを分析。レトリックや表現などの面から煽動政治家の実像を明らかにする。

880円
102272-1

2274 スターリン
— 「非道の独裁者」の実像

横手慎二著

「非道の独裁者」——日本人の多くが抱くスターリンのイメージだろう。一九二〇年代末にソ連の指導的地位を固めて以降、農業集団化や大粛清により大量の死者を出し、晩年は癡疑心から側近を次々逮捕させた。だが、それによって彼を評価するロシア人が今なお多いのはなぜか。ソ連崩壊後の新史料をもとに、グルジアに生まれ、革命家として頭角を現し、最高指導者としてヒトラーやアメリカと渡りあった生涯をたどる。

900円
102274-5

2276 本居宣長
—文学と思想の巨人

田中康二著

漢意を排斥して大和魂を追究し、「物のあはれを知る」説を唱えたことで知られる、江戸中期の国学者・本居宣長。伊勢松坂に生まれ、京都で医学を修めた後、賀茂貞淵と運命的な出会いを果たした。以来、学問研究に身を捧げ、三十有余年の歳月を費やし「古事記伝」を著した。この国学の大成者とは何者だったのか。七十年におよぶ生涯を丹念にたどりつつ、文学と思想の両分野に屹立する宣長学の全体像を描き出す。

840円
102276-9

2279 物語ベルギーの歴史
—ヨーロッパの十字路

松尾秀哉著

ビールやチョコレートなどで知られるベルギー。ヨーロッパの十字路に位置したため、古代から多くの戦乱の舞台となり、建国後もドイツやフランスなどの強国に翻弄されてきた。本書は、19世紀の建国時における混乱、植民地獲得、二つの世界大戦、フランス語とオランダ語という公用語をめぐる紛争、そして分裂危機までの道のりを描く。EU本部を首都に抱え、欧州の中心となったベルギーは、欧州の問題の縮図でもある。

840円
102279-0

2281 怨霊とは何か
—菅原道真・平将門・崇徳院

山田雄司著

怨霊とは死後に落ち着くところのない霊魂である。古来、日本では怨霊が憑依することによって、個人的な祟りにとどまらず、疫病や天変地異など社会に甚大な被害をもたらされると信じてきた。三大怨霊と称される菅原道真、平将門、崇徳院は死後、いかに人々を恐怖に陥れたのか。そして、どのように鎮魂がなされたのか。霊魂の存在から説き起こし、怨霊の誕生とその終焉、さらに近代の霊魂文化まで概観する。

760円
102281-3

2282 地方消滅
—東京一極集中が招く人口急減

増田寛也 編著

このままでは89.6の自治体が消滅しかねない。減少を続ける若年女性人口の予測から導き出された衝撃のデータである。若者が子育て環境の悪い東京圏へ移動し続けた結果、日本は人口減少社会に突入した。多くの地方では、すでに高齢者すら減り始め、大都市では高齢者が激増しゆく。豊富なデータをもとに日本の未来図を描き出し、地方に人々がどうまわり、希望どおりに子どもを持てる社会へ変わるための戦略を考える。

新書大賞受賞

820円
102282-0

2286 マリー・アントワネット
—フランス革命と対決した王妃

安達正勝著

名門ハプスブルク家に生まれたマリー・アントワネットは、フランス王妃となり、ヴェルサイユ宮殿で華麗な日々を過ごしていた。だが、一七八九年のフランス革命勃発で運命が急変。毅然と反革命の姿勢を貫き、三十七歳の若さで断頭台の露と消えた。悪しき王妃として断罪された彼女が、後世で高い人気を得、人々の共感を集めているのはなぜか。彼女が目指した「本当の王妃」とは何だったのか。栄光と悲劇の生涯を鮮やかに描く。

940円
102286-8

2288 フランクフルト学派
—ホルクハイマー、アドルノから

21世紀の「批判理論」へ

細見和之著

ホルクハイマー、アドルノ、ベンヤミン、フロム、マルクーゼ……。一九二三年に設立された社会研究所に結集した一群の思想家たちを「フランクフルト学派」とよぶ。彼らは反ユダヤ主義と対決し、マルクスとフロイトの思想を統合して独自の「批判理論」を構築した。その始まりからナチ台頭後のアマリカ亡命期、戦後ドイツにおける活躍を描き、第二世代ハイパーマスによる新たな展開、さらに多様な思想像の未来まで展望する。

840円
102288-2

2289 老いの味わい

黒井千次著

七十代後半の坂を登り切り、八十歳を超えた作家が見つめる老いの日々。身の回りには、薄い横線で消された名前の目立つ住所録。バッグは肩からずり落ち、タタミから立ち上がるのに一苦労。そして頭に浮かぶ疑問は、なぜ歳を取ると何事も億劫になるのか、病気の話にかくも熱が入るのか、「ベンジンコロリ」は本当に理想なのか——一年一年、新しい世界と向き合って歩む日常と思考を丹念に描いた、心に響くエッセイ。

760円
102289-9

2290 酒場詩人の流儀

吉田 類著

春は新湯の酒蔵で桜の花を愛で、夏は秩父山系の尾根筋を踏破し、秋は青森に収穫も佳境のリンゴ園を訪れ、冬はオホーツクの海で流水に眺め入る。旅から旅への日々は、はや半世紀に及ぶ。酒と俳句はいつとも良き伴侶だった。大町桂月、種田山頭火、若山牧水らを酒飲み詩人の先達と仰ぐ著者は、日本各地をめぐる、出会った人々と「酒縁」を結ぶ。大衆酒場ブームの火付け役が、独特の感性で綴った紀行エッセイ。

780円
102290-5

2292 カラー版
ゴッホ〈自画像〉紀行

木下長宏著

三七歳で自ら命を絶ったヴァンセント・ヴァン・ゴッホ。彼の画家人生は、わずか一〇年あまりにすぎない。その短い歳月に、四〇点を超える自画像を遺した。なぜゴッホはこれほど多くの自画像を描き、そしてそこに何を見いだしたのか。ゴッホ研究の第一人者が、その求道的な生涯とともに、自画像を一点ずつたどっていく。丹念な作品の読解によって浮かび上がる、新しいゴッホの世界。自画像全点カラー収録。

1000円
102292-9

2293 教養としての宗教入門

—基礎から学べる信仰と文化

中村圭志著

宗教とは何か。信仰、戒律、儀礼に基づき生き方は、私たち日本人にはなじみが薄い。しかし、食事の前後に手を合わせ、知人と会えばお辞儀する仕事は、外国人の目には宗教的なふるまいに見える。宗教的儀式と文化的慣習の違いは、線引き次第なのである。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教から、仏教、ヒンドゥー教、そして儒教、道教、神道まで。世界の八つの宗教をテーマで切り分ける、新しい宗教ガイド。

840円
102293-6

2295 天災から日本史を
読みなおす

— 先人に学ぶ防災

磯田道史 著

豊臣政権を襲った二度の大地震、一七〇七年の宝水地震が招いた富士山噴火、佐賀藩を「軍事大国」に変えた台風、森繁久彌が遭遇した大津波……。史料に残された災いの記録をひもとくと、「もう一つの日中」が見えてくる。富士山の火山灰はどれほど降るか。土砂崩れを知らせる臭い、そして津波から助かるための鉄土とは。東日本大震災後に津波常襲地に移住した著者が伝える、災害から命を守る先人の知恵。

760円
102295-0

2296 日本占領史1945-1952

— 東京・ウシントン・沖縄

福永文夫 著

1945年の敗戦後、マッカーサーを頂点にGHQの支配下に置かれた日本。当初占領政策は非軍事化・民主化を推進、平和主義を追求した日本国憲法が開く。だが冷戦が深まる中、日本を「反共親米」にすべく、政策は経済復興に転換される。51年、朝鮮戦争の最中に結ばれたサンフランシスコ講和条約は日米安保条約とセツトの縮結となった。本書は21世紀まで続く「戦後体制」が創られた日本占領7年間の全貌を描く。

900円
102296-7

2298 四国遍路

— 八八ヶ所巡礼の歴史と文化

森 正人 著

八八の寺院を巡るあり方を決定づけた僧侶の案内記、貧困・病氣・差別に苦しめられた巡礼者たちの記録。新聞記者による遍路道中記、バスや鉄道の登場ももたらした遍路道の変貌。本書は、近世以降の史料を掘り起こし、伝説と史実が交錯しながら四国遍路の実態を明らかにする。千数百キロの行程を歩く巡礼者と、彼らと相対し、お接待文化を育んだ地域住民。歩くだけではない歴史の真実を浮かび上がらせる。

760円
102298-1

2300 フランス現代思想史

— 構造主義からデリダ以後へ

岡本裕一朗 著

一九六〇年代初め、サルトルの実存主義に代わり、西洋近代を自己批判的に解明する構造主義が世界を席捲した。レヴィ・ストロースをはじめ、ラカン、バルト、アルチュセールの活躍。六八年の五月革命と前後するフーコー、ドゥルーズ・ガタリ、デリダによるポスト構造主義への展開。さらには九〇年代の管理社会論と脱構築の政治化へ。構造主義の成立から巨匠たちが亡き後の現在までを一望する、ダイナミックな思想史の試み。

880円
102300-1

2302 日本人にとって

— 聖なるものとは何か

— 神と自然の古代学

上野 誠 著

一神教とは異なり、日本人にとって神は絶対的な存在ではない。山岳や森林をはじめ、あらゆる事物が今なお崇拜の対象となり得る。遠くさかのぼれば「古事記」に登場する神々は、恋をするばかりか嫉妬もし、時に殺しがり、罪さえも犯す。独特の宗教観や自然観はどう形成され、現代にまで影響を及ぼしているか。「カムナビ」「ミコロ」などのキーワードを手がかりに記紀万葉の世界に分け入り、古代の人びとの心性に迫る。

880円
102302-5

2303 殷

— 中国史最古の王朝

落合淳思 著

殷王朝は、今から三〇〇〇年以上前に中国に実在した王朝である。酒池肉林に耽る紂王の伝説など、多くの逸話が残されているが、これらは「史記」をはじめとする後世の史書の創作である。いまだ謎多き殷王朝の実像を知るには、同時代資料である甲骨文字を読み解かねばならない。本書は、膨大な数にのぼる甲骨文字から、殷王朝の軍事や祭祀、王の系譜、支配体制と統治の手法などを再現し、解明したものである。

880円
102303-2

2304 ビスマルク

— ドイツ帝国を築いた政治外交術

飯田洋介 著

一九世紀ヨーロッパを代表する政治家、ビスマルクの業績は華々しい。一八七一年のドイツ帝国創建、三度にわたるドイツ統一、戦争での勝利、欧州に同盟システムを構築した外交手腕、普通選挙や社会保険制度の導入。しかし彼の評価は「英霊」から「ヒトラーの先駆者」まで揺れ動いてきた。「鉄血宰相」「誠実なる仲買人」「白色革命家」など数多の異名に彩られるドイツ帝国宰相、その等身大の姿と政治外交術の真髄に迫る。

860円
102304-9

2305 生物多様性

— 「私」から考える進化・遺伝・生態系

本川達雄 著

地球上には、わかつていくだけで一九〇万種、実際は数千万種もの生物がいる。その大半は人間と直接の関わりを持たない。しかし私たちは多様なこの生物を守らなければならない。それはなぜなのか。熾烈な「軍拡競争」が繰り返られる熱帯雨林や、栄養のない海に繁栄するサンゴ礁。地球まるごとの生態系システムを平易に解説しながら、リンネ、ダーウイン、メンデルの足跡も辿り直す、異色の生命讃歌。

880円
102305-6

2306 聖地巡礼

— 世界遺産からアニメの舞台まで

岡本亮輔 著

非日常的な空間である聖地。観光地として名高い聖地には、信仰心とは無縁の人々が数多く足を運んでいる。さらに近年では、宗教と直接関係のない場も聖地と呼ばれ、関心を集めている。人は何を求めて、そこへ向かうのか？ それは、どのような意味を持つのか？ サンティアゴ巡礼や四国遍路、B級観光地、パワースポット、アニメの舞台など、多様な事例から21世紀の新たな宗教観や信仰のあり方が見えてくる。

840円
102306-3

2307 ベーシック・インカム

— 国家は貧困問題を解決できるか

原田 泰 著

格差拡大と貧困の深刻化が大きな問題となっている日本。だが、巨額の財政赤字に加え、増税にも年金・医療・介護費の削減にも反対論は根強く、社会保障の拡充は難しい。そもそもお金がない人を助けるには、お金を配ればよいのではないのか——この単純明快な発想から生まれたのが、すべての人に基礎的な所得を給付するベーシック・インカムである。国民の生活の安心を守るために何ができるのか、国家の役割を問い直す。

740円
102307-0

2309 朝鮮王公族
— 帝国日本の準皇族

新城道彦 著

1910年8月、日本は大韓帝国を併合した。最大の懸念だった皇帝一族の処遇については、王族・公族の身分を華族より上に新設し、解決を図った。1945年8月の敗戦まで、男子は軍務に就くなど、皇族同様の義務と役割を担う。異民族ながら「準皇族」扱いされた彼らの思いは複雑であり、日本に忠誠を尽くす者、独立運動に関与する者など多様であった。本書は、帝国日本に翻弄された26人の王公族の全貌を明らかにする。 **山本七平賞推薦賞受賞**

840円
102309-4

2310 山岳信仰
— 日本文化の根底を探る

鈴木正宗 著

出羽三山、大峯山、英彦山の三大霊場をはじめ、富士山、死者の魂が赴く立山と恐山、御座の木曾御嶽山、鎮禪定の石鏡山……。個性豊かな山々に生まれた日本人の精神文化の根底には、山への畏敬の念が息づく。本書は山岳信仰の歴史をたどりつつ、修験道の成立と展開、登拝の民衆化と女人禁制を解説。さらに八つ子の霊山の信仰と祭祀、神仏分離後の状況までを詳解する。長年、山岳修験研究に携わってきた著者による決定版。

880円
102310-0

2313 ニュルンベルク裁判

— ナチ・ドイッとはどのように裁かれたのか
— アンネット・ヴァインケ 著
板橋拓己 訳

ナチ・ドイッによる第2次世界大戦中の戦争犯罪を裁いたニュルンベルク裁判。主要犯罪人24名を扱った国際軍法廷、医師・親衛隊員・高級官僚ら185名を扱った12の継続裁判で構成され、終戦後、半年を経て始まった。法廷では、ホロコーストを始めナチの悪行が明らかにされ、「平和に対する罪」「人道に対する罪」など新しい罪の規定が話題を呼ぶ。本書は、東京裁判のモデルとなった史上初の大規模な戦争犯罪裁判の全貌を描く。

820円
102313-1

2314 iPS細胞

— 不可能を可能にした細胞

黒木登志夫 著

2006年、山中伸弥は、たった4種類の遺伝子によって大人の細胞が、未分化の細胞に初期化することを発見した。それから8年余、iPS細胞は、脳や肝臓、そして、アルツハイマー病の細胞をシャーレの中に再現した。難病の治療薬開発、黄斑変性、パーキンソン病、脊髄損傷などの再生医療も現実となった。不遇の時代、山中伸弥を力づけた『がん遺伝子の発見』（中公新書）の著者が、iPS細胞の生い立ちとその応用を迫る。

900円
102314-8

2315 南方熊楠

— 日本人の可能性の極限

唐澤太輔 著

百科事典を丸ごと暗記、二十以上の言語を解した、キューバ独立戦争参戦といった虚実さまざまな伝説に彩られ、民俗学、生物学などに幅広く業績を残した南方熊楠「てんぎゃん（天狗さん）」とあだ名された少年時代、大英博物館に通いつめた海外放浪期。神社社祀反対運動にかかり、在野の粘菌研究者として昭和天皇に進講した晩年まで、「日本人の可能性の極限」を歩んだ生涯をたどり、その思想を解き明かす。

880円
102315-5

2317 歴史と私

— 史料と歩んだ歴史家の回想

伊藤 隆 著

日本近現代史研究を牽引してきた大家が、八〇年以上にわたる自らの歩みを語る。若き日の共産党体験、歴史観をめぐる論争、伊藤博文から佐藤栄作にいたる史料収集と編纂、岸信介、後藤田正晴、竹下登などへのオーラル・ヒストリー……。その秘話やエピソードは、歴史の面白さを伝えると同時に、史料を集め、次代へ引き継ぐ歴史家の責任の重さをも物語る。史料を駆使して、近現代史を切り開いた泰斗の稀有な回想録。

880円
102317-9

2318 物語 イギリスの歴史(上)

— 古代ブリテン島から
— エリザベス1世まで

君塚直隆 著

5世紀以降、ケルト人を駆逐しアングロ・サクソン人が定住したブリテン島。11世紀、大陸のノルマン人が征服するが、常にフランス王領を繰り返した。その間、島内では諸侯が伸張。13世紀にはマグナ・カルタを王が認め、議会の原型が成立する。その後も百年戦争の敗北、教皇からの破門と、王の権威低下が続いた。上巻は、大陸に固執する王たちを中心に、16世紀半ばはイングランドにエリザベス1世が君臨するまでを描く。

800円
102318-6

2319 物語 イギリスの歴史(下)

— 清教徒、名誉革命から
— エリザベス2世まで

君塚直隆 著

17世紀、王の絶対君主政への信奉は、清教徒、名誉革命を誘発し議会の権限が増す。18世紀半ば以降の産業革命下、内閣、政党が政治の主権権を獲得。グラッドストーンら優れた政治家も現れ、19世紀にはマグナ・カルタの時代は「世界の工場」かつ「最強国」となった。だが20世紀に入り、二つの世界大戦で国家は疲弊。経済停滞は「英国病」と揶揄された。本書は、近代化の胎動から、サッチャー、ブレアラが登場する現代までを描く。

820円
102319-3

2321 道路の日本史

— 古代駅路から高速道路へ

武部健一 著

邪馬台国の頃には獣道だけだった日本列島も、奈良時代には幅12mの真っ直ぐな道が全国に張りめぐらされ、駅馬の制度が設けられた。中世には道路インフラは衰退したが、徳川家康は軍事優先から利便性重視に転換して整備を進める。明治以降は奥羽山脈を貫くトンネルを掘った三島通庸、名神高速建設を指揮したドルシユなど個性溢れる人物の手によって道路建設が成し遂げられる。エピソード満載で綴る道路の通史。 **交通図書賞、土木学会賞受賞**

860円
102321-6

2322 仕事と家族

— 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか

筒井淳也 著

男性中心の労働環境のため女性が活躍しづらく、少子化が深刻な日本。仕事と家族のあり方は限界にきている。一方、「大きな政府」を代表するウエーデンと「小さな政府」を代表するアメリカは正反対の国と思われがちだが、実は働く女性が多く、出生率も高いという点で共通している。それはなぜか。歴史的な視点と国際比較を通じて日本の現在地を示し、目指すべき社会を考える。この国で働き、家族と暮らす全ての人へ。 **不動産協会賞受賞**

820円
102322-3

2323 文明の誕生

—メソポタミア、ローマ、そして日本へ

小林登志子 著

道路、都市などの建造物、カレンダーや貨幣、法律にはじまる制度、そして宗教や文学のような精神世界まで、わたしたちの快適な毎日は、数多くの文明的な要素によって成り立っている。では、この文明はいつ、どこで誕生し、どのように受け取られてきたのか。本書は、5000年前のメソポタミアに文明の起源をたずね、ギリシア、ローマや古代中国を経て、現代の日本にいたるまでを巨細に辿る壮大な「旅」である。

920円
102323-0

2327 カラー版

イースター島を行く

—モアイの謎と未踏の聖地

野村哲也 著

南太平洋に浮かぶ孤島イースター島。そこには千体ものモアイ像が眠っている。かつては緑溢れる豊かな島だったが、「モアイ倒し戦争」や西洋人の来航によって、一万人以上いた島民は約百人にまで激減、文明は失われてしまった。しかし、いまではモアイが再建され、文化復興の動きもめざましい。本書は島内に立つすべてのモアイ像を紹介し、文明滅亡の謎に迫る。さらに島民にも知られていない、隠された聖地へ読者を誘う。

1000円
102327-8

2328 植物はすごい 七不思議

—知ってびっくり、緑の秘密

田中 修 著

アサガオの花はなぜ夕方になると赤紫になるの？ どうしてゴウヤの実は熟すと爆発するのか？ トマトのタネはなぜぬるるに包まれているの？ トウモロコシの黄色い粒と白い粒の比率が3対1って本当？ イチゴの種はどこにあるの？ チューリップの花はなぜだんだん大きくなるの？ ソメイヨシノはなぜ暖かい九州よりも寒い東京で先に咲くの？ 7つの身近な植物に秘められた「すごさ」から学ぶ、生き方の工夫と知恵。

820円
102328-5

2329 ナチスの戦争1918-1949

—民族と人種の戦い

リチャード・ベッセル 著
大山 晶 訳

ナチスが主導した「民族と人種の戦い」とは何だったのか。第一次世界大戦の敗北からヒトラー独裁体制の確立、第二次世界大戦へ。ユダヤ人の絶滅を標榜しヨーロッパ全土を巻き込んだ戦争は、無差別爆撃と残虐行為を生み、最後には凄惨なホロコーストにまで行き着いた。本書はナチズムの核心を人種戦争と捉え、そのイデオロギーの本質を抉り出し、「狂信的な意志」による戦争の全過程、その余波までを描き出す。

960円
102329-2

2330 チェ・ゲバラ

—旅、キューバ革命、ボリビア

伊高浩昭 著

1928年、アルゼンチンに生まれた革命家チェ・ゲバラ。医学生時代にラテンアメリカを旅し、貧富の格差や米国支配の問題に目覚める。カストロ兄弟と共にゲリラ戦で活躍し、59年のキューバ革命政権樹立に貢献。要職を歴任するものの、思いは全ラテンアメリカでの革命推進にあった。再び戦地に赴くチェ。だが前哨戦のゴンゴ、続くボリビアで過酷な現実に直面し……。彼の遺した膨大な文章と関係者への取材から実像に迫る。

880円
102330-8

2331 カラー版 廃線紀行—もうひとつの鉄道旅

梯 久美子 著

「絶景廃線」と呼びたくなる路線がある。瀬戸大橋の見える下津井電鉄、景勝地・耶馬溪の真ん中を走る大分交通耶馬溪線など。他方で、ありふれた景色の中を通っているが、歩いてみると何とも楽しい路線も少なくない。鉄道をこよなく愛する著者が五年をかけて全国の廃線跡を踏破。往時の威容に思いを馳せつつ、現在の姿を写生する。北は道東の国鉄根北線から南は鹿児島交通南薩線まで、精選五〇路線を紹介する廃線案内。

1000円
102331-5

2332 「歴史認識」とは何か

—対立の構図を超えて

大沼保昭 著
江川紹子 聞き手

日中・日韓関係を極端に悪化させる歴史認識問題。なぜ過去をめぐる認識に違いが生じるのか、一致させることはできないのか。本書では、韓国併合、満洲事変から、東京裁判、日韓基本条約と日中国交正常化、慰安婦問題に至るまで、歴史的事実が歴史認識問題に転化する経緯、背景を具体的に検証。あわせて、英仏など欧米諸国が果たしていない植民地支配責任を提起し、日本の取り組みが先駆となることを指摘する。

840円
102332-2

2333 地方消滅 創生戦略篇

増田寛也／富山和彦 著

地方消滅を避け、真の地方創生へ進むシナリオとは？ 全国896自治体の消滅可能性を指摘し政治を動かした増田氏と、GDPと雇用の7割を占めるローカル経済の可能性を明らかにした富山氏が語り合う。なぜ「選択と集中」は避けられないのか、移民を受け入れるべきか、大学が職業訓練を行うべき理由、東北地方が持つ可能性、自動運転やドローンなど新技術と地方の関係……。日本を襲う危機を見つめ、解決策を探る。

740円
102333-9

2336 源頼政と木曾義仲

—勝者になれなかった源氏

永井 晋 著

以仁王の平氏追討の拳兵に加わり、内乱の端緒を開いた摂津源氏の源頼政。以仁王の遺児を奉じて、平氏を西へ追い落とし、入京に成功した木曾義仲。悲劇的な最期を遂げる二人は、時代の転換点となる治承・寿永の乱（源平合戦）の幕開きを象徴する人物である。保元・平治の乱、宇治合戦、俱利伽羅峠の戦い、そして都落ちと敗死……。皇位継承をめぐる政治的背景も織り交ぜつつ、二人の実像と動乱の時代を描きたす。

760円
102336-0

2338 財務省と政治

—「最強官庁」の虚像と実像

清水真人 著

国家の財政を担い、「官庁の中の官庁」「最強官庁」と称される財務省（旧大蔵省）。55年体制下では自民党と蜜月関係を築いた。だが90年代以降、政治改革などの統治構造改革が、首相の指導力強化と密月関係を築いた。2001年に財務省「解体」を推進。2004年に財務省「衣替え」した。小泉政権、民主党政権、第二次安倍政権と政治が変動するなか、経済停滞と少子高齢化により財政赤字の拡大は続く。20年以上の取材をもとに「最強官庁」の実態を追う。

880円
102338-4

2339 **ロラン・バルト**
—言語を愛し恐れつづけた批評家
石川美子 著
『恋愛のデイスカール 断章』『記号の国』で知られる批評家ロラン・バルト（一九一五—八〇）。「テクスト」「エクリチュール」など彼が新たに定義し生み出した概念は、二十世紀の文学・思想シームを次々と塗り替えた。デビュー以来、文学言語のみならず、モードから写真、日本論に至るまで華麗な批評活動を展開。晩年には「小説の準備」へと向かった。この多彩な思考の全体像を端正な文体によって浮き彫りにする。

2342 **沖縄現代史**
—米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで
櫻澤 誠 著
太平洋戦争中、地上戦で20万人強の犠牲者を出した沖縄。敗戦後、米国統治下に置かれ、1972年に本土復帰を果たすが、広大な基地は残された。復帰後の沖縄は保革が争いながら政治を担い、「基地依存経済」の脱却を図る。だが95年の米兵少女暴行事件を契機に、2010年代には普天間基地移転・歴史認識を巡り、保革を超えた「オール沖縄」による要求が国に行われる。本書は、政治・経済・文化と、多面的に戦後沖縄の軌跡を描く。

2345 **京都の神社と祭り**
—千年都市における歴史と空間
本多健一 著
京都の歴史は、千二百年を超える都市のなかで育まれた、神々への信仰と祭礼文化の歴史でもある。本書は、市内約三百の神社から、京都を代表する天鴨・上賀茂神社、松尾大社、伏見稲荷大社、八坂神社、北野天満宮、上・下御霊神社、今宮神社、平安神宮とその祭礼などを紹介。祭神はどのような性格をもち、なぜ祀られたのか。どのような氏子たちが支えてきたか。祭礼に込められた意味とは何か。秘められた歴史と特徴を解説する。

2347 **代議制民主主義**
—「民意」と「政治家」を問い直す
待鳥聡史 著
有権者が選挙を通じて政治家を選び、政治家が政策決定を行う。これが代議制民主主義の仕組みである。議会の発展、大統領制と議院内閣制の確立、選挙権の拡大を経て定着したこのシステムは、第二次世界大戦後に黄金期を迎えた。しかし、経済成長の鈍化やグローバル化の影響を受け、今や世界各国で機能不全に陥っている。代議制民主主義はもはや過去の政治制度なのか。民意と政治家の緊張関係から、その本質を問い直す。

2349 **ヒトラーに抵抗した人々**
—反ナチ市民の勇氣とは何か
對馬達雄 著
「いつでも人には親切にしない。助けたり与えたりする必要のある人たちにそうすることが、人生でいちばん大事なことです。だんだん自分が強くなり、楽しいこともどんどん増えてきて、いっぱい勉強するようになると、それだけ人びとを助けることができるようになるのです。これから頑張ってくださいね。さようなら。お父さんより。」（反ナチ市民グループ「クラウザウ・サークル」のメンバーが処刑前に十一歳の娘に宛てた手紙）

2351 **中曽根康弘**
—「大統領的首相」の軌跡
服部龍二 著
自主憲法制定を訴えるタカ派、主張を変える「風見鶏」、首相就任時も、田中角栄の影響下「田中曽根内閣」と批判された中曽根康弘。だが「戦後政治の総決算」を掲げた中曽根は「大統領的首相」の手法によって、国鉄などの民営化を推進、中韓と蜜月関係を築き、レーガン米大統領やサミットを通して、日本の国際的な地位を大きく上昇させる。本書は中曽根の生涯を追り、日本が敗戦から1980年代、戦後の頂点へと向かう軌跡を追う。

2353 **蘇我氏—古代豪族の興亡**
倉本一宏 著
蝦夷・入鹿父子は六四五年の乙巳の変で討たれたが、蘇我氏は滅亡せず、以後も国家権力の中枢に位置した。稲目を始祖とした馬子、蝦夷、入鹿の四代はいかに頭角を現し、大臣として国制改革を推し進めたのか。大化改新後、氏上となった倉麻呂系は壬申の乱へとつづく激変の時代をどう生き延びたのか。六世紀初頭の成立から天皇家を凌駕する権勢を誇った時代、さらに平安末期までを描き、旧来の蘇我氏イメージを一新する。

2358 **日本鉄道史 大正・昭和戦前篇**
—日露戦争後から敗戦まで
老川慶喜 著
日露戦争後、帝国日本の鉄道は第一次世界大戦期の重工業化と国際化によって黄金時代を迎えた。後藤新平を総裁とする満鉄が設立され、シベリア經由「東京発パリ行き」の欧亜連絡列車の運行が始まる。さらに関東大震災以後の都市化の波は小林一三の阪急、五島慶太の東急などの私鉄を発展させた。大正天皇の大喪輸送とともに昭和の幕が開き、大恐慌を経て戦時動員へ。一九〇七年から四五年八月の敗戦に至る怒濤の四〇年を描く。

2359 **竹島—もうひとつの日韓関係史**
池内 敏 著
日本と韓国などが領有権をめぐって対立する竹島。それぞれが正当性を主張するものの議論は噛み合わず、韓国による占拠が続いている。本書は一六世紀から説き起し、江戸幕府の領有権放棄、一九〇五年の日本領編入、サンフランシスコ平和条約での領土画定、李承晩ラインの設定を経て現在までの竹島をめぐる歴史をたどり、両国の主張を逐一検証。誰が分析しても同一の結論に至らざるをえない、歴史学の到達点を示す。

2360 **キリスト教と戦争**
—「愛と平和」を説きつつ戦う論理
石川明人 著
世界最大の宗教キリスト教の信者は、なぜ「愛と平和」を祈りつつ「戦争」ができるのか？殺人や暴力は禁止されたのではありませんか？本書では、聖書の記述や、アウグスティヌス、ルターなど著名な神学者たちの言葉を紹介しながら、キリスト教徒がどのように武力行使を正当化するのかについて見ていく。平和を祈る宗教と戦争との奇妙な関係は、人間が普遍的に抱える痛切な矛盾を私たちに突きつけるであろう。

820円 102360-5
880円 102359-9
820円 102358-2
800円 102353-7
900円 102351-3
880円 102349-0
840円 102347-6
880円 102345-2
920円 102342-1
800円 102339-1

2361 トウガラシの世界史

—辛くて熱い「食卓革命」—

山本紀夫 著

比類ない辛さが魅力のトウガラシ。原産地の中南米からヨーロッパに伝わった当初は「食べると死ぬ」とまで言われた。だが、わずか五百年のうちに全世界の人々を魅了するに至った。ピーマンやパプリカもトウガラシから生まれた。アンデルスの多様な野生トウガラシ、インドのカレー、四川の豆板醤、朝鮮半島のキムチ、日本の京野菜……。各地を訪ね、世界中に「食卓革命」を起こした香辛料の伝播の歴史と食文化を紹介する。

860円
102361-2

2362 六国史

—日本書紀に始まる古代の「正史」—

遠藤慶太 著

奈良時代から平安時代にかけて編纂された歴史書「六国史」。七二〇年に完成した日本書紀から、続日本紀、日本後紀、続日本後紀、日本文徳天皇実録、日本三代実録までを指す。天地の始まりから平安中期の八八七年八月まで、国家の動向を連続して記録した「正史」であり、古代史の根本史料である。本書は、各書の実偽や魅力を紹介。また、その後の紛失、改竄、読み継がれ方など、中世から現代に至る歴史も描く。古代歴史文化賞優秀作品賞受賞

820円
102362-9

2363 外国語を学ぶための言語学の考え方

黒田龍之助 著

誰もが近道や楽な方法を探そうとするが、結局は地道な努力しかないと思い知らされる外国語学習。だが、それでもコツは存在する。本書はそのヒントとなる言語学の基礎知識を紹介。言語学には才能が必要「現地に留学しなれば上達しない」「検定試験の点数が大事」「日本人は巻き舌が下手」といった間違った「語学の常識」に振りまわされず、楽しく勉強を続けるには、外国語学習法としての言語学入門。

800円
102363-6

2365 禅の教室

—坐禅でつかむ仏教の真髄—

藤田一照／伊藤比呂美 著

悟りとは何か——。禅には「不立文字、教外別伝」、つまり、釈迦の教えは言葉では伝えられないという考え方がある。では、アメリカで禅を長年にわたって教えてきた禅僧と、仏教に目覚めた詩人が「禅」について語り合うと、どのような言葉が飛び出すのか。「そもそも仏教って何ですか?」から始まった対話は、縁起や如来などの仏教用語を解剖しながら、坐禅への誤解を暴き立て……。読むと坐りたくなる、坐禅のススメ。

860円
102365-0

2367 食の人類史

—ユーラシアの狩猟・採集・農耕・遊牧—

佐藤洋一郎 著

人は食べなければ生きていくことはできない。人類の歴史は、精質とタンパク質のセツトをどうやって確保するかという闘いだった。今では、西洋では「小麦とミルク」、東洋では「コメと魚」のセツトとして摂取されることが多いが、山菜を多食し、採集文化が色濃く残る日本のように、食の営みは多様である。本書は、ユーラシア全土で練り広げられてきた、さまざまな生業の変遷と集団間の駆け引きを巨細に解説する。

920円
102367-4

2368 第一次世界大戦史

—諷刺画とともに見る指導者たち—

飯倉 章 著

一九一四年に勃発した戦争は、当初の予測を裏切り、四年以上に及ぶ最初の世界大戦となった。その渦中で、皇帝や政治家、軍人などの指導者は、どのような選択と行動をし、それは戦況にいかなる影響をもたらしたのか。本書は重要人物や戦場を描いた一〇〇点近くの諷刺画を織り交ぜ、当時を再現しながら、戦いの軌跡をたどる。複雑な背景を持ち、八五〇万人以上の戦死者が出た大戦を多面的に読み解き、実態を示す。

840円
102368-1

2369 天使とは何か

—キユーピッド、キリスト、悪魔—

岡田温司 著

エンジェルとキユーピッドは何が違うのか。キリストがつかって天使とみなされていたのはなぜか。墮天使はいかにして悪魔となったか。「天使」と聞いて、イメージが浮かばない日本人はいないだろう。しかし、天使をめぐる数々の謎に直面したとき、私たちは想像以上に複雑な陰影を彼らもっていることに気づくはずだ。天使とは一体、何者なのか——。キリスト教美術をゆたかに彩る彼らの物語を追いかけてみよう。

780円
102369-8

2371 カラー版 古代飛鳥を歩く

千田 稔 著

六〜七世紀の飛鳥時代は危機と動乱の時代であった。仏教伝来、蘇我氏の台頭と聖徳太子の理想、斉明女帝の大公共工事、大化改新、壬申の乱、そして平城京遷都……。飛鳥を散策すれば、当時の人々の息吹を感じることができ。現代に生きる私たちの「近さ」に驚くことだろう。蘇我氏や息長氏などの豪族の足跡、道教や神まつりの痕跡、都城、寺院や古墳などを訪ね、76の章で日本の原風景である古代飛鳥へ読者をいざなう。

1000円
102371-1

2373 研究不正

—科学者の捏造、改竄、盗用—

黒木登志夫 著

科学のすぐれた成果を照らす光は、時として「研究不正」という暗い影を生み落とす。研究費ほしさに、名誉欲にとりつかれ、短期的な成果を求める社会の圧力に屈……。科学者たちが不正に手を染めた背景には、様々なドラマが隠されている。研究不正はなぜ起こり、彼らはいかなる結果を迎えたか。本書は欧米や日本、中韓などを揺るがした不正事例を豊富にとりあげながら、科学のあるべき未来を具体的に提言する。

880円
102373-5

2375 科学という考え方

—アインシュタインの宇宙—

酒井邦嘉 著

科学とは、自然法則の発見を基礎とする考え方である。ケプラーが天文観測のデータから惑星の運動を解き明かし、ガリレオが力学の端緒を開いて400年。以来、科学の発展を担ってきたニュートン、アインシュタインなどの物理学者たちの苦悩やひらめきを手がかりに、科学的思考とは何かを探る。彼らの足跡、物理学を支える意味を掘り下げ、人間がいかにして科学という考え方を築き、受け継いできたかを明らかにしていく。

920円
102375-9

2376 江戸の災害史
— 徳川日本の経験に学ぶ

倉地克直 著

江戸時代は大災害が集中した、日本史上でも稀な時期である。江戸を焼き尽くした明暦の大
火、富士山の噴火、日本史上最大級の宝永地震、度重なる飢饉などの記憶は今も語り継が
れて入っている。一方、幕府や藩、地域社会、家の各レベルで人が防災に取り組んだのも江戸時
代に入ってからだった。いかに守るシステムはいかに形成され、いかに機能しなくなった
のか。災害と防災から見えてくる新たな江戸三百年史の試み。

860円
102376-6

2378 保守主義とは何か
— 反フランス革命から現代日本まで

宇野重規 著

21世紀以降、保守主義者を自称する人が増えている。フランス革命による急激な進歩主義へ
の違和感から、エドモンド・バークに端を発した保守主義は、今では新自由主義、伝統主義
復古主義など多くのイデオロギズムを包み、都合よく使われている感がある。本書は、18世紀から現
代日本に至るまでの軌跡を辿り、思想的・歴史的に保守主義を明らかにする。さらには、騙
りや迷走が見られる今、再定義を行い、そのあり方を問い直す。

800円
102378-0

2379 元老 — 近代日本の真の指導者たち

伊藤之雄 著

明治憲法成立後の1890年代以降、天皇の特別な補佐として、首相選出を始め、内閣の存
廃、戦争、条約改正など重要国務を取り仕切った元老。近代日本は、伊藤博文、山県有朋、
西園寺公望ら元老8人の指導下にあった。非公式な組織の1人、当初は政治の黒幕として批
判されたが、昭和初期の軍部台頭下では未成熟な立憲国家を補う存在として期待が高まる。
本書は、半世紀にわたり権力中枢にいた元老から描く近代日本の軌跡である。

880円
102379-7

2382 シェイクスピア
— 人生劇場の達人

河合祥一郎 著

ウィリアム・シェイクスピア（1564～1616）は、世界でもっとも知られた文学者だ
ろう。「マクベス」や「ハムレット」などの名作は読み継がれ、世界各国で上演され続けて
いる。本書は、彼が生きた動乱の時代を踏まえ、その人生や作風、そして作品の奥底に流れ
る思想を読み解く。「万の心を持つ」と称された彼の作品は、喜怒哀楽を通して人間を映し
出す。そこから今に通じる人生哲学も汲み取れるはずだ。

820円
102382-7

2384 ビッグデータと人工知能
— 可能性と畏を見極める

西垣 通著

ビッグデータ時代の到来、第三次AI（人工知能）ブームとディープラーニングの登場、さ
らに進化したAIが2045年に人間の知性を凌駕するというシンギュラリティ予測……。
人間とAIはこれからどこへ向かっていくのか。本書は基礎情報をもとめて現在の動向
と論点を明快に整理し分析。技術万能主義に警鐘を鳴らし、知識増幅と集合知を駆使するこ
とによって拓かれる未来の可能性を提示する。

780円
102384-1

2386 悪意の心理学
— 悪口、嘘、ヘイト・スピーチ

岡本真一郎 著

嘘、皮肉、罵倒、偏見……。面と向かっての会話であれ、ネットでのやりとりであれ、言葉
によるコミュニケーションはしばしば暴走し、相手に対して「悪意」の牙を剥く。これらは
いじめや差別、クレームやセクハラ、政治家の問題発言を生む。一方で、意図していない
のに加害者になってしまうこともある。悪意はなぜ生まれ、どう表現されるのか。どうすれ
ば、悪意に立ち向かえるのか。社会心理学・言語心理学の観点から考察。

900円
102386-5

2388 人口と日本経済
— 長寿、イノベーション、経済成長

吉川 洋著

人口減少が進み、働き手が減っていく日本。財政赤字は拡大の一途をたどり、地方は「消滅」
の危機にある。もはや衰退は不可避ではないか。そんな思い込みに対し、長く人口問題
と格闘してきた経済学は「否」と答える。経済成長の鍵を握るのはイノベーションであり、
日本が世界有数の長寿国であることこそチャンスなのだ。日本に蔓延する「人口減少ベシミ
ズム（悲観論）」を排し、日本経済の本当の課題に迫る。

760円
102388-9

2389 通貨の日本史
— 無文銀銭、富本銭から
電子マネーまで

高木久史 著

都の建設のため国産銭が作られた古代、中国からの輸入銭に頼った中世、石見銀山の「シル
バーラッシュ」が世界経済をも動かした戦国時代、財政難に苦みめられた江戸の改革者たち、
帝国日本の通貨政策……。無文銀銭が登場した7世紀から現在まで、通貨をめぐる歴史はエ
ピソードに事欠かない。通貨政策に大きな影響を与えてきた庶民の事情にも着目しながら、
その歩みをたどる。今も昔も私たちが悩ませる、お金をめぐる通史。

840円
102389-6

2391 競馬の世界史
— サラブレッド誕生から
21世紀の凱旋門賞まで

本村凌二 著

中東生まれのアラブ馬を始祖とし、イギリスで誕生したサラブレッド。この純血種は名馬エ
クリプスの登場で伝説化され、欧米から世界中に広まった。ダービーなど若駒が競い合うク
ラシックレースが各国で始まって人気を博し、20世紀以降、凱旋門賞をはじめとするビツ
グレースが創設された。観衆の胸を躍らせた名勝負の舞台裏では、人と馬のいかなる営みが
あったのか。優勝たちが演じた筋書きのないドラマを世界史としてたどる。

840円
102391-9

2392 中国の論理
— 歴史から解き明かす

岡本隆司 著

同じ「漢字・儒教文化圏」に属すイメージが強いにもかかわらず、私たちは中国や中国人を理解して
いると考えるが。だが「反日」なのに日本で「爆買」「一ツの中国」「社会主義市場経済」
など、中国では矛盾がそのまま現実となる。それはなぜか。本書は、「歴史をひもときつ
つ、目の前の現象を追うだけでは見えない中国人の思考回路をさぐり、切っても切れない隣
人」とつきあうためのヒントを示す。

820円
102392-6

2393 シベリア出兵

—近代日本の忘れられた七年戦争

麻田雅文 著

1917年11月に勃発したロシア革命。共産主義勢力の拡大に対して翌年8月、反革命軍救出を名目に、日本は極東ロシアへ派兵、シベリア中部のバイカル湖畔まで占領する。だがロシア人の傀儡政権は機能せず、バルチザンや赤軍に敗退を重ねる。日本人虐殺事件の代償を求め、北サハリンを占領するなど、単独で出兵を続行するが……。本書は、増派と撤兵に揺れる内政、酷寒の地での7年間にわたる戦争の全貌を描く。

860円
102393-3

2394 難民問題

—イスラム圏の動揺、EUの苦悩、日本の課題

墓田 桂 著

シリアなどイスラム圏では紛争が続き、大量の難民が発生している。2015年9月、溺死した幼児の遺体写真をきっかけに、ドイツを中心に難民受け入れの輪が広がった。だが同年11月のパリ同時多発テロ事件をはじめ、欧州で難民・移民の関係した事件が続発。16年6月、EU離脱を決めたイギリス国民投票にも影響した。苦しむ難民を見過ごしてよいのか、だがこのままでは社会が壊れかねない。欧州の苦悩から日本は何を学ぶか。

860円
102394-0

2395 ショパン・コンクール

—最高峰の舞台を読み解く

青柳いづみこ 著

ポーランドのワルシャワで五年に一度開催されるショパン・コンクール。一九二七年の創設以来、紆余曲折を経ながらも多くのスターを生み出してきた。ピアノストをめざす若者の憧れの舞台であり、その結果は人生を大きく左右する。本書では、その歴史を俯瞰しつつ、二〇一五年大会の模様を現地からレポート。客観的な審査基準がない芸術をどう評価するか、日本人優勝者は現れるのか。コンクールを通して音楽界の未来を占う。

880円
102395-7

2396 周—理想化された古代王朝

佐藤信弥 著

紀元前11世紀から前256年まで続いた古代中国の王朝である周。太公望や周公旦などの建国の功臣、孔子や老子といった諸子百家、斉の桓公ら春秋の五覇などが名高い。また、封建制や共和制など、周に由来するといわれる政治システムは多く、孔子ら儒家によって理想化されて伝えられてきた。では、その実態はいかなるものだったか。近年、陸統と発掘される金文や甲骨文などの当時の史料から、王朝の実像を再現する。

820円
102396-4

2398 地球の歴史(上)

—水惑星の誕生

鎌田浩毅 著

地球は太陽系の数ある惑星のなかで唯一環境が安定した「水惑星」である。生命が生まれ、進化を遂げることができたのはなぜか。上巻では一三八億年前の宇宙誕生「ビッグバン」から説き起こし、銀河系や太陽系、そして地球が分化する過程を追う。灼熱のマグマの海だった地球は、マグマの冷却や大陸の分裂・合体を繰り返しながら、厚い大気の層と穏やかな海を持つに至った。全三巻でたどる地球四六億年の旅がここから始まる。

880円
102398-8

2399 地球の歴史(中)

—生命の登場

鎌田浩毅 著

厚い大気の層と穏やかな海を持つ地球。中巻では生命の誕生という地球史最大の謎に迫る。海で生まれた小さな生命は、光合成、呼吸、多細胞化、有性生殖といったさまざまな仕組みを獲得し、ついには重力や乾燥した大気をも克服して陸上に進出する。一方、磁場の形成や地球全体が凍結した氷河時代、オゾン層の形成など、地球環境も変化を重ねてきた。「生命の惑星」地球と生物が共進化するダイナミズムを追う。

840円
102399-5

2400 地球の歴史(下)

—人類の台頭

鎌田浩毅 著

超大陸の分裂と超巨大噴火によって九五%もの生物が絶滅した地球。生き残った生物が進化を遂げて中生代は恐竜の時代となるが、これまで地球が経験しなかったほどの隕石衝突によって再びほとんどの生物が絶滅する。六六〇〇万年前から始まる新生代は哺乳類の時代であり、やがて人類が誕生する。激変する地球環境のなかで、折り返し地点に在る「文明の惑星」はどうなるのか。全三巻でたどる地球四六億年の旅、完結篇。

880円
102400-8

2401 応仁の乱

—戦国時代を生んだ大乱

呉座勇一 著

室町後期、諸大名が東西両軍に分かれ、京都市街を主戦場として戦った応仁の乱(一四六七〜七七)。細川勝元、山名宗全という時の実力者の対立に、将軍後継問題や管領家畠山・斯波兩氏の家督争いが絡んで起きたとされる。戦国乱世の序曲とも評されるが、高い知名度と対照的に、実態は十分知られていない。いかなる原因で勃発し、どう終結に至ったか。なぜあれほど長期化したのか。日本史上屈指の大乱を読み解く意欲作。

900円
102401-5

2402 現代日本外交史

—冷戦後の模索、首相たちの決断

宮城大蔵 著

米ソ冷戦が終わり、日本は経済大国として平和を謳歌すると思われた。だが、1991年の湾岸戦争で状況は一変する。非自民の細川政権を皮切りに連立政権の時代に入った日本を、北朝鮮核危機、テロとの戦い、中国台頭による緊張の高まりといった安全保障問題が揺さぶる。さらに経済危機、歴史認識、沖縄米軍基地、北方領土など、冷戦後の25年は危機の連続だった。16政権の苦闘をたどり、日本外交の課題に迫る。

880円
102402-2

2404 ラテンアメリカ文学入門

—ボルヘス、ガルシア・マルケスから新世代の旗手まで

寺尾隆吉 著

一九六〇〜七〇年代に旋風を巻き起こし、世界に強い衝撃をもたらしたラテンアメリカ文学。その潮流はどのように生まれ、いかなる軌跡をたどったのか。ボルヘス、ガルシア・マルケス、ボラガス、ジョヤ、ボレーニョら作家の活動と作品はもとより、背景となる歴史、世相、出版社の販売戦略なども描き出す。世界的ブーム後の新世代の台頭にも迫った本書は、広大で肥沃な新しい世界へ読者を誘うだろう。ブックガイドにも最適。

780円
102404-6

2405 欧州複合危機
— 苦悶するEU、揺れる世界

遠藤 乾 著

一九九三年に誕生し、単一通貨ユーロの導入などヨーロッパ統合への壮大な試行錯誤を続けてきたEU（欧州連合）。だが、たび重なるユーロ危機、大量の難民流入、競発するテロ事件、イギリスの離脱決定など、厳しい試練が続いている。なぜこのような危機に陥ったのか、EUは本当に崩壊するの、その引き金は何か、日本や世界への影響は？。欧州が直面する複合的な危機の本質を解き明かし、世界の今後を占う。

860円
102405-3

2407 英単語の世界

— 多義語と意味変化から見る

寺澤 盾 著

英語は世界中の言語から多くの語彙を吸収し、既存の英単語も新しい意味を獲得してきた。"dog（長靴）"に"コンピュータの起動"の意味が生じ、固定して動かない状態を指した"bug（速い）"を意味するようになるなど、一見理解しがたい変化もある。しかし、こうした変化は、ランダムにおこったのではなく、何らかの連関関係が存在するのだ。英単語の多様な意味をつなぐものは何か。その秘密に迫る。

780円
102407-7

2408 醤油・味噌・酢はすごい
— 三大発酵調味料と日本人

小泉武夫 著

料理の素材を引き立て、味付けの決め手となる調味料。古くから用いられてきた発酵調味料の醤油・味噌・酢は、日本の食卓に欠かすべからず、海外での需要も年々高まっている。本書は、発酵学の第一人者がこれら三大調味料の製造工程や成分をわかりやすく解説。我が国の食文化に根ざした歴史や魅力を述べる。さらには、近年の科学的知見をふまえ、血圧上昇や肥満の抑制、発がん予防などの驚くべき効能も紹介する。

800円
102408-4

2409 贖罪のヨーロッパ
— 中世修道院の祈りと書物

佐藤彰一 著

中世初期、アイルランドの聖コルナンバヌスによって、自らの心の中に罪を自覚し、意識的にえぐり出す思想が誕生する。この「贖罪」思想は社会に大きな影響を与え、修道院の生活を厳しく規定していく。その絶え間ない祈りと労働からは、華麗な写本も生み出された。本書は、ベネディクト戒律からカロリング・ルネサンスを経て、シスター派の誕生に至るまで、修道制、修道院と王侯貴族との関係、経済、芸術等から読み解く通史である。

920円
102409-1

2410 ポピュリズムとは何か
— 民主主義の敵か、改革の希望か

水島治郎 著

イギリスのEU離脱、反イスラムなど排外主義の広がり、トランプ米大統領誕生……世界で猛威を振るうポピュリズム。「大衆迎合主義」とも訳され、民主主義の脅威と見られがちだ。だが、ラテンアメリカではエリート支配から人民を解放する原動力となり、ヨーロッパでは既成政党に改革を促す効果も指摘される。一方向的に断罪すれば済むものではない。西欧から南北アメリカ、日本まで席卷する現状を分析し、その本質に迫る。

820円
102410-7

石橋湛山賞受賞

2411 シベリア抑留
— スターリン独裁下、
「収容所群島」の実像

富田 武者 著

第2次世界大戦の結果、ドイツや日本など400万人以上の将兵、数十万人の民間人が、ソ連領内や北朝鮮などのソ連管理地域に抑留され、「賠償」を名目に労働を強制された。いわゆるシベリア抑留である。これはスターリン独裁下、主に政治犯を扱った矯正労働収容所がモデルの非人道的システムであり多くの悲劇を生む。本書はその起源から、ドイツ軍捕虜、日本人が被った10年に及ぶ抑留の実態を詳述、その全貌を描く。アジア・太平洋賞特別受賞

860円
102411-4

2412 俳句と暮らす

小川軽舟 著

花鳥風月を詠む優雅な趣味の世界——これが俳句のイメージだろう。だが、日々の小さな発見を折に触れ書き留められるところにこそ、俳句本来の魅力がある。本書では、俳人として単身赴任中のサラリーマンでもある著者が、「飯を作る」「会社で働く」「妻に会う」「病気で死ぬ」などさまざまな場面を切り取りつつ、俳句とともに暮らす生活を提案。平凡な日常をかけがえのない記憶として残すための俳句入門。

780円
102412-1

2414 入門！ 進化生物学
— ダーウィンから
DNAが拓く新世界へ

小原嘉明 著

生物はなぜこんなに多様なかたちをしているのか？ 餌の種類に応じてくちばしの形を変えた鳥、雄が交尾後の雌に貞操帯でフタをするトンボなど、多様な姿や驚きの行動が、どのようして生じたのかを解説。さらに中立進化説、分子遺伝学や行動生物学といった最新の知見を紹介し、「挑戦する雄」が新たな種を生み出すとの新説や、過剰な適応は絶滅への道であることを提唱する。知的興奮に満ちた生き物好き必読の書。

880円
102414-5

2415 トルコ現代史
— オスマン帝国崩壊から
エルドアン時代まで

今井宏平 著

1923年に建国したトルコ共和国。革命を主導し、建国の父となったムスタファ・ケマルは、共和主義・民族主義・人民主義・国家資本主義・世俗主義・革命主義という6原則を掲げ国家運営の舵を取った。それから約1世紀、数度のクーデタ、オザル首相の政治改革を経たトルコでは、エルドアンが政敵を排除しながら躍進を続けている。ケマルが掲げた6原則を通して、トルコの百年の足跡を振り返る。

900円
102415-2

2416 浄土真宗とは何か
— 親鸞の教えとその系譜

小山聡子 著

日本最大の仏教宗派、浄土真宗。開祖・親鸞は、絶対他力の教え、悪人正機説など、思想の革新性で知られていた。本書では、さらに平安時代の浄土信仰や、密教呪術とのつながりに目を向け、親鸞の教えと、それがどのように広まったのかを、豊富な史料とエピソードに基づき描きました。師・法然から、親鸞、その子孫、室町時代に教団を確立した蓮如、そして東西分裂後まで、浄土真宗の思想と歴史を一望する。

860円
102416-9

2418 沖繩問題

— リアリズムの視点から

高良倉吉 編著

米軍海兵隊の普天間飛行場の移設をめぐる国と沖縄県の対立は根深い。保守と革新の単純化した構図でとらえられることの多い沖縄問題をどう考えればよいのか。本書では琉球処分、沖縄戦から米国統治、そして日本復帰という近代以降の歴史を踏まえ、特に沖縄県の行政に注目し、経済振興と米軍基地問題という二大課題への取り組みを追う。理想と現実のはざまを苦闘しつつも、リアリズムに徹する沖縄の論理を示す。

820円
102418-3

2419 ウニはすごい バッタもすごい

— デザインの生物学

本川達雄 著

ハチは、硬軟自在の「クチクラ」という素材をバネにして、一秒間に数百回も羽ばたくことができる。アサリは天敵から攻撃を受けると、通常の筋肉より25倍も強い力を何時間でも出し続けられる「キヤッチ筋」を使って殻を閉ざす……。いきもの体のつくりは、かたちも大きさも千差万別。バッタの跳躍、クラゲの毒針、ウシの反芻など、進化の過程で姿を変え、武器を身につけたいきものたちの、巧みな生存戦略に迫る。

840円
102419-0

2420 ファイリピン

— 急成長する若き「大国」

井出穰治 著

かつて「アジアの病人」と呼ばれたフィリピン。近年、サービス業主導で急成長し、経済規模は10年強で3倍となった。人口は1億人を突破し、国民の平均年齢は25歳。「アジアの希望の星」との誉れを聞かれる。一方、貧富の格差はなお深刻で、インフラも不十分。ドゥテルテ大統領の暴言や強権的手法は世界から危惧されている。急成長著しい島国の魅力と課題に、IMFでフィリピン担当を務めたエコノミストが迫る。

800円
102420-6

2421 織田信長の家臣団

— 派閥と人間関係

和田裕弘 著

織田家中で最古参の重鎮・佐久間信盛は、本願寺攻めでの無為無策を理由に信長から突如追放された。一見理不尽な「リストロ」だが、婚姻や養子縁組による盤石の人脈を築けなかった結果とも言える。本書では、一万を越す大軍勢を任された柴田勝家・羽柴秀吉・滝川一益・明智光秀ら軍団長と、配下の武将たちの関係、地縁・血縁などから詳細に検証。これまで知られなかった「派閥」の構造に迫り、各軍団の特性を明らかにする。

900円
102421-3

2424 帝国大学

— 近代日本のエリート育成装置

天野郁夫 著

今なお大きな存在感を持つ旧七帝大。明治維新後、西欧の技術を学ぶため、一八八六年の帝国大学令により設立が始まった。本書では、各地域の事情に応じて設立・拡充される様子、帝大生の学生生活や就職先、教授たちの研究と組織の体制、予科教育の実情、太平洋戦争へ向かう中での変容などを豊富なデータに基づき活写。建学から戦後、国立総合大学に生まれ変わるまでの七〇年間を追い、エリート七大学の全貌を描く。

860円
102424-4

2428 自民党 — 「二強」の実像

中北浩爾 著

自民党は結党以来38年間にわたり政権を担い、2度「下野」したが、2012年に政権に復帰。一強状態にある。その間、自民党は大きな変貌を遂げた。本書は、関係者へのインタビューや数量的なデータなどを駆使し、派閥、総裁選挙、ポスト配分、政策決定プロセス、国政選挙、友好団体、地方組織、個人後援会、理念といった多様な視点から、包括的に分析。政権復帰後の自民党の特異な強さと脆さを徹底的に明らかにする。

880円
102428-2

2430 謎の漢字

— 由来と変遷を調べてみれば

笹原宏之 著

スマホやパソコンでは、顰、嫵、嬾、嗔、𪗇、𪗈といった不思議な文字を打つことができる。しかし、いったいどう読むのか、何に使うのか。これらの漢字の由来を徹底調査。また、江戸時代の五代目市川團十郎が先代「海老蔵」を憚って自分はザコエビだから「蝦蔵」と称したという説を検証する。さらに「止めるかはねるか」等、テストの採点基準を科挙にさかのぼって大探索。漢字の不思議をめぐると楽しいエッセイ。

800円
102430-5

2431 定年後

— 50歳からの生き方、終わり方

楠木 新著

自営業などを除けば誰もがいつか迎える定年。社会と密接に関わってきた人も、組織を離れてしまうと、仕事や仲間を失って孤立しかねない。お金や健康、時間のゆとりだけでは問題は解決しない。家族や地域社会との良好な関係も重要だ。第二の人生をどう充実させたらよいか。シニア社員、定年退職者、地域で活動する人たちへの取材を通じ、定年後に待ち受け「現実」を明らかにし、真に豊かに生きるためのヒントを提示する。

780円
102431-2

2433 すごい進化

— 「一見すると不合理」の謎を解く

鈴木紀之 著

スズメバチにうまく擬態しきれないアブ、他種のメスに求愛してしまうテントウムシのオス。一見不合理に見える生き物たちのふるまいは、進化の限界を意味しているのか。それとも、意外な合理性が隠されているのだろうか。1970年代に生物学に革新をもたらした「ハンディキャップ理論」「赤の女王仮説」から、教科書には載っていない最新仮説までたっぷり紹介。わたしたちの直感を裏切る進化の秘密に迫る！

860円
102433-6

2434 物語 オランダの歴史

— 大航海時代から「寛容」国家の現代まで

桜田美津夫 著

16世紀、スペイン王権との戦いから「低地諸州」北部であるオランダは独立。商機を求めてアジアや新大陸へ進出し、17世紀、新教徒中心の共和国は、世界でも最有力の国家となった。だが四次にわたる英蘭戦争、フランス革命の余波により没落。ナポレオン失脚後は王国として復活し、20世紀以降、寛容を貫く先進国として異彩を放つ。本書は、大航海時代から現代まで、人物を中心に政治、経済、絵画、日本との交流などを描く。

900円
102434-3

2437 中国ナショナリズム
— 民族と愛国の近現代史

小野寺史郎 著

二一世紀に入り、尖閣諸島や南沙諸島の領有問題などで中国の愛国的な行動が目につく。なぜ、いま中国人はナショナリズムを昂揚させるのか。共産党の愛国主義教育や中華思想による強国意識からなのか。西洋列強や日本に蚕食されてきた一九世紀半ばから、日本の侵攻。さらに戦後中国が強大化するなか中華民族にとってナショナリズムとは何であったのか。本書は、清末から現代までの二一〇年の歴史のなかで読み解く。

860円
102437-4

2439 入門 公共政策学

— 社会問題を解決する「新しい知」

秋吉貴雄 著

社会問題はますます複雑になり、既存の学問では十分な解決策を提示できない——そうした意識から生まれた「公共政策学」。政治学や行政学、経済学など多分野の知識を総合化した新しい学問だ。専門家のみならず、市民の「知」も取り入れるなど、問題解決に役立つ学問へと進化している。本書は、少子高齢化、シャッター商店街、生活保護、学力低下など、日本の課題を例に取り、公共政策学のエッセンスを伝える入門書である。

800円
102439-8

2440 バルカン

—「ヨーロッパの火薬庫」の歴史

マーク・マズロー 著
井上廣美 訳

南東ヨーロッパに位置するバルカン半島。オスマン帝国時代、住民の多くを占める正教徒たちは平和裡に暮らしていた。19世紀、帝国が衰退すると、彼らは民族意識に目覚め、ギリシャ、セルビア、ブルガリアなどが独立を果たした。だがそれら新興国家に待ち受けていたのは、欧州列強の思惑と果てなき民族対立だった。ユーゴ紛争とともに20世紀が終わるまでを描いた、いま最も注目される歴史家の名著を翻訳。監修・村田奈々子。

920円
102440-4

2442 海賊の世界史

— 古代ギリシアから大航海時代、現代ソマリアまで

桃井治郎 著

古代ギリシアのヘロドトスは海賊たちを英雄とみなし、ローマのキケロは「人類の敵」と罵倒した。スペインとオスマン帝国が激突したレバントの海戦の主役は海賊であり、大英帝国を裏面から支えたのもカリブ海に跋扈するバツカニア海賊だった。19世紀、欧米の覇権主義で海賊は滅びたが、現代のソマリア海賊として甦る。キリスト教とイスラームの対立、力と正義の相克など、多様な視座で読み解く、もう一つの世界史。

860円
102442-8

2443 観応の擾乱

— 室町幕府を二つに裂いた足利尊氏・直義兄弟の戦い

亀田俊和 著

観応の擾乱は、征夷大將軍・足利尊氏と、幕政を主導していた弟の直義との対立から起きた全国規模の内乱である。室町幕府中枢が分裂したため、諸將の立場も真二つに分かれた。さらに権力奪取を目論む南朝も蠢き、情勢は二転三転する。本書は、戦乱前夜の動きも踏まえて一三五〇年から五二二年にかけての内乱を読み解く。一族、執事をも巻き込んだ争いは、日本の中世に何をもたらしたのか。その全貌を描き出す。

860円
102443-5

2445 物語 ポーランドの歴史

— 東欧の「大国」の苦難と再生

渡辺克義 著

十世紀に産声をあげたポーランド王国は、十四〜十六世紀に隆盛を極めるが、王朝断絶後、衰退に向かう。十八世紀、ロシア・プロイセン・オーストリアによる分割で国家は消滅。第一次大戦後に東の間の独立を勝ち取るも、第二次大戦中にはドイツとソ連に再び国土を蹂躪された。冷戦下の社会主義時代を経て一九八九年に民主化を達成。潜在力を秘めた地域大国は今、どこへ向かうのか。栄光と悲運に彩られた国と民族の歴史。

820円
102445-9

2446 人口減少時代の土地問題

—「所有者不明化」と相続、空き家、制度のゆくえ

吉原祥子 著

日本の私有地の約20%で、所有者がわからない——。持ち主の居所や生死が判明しない土地の「所有者不明化」。この問題が農村から都市に広がっている。空き家、耕作放棄地問題の本質であり、人口増前提だった日本の土地制度の矛盾の露呈だ。過疎化、面倒な手続き、地価の下落による相続放棄、国・自治体の受け取り拒否などで急増している。本書はその実情から、相続・登記など問題の根源、行政の解決断念の実態までを描く。不動産協会賞受賞

760円
102446-6

2447 競争社会の歩き方

— 自分の「強み」を見つけるには

大竹文雄 著

協力を否定し、利己的で、やられたらやり返す——。成績に順位をつけず、競争より協力を重視した教育を受けた子どもは、そうした価値観をもつという。それはなぜか。競争という点と、日本では否定的にそれがちがいが、自分の強みを見つけ、社会を活性化させる機会でもある。チケット転売問題から、政府が取り組む女性活躍推進、社会保障給付の問題まで、競争社会を生き抜くための大きなヒントを与える。

820円
102447-3

2450 現代日本の地政学

— 13のリスクと地経学の時代

日本再建イニシアティブ 著

国家の行動を地理環境と結びつけて考える「地政学」が復活している。米国主導の秩序と日米同盟に守られていた日本だが、中国の軍拡による脅威は深刻だ。さらに経済力で地政学的利益の実現を目指す中国の手法は「地経学」時代の到来を示す。北朝鮮の核やロシアの動向のほか、エネルギー、サイバー戦争、気候変動など地球規模のリスクの影響も大きい。トランプ米政権のもと、日本がとるべき戦略を俊英13人が描く。

900円
102450-3

2451 トラクターの世界史

— 人類の歴史を変えた「鉄の馬」たち

藤原辰史 著

19世紀末にアメリカで発明されたトラクター。直接土を耕す苦役から人類を解放し、作物の大量生産を実現。近代世界のシンボルとしてアメリカは民間主導、ソ連、ナチス・ドイツ、中国は国家主導により、世界中に普及する。だが農民や宗教界の拒絶、化学肥料の大量使用、土壌の圧縮、多額のローンなど新たな問題、軋轢も生む。20世紀以降この機械が農村・社会・国家に何をもたらしたか、日本での特異な発展にも触れて描く意欲作。

860円
102451-0

2452 齋宮さいくう
—伊勢齋王たちの生きた古代史
榎村寛之 著
天皇の代替わりことに占いで選ばれ、伊勢神宮に仕える未婚の皇女——それが齋王であり、その住まいが齋宮である。飛鳥時代から鎌倉時代まで六六〇年にわたって続いた齋宮を、あらゆる角度から紹介し、齋王一人一人の素顔をのぞかせる。『伊勢物語』のモデルとなった齋王、皇后となり怨霊となった齋王、悲恋に泣いた齋王……彼女たちは都を離れた伊勢で何を祈り、何を思っているのか。古代史の新たな姿が浮かびあがる。
920円
102452-7

2453 イスラームの歴史
—1400年の軌跡
カレン・アームストロング 著
小林朋則 訳
一六億人にもなるイスラーム教徒。だが、行動原理は外からは理解しづらく、欧米や日本からの偏見は根強い。本書は、世界的宗教学者がイスラーム一四〇〇年の歴史を概観。誕生から近代化、世俗化との葛藤までを宗教運動や思想的背景とともに解説する。十字軍以降、西洋は歪んだイスラーム像をつくり文明の敵と見なされてきたと指摘し、比較宗教の視点と事実の掘り起こしから、理解の修正を迫る。監修・池田美佐子。
900円
102453-4

2454 人口減少と社会保障
—孤立と縮小を乗り越える
山崎史郎 著
国民皆年金・普保険と社会保障方式を特徴とする日本の社会保障。雇用の安定と人口増加の会の孤立してきた問題が浮上した。加えて、人口減少が社会保障の土台を揺るがしている。「ミスター介護保険」と呼ばれ、地方創生総括官も務めた著者が現状の問題点を指摘し、孤立を防ぐ方法、高齢者偏重から全世代型への転換など新しい方策を示す。
880円
102454-1

2455 日本史の内幕
—戦国女性の素顔から
幕末・近代の謎まで
磯田道史 著
西郷隆盛の性格は、書状からみえる。豊臣秀頼の父親は本当に秀吉なのか。著者が原本を見つけた龍馬の手紙の中身とは。司馬遼太郎と伝説の儒学者には奇縁があった——日本史にはたくさん謎が潜んでいる。著者は全国各地で古文書を発見・解説し、真相へと分け入ってゆく。歴史の「本当の姿」は、古文書の中からしかみえてこない。小説や教科書ではわからない、日本史の面白さ、魅力がここにある！
840円
102455-8

2456 物語 フィンランドの歴史
—北欧先進国「バルト海の乙女」の
800年
石野裕子 著
古来スウェーデン王国下にあったフィンランド。19世紀にロシア帝国下、「大公国」となり広範囲な自治を獲得。ロシア革命後、独立するが内戦・混迷する。第2次世界大戦では、ソ連に侵略され領土割譲。その後ナチ・ドイツに接近し、近親民族の「解放」を唱えソ連に侵攻するが敗退。戦後は巨大な隣国を意識した中立政策を探りつつ、教育、福祉、デザイン、IT産業などで特異な先進国となった。本書は、「森と湖の国」の苦闘と成功を描く。
880円
102456-5

2457 光明皇后
—平城京にかけた夢と祈り
瀧浪貞子 著
大宝元年（七〇一）、藤原不比等の子として生まれ、同い年の聖武天皇と同じ邸宅で育った光明子。やがて皇后となり、天武・文武・聖武と続く皇統の維持が最大の使命となる。だが、長屋王の変、相次ぐ遷都、身近な人々の死など、動乱の荒波は彼女一人ひとりの安らぎも与えることはなかった。「稀代の女傑」か、慈悲深い篤信の女性か。毀誉褒貶半ばする光明皇后の心奥まで光を当て、天平のヒロインの実像にダイナミックに迫る。
880円
102457-2

2459 聖書、コラン、仏典
—原典から宗教の本質をさぐる
中村圭志 著
宗教にはそれぞれ教典がある。開祖やその弟子たち、あるいは教団によって書かれ、編まれ、受け継がれた「教えの原点」だ。時代が変わり、教義が揺れる時に、人々が立ち返る場所としての原典もいえよう。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教から、ヒンドゥー教や神道、儒教・道教まで。歴史を超えて受け継がれてきた教典はどのように生まれ、何を私たちに伝えようとしているのか。信仰の核心に迫る新しい宗教ガイド。
900円
102459-6

2460 脳の意識 機械の意識
—脳神経科学の挑戦
渡辺正峰 著
物質と電氣的・化学的の反応の集合体にすぎない脳から、なぜ意識は生まれるのか——多くの哲学者や科学者を悩ませた「意識」という謎。本書は、この不可思議な領域へ、クオリアやニューロンなどの知見の手がかりに迫る。さらには実験成果などを踏まえ、人工意識の可能性に切り込む。現代科学のホットトピックであり続ける意識研究の最前線から、気鋭の脳神経科学者が、人間と機械の関係が変わる未来を描きだす。
920円
102460-2

2461 蒙古襲来と神風
—中世の対外戦争の真実
服部英雄 著
鎌倉中期、日本は対外戦争を経験する。二度にわたる蒙古襲来（元寇）である。台風が吹き、文永の役では敵軍が一日で退散し、弘安の役では集結していた敵船が沈み、全滅したとされる。だが、それは事実なのか。本書では、通説の根拠となった諸史料の解釈を批判的に検証。戦闘に参加した御家人・竹崎季長が描かせた『蒙古襲来絵詞』ほか、良質な同時代史料から真相に迫る。根強い「神風史観」をくつがえす、刺激に満ちた一冊。
860円
102461-9

2463 兼好法師
—徒然草に記されなかった真実
小川剛生 著
兼好は鎌倉時代後期に京都・吉田神社の神職である卜部家に生まれた。六位藏人・左兵衛佐や経歴は、兼好に仕えた後、出家して「徒然草」を著す——この、現在広く知られる彼の出自や経歴は、徒然草に捏造されたものである。著者は同時代史料をつぶさに調べ、鎌倉、京都、伊勢に残る足跡を辿りながら、「徒然草」の再解釈を試みる。無位無官のまま、自らの才知で中世社会を渡り歩いた「都市の隠者」の正体を明らかにする。
820円
102463-3

2464 藤原氏—権力中枢の一族

倉本一宏 著

「大化改新」で功績を残したとされる藤原氏。律令国家を完成させた不平等から四家の分立、ミウチ関係を梃子に天皇家と一体化した摂関時代まで権力中枢を占めつづける。中世の武家社会を迎えても五摂家はじめ諸家は根拠な地位を占め、その末裔は近代以降も活躍した。本書は古代国家の成立過程から院政期、そして中世に至る藤原氏千年の動きをたどる。権力をいかにして掴み、後世まで伝えていったかを描く。

900円
102464-0

2465 日本軍兵士—アジア・太平洋戦争の現実

吉田 裕 著

310万人に及ぶ日本人犠牲者を出した先の大戦。実はその9割が1944年以降と推算される。本書は「兵士の目線・立ち位置」から、特に敗色濃厚になった時期以降の戦争の実態を追う。異常に高い餓死率、30万人を超えた海没死、戦場での自殺と「処置」特攻、体力が劣悪化した補充兵、靴に鮫皮まで使用した物資欠乏……。勇猛と語られる日本兵たちが、特異な軍事思想の下、凄惨な体験を強いられた現実を描く。アジア・太平洋賞特別賞、新書大賞受賞

820円
102465-7

2467 剣と清貧のヨーロッパ—中世の騎士修道会と托鉢修道会

佐藤彰一 著

俗世間を離れ、自らの心の中を見つめる修道院。だが12世紀、突如その伝統から大きく離れた修道会が生まれた。騎士修道会と托鉢修道会である。かたや十字軍となった聖地エルサレムやイベリア半島、北方で異教徒と戦い、かたや聖フランチェスコが都市のただ中で民衆の信仰のあり方をラディカルに変革した。これら「鬼子」ともいふべき修道会の由来と変遷を、各修道会の戒律や所領経営などにも注目しながら通観する。

880円
102467-1

2470 倭の五王

—王位継承と五世紀の東アジア

河内春人 著

倭の五王とは、中国史書「宋書」倭国伝に記された讃・珍・濟・興・武を言う。邪馬台国による交信が途絶えてから150年を経て、5世紀に中国へ使者を派遣した王たちである。当時、朝鮮半島では高句麗・百濟・新羅が争い、倭もその渦中にあった。本書は、中国への接近の意図や状況、倭国内の不安定な王権や文化レベル、日記における天皇との関係などを中国史書から解説。5世紀の倭や東アジアの実態を描く。古代歴史文化賞優秀作品賞受賞

860円
102470-1

2471 戦前日本のポピュリズム

—日米戦争への道

筒井清忠 著

現代の政治状況を表現するとき用いられる「ポピュリズム」。だが、それが劇場型大衆動員政治を意味するのであれば、日本はすでに戦前期に経験があった。日露戦争後の日比谷燒き打ち事件に始まり、怪写真事件、満洲事変、五・一五事件、天皇機関説問題、近衛文麿の登場、そして日米開戦。普通選挙と二大政党制は、なぜ政党政治の崩壊と、戦争という破壊に至ったのか。現代への教訓を歴史に学ぶ。

920円
102471-8

2472 酒は人の上に人を造らず

吉田 類 著

『土佐日記』の作者・紀貫之は、国司の任を終えた送別の宴で連日、熱烈に歓待された。酒好きが多く、酔うほどに胸襟を開く土地柄なれば、開放的な酒宴は今なお健在、と高知出身の著者は言う。福沢諭吉の名言ならぬ「酒は人の上に人を造らず」を地味でいく著者は、東京の下町をはじめ、北海道、福島、京都、愛媛、熊本など各地を訪ね、出会った人たちと縁を結ぶ。酒場の風情と人間模様を描く、読みごたえたっぷりの紀行エッセイ。

760円
102472-5

2473 人口減少時代の都市

諸富 徹 著

人口減少と高齢化、低成長に直面する日本。だが本場の危機はこれからやって来る。上下水道や交通ネットワークといった身近な公共インフラの維持・更新、空き家問題への対策などには膨大な費用がかかるが、自治体は破産寸前だ。本書ではこの危機を逆に「住みよい都市」実現のチャンスととらえる。投資と効率性の視点から地域内の所得と雇用、独自の財源をもたらず都市経営のあり方は、発展を続けるための戦略を示す。

800円
102473-2

2477 日本の公教育

—学力・コスト・民主主義

中澤 渉 著

教育無償化、学力低下、待機児童など、近年の教育の論点は多岐にわたる。だが、公費で一部もしくは全体が運営される学校教育「公教育」とはそもそも何のためにあるのか。実際に先進国の中で公教育費が少ない日本には、多くの課題が山積している。本書は、学校とそれを取り巻く環境を歴史的背景や統計などのエビデンスを通して、論じる。そこからは、公教育の経済的意義や社会的役割が見えてくるだろう。

880円
102477-0

2479 スポーツ国家アメリカ

—民主主義と巨大ビジネスのはざま

鈴木 透 著

野球、アメフト、バスケットなどの母国アメリカ。国民が熱狂するこれらの競技は、民主主義とビジネスの両立への挑戦を体現している。人種、性の格差解消を先導する一方で、「巨大化したプロスポーツでは、薬物汚染に加え、経営側の倫理が揺らぐ場面もある。大リーグの外国人選手獲得や、トランプ大統領とプロレスの関係は、現代アメリカの何を象徴するのか。スポーツで読む、超大国の成り立ちと現在。

860円
102479-4

2480 理科系の読書術

—インプットからアウトプットまでの28のヒント

鎌田浩毅 著

本を読むのが苦行です——著者の勤務する京都大学でも、難関の入試を突破したにもかかわらず、そう告げる学生が少なくない。本書は、高校までの授業になかった「本の読み方」を講義する。「最後まで読まなくていい」「難しいは著者が悪い」「アウトプットを優先し不要な本は読まない」など、読書が苦手な人でも仕事や勉強を効率よく進めるヒントが満載。文系の人にもおすすめの、理科系の合理的な読書術を伝授する。

820円
102480-0

2481 戦国日本と大航海時代

—秀吉・家康・政宗の外交戦略

900円
102481-7

平川 新著

2482 日本統治下の朝鮮

—統計と実証研究は何を語るか

木村光彦 著

1910年から1945年まで、帝国日本の植民地となった朝鮮。その統治は、政治的には弾圧、経済的には搾取・貧困化という言葉で語られてきた。日本による統治に多くの問題があったことは確かである。だが、それは果たして「収奪」一色だったのか。その後の韓国の発展、北朝鮮の社会主義による国家建設と繋がりはあるのか。本書は、論点を経済に絞り、実証主義に徹し、日本統治時代の朝鮮の実態と変容を描く。

800円
102482-4

2483 明治の技術官僚

—近代日本をつくった長州五傑

柏原宏紀 著

幕末、先進技術を習得すべくイギリスに留学した若き長州藩士たちがいた。伊藤博文、井上馨、山尾庸三、井上勝、遠藤謙助の五人である。出発点を同じくしながら、やがて有力政治家となった伊藤・井上馨と、官僚人生を全うした他の三人。その運命を分けたものは何だったのか。高度な専門知識により工業・鉄道・造幣の分野で活躍した山尾・井上勝・遠藤の足跡を軸に、近代国家形成期に技術官僚が果たした役割を明らかにする。

880円
102483-1

2484 社会学

—わたしと世間

加藤秀俊 著

一五〇年前に充てた安易な訳語のせいで、抽象的で理解しにくい「社会」と「社会学」。だが、社会とは私たちを取りまく身近な世間のことにほかならない。本書では、集団、コミュニティ、ジョン、組織、自我などのキーワードを切り口に、世の中の仕組みをよりよく知ることの学問の本質、方法を述べる。半世紀以上にわたる研究を続けてきた碩学による社会学入門にして、知的好奇心を持ちつづけ、人生を楽しむためのヒント。

780円
102484-8

2486 定年準備

—人生後半戦の助走と実践

楠木 新著

シニア向けライフプラン研修でお金・健康・趣味などが重要と説かれる。だがそれだけでは物足りない。長い定年後を充実させるには、やりたことを見極めて行動に移す準備が必要だ。『定年後』に続く本書は、シニア社員や定年退職者への取材を重ねるなかで著者が新たに発見した、個別的で多様な実例を一挙公開。自分らしい第二の人生を踏み出す上で役立つ具体的ヒントを明かす。巻末に「定年準備のための行動六か条」を掲載。

820円
102486-2

2488 ヤングケアラ―

—介護を担う子ども・若者の現実

澁谷智子 著

ヤングケアラ―とは、家族の介護を行う一八歳未満の子どもの指す。超高齢社会を迎え、介護を担う若い層も増えているが、その影響は彼らの学業や日常生活にも及んでいる。本書はヤングケアラ―の現状について、調査データ、当事者の声、海外の事例、現在の取り組みを紹介。周囲に相談できず孤立したり、進路の選択を左右されたりする状況と向き合うかを考える。人口減少時代の家族のあり方とケアの今後を問う一冊。生協総研賞特別賞受賞

800円
102488-6

2489 リサイクルと世界経済

—貿易と環境保護は両立できるか

小島道一 著

古紙やペットボトルなどの分別収集のイメージが強いリサイクル。だが、回収された使用済み製品は国内で再使用・再生利用されるだけではなく、中古車や鉄スクラップなどは今や日本主力輸出品である。一方、国際的なリサイクルは急速に拡大し、各国による再生資源の獲得競争や、環境汚染を生む有害廃棄物の輸出など、多くの問題も起こっている。二十世紀末から急拡大している知られざる現状と、問題点を明らかにする。大正平正記念賞特別賞受賞

820円
102489-3

2490 ヴィルヘルム2世

—ドイツ帝国と命運を共にした「国民皇帝」

竹中 亨 著

1888年にドイツ皇帝として即位したヴィルヘルム2世(1859~1941)。統一の英雄「鉄血宰相」ビスマルクを罷免し、自ら国を率いた皇帝は、海軍力を増強し英仏露と対立、第一次世界大戦勃発の主要因をつくった。1918年、敗戦とともにドイツ革命が起きるとオランダへ亡命、その地で没す。統一国民国家の草創期、ふたつの世界大戦という激動の時代とともに歩んだ、最後のドイツ皇帝の実像。

820円
102490-9

2491 植物のひみつ

—身近なみどりの「すごい」能力

田中 修 著

なぜウメはサクラより早く開花するのか、タンポポの茎はどうして空洞なのか、イネの根が水に浸かっても生きていられるのはなぜか、緑色のアジサイの花を見かけたら何に注意すればいいのか、ヒマワリはどこまで背が伸びるか、ジャガイモの食べる部分は根か茎か、バナナの皮は滑りやすいというのは本当か……。学校や家庭でよく目にする植物10種の「ひみつ」を紹介し、身近な植物たちに秘められた驚きの能力を解説する。

860円
102491-6

2493 日本語を翻訳するということ

—失われるもの、残るもの

牧野成一 著

「古池や蛙飛び込む水の音」芭蕉のこの俳句を英語で説明すると、「蛙」を frog と frog のどちらで訳すべきだろうか。単数が複数かを決める「擬態語」「雨二モ負ケズ」は許されない。ほかにも「ちらちら」「ピロピロ」などの漢字・擬態語。「雨二モ負ケズ」は漢字カタカナ交じりの表記「顔が能面のようだ」といった比喩など、翻訳困難な日本語表現を紹介。夏目漱石も村上春樹も登場する。海を越えた日本語論。

780円
102493-0

2494 温泉の日本史

— 記紀の古湯、武将の隠し湯 温泉番付

石川理夫 著

日本人と温泉の関わりは古く、三古湯と称される道後、有馬・白浜温泉は「日本書紀」にも出てくる。中世には箱根・熱海・草津・別府などの名湯が歴史の表舞台に現れた。武田信玄や戦国大名が直轄した領内での温泉地は「隠し湯」として知られる。江戸時代に入ると大名や藩士、幕臣らはこぞ湯治旅を楽しむようになり、旅行案内書や温泉番付が登場。初の秘湯ブームも到来した——。多彩なエピソードでつづる通史。

880円
102494-7

2495 幸福とは何か

— ソクラテスから
アラン、ラッセルまで

長谷川 宏 著

幸福とは何か——。この問いに哲学者たちはどう向き合ってきたのか。共同体の秩序と個人の衝突に直面した古代ギリシャのソクラテス、アリストテレスに始まり、道徳と幸福の対立を見据えたイギリス経験論のヒューム、アダム・スミス。さらに人類が世界大戦へ行きついた二〇世紀のアラン、ラッセルまで。ヘーゲル研究で知られる在野の哲学者が、日常の地平から西洋哲学史を捉えなおし、幸福のかたちを描き出す。

880円
102495-4

2496 物語 アラビアの歴史

— 知られざる3000年の興亡

部 勇造 著

アラブについて記された最初の石碑は紀元前九世紀に遡る。メソポタミア・エジプト両文明の影響を受けた地に誕生した諸国家は交易と遊牧と農業で栄え、互いにしのぎを削り、エチオピアやインドとも交渉を持った。西暦七世紀にはこの地にイスラームが誕生し、世界史上大きな影響を与える。二十世紀以降は石油資源をもとに近代化を進めるが、政治的安定からはほど遠い。古代文明から現代まで、中東の核心地帯の三千年を追う。

1100円
102496-1

2498 斗南藩

— 一朝敵 会津藩士たちの苦難と再起

星 亮一 著

二十八万石を誇った会津藩は戊辰戦争に敗れ、明治二年、青森県の下北半島や三戸を中心とする地に転封を命ぜられる。実収七千石の荒野に藩士とその家族一万七千人が流れこんだため、たちまち飢饉に陥り、斃れていった。疫病の流行、住民との軋轢、新政府への不満と反乱……。凄絶な苦難をへて、ある者は教師となつて青森県の教育に貢献し、また、近代的な牧場を開いて荒野を沃土に変えた。知られざるもうひとつの明治維新史。

820円
102498-5

2499 仏像と日本人

— 宗教と美の近現代

碧海寿広 著

仏像鑑賞が始まったのは、実は近代以降である。明治初期に吹き荒れた廃仏毀釈の嵐、すべてに軍が優先された戦時下、レジヤに沸く高度経済成長期から、仏像ブームの現代まで、人々はさまざまな思いで仏像と向き合ってきた。本書では、岡倉天心、和辻哲郎、土門拳、白洲正子、みうらじゅんなど各時代の、知識人を通して、日本人の感性の変化をたどる。劇的に変わった日本の宗教と美のあり方が明らかに。

860円
102499-2

2500 日本史の論点

— 邪馬台国から象徴天皇制まで

中公新書編集部 編

鎌倉時代は「いい国つくろう」の1192年に始まる、という時代区分はもはや主流ではない。日本史の研究は日々蓄積され、塗り替えられている。今注目されている日本史の論点は何か、どこまで解明されたのか。「邪馬台国はどこにあったか」「応仁の乱は画期なのか」「江戸時代は「鎖国」だったのか」「明治維新は革命なのか」「田中角栄は名宰相か」など、古代・中世・近世・近代・現代の29の謎に豪華執筆陣が迫る。

880円
102500-5

2501 現代経済学

— ゲーム理論・行動経済学・制度論

瀧澤弘和 著

二〇世紀半ば以降、経済学は急速に多様化していき、学問としてはわりやくさを増した。本書は、ミクロ及びマクロ経済学はもとより、ゲーム理論、行動経済学や神経経済学などの大きな潮流を捉え、実験や制度、経済史といった重要な領域についても解説。多様化した経済学の見取り図を示す。かつて、「社会科学の女王」と呼ばれた経済学の現在地を提示し、その未来と果たすべき役割を明らかにする。入門にも最適。

880円
102501-2

2502 日本型資本主義

— その精神の源

寺西重郎 著

長期にわたって停滞を続ける日本経済。混迷から抜け出せないのはなぜなのか。本書では、その解明を歴史に求め、経済システムを支える日本人の「資本主義の精神」を探究する。強欲な金儲け主義への嫌悪感、ものづくりにへの敬意や高品質の追求、個人主義ではなく集団行動の重視など、欧米はもとより、中韓など東アジア諸国とも異なる特質を明らかにする。そのうえで現代日本の経済システム改革への指針を示す。

880円
102502-9

2503 信長公記

— 戦国覇者の一級史料

和田裕弘 著

織田信長の生涯を側近が著述した『信長公記』。父親の葬儀で仏前に抹香を投げつける場面、岳父である斎藤道三との初会見はか、小説などで描かれる挿話の数々は、この軍記が土台となっている。第一級の史料とされるが、実際には何がどう書かれているのか。現存する『信長公記』諸本を調査した著者が、「桶狭間の戦い」「信長の居城」「並みいる重臣」「本能寺の変」など28のトピックに整理して解説、その全容を明かす。

900円
102503-6

2505 正義とは何か

— 現代政治哲学の6つの視点

神島裕子 著

「公正な社会」とはどういったものか。権利や財の分配で可能になるのか。米国の政治哲学者ロールズは、一九七〇年代以降、社会のあり方を根底から問い直し、世界に新たな地平を切り開いた。本書は、ロールズの考えを起点にリベタリアニズム（自由至上主義）やコミュニタリアニズム（共同体主義）など六つの思想潮流から正義とは何かを問う。格差や貧困など現実課題との接点に、個人の幸福を支える平等な社会の可能性を探る。

880円
102505-0

2506 中国経済講義

—統計の信頼性から成長のゆくえまで

梶谷 懐著

世界第2位のGDPを誇る経済大国、中国。だが実態はつかみづらい。その経済力が世界秩序を揺るがすと見る「脅威論」から、正反対の「崩壊論」まで、論者によって振れ幅が大きい。本書では、「中国の経済統計は信頼できるか」「不動産バブルを止められるか」「共産党体制の下で持続的な成長は可能か」など、中国経済が直面する根本的な課題について分析。表面的な変化の奥にある、中国経済の本質を明らかにする。

880円
102506-7

2509 陸奥宗光

—「日本外交の祖」の生涯

佐々木雄一著

条約改正や日清戦争の難局を打開した外交指導者、陸奥宗光。幕末の紀州に生まれた彼は、坂本龍馬のもと海援隊で頭角を現す。明治新政府において臍知事などを務めるが、政府転覆計画に関与し投獄される。出獄後、欧州遊学を経て再起し、駐米公使としてメキシコと対等条約を締結。1892年、伊藤博文内閣の外務大臣に就任し、条約改正や日清戦争で手腕を發揮した。最新の研究成果をもとに、「日本外交の祖」の実像を迫る。

900円
102509-8

2512 高坂正堯——戦後日本と現実主義

服部龍二著

日本における国際政治学の最大の巨人・高坂正堯(1934-96)。中立志向の理想主義が世を覆う60年代初頭、28歳で論壇デビューした高坂は、日本安保体制を容認、勢力均衡という現実主義から日本のあり方を説く。その後の国際政治の動向は彼の主張を裏付け、確固たる地位を築いた。本書は、高坂の著者、歴代首相のブレインとしての活動を中心に生涯を辿り、戦後日本の知的潮流、政治とアカデミズムとの関係を明らかにする。

1000円
102512-8

2513 カラー版 日本画の歴史 近代篇

—狩野派の崩壊から
院展・官展の隆盛まで

草薙奈津子著

開国後、大和絵、狩野派、浮世絵など日本伝統の絵画は、西洋絵画と出遭い、「日本画」と称すようになった。フェノロサに評価された日本画は、岡倉天心、橋本雅邦らが新設の東京美術学校で確立。のちには日本美術院の横山大観や菱田春草らが技法を追究し進展させる。本書は、幕末の横浜浮世絵や南画から、国家主導で堂々たる作品が制作された明治期、そして、今村紫紅に代表されるのびやかな画風の大正期を描く。

920円
102513-5

2514 カラー版 日本画の歴史 現代篇

—アヴァンギャルド、戦争画から
21世紀の新潮流まで

草薙奈津子著

昭和十年代、前衛美術集団の離合集散が続いた。だが、新しい絵画の胎動は戦時体制に飲み込まれ、富士山や軍人など国威昂揚を意図した絵画が制作されるようになる。戦後は国粋主義への批判から「日本画滅亡論」が唱えられ、新しい道の模索を余儀なくされた。本書は、前衛として戦前に注目された吉岡堅二らから、戦時中、そして復興に寄り添って人気を博した東山魁夷や平山郁夫の活躍、さらに、平成以降の新潮流までを描く。

920円
102514-2

2516 宣教のヨーロッパ

—大航海時代のイエズス会と
托鉢修道会

佐藤彰一著

ルターに端を発する十六世紀ヨーロッパの宗教的動揺は、イエズス会というまったく新しい組織を生んだ。霊操と教育を重視し、異教徒への宣教を実践するイエズス会は、ポルトガル・スペインの植民地開拓と軌を一にして、新大陸やアジアへと進出した。かれらの思想や布教方法はどのようなものだったか。いかなる経済的基盤に支えられていたのか。現地社会に与えた影響や「キリスト教の世界化」のプロセスを詳細に検証する。

880円
102516-6

2517 承久の乱

—真の「武者の世」を告げる大乱

坂井孝一著

一二一九年、鎌倉幕府三代将軍・源実朝が暗殺された。朝廷との協調に努めた実朝の死により公武関係は動揺。二年後、承久の乱が勃発する。朝廷に君臨する後鳥羽上皇が、執権北条義時を討つべく兵を挙げたのだ。だが、義時の嫡男泰時率いる幕府の大軍は京都へ攻め上り、朝廷方の軍勢を圧倒。後鳥羽ら三上皇は流罪となり、六波羅探題が設置された。公武の力関係を劇的に変え、中世社会のあり方を決定づけた大事件を読み解く。

900円
102517-3

2518 オスマン帝国

—繁栄と衰亡の600年史

小笠原弘幸著

オスマン帝国は1299年頃、イスラム世界の辺境であるアナトリア北西部に誕生した。アジア・アフリカ・ヨーロッパの三大大陸に跨がる広大な版図を築いた帝国は、イスラムの盟主として君臨する。その後、多民族・多宗教の共生を実現させ、1922年まで命脈を保った。王朝の黎明から、玉座を巡る王子達の争い、ヨーロッパへの進撃、近代化の苦闘など、滅亡までの600年の軌跡を描き、空前の大帝国の内幕を迫る。

900円
102518-0

2519 安楽死・尊厳死の現在

—最終段階の医療と自己決定

松田 純著

21世紀初頭、世界で初めてオランダで合法化された安楽死。同国では年間6000人を超え、増加の一途である。容認の流れは、自己決定意識の拡大と超高齢化社会の進行のなか、ベルギー、スイス、カナダ、米国へと拡散。他方で精神疾患や認知症の人々への適用をめぐる問題も噴出している。本書は、「先進」各国の実態から、尊厳死と称する日本での問題、人類の自死をめぐる思想史を織り、「死の医療化」と言われるその実態を描く。

860円
102519-7

2521 老いと記憶

—加齢で得るもの、失うもの

増本康平著

加齢によって、記憶は衰える——それが一般的なイメージだろう。だが、人間のメカニズムはもっと複雑だ。本書は、高齢者心理学の立場から、若年者と高齢者の記憶の違いや、認知能力の変化など、老化の実態を解説。気分や運動、コミュニケーションなどが記憶に与える影響にも触れ、人間の生涯で記憶が持つ意味を問う。加齢をネガティブに捉えず、老いを前向きに受け入れるヒントも見えてくる。

780円
102521-0

2522 **リバタリアニズム**

—アメリカを揺るがす自由至上主義

渡辺 靖 著

アメリカ社会、とりわけ若い世代に広がりがつつあるリバタリアニズム(自由至上主義)。公権力を極限まで排除し、自由の極大化をめざす立場だ。リベラルのように人工妊娠中絶、同性婚に賛成し、死刑や軍備増強に反対するが、保守のように社会保障費の増額や銃規制に反対するなど、従来の左右対立の枠組みではとらえきれない。著者はトランプ政権誕生後のアメリカ各地を訪れ、実情を報告。未来を支配する思想がここにある。

800円
102522-7

2523 **古代オリエントの神々**

—文明の興亡と宗教の起源

小林登志子 著

テイグリス・ユーフラテス河の間に広がるメソポタミアの平野、ナイルの恵みに育まれたエジプト。ここで人類は古代文明を築き、数多くの神を造り出した。エジプトの豊饒神オシリス、天候を司るバアル、冥界神ギルガメッシュ、都市バビロニアを守るマルドゥク、アジアからヨーロッパまで遠征したキュベレ女神、死後に復活するドゥムジ神——さまざまな文明が興り、消えゆくなか、人がいかに神々とともに生きてきたかを描く。

940円
102523-4

2525 **硫黄島**

—国策に翻弄された1300年

石原 俊 著

小笠原群島の南方に位置する硫黄島。日本帝国が膨張するなか、無人島だったこの地も一九世紀末に領有され、入植・開発が進み、三〇年ほど千人規模の人口を有するようになった。だが、一九四五年に日米両軍の凄惨な戦いの場となり、その後は米軍、続いて海上自衛隊の管理下に置かれた。冷戦終結後の今なお島民たちは、帰島できずにいる。時の国策のしわ寄せを受けた島をアジア太平洋の近現代史に位置づけ、描きだす。

820円
102525-8

2526 **源頼朝**

—武家政治の創始者

元木泰雄 著

一一八〇年、源頼朝は平氏追討の兵を挙げた。平治の乱で清盛に敗れて、父義朝を失い、京から伊豆に流されて二十年が過ぎていた。苦難を経て仇敵平氏を滅ぼし、源氏一門内の対抗者たる義仲と義経を退け、最後の強敵平泉藤原氏を倒し、武門の頂点を極めた頼朝。流人の拳兵はなぜ成功し、鎌倉幕府はいかなる成立過程を辿ったのか。何度も死線をくぐり抜けた末に武士政権樹立を成し遂げ、五十三歳で急逝した波瀾の生涯。

900円
102526-5

2529 **ナポレオン四代**

—二人のフランス皇帝と悲運の後継者たち

野村啓介 著

18世紀末、コルシカ島出身の一軍人から皇帝にのぼった英雄ナポレオン。父帝に憧れ軍功を焦るが、病のため夭折した2世。二月革命を経て大統領に当選、その後クーデタで皇帝となった甥の3世。帝政復興の期待を背負うも、英兵として赴いた戦地で落命した4世。二組の父子、そして一族は栄華と没落という数奇な運命を辿る。革命と激変の時代に「ナポレオン」はどう生き、民衆に求められたか。ポナバルト家から近代史を読む。

860円
102529-6

2530 **日本鉄道史 昭和戦後・平成篇**

—国鉄の誕生からJR7社体制へ

老川慶喜 著

「日本の復興は、鉄道が中心となってやらなければならない」(一九四五年八月一日、鉄道総局長官の発言。進駐軍専用列車の運行、統廃する事故等の混乱のなか、独立採算制の企業体・日本国有鉄道は誕生した。ビジネス特急「こだま」、東海道新幹線、通勤五方面作戦ほか近代化に努めるが、過大な投資等で赤字が膨らみ、分割民営化により四〇年の歴史を閉じた。その後のJR三〇年も含め、鉄道から見た日本現代史を描く。

940円
102530-2

2533 **古代日中関係史**

—倭の五王から遣唐使停止後まで

河上麻由子 著

607年、日本は隋の煬帝に「日出する処の天子」で名高い書状を送る。以後、対等の関係を築き、中国を大國とみなすことにはなかつた。こうした通説は事実なのか。日本はアジア情勢を横目に、いかなる手段・方針・目的をもって中国と交渉したのか。本書は、倭の五王の時代から、5回の遣隋使、15回の遣唐使、さらには派遣後まで、500年間に及ぶ日中間の交渉の軌跡を実証的に「常識」に疑問を呈しながら描く。古代歴史文化賞優秀作品賞受賞

880円
102533-3

2534 **漢字の字形**

—甲骨文字から篆書、楷書へ

落合淳思 著

「馬」の字からはタテガミをなびかせ走るウマの姿が見えてくる。しかし「大」からイヌを、「象」からゾウの姿を想像することは難しい。甲骨文字から篆書、隸書を経て楷書へ——字形の変化を丹念にたどると、祭祀や農耕など中国社会の変化の軌跡を読み取れる。漢字がもつ四千年の歴史は、捨象と洗練と普及の歴史なのだ。本書では小学校で習う教育漢字を取り上げた。眺めて楽しい字形表から漢字の歴史が見えてくる。

800円
102534-0

2537 **日本の地方政府**

—1700自治体の実態と課題

曾我謙悟 著

日本には都道府県47、市790、町745など、1700を超える地方政府がある。一般に地方自治体、地方公共団体と呼ばれ、行政機構のみが存在する印象を与えてきた。だが20世紀末以降の地方分権改革は、教育、介護、空き家問題など、身近な課題に直面する各政府に大きな力を与えた。本書は、政治制度、国との関係、地域社会・経済の三つの面から、国家の2・5倍の支出と4倍の人員を持つ地方政府の軌跡、構造と実態を描く。

860円
102537-1

2539 **カラー版 虫や鳥が見ている世界**

—紫外線写真が明かす生存戦略

浅間 茂 著

人間の目は、赤・青・緑の3色しか見えない。だが、虫や鳥は紫外線をも見ることができ、物や植物を撮影し、世界には驚きの世界が広がっていた。著者は紫外線カメラを自作し、動物や植物を撮影し、そこには驚きの世界が広がっていた。モンシロチョウは雌雄で翅の色が違い、ウツボカスラの捕虫囊は紫外線を反射して虫を誘い、ハシブトガラは紫外色の模様の違いで個体を識別していた。人には見えない生存戦略を探る。

1000円
102539-5

2540 食の実験場アメリカ
—ファーストフード帝国のゆくえ

鈴木 透 著

2541 平成金融史
—バブル崩壊からアベノミクスまで

西野智彦 著

2542 漢帝国—4000年の興亡

渡邊義浩 著

2543 日米地位協定

—在日米軍と「同盟」の70年

山本章子 著

2545 物語 ナイジェリアの歴史

—「アフリカの巨人」の実像

島田周平 著

2546 物語 オーストリアの歴史
—中欧「いにしえの大國」の千年

山之内克子 著

2547 科学技術の現代史

—システム、リスク、イノベーション

佐藤 靖 著

2548 老いのゆくえ

黒井千次 著

2549 海外で研究者になる
—就活と仕事事情

増田直紀 著

2550 大隈重信(上)
—「巨人」が夢見たもの

伊藤之雄 著

先住インディアン、黒人奴隷、各国の移民らの食文化が融合したアメリカの食。そこからバ
ーベキエ、フライドチキン、ハンバーガーなど独自の食文化が形成されたが、画一化され
たファーストフードや肥満という問題をも引き起こした。そしてアメリカではスシロー
ルをはじめとする、ヘルシーとエスニックを掛け合わせた潮流が生まれ、食を基点に農業や
地域社会の姿が変わろうとしている。食から読む移民大国の歴史と現在。

昭和末期に拡大したバブル経済は、平成の幕開きとともに崩壊した。不良債権問題で多くの
金融機関が行き詰まり、一九九七〜九八年には北海道拓殖銀行、山一証券などが経営破綻。
金融システムは壊滅寸前に至った。その後も混乱は続き、二〇〇八年にはリーマン危機に直
面するなど、日本経済は長期停滞にあえぐ。金融当局は当時どう考え、何を見誤ったのか。
キーパーソンによる貴重な証言を交え、金融失政の三〇年を検証する。

漢字、漢民族という表現が示すように、漢は中国を象徴する「古典」である。秦を滅亡させ、
項羽を破った劉邦が紀元前202年に中国を統一(前漢)。武帝の時代に最盛期を迎える。
王莽による篡奪を経て、紀元後25年に光武帝が再統一(後漢)。220年に魏に滅ぼされる
まで計400年余り続いた。中国史上最長の統一帝国にして、中国を規定し続けた「儒教国
家」はいかに形成されたのか。その興亡の歴史をたどる。

日米地位協定は、在日米軍の基地使用、行動範囲、米軍関係者の権利などを保証したもので
ある。在日米軍による事件が沖縄などで頻発する中、捜査・裁判での優遇が常に批判されて
きた。冷戦後、独伊などでは協定は改正されたが日本はそのままである。本書は、協定と在
日米軍を通して日米関係の軌跡を描く。実際の運用が非公開の「合意議事録」に基づいてき
た事実など、日本が置かれている「地位」の実態を描く。石橋湛山賞、沖縄研究奨励賞受賞

アフリカはサハラ砂漠南縁を境に、北のアラブ主義と南のネグロ主義に分けられる。現在こ
の両者にまたがる唯一の国がナイジェリアである。サハラ交易による繁栄、イスラームの流
入、奴隷貿易、イギリスの統治などを経て、ナイジェリアは人口・経済ともにアフリカ最大
の国となった。20世紀には150万人以上の犠牲者を出したビアラ戦争を経験し、イスラ
ーム過激派組織ボコ・ハラムを抱える「アフリカの巨人」の歴史を辿る。

ローマ帝国の、前線基地を源流とするオーストリア。神聖ローマ皇帝としてヨーロッパに
君臨したハプスブルク家、モーツァルトやウィーン世紀末芸術など華やかな歴史に彩られる
一方、オスマントルコの侵攻、第一次世界大戦敗北後の帝国解体、ナチストイッツによる併呑、
連合国軍による分割統治といった苦難も重ねてきた。首都ウィーンだけでなく、ザルツブル
ク、ティロールなど魅力溢れる九つの州からたどる、一千年の物語。

第2次世界大戦後、科学技術の力は増大する。その原動力は豊富な資金を持つ国家、特に米
国だった。インターネットが生まれ、遺伝子操作が可能になり、原子力や人工衛星の利用が
広がる。一方でリスクは巨大化・複雑化した。21世紀に入り、AIやバイオテクノロジーが
驚異的な展開を見せ、中国や民間企業による、暴走が懸念されるなか、世界は今後どうな
っていくのか——科学技術の、進化への歴史と未来への展望を描く。

運転免許を返納した。転倒が増えた——85歳という新たな区切りを超えた作家が描く「老
いの日常。優先席での年齢比べ、一向に進まない本の整理、曲げた腰を伸ばす難しさ、隙
を見ては襲ってくる眠気、病気の付き合ひ方。いずれも70歳代のこととは何かが徐々に変
わっている。この先の時間に思いを馳せながら、年齢を重ねるなかで生じる失敗や戸惑い、
さらに発見や喜びも余さずつづる、老いの日々のスケッチ。

日本人の研究リターたちが世界の大学で活躍している。どうすれば海外で研究者になれる
のか。応募書類の書き方から、面接の実際、待遇交渉まで、イギリスの大学に就職した著者
が詳説。昇進は自己申告制、会議は家庭の用事で欠席可能、公費でティータム、意外と親
身な学生指導など、異文化での研究生活をリアルに描写。各国で活躍する研究者17人へのイ
ンタビューも収録。研究職だけでなく、海外で働こうとする日本人必読。

政治家、言論人、早稲田大学初代総長など多面的な活動で知られる大隈重信。一八三八年、
大隈に生まれ、三条実美らの右腕として活躍。明治維新後は、官僚として頭角を現し、木戸孝允
、久保保良、三條実美らの右腕として、参議兼大藏卿などを務める。明治十四年の政変で失
脚するも、立憲改進黨を率い、藩閥政府と対峙。時流を機敏にとらえ、一八九八年には総理
大臣に就任する。上巻では、若き日から念願の組閣までを描く。

880円
102540-1

920円
102541-8

880円
102542-5

840円
102543-2

940円
102545-6

1000円
102546-3

820円
102547-0

820円
102548-7

880円
102549-4

1100円
102550-0

2551 大隈重信(下)
―「巨人」が築いたもの

伊藤之雄 著

大隈内閣は内紛のため四カ月で瓦解。苦難の時期を迎えるも、日露戦争後に早稲田大学総長や文明論者として活動、全国を積極的に遊説した。一九一四年に二度目の組閣を迎え、第一次世界大戦という難局にあたり日本の舵を取る。時にポピュリズムの手法を用い、「大平生」と政治家として広汎な支持を集めた。下巻は、一九二二年に没するまでの「巨人」の後半生と晩年を辿る。葬儀に「百万人」が駆けつけた大隈の魅力を描き切る。

1000円
102551-7

2552 藩とは何か

―「江戸の泰平」はいかに誕生したか

藤田達生 著

戦乱の世から泰平の世へ。16世紀後半から17世紀前半にかけて、日本社会は激変した。徳川家康が開いた江戸幕府による藩の創出こそが、戦国時代以来の戦乱で荒廃した地域社会を復興させたためである。地方の王者たる戦国大名が、いかにして「国家の官僚」たる藩主へと変貌したのか。本書は家康の参謀・藤堂高虎が辣腕を振るった幕藩国家の誕生過程をたどり、江戸時代の平和の基盤となった藩の歴史の意義を明らかにする。

860円
102552-4

2554 日本近現代史講義

―成功と失敗の歴史に学ぶ

山内昌之／細谷雄一 編著

明治維新から一五〇年余り。日本近現代史の研究は日々蓄積され、塗り替えられている。日本国内の閉じた歴史ではなく、世界史と融合した新しい歴史を模索する流れが強まっている。明治維新に始まり、日清・日露戦争、第二次世界大戦、東京裁判と歴史認識問題、戦後日中関係、そして未来に向けた歴史観の問題まで、特定の歴史観やイデオロギーに偏らず実証を旨とする、第一線の研究者による入門一四講。

900円
102554-8

2556 日本近代文学入門

―12人の文豪と名作の真実

堀 啓子 著

「円朝の落語通りに書いて見たらどうか」と助言された二葉亭四迷は日本初の言文一致小説『浮雲』を生んだ。初の女流作家田辺花圃と同門だった樋口一葉は、最晩年に「奇跡の14カ月」と呼ばれるほどの作品を遺した。翻案を芸術に変えた泉鏡花と尾崎紅葉の師弟。新聞小説で国民的人気を博した黒岩涙香と夏目漱石。自然主義の田山花袋と反自然主義の森鷗外。「生活か芸術か」を巡る菊池寛と芥川龍之介。12人でたどる近代文学史。

900円
102556-2

2558 日本の地方議会

―都市のジレンマ、消滅危機の町村

辻 陽 著

最も身近な政治の舞台である地方議会。だが、平成の大合併により議員数は半減、政務活動費などをめぐる不祥事も続き、住民との距離は広がるばかりだ。都市部では、首長と対立すると「抵抗勢力」と批判され、反対に支持すれば単に「追認機関」とされる。一方、過疎地では議員のなり手さえ不足している。本書は地方議会の仕組みやカネ、選挙の実態。そして実は重い職責までを丁寧に描き、いま必要な改革を示す。

860円
102558-6

2559 菅原道真

―学者政治家の栄光と没落

滝川幸司 著

学者ながら右大臣に昇進するが、無実の罪で大宰府に左遷された菅原道真(845〜903)。藤原氏の専横が目立ち始めたこの時期、学問を家業とした道真は、英邁で名高く、宇多天皇に見出され異例の出世を果たす。天皇による過大な評価、重用に苦悩しつつも、遣唐使派遣など重大な国政に関与。だが藤原氏の策謀により失脚する。本書は、学者、官僚、政治家、漢詩人として、多才がゆえに悲劇の道を通った平安貴族を描き出す。

860円
102559-3

2560 月はすこい

―資源・開発・移住

佐伯和人 著

一番身近な天体、月。約38万km上空を回る地球唯一の衛星だ。アポロ計画から約半世紀を経て、中国やインド、民間ベンチャーも参入し、開発競争が過熱している。本書では、大きくや成り立ちといった基礎、探査で新たに確認された地下空間などの新発見を解説。人類は月に住めるか、水や鉱物資源は採掘できるか、エネルギーや食糧をどう確保するかなども詳述する。最新線の月探査プロジェクトに携わる著者が月面へと誘う。

820円
102560-9

2561 キリスト教と死

―最後の審判から無名戦士の墓まで

指 昭博 著

人は死んだらどこへ行くのか――。古来、人々は死後の世界をさまざまにイメージしてきた。本書では天国と地獄、「最後の審判」、幽霊など、キリスト教の世界観を紹介し、とりわけイギリス社会に大きな影響を与えてきたカトリックとプロテスタントの違いを指摘。キリスト教の死生観が生み出した墓やモニュメント、シエイクスピアラの文学や映画、芸術作品など「死の文化」の豊かな世界をめぐる。

860円
102561-6

2562 現代美術史

―欧米、日本、トランスナショナル

山本浩貴 著

20世紀以降、芸術概念は溶解し、定義や可能性を拡張した新しい潮流が続々と生まれている。アーティストは、差別や貧困のような現実、震災などの破局的出来事とどう格闘しているのか。美術は現代をいかに映し、何を投げかけたか。本書は難解と思われるがちな現代美術を、特に第二次世界大戦後の社会との関わりから解説、意義つける。世界中の多くの作家による立体、映像、パフォーマンスなど様々な作品で紡ぐ、現代アート入門。

960円
102562-3

2563 持統天皇

―壬申の乱の「真の勝者」

瀧浪貞子 著

後の天智天皇の子として大化改新の年に誕生した少女は、五歳のときに祖父が自害し、心痛の余り母が没するという悲劇を体験する。十七歳で叔父の大海人皇子(後の天武天皇)と結婚。有間皇子の謀反や白村江の戦いの後、二十三歳のとき、古代最大の争乱である壬申の乱を夫と共に起こし、弟・大友皇子に勝利する。その後は中央集権化に邁進し、兄弟継承だった皇位を父子継承に転換させた。古代国家を形作った女帝の実像とは。

900円
102563-0

2564 統計分布を知れば世界が分かる
—身長・体重から格差問題まで
松下 貢著
一見バラバラに見えるデータでもグラフにすれば特徴が浮かび上がる。身長やテストの点数は真ん中が一番多い釣鐘型のカーブ(正規分布)に、地震の頻度やウェブの被リンク数は右肩下がりの曲線(べき乗分布)になる。そして体重や町村の人口は、物鐘型だが左側が細み右側が伸びたカーブにない(対数正規分布)。なぜ世界のほとんどの物事はこの3種類になるのか。仕組みを説明し、データに潜む真理から何が読み取れるかを明かす。
800円
102564-7

2565 大御所 徳川家康
—幕藩体制はいかに確立したか
三鬼清一郎著
関ヶ原の決戦を制した徳川家康は征夷大将軍となり、江戸幕府を開いた。その職をわずかに二年で秀忠に譲るが、駿府城に移ったのちも実権を掌握。多彩なブレインを活用して、御三家の創設、諸大名や朝廷の統制、対外関係の再構築など、政権基盤の強化に努めた。他方では最大の脅威である豊臣家を滅亡へと追い込んでいく。大坂の陣終結の翌年に没するまで十一年にわたった大御所政治を辿り、幕藩体制成立の過程を明らかにする。
840円
102565-4

2566 海の地政学
—覇権をめぐる400年史
竹田いさみ著
地球の面積の7割以上を占める海。大航海時代以来、その覇権をめぐる、多くの国々が覇を削って来た。スペイン、オランダ、イギリス、二度の大戦を経て頂点に君臨するアメリカそして国際ルールへ挑戦する中国……。本書は、航路や資源、国際的な法制度など多様な論点から、400年に及ぶ海をめぐる激動の歴史を描き出す。各国の思惑が交錯し、形作られてきた海洋秩序を前にして、海に囲まれた日本はどの向き合うべきか。
900円
102566-1

2567 歴史探究のヨーロッパ
—修道制を駆逐する啓蒙主義
佐藤彰一著
宗教改革以降、カトリックは修道院での学術活動を活性化させた。人文主義者たちは古典を博捜し、教会史や聖人伝などの文書を批判的に検証する学問が進歩を遂げた。偽書を識別する文献学や文学史、ローマ法の解釈学など、現代の歴史学の基礎がここに形成されたのである。その中核となつたのが、サン・モール修道会の歴史学者マビヨンであった。啓蒙思想の席卷、宗教と世俗の相剋の間で、歴史と真理を探究した人々の足跡を追う。
900円
102567-8

2568 中国の行動原理
—国内潮流が決める国際関係
益尾知佐子著
世界各国と軋轢を起こす中国。その特異な言動は、中華思想、米国に代わる世界覇権への野心などでは説明できない。なぜ21世紀に入り、中国は海洋問題で強硬姿勢に出たのか、経済構想「一带一路」を始めたのか。本書は、毛沢東、鄧小平から習近平までの指導者の動向、民族特有の家族観、社会の秩序意識、政経分離のキメラ体制など国内の潮流から、中国共産党を中心とした対外行動のルールを明らかにする。
920円
102568-5

2569 古関裕而
—流行作曲家と激動の昭和
刑部芳則著
古関裕而(一九〇九〜八九)は忘れられた名作曲家である。日中戦争中、軍歌「露宮の歌」で一世を風靡。アジア・太平洋戦争下のニュース歌謡や戦時歌謡を多く手がけ、慰問先でも作曲に動いた。戦後は鎮魂歌「長崎の鐘」、東京五輪行進曲「オリンピック・マーチ」、映画「モスラ」劇伴音楽と、流行歌からスポーツ音楽まで数々の名曲を残す。戦争、そしてテレビの普及まで、昭和史を彩つた彼の生涯をたどる。
880円
102569-2

2570 佐藤栄作
—戦後日本の政治指導者
村井良太著
1960年代半ばから7年を超える長期政権を誇つた佐藤栄作。岸信介の実弟で、吉田茂に寵愛された佐藤は、寡黙な官僚政治家との批判が強く、ノーベル平和賞受賞には違和感の声をさえた上があった。だが憲法改正を回避し、日安保体制の安定を確立させる中、沖縄返還、日韓基本条約締結、急激な経済成長に対する社会開発政策など事績は多い。本書は、佐藤の軌跡を追いつつ、核兵器を保有せず大国の地位を獲得した戦後日本を描く。
1000円
102570-8

2571 アジア経済とは何か
—躍進のダイナミズムと日本の活路
後藤健太著
戦後アジアをリードした日本経済。しかし20世紀の終わりから長期停滞に陥っている。一方、中国を筆頭にASEANなどのアジア諸国・地域は躍進し、21世紀は「アジアの世紀」とされる。日本の家電メーカーなどの凋落と、中国はじめアジア企業の急成長に象徴される激変の本質は何か。「アローバル・パリュウチエン」「インテグラル/モユラー型」といった鍵となる概念をわかりやすく解説し、日本の活路を示す。
820円
102571-5

2572 日本の品種はすごい
—うまい植物をめぐる物語
竹下大学著
より美味で、かつ丈夫、収穫量が多く、栽培しやすい品種を——。誰もが夢見る新品種を生むべく、自然と格闘する仕事がある種家だ。りんごの「ふじ」のように歴史に名を刻む有名種や、競争に敗れて頂点から転落した梨の「長十郎」など、品種改良をめぐる歴史は、育種家たちの情熱の結晶である。本書では、じゃがいもや大豆、大根、わさびなど7つの身近な食用植物を取り上げ、その進化と普及にいたるドラマを描き出す。
900円
102572-2

2573 公家源氏——王権を支えた名族
倉本一宏著
源氏と聞いてイメージするのは頼朝や義経に代表される武士だろう。だが古代から近世にかけて、源朝臣の姓を賜わった天皇の子孫たちが貴族として活躍する。光源氏のモデルとされる源融、安朝の変で失脚した源高明、即位前に原定省と名乗った宇多天皇など、家系は二十一流に及ぶ。久我家、岩倉家、千種家、大原家など中世や幕末維新期に活躍した末裔も数多い。藤原氏とともに王権を支え続けた名族の全貌。
880円
102573-9

2574 戦争とは何か
— 国際政治学の挑戦

多湖 淳著

2575 移民の経済学

— 雇用、経済成長から治安まで、日本は変わるか

友原章典著

2576 内戦と和平

— 現代戦争をどう終わらせるか

東 大作著

2577 定年後のお金

— 貯めるだけの人の、上手に使うて楽しめる人

楠木 新著

2578 エリザベス女王

— 史上最長・最強のイギリス君主

君塚直隆著

2579 米の日本史

— 稲作伝来、軍事物資から和食文化まで

佐藤洋一郎著

2580 移民と日本社会

— データで読み解く実態と将来像

永吉希久子著

2581 台湾の歴史と文化

— 六つの時代が織りなす「美麗島」

大東和重著

2582 百年戦争

— 中世ヨーロッパ最後の戦い

佐藤 猛著

2583 鉄道のドイツ史

— 帝国の形成からナチス時代、そして東西統一へ

鳩澤 歩著

「戦争の原因には何かがあるのか」「国際介入の効果とは」「民主主義と平和は関係があるのか」「戦争を予測することは可能か」……本書は、国際政治学の最新研究成果を生かして科学的に国家間戦争や内戦を論じ、多くの疑問に答える。そして緊張を増す東アジアの現状を踏まえ、日本の安全保障などの展望も示す。歴史やイデオロギーから一定の距離を置き、データ分析から実証的に国際情勢と戦争の本質に迫る試み。

すでに250万人の「移民」が暮らす日本。2018年末に入管法を改正し、さらなる外国人労働者の受け入れ拡大に舵を切った。移民が増えると、私たちの生活にどのような影響があるのか。本書は、雇用や賃金、経済成長や物価、貿易、税と社会保障、さらに科学技術、治安・文化に至るまで、主要な論点を網羅。経済学の研究成果をもとに分析することで、感情的な議論を超え、移民がもたらす「損」と「得」を明らかにする。

人類の不治の病と言われる戦争。そのほとんどが国家間の紛争ではなく凄惨な内戦である。本書ではシリア、イラク、アフガニスタン、南スーダンなど二十一世紀の和平合意の破綻といった発生から拡大、国連や周辺国の介入の失敗、苦難の末に結ばれたはずの和平合意の破綻といった過程を分析。テレビ局の報道ディレクター、国連日本政府代表部公使参事官、そして研究者として一貫して和平調停に関わる著者が、戦争克服の処方箋を探る。

人生100年時代と言われるが、長生きはリスクでもある。自分の老後資金で本当に足りるのか。「定年後」の姉妹編である本書では、著者が長年実践してきた「財産増減一括表」の作成を推奨。家計の管理と見直しのポイント、資産運用の基本的考え方など、お金にまつわる課題について具体的な指針を示す。さらには、本産にやりたいことに出費を惜しまず人生を楽しむべきと提言。お金と生き方・働き方の関係を問い直す。

1952年に25歳で英国の王位に即いたエリザベス女王。カナダ、オーストラリアなど16カ国の元首でもある。W・チャーチルら十数人の首相が仕え、「政治的な経験を長く保てる唯一の政治家」と評される彼女は、決して「お飾り」ではない。70年近い位の中で政治に関与し、また数多くの事件に遭遇。20世紀末、その振る舞いは強い批判も受けた。本書はイギリス現代史をたどりながら、幾多の試練を乗り越えた女王の人生を描く。

日本人にとって特別な食・コメ。稲はどこから日本列島にきたのか、最初の水田を作ったのは誰か、なぜ東北地方で栽培が遅れたのかなど、稲作の起源を解説。インデカ米が盛んに作られていた中世、地下水路を建設するほど水利に力を入れ、和菓子や酒づくりなど米食文化が花開いた近世の実態を紹介。さらに富国強兵を支えた近代を経て現代まで、農学や文化の視点を交えながら「米食悲願民族」の歴史を解き明かす。

少子高齢化による労働力不足や排外主義の台頭もあり、移民は日本の大きな課題だ。本書は、感情論を排し、統計を用いた計量分析で移民を論じる。たとえば「日本に住む外国人の増加により犯罪が増える」と考える人は6割を超えるが、データはその印象を覆す。こうした実証的な観点から、経済、労働、社会保障、そして統合のあり方までを展望。移民受け入れのあり方を通して、日本社会の特質と今後を浮き彫りにする。大平正芳記念賞特別賞受賞

街路に残る古跡や廟、人びとに愛される名物料理、信仰と祭り……。『美麗島』とも称される台湾に、今も思づく独自の文化。その伝統は一二二四年のオランダ統治以来、鄭氏、清朝、日本、国民党に至るまで、各時代の外来政権との関係によって形作られてきた。本書では、激動の台湾を生きた人びとの視点から、四百年におよぶ歴史をたどる。台湾をより深く知るための案内を豊富にまじえて、多様な文化の魅力を活写する。

フランスを主戦場として英仏王家が攻防を繰り返した百年戦争（二二三七―一四五三）。イングランドの大陸領をめぐる積年の対立に、フランス王位継承権争いが絡んで勃発した。当初イングランドが優勢だったが、ジャンヌ・ダルクによるオルレアン解放後、フランスが巻き返して勝利する。戦乱を経て、英仏双方で国民意識はどのように生まれたか。ヨーロッパ中世に終止符を打った戦争の全貌を描き、その歴史的意義を解明する。

1815年、大小さまざまな主権国家の集合体・ドイツ連邦が誕生。以降、ドイツは帝国、共和国、ナチス、東西分裂、そして統一へと、複雑な軌道を疾走した。本書は、同時代に誕生した鉄道という近代技術を担った人びとと、その組織からドイツを論じる。統一国家の形成や二度の世界大戦との激動に、鉄道はいかなる役割を果たしたのか。「富と速度」(ゲーテ)の国民経済を模索した苦闘とともに、「欧州の盟主」の実像を描き出す。

2584 梶井文書
—日本最大級の偽文書

馬部隆弘 著

中世の地図、失われた大伽藍や城の絵図、合戦に参陣した武将のリスト、家系図……これらは貴重な史料であり、学校教材や市町村史にも活用されてきた。しかし、もしそれが後世の偽文書だったら？ しかも、たった一人の人物によって創られたものだとしたら——。梶井政隆（一七七〇～一八三七）が創り、近畿一円に流布し、現在も影響を与え続ける数百点にも及ぶ偽文書。本書はその全貌に迫る衝撃の一冊である。

2585 徒然草

—無常観を超えた魅力

川平敏文 著

鎌倉時代末期、兼好法師が著した日本文学屈指の古典「徒然草」。自然の移ろいに美を見だし、死や老いが主題の随想を含むため「無常観の文学」という理解が主流だ。しかし、ペストセラだった江戸時代には多様な読み方がなされた。江戸幕府に仕えた儒者の林羅山は儒教に基づく注釈書を作り、近松門左衛門は浄瑠璃で変好を色男として描いた。本書は「徒然草」の知られざる章段や先達の読みを通して奥深さと魅力に迫る。

2587 五・一五事件

—海軍青年将校たちの「昭和維新」

小山俊樹 著

昭和恐慌下、民衆が困窮を極める中、政党政治の腐敗を憂える海軍青年将校らが起こした五・一五事件。首相を暗殺し、内大臣邸・警視庁を襲撃、変電所爆破による「帝都暗黒化」も目論んだ。本書は、北一輝、橋孝三郎、井上日召ら国家主義者と結合した青年将校たち、天皇親政の「昭和維新」を唱え、兇行に走った軌跡を描く。事件後、政党内閣は崩壊し軍部が台頭。実行犯の減刑嘆願に国民は熱狂する。昭和戦前、最大の分岐点。サントリー学芸賞受賞

2590 人類と病

—国際政治から見る感染症と健康格差

詫摩佳代 著

人類の歴史は病との闘いだ。ペストやコレラの被害を教訓として、天然痘を根絶し、ポリオを抑え込めたのは、20世紀の医療の進歩と国際協力による。しかしマラリアはなお蔓延し、エイズ、エボラ出血熱、新型コロナウイルスなど、新たな感染症が次々と襲いかかる。他方、現代社会では、喫煙や糖分のとりすぎによる生活習慣病も課題だ。医療をめぐり格差も深刻である。国際社会の苦闘をたどり、いかに病と闘うべきかを論じる。サントリー学芸賞受賞

2591 白人ナショナリズム

—アメリカを揺るがす「文化的反動」

渡辺 靖 著

白人至上主義と自国第一主義が結びついた「白人ナショナリズム」。トランプ政権の誕生以降、注目を集めるオルトライトをはじめ、さまざまな勢力が連なる反動思想だ。反共、反多文化主義、反ポリテカル・コレクトネスといった旧来の保守と共通する性格の一方、軍備拡張や対外関与、グローバル資本主義を否定する。社会の分断が深まるなか、自由主義の盟主アメリカはどこへ行くのか。草の根のリアルな動向を現地から報告。

2594 マックス・ウェーバー

—近代と格闘した思想家

野口雅弘 著

「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」の仕事としての政治」などで知られるマックス・ウェーバー（一八六四～一九二〇）。合理性や官僚制というキーワードを元に、資本主義の発展や近代社会の特質を明らかにした。彼は政治学、経済学、社会学にとまらず活躍し、幅広い学問分野に多大な影響を及ぼした。本書は、56年の生涯を辿りつつ、その思想を解説する。日本の知識人に与えたインパクトについても論じた入門書。

2595 ビザンツ帝国

—千年の興亡と皇帝たち

中谷功治 著

アジアとヨーロッパをつなぐ首都コンスタンティノールを中心に、千年以上にわたる歴史をけんぞビザンツ帝国。ローマ帝国の継承国家として地中海に覇を唱えた4世紀頃から、イスラム勢力や十字軍に翻弄される時期を経て、近代の到来目前の1453年に力尽きた。賢帝や愚帝がめまぐるしく登場し、過酷な政争や熾烈な外交および戦争を展開する一方、多様な文化が花開いた。波瀾万丈の軌跡をたどり、この帝国の内実を描き出す。

2597 カール・シュミット

—ナチスと例外状況の政治学

蔭山 宏 著

M・ウェーバー以後、最大の政治思想家か、それとも批判すべきナチのイデオログか——。毀誉褒貶相半ばするドイツの政治学者カール・シュミット（二八八八～一九八五）。ワイマール期の「政治神学」から転換点となったホフブス論、第二次大戦後の「大地のノモス」まで、主要著作を読み解きつつ、七〇年に及ぶ思索の変遷を辿る。ワイマール思想史研究の第一人者が、尊敬すべき敵の「思想と理論を精緻に解説した入門書」。

2598 倫理学入門

—アリストテレスから生殖技術、AIまで

品川哲彦 著

善と正の違いは何か。権利と義務の関係とは——。本書は、倫理学の基礎から始めて、法、政治、経済、宗教と倫理を関連づけながらその意義を再考する。アリストテレスやカントらによる5つの主要理論を平易に概説。さらに、グローバル経済、戦争、移民、安楽死、環境破壊、人工知能など現代社会の直面する難題について倫理学の観点から考察する。社会契約論や功利主義にかんする10の図解と26名の思想家のコラム付き。

2600 孫基禎

—帝国日本の朝鮮人メダリスト

金 誠 著

1936年のベルリン五輪マラソンで金メダルを獲得した孫基禎。日本は国威発揚に利用、朝鮮では民族の優秀性を示す英雄と扱い、「日軍英旗抹消事件」が起きた。戦後韓国では陸連トプフやソウル優勝開会式で聖火ランナーを務め、英雄視は続く。他方で、戦時中に学徒志願兵の募集など対日協力に従事した翳が近年明らかになってきた。本書は、スポーツ選手が国と民族を背負わされた20世紀「英雄」とされた孫の生涯を描く。

2601 北朝の天皇

―「室町幕府に翻弄された皇統」の実像

石原比呂吉 著

建武三年（一三三六）、京都を制圧した足利尊氏は新天皇を擁して幕府を開いた。後醍醐天皇は吉野に逃れ、二帝が並び立つ時代が始まる。北朝の天皇や院は幕府の傀儡だったと思われがちだが、歴代将軍は概して手厚く遇した。三代義満による南北朝の合一以降、皇統は北朝系が占めた。一見無力な北朝は、いかに将軍の庇護を受け、生き残り成功したか。両者の交わりをエピソード豊かに描き、室町時代の政治力学を解き明かす。

880円
102601-9

2602 韓国社会の現在

―超少子化、貧困・孤立化、デジタル化

春木育美 著

若者の就業率、教育費負担、男女の賃金格差など先進国の中で、「最悪」の数値を示す韓国。特に「圧縮した近代」の結果、1を切った出生率、60%が無年金者という高齢者の貧困率、自殺率は深刻だ。他方で問題解決のため大胆な政策を即実行し、デジタル化などは最先端を行く。本書は少子高齢化、貧困・孤立化、デジタル化、教育、ジェンダーを柱に、深刻化した現状と打開への試行錯誤を描く。韓国の苦悩は日本の近未来でもある。

880円
102602-6

2603 性格とは何か

―より良く生きるための心理学

小塩真司 著

「あの人は性格がいいね」「もつと明る性格だったらなあ」と私たちがよく話題にする「性格」。最新の心理学はそこへ潜む謎を解明しつつある。歳をとると人とはどう変わるのか。住む地域はどんな影響を及ぼすか。日本人はどんなネガティブな人になっているのか。男女は何が同じで何が違うか。「成功」できる性格とは。性格についてよく知ること居心地よく暮らせる環境を作り、幸福な人生を送るためのヒント。

820円
102603-3

2604 SDGs（持続可能な開発目標）

蟹江憲史 著

SDGs（持続可能な開発目標）は、国連で採択された「未来のかたち」だ。健康と福祉、産業と技術革新、海の豊かさを守るなど経済・社会・環境にまたがる17の目標があり、2030年までの達成が目指されている。「だれ一人取り残されない」ために目標を設定し、達成のための具体策は裁量に任されているのが特徴だ。ポスト・コロナ時代に、企業・自治体、そして我々個人はどう行動すべきか。第一人者がSDGsのすべてを解説する。

920円
102604-0

2605 民衆暴力

―一揆・暴動・虐殺の日本近代

藤野裕子 著

現代の日本で、暴動を目撃する機会はまずないだろう。では、かつてはどうだったのか。本書は、新政反対一揆、秩父事件、日比谷焼き打ち事件、関東大震災時の朝鮮人虐殺という四つの出来事を軸として、日本近代の一面を描く。権力の横暴に対する必死の抵抗か、それとも鬱屈を他者へぶつけた暴挙なのか。単純には捉えられない民衆暴力を通し、近代化以降の日本の軌跡とともに国家の権力や統治のあり方を照らし出す。

820円
102605-7

2606 音楽の危機

―《第九》が歌えなくなった日

岡田暁生 著

二〇二〇年、世界的なコロナ禍でライブやコンサートが次々と中止になり、「音楽が消える」事態に陥った。集うことすらできない――。交響曲からオペラ、ジャズ、ロックに至るまで、近代市民社会と共に発展してきた文化がつかつない窮地を迎えている。一方で、利便性を極めたストリーミングや録音メディアが「音楽の不在」を覆い隠し、私たちの危機感には麻痺している。文化の終焉か、それとも変化の契機か。音楽のゆくえを探る。

820円
102606-4

2607 アジアの国民感情

―データが明かす人々の対外認識

園田茂人 著

政治体制や文化が異なるアジア各国は、歴史問題や経済競争も絡み近隣諸国への思いは複雑だ。本書は、10年以上にわたる日中韓・台湾・香港・東南アジア諸国などへの初の継続調査から、各国民の他国・地域への感情・心理を明らかにする。台頭する中国への意識、日本への感情、米中関係への思い、ASEAN内での稀薄な気持ち、日韓に限らず隣国への敵対意識など様々な事実を提示。データと新しい視点から国際関係を描き出す。

880円
102607-1

2608 万葉集講義

―最古の歌集の素顔

上野 誠 著

奈良時代の後期に成立し、短歌・長歌など四五二六首を収める「万葉集」。歴代天皇や皇族、宮廷貴族、律令官僚がおもな作者だ。他方で防人、東国の農民、遊女といった庶民の歌も含む。幅広い階層が詠んだ、きわめて日本的な「国民文学」のイメージで語られるが、それははたして妥当か。古代日本が範を仰いだ中国の詩文の色濃い影響をどう見るべきか。代表的な歌々を紹介・解説しつつ、現存最古の歌集の実像を明らかにする。

880円
102608-8

2609 現代日本を読む

―ノンフィクションの名作・問題作

武田 徹 著

「非」フィクションとして出発した一方、ニュースのように事実を伝えるだけではないノンフィクション。本書では、水俣病を世に知らしめた『苦海浄土』、ベストセラー『日本人とユダヤ人』に始まり、『テロルの決算』や『捏造の科学者』、大震災や核密約を扱った作品など、一九七〇年代から現在に至る名作・問題作を精選。小説とも報道とも異なる視点から時代を活写した作品群を通して現代日本の姿を浮き彫りにする。

900円
102609-5

2610 ヒトラーの脱走兵

―裏切りか抵抗か、ドイツ最後のタブー

對馬達雄 著

ナチス・ドイツ国防軍の脱走兵は、捕らえられて死刑判決を受けた者だけでも3万人以上で、英米に比べて際だつて多い。その多くは戦開中の逃亡ではない。民族殲滅に加担したくないという、生命をかけた抵抗であった。戦後、生き延びた脱走兵たちは久し久し単独者として罵られ存在までも否定されつつあるが、ついに軍法会議の不当な実態を暴き、名誉回復をなし遂げる。最後の脱走兵の生涯を通して、人間の勇気と尊厳を見つめる。

880円
102610-1

2611 **アメリカの政党政治**

—建国から250年の軌跡

岡山 裕著

アメリカの民主・共和の二大政党は、世界の中で極めて異質だ。両党は、地域の政党組織の連合体に過ぎず、党首、恒常的な綱領、党議拘束もない。他方で、地方政治家、政府高官、裁判官など隅々にまで浸透し、いずれかの党派であることが当然視される。両党は法によって優遇されてもいる。本書は、支持層・基盤を変えながら二大政党が制度化していく歴史を辿り、大統領を中心に語られてきたアメリカ政治の本質を描く。

880円
102611-8

2612 **デジタル化する新興国**

—先進国を超えるか、監視社会の到来か

伊藤聖聖著

デジタル技術の進化は、新興国・途上国の姿を劇的に変えつつある。中国、インド、東南アジアやアフリカ諸国は、今や最先端技術の「実験場」と化し、決済サービスやSNSの普及などのスパーアプリーでは先進国を凌駕する。一方、雇用の悪化や、中国が輸出する監視システムによる国家の取り締まり強化など、負の側面も懸念される。技術が増幅する新興国の「可能性とリスク」は世界に何をもたらすか。日本がとるべき戦略とは。読売・吉野作造賞受賞

820円
102612-5

2613 **古代メソポタミア全史**

—シユメル、バビロニアからサーサーン朝ペルシアまで

小林登志子著

人類初の文明は5500年前のメソポタミアに生まれた。灌漑農業、都市、文字など、現代でも必須な文明の要素は全てこのときにシユメルが発明した。その後「目を目を」と名高いハンムラビ王、初の世界帝国を築いた新アッシリアのアッシュル・パニバル王、「バビロン捕囚」で悪名高いネブカドネザル二世など数々の王たちが現れ、様々な民族の王朝が抗争を繰り返す。イスラームの登場まで、4000年の興亡を巨細に描く。

1000円
102613-2

2614 **カラー版 ラファエロ**

—ルネサンスの天才芸術家

深田麻里亜著

ラファエロ(1483-1520)は、イタリア・ルネサンスの巨人である。37年の短い生涯にもかかわらず、聖母子画やローマ教皇らを描いた肖像画などの傑作を残した。本書は、その歩みと作品をたどって、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロら芸術家たちとの交流や、古代ローマへ向けた関心などを読み解く。そして、後世に巨大な影響をもたらした彼の知られざる多面的な実像を明らかにする。

1000円
102614-9

2615 **物語 東ドイツの歴史**

—分断国家の挑戦と挫折

河合信晴著

ドイツは第二次世界大戦の敗北後、東西に分裂する。ソ連の影響下、社会主義国として40年にわたり存在したが東ドイツである。東西統一後、東ドイツは、非人道的な独裁政治やシュタージといった秘密警察の監視など、負の側面ばかり強調されてきた。本書は、ベルリンの壁崩壊後に明らかになった史料から、楽観的で無責任な指導部、豊かさを求めて声を上げる民衆など、壁の向こうの実験国家の実態と全貌を描く。

900円
102615-6

2616 **法華経とは何か**

—その思想と背景

植木雅俊著

『法華経』は、釈尊入滅から約五百年後、紀元一世紀末から三世紀初頭のインド北西部で誕生したとされる。日本には六世紀半ばに伝わり、『法華秀句』を著した最澄や『法華経の行者』を自任した日蓮から、松尾芭蕉、宮沢賢治に至るまで、後世に広く影響を与えた。本書では、サンスクリット原典の徹底的な精読を通じて、「諸経の王」とも称される仏典の全体像を描き、平等な人間観に貫かれた教えの普遍性と現代的意義を示す。

900円
102616-3

2617 **暗殺の幕末維新史**

—桜田門外の変から大久保利通暗殺まで

一坂太郎著

近代日本が生まれた幕末維新期。日本史上これほど暗殺が頻発した時期はない。尊皇攘夷論の洗礼を受けた者をはじめ、彼らはずいぶん暗殺に走ったのか。本書は大老井伊直弼から内務卿大久保利通に至る国家の中核、外国人、坂本龍馬らの志士、市井の人々までが次々に標的となった事件の凄惨な実相と世間の反応を描く。さらに後世、一方で暗殺者を顕彰し、他方で忌避した明治国家の対応も詳述する。闇から見つめる幕末維新史。

820円
102617-0

2618 **板垣退助**

—自由民権指導者の実像

中元崇智著

「板垣死すとも自由は死せず」の言で名高い板垣退助(1837-1919)。戊辰戦争で官軍の指揮官として名声を得た彼は、維新後、政権に参画するも西郷隆盛らと下野。民選議会設立を求め自由民権運動に邁進し、日本初の全国政党・自由党を結成する。議会開設後は第一党のトップとして藩閥政府と対峙。のちには大隈重信と初の政党内閣を組織した。多くの大衆から愛され、近代日本に大きな足跡を残した志士の真実。

860円
102618-7

2619 **もののけの日本史**

—死霊・幽霊・妖怪の1000年

小山聡子著

モノノケは、古代・中世では、正体不明の死霊を指した。病氣や死をもたらす恐ろしい存在で、貴族らは退治や供養に苦心した。近世になると幽霊や妖怪と同一視され、怪談や凶案入りの玩具を通して庶民に親しまれる。明治以降、知識人のみならず政府もその存在を否定するが、新聞に掲載される怪異や文芸作品で語られる化物たちの人気は根強かった。本書は、豊富な史料からモノノケの承譜を辿り、日本人の死生観、霊魂観に迫る。

900円
102619-4

2620 **コロナ危機の政治**

—安倍政権vs.知事

竹中治堅著

二〇二〇年一月十五日に日本で最初の罹患者が確認された新型コロナウイルス感染症。中国・韓半島での発生から日本への到来、一斉休校、緊急事態宣言とその解除、そして安倍政権の退陣まで。この九か月に及ぶ経緯から見てきたのは、強大な権力を手に入れて「一強」とまで言われた「首相支配」への制約だった。安倍政権と知事らの対応のプロセスを丹念にたどり、危機が明らかにした日本の政治体制とその問題点を描く。

980円
102620-0

2621 **リベラルとは何か**
— 17世紀の自由主義から現代日本まで

田中拓道 著

現代のリベラルは「すべての個人が自由に生き方を選択できるよう、国家が一定の再分配を行うべきだ」と考える。リベラルは17世紀ヨーロッパの自由主義から思想的刷新を重ね、第二次世界大戦後は先進諸国に共通する政治的立場となった。しかし20世紀後半の新自由主義や近年のポピュリズムなどの挑戦を受け、あり方の模索が続く。本書は理念の変遷と現実政治の展開を丁寧にとり、日本でリベラルが確立しない要因にも迫る。

820円
102621-7

2622 **明智光秀**

— 織田政権の司令塔

福島克彦 著

織田信長は版図拡大に伴い、柴田勝家、羽柴秀吉ら有力部将に大幅な権限を与え、前線に送り出した。だが明智光秀の地位はそれらとは一線を画す。一貫して京都とその周辺を任ざられて安土城の信長から近く、政権の司令塔ともいえる役割を果たした。檢地による領国掌握、軍法の制定などの先進的な施策は、後年の秀吉が発展的に継承している。織田家随一と称されるながら、本能寺の変で主君を討ち、山崎合戦で敗れ去った名将の軌跡。

900円
102622-4

2623 **古代マヤ文明**

— 栄華と衰亡の3000年

鈴木真太郎 著

かつて中米に栄えた古代マヤ。前1000年頃に興り、一六世紀にスペインに征服された。密林に眠る大神殿、高度に発達した天文学や暦など、かつては神秘的なイメージが強かったが、最新の研究で「謎」の多くは明かされている。解説が進んだマヤ文字は王たちの事績を語り、出土した人骨は人びとの移動や食生活、戦争の実態まで浮き彫りにする。現地での調査に長年携わった著者が、新知見をもとに、その実像を描く。

960円
102623-1

2624 **「徴用工」問題とは何か**

— 朝鮮人労働動員の実態と日韓対立

波多野澄雄 著

2018年秋、韓国最高裁は「徴用工」訴訟で韓国入被害者への賠償を日本企業に命じた。日本の最高裁でも、韓国の高裁でも原告敗訴だったが、なぜそれが一転したか——。本書は、日本統治下の朝鮮人労働者の実態から、今なぜ問題が浮上したかまでを描く。この問題は、歴史的事実、総動員体制、戦後処理、植民地主義、歴史認識、国際法理解、司法の性格など多岐にわたる。それらを腑分けして解説、日韓和解の糸口を探る。

820円
102624-8

2625 **新型コロナウイルスの科学**

— パンデミック、そして共生の未来へ

黒木登志夫 著

未曾有のパンデミックはなぜ起きたか——。世界を一変させた新型コロナウイルス。本書は、治療薬やワクチン開発を含む研究の最前線を紹介。膨大な資料からその正体を探る。ロックダウン前後のベネチア、雲南省の洞窟、武漢ウイルス研究所、ダイヤモンド・プリンセス号と舞台を移してウイルスの変遷を辿り、見えない敵に立ち向かう人々のドラマを生き生きと描く。日本政府の対応にも鋭く迫り、今後の課題を浮き彫りにする。山中伸弥氏推薦。

940円
102625-5

2626 **フランクリン・ローズヴェルト**

— 大恐慌と大戦に挑んだ指導者

佐藤千登勢 著

フランクリン・D・ローズヴェルトはアメリカ史上唯一4選された大統領である。在任中、大恐慌と第二次世界大戦という未曾有の危機に直面し、内政では大胆なニューディール政策を採用、外交ではチャーチルやスターリンと協力してドイツ・日本など枢軸国と戦い、勝利に導いた。ポリオの後遺症による不自由な身体を抱えつつ、いかにして20世紀を代表する指導者となったか。妻エレノアとの人間模様も交え、生涯を活写する。

880円
102626-2

2627 **戦後民主主義**

— 現代日本を創った思想と文化

山本昭宏 著

アジア・太平洋戦争の悲惨な経験から、多くの支持を得た戦後民主主義。日本国憲法に基づく民主主義・平和主義の徹底を求める思想である。だが冷戦下、戦争放棄の主張は理想主義と、経済大国化後は「一國平和主義」と批判され、近年は改憲論の前に守勢にある。本書は戦後の制度改革、社会運動から政治家、知識人、映画などに着目し、戦後民主主義の実態を描く。日本社会にいかなる影響を残したのか、その軌跡を追う。

920円
102627-9

2628 **英文法再入門**

— 10のハードルの飛び越え方

澤井康佑 著

「英語は苦手、でも得意になりたい」と思っている人へ！ 英語が難しい原因は次の2つです。1つは英語が日本語と全く別の言語だから、もう1つは中学・高校で正しい方法と順番で学ばなかったからです。この2点を意識しながら、中学・高校の英文法をもう一度学んでみましょう。本書は、名詞の用法から基本の5文型、誰もががまずく不定詞句や関係詞まで、工夫を凝らした10の講義で解説。これで自信がつかはずです。

880円
102628-6

2629 **ロヒンギャ危機**

— 「民族浄化」の真相

中西嘉宏 著

ロヒンギャは、ミャンマー西部に住むイスラム系民族だ。軍事政権下、長く差別されてきた。2017年の国軍による掃討作戦以降、大量の難民が発生し、現在100万人が隣国のキャンプで暮らす。民主化運動の指導者アウンサンスーチーはなぜ「虐殺」を否定するのか。本書は、複雑な歴史的背景やミャンマーをめぐる国内・国際政治を通して、アジア最大の人道・人権問題の全貌を示す。

880円
102629-3

2630 **現代音楽史**

— 闘争しつづける芸術のゆくえ

沼野雄司 著

長い歴史をもつ西洋音楽は、二十世紀に至って大きく変貌する。シェンベルクやストラヴィンスキーに始まり、ジョン・ケージ、武満徹、クラスタイン……。多くの作曲家が既存の音楽の解体をめざして無調、十二音技法、トーン・クラスター、偶然性の音楽などといったさまざまな技法を開発し、音の実験を繰り返した。激動する政治や社会、思想を反映しながら時代との闘争を続ける「新しい」音楽のゆくえとは。ミュージック・ペンクラブ音楽賞受賞

900円
102630-9

2631 現代民主主義

指導者論から熟議、ポピュリズムまで

山本 圭著

二〇世紀以降、思想・理論ともにさらなる多様化が進む民主主義。本書は、政治学をはじめ、ウエーバー、シュミット、シュンペーター、アーレント、デリダ、ムフなどの思想から、その大きな潮流と意義を捉える。指導者や選挙による競争、市民参加、熟議／闘議、ポピュリズムといった多くの論点から、現代デモクラシー論の可能性に迫る。実践錯誤を繰り返してきた軌跡を通して、二一世紀の民主主義を模索する試み。

860円
102631-6

2632 男が介護する

家族のケアの実態と支援の取り組み

津止正敏著

かつて女性中心で行われてきた家族の介護。今では男性（夫や息子など）が担い、手の3分の1を占めるが、問題は少なくない。孤立し、追い詰められた男性介護者による虐待、心中などの事件は後を絶たない。他方で介護職を余儀なくされる人もいる。本書は、悲喜もごもごのケアの実態、介護する男性が集い、支え合う各地のコミュニティの活動を、豊富なエピソードを交えて紹介。仕事と介護が両立できる社会に向けた提言を行う。

820円
102632-3

2633 日本の歴史的建造物

社寺・城郭・近代建築の保存と活用

光井 渉著

法隆寺や姫路城はじめ、日本には世界遺産に指定された歴史的建造物が多い。だが、「役割を終えた古い建物」でしかなかったそれらに価値や魅力が「発見」されたのは、実は近代以降のことである。そして、保存や復元、再現にあたっては、その建造物の「正しし」あり方が問われた。歴史学何れも改築された法隆寺、コンクリート構造の大阪城天守閣、東京駅、首里城……。明治時代から現代に至る美の発見のプロセスをたどる。

900円
102633-0

2634 サラ金の歴史

消費者金融と日本社会

小島庸平著

個人への少額の融資を行ってきたサラ金や消費者金融は、多くのテレビCMや屋外看板で広く知られる。戦前の素人高利貸から質屋、困地金融などを経て変化した業界は、経済成長や金融技術の革新で躍進した。だが、バブル崩壊後、多重債務者や苛烈な取り立てによる社会問題化に追い詰められていく。本書は、この一世紀に及ぶ軌跡を追う。サントリー学芸賞、新書大賞受賞

980円
102634-7

2635 文部科学省

揺らぐ日本の教育と学術

青木栄一著

文部科学省は2001年に文部省と科学技術庁が統合し、発足した。教育、学術、科学技術を中心に幅広い分野を担当する一方で、「三流官庁」とも揶揄される。実態はどのようなものか。電が関最小の人員、キャリア官僚の昇進ルート、減り続ける予算など実状を解説。さらに、ゆとり教育の断念、働きすぎの教員たち、大学入試改革の頓挫、学術研究の弱体化など、続出する問題に迫る。官邸や経産省に振り回される現状は変えられるか。

800円
102635-4

2636 古代日本の官僚

天皇に仕えた怠惰な面々

虎尾達哉著

壬申の乱の勝者である天武天皇以降の日本は、律令に基づく専制君主国家とされる。だが貴族たち上級官僚とは異なり、下級官僚は職務に忠実とは言えず、勤勉でもなかった。朝廷の重要な儀式すら無断欠席し、日常の職務をしばしば放棄した。なぜ政府は寛大な措置に徹したのか。その背後にあった現実主義とは。飛鳥・奈良時代から平安時代にかけて、下級官僚たちの勤務実態を具体的に検証し、古代国家の知られざる実像に迫る。

800円
102636-1

2637 英語の読み方

ニユース・SNSから小説まで

北村一真著

ネット上で海外発の情報を接する機会が増えた昨今、英語を読む力の重要性はますます高まっている。本書では、ニユース記事や論文、SNS、小説など、幅広いタイプの英文の読み方を指南。論理的な読み解きのセオリーを解説する。独学者にとって宝の山である各種サイトの活用法や、ネイティブでも間違えやすい表現など、「さらに上」を目指す人へのガイドも満載。巻末に、重要語彙・文法が身につく60の厳選例文を取録。

800円
102637-8

2638 幣原喜重郎

国際協調の外政家から占領期の首相へ

熊本史雄著

戦前に外相を4度務め、経済重視の国際協調を主導、戦後は占領下、首相として日本国憲法制定に尽力した幣原喜重郎。外交官の中枢を歩み、欧米との関係を重視した「幣原外交」は、軟弱と批判されながらも中国への不干渉を貫き、政党政治を支えた。満洲事変後の軍部台頭引退を余儀なくされるが敗戦後、昭和天皇に請われ復活。民主化や憲法9条の成立に深く関与する。激動の昭和期、平和を希求し続けた政治家の実像に迫る。

880円
102638-5

2639 宗教と日本人

葬式仏教からスピリチュアル文化まで

岡本亮輔著

日本では信仰を持たない人が大半を占めるが、他方で仏教や神道、キリスト教の行事とは縁が深い。日本人と宗教の不可思議な関わりはどこへ向かうのか。新宗教の退潮とスピリチュアル文化の台頭、変わる葬式や神社の位置づけ、ケルトや縄文など古代宗教のブーム……。宗教を信仰の面だけでなく、実践や所属の観点も踏まえ、その理解を刷新。人々の規範から消費される対象へと変化した宗教の現在地を示す。

820円
102639-2

2640 鉄道と政治

政友会、自民党の利益誘導から地方の自立へ

佐藤信之著

かつて鉄道は、地方に近代化をもたらしてくれくれたものだった。「我田引鉄」と呼ばれようと、政治家は血眼になって自らの票田に鉄道を引き込んだ。不自然な路線や駅の配置が各地に見られるのはその結果である。だが、鉄道を国に強請る時代は終わった。国と地方との関係が変わった今、リニア、都市交通などの整備はどうあるべきか。明治以来の政治家・政党と交通政策の変遷を概説し、これからを展望する。

940円
102640-8

2641 小説読解入門
『ミドルマーチ』教養講義

廣野由美子 著

読書に正解はないかもしれないが、小説世界を味わうコツは存在する。本書は、19世紀英国の地方都市を舞台としたジョージ・エリオットの傑作長編『ミドルマーチ』を事例に、「小説技法篇」で作家の用いるテクニクを解説。続く「小説読解篇」では、歴史や宗教、科学、芸術などの「教養」を深める11の着眼点で、小説の愉しみを伝授する。知性と感性を研ぎ澄まし、文学の奥深くに潜むものを読み取るために。

900円
102641-5

2642 宗教と過激思想

—現代の信仰と社会に何が起きているか

藤原聖子 著

近年、危険とみなされる宗教に対して、「異端」に変わり、「過激」という表現がよく使われる。しかし、その内実は知られていない。本書は、イスラム、キリスト教、仏教、ユダヤ教、ヒンドウ教、神道などから、過激とされた宗教思想をとりあげ、わかりやすく解説。サイイド・クトゥブ、マルコムX、ジョン・ブラウン、井上日召、マイル・カハネらの思想を分析し、通底する「過激」の本質を明らかにする。

860円
102642-2

2643 イギリス1960年代

—ビートルズからサッチャーへ

小関 隆 著

第2次世界大戦後のベビーブームを背景に、若者文化が花開いた1960年代。中心にはビートルズが存在し、彼らの音楽・言動は世界に大きな衝撃を与えた。他方、サッチャー流の新自由主義も実はこの時代に胚胎した。今なお影響を与え続ける若者文化と新自由主義の象徴は、なぜイギリスで生まれたか。本書は、フッシュン、アートの百花繚乱、激動の社会とその反動を紹介し、1960s Britainの全貌を描く。

860円
102643-9

2644 植物のいのち

—からだを守り、子孫につなぐ驚きのしくみ

田中 修 著

森の中で巨樹を伐る。轟音を立てて倒れ、生命が絶たれたように見える。だがしばらくすると切り株から小さな芽が生まれてくる。死んだと思つた木は生きていたのだろうか？ 植物の「いのち」は、わたしたち動物とはずいぶん違って見える。動かず、しゃべらず、食べない。一方で、栄養を自分で作る、体の一部が失われても復活するなど、動物には真似できない能力も持つ。ユニークな「いのち」の形と仕組みをやさしく解説。

860円
102644-6

2645 天正伊賀の乱

—信長を本気にさせた伊賀衆の意地

和田裕弘 著

三重県西部の伊賀市・名張市エリアはかつて伊賀国と呼ばれた。戦国時代、この小国は統治者がおらず、在地領主たちが割拠していた。一五七九年、織田信長の次男信雄は独断でこの地に侵攻。挙国体制で迎え撃つた伊賀衆は地の利を生かして巧みに抗戦し、信雄は惨敗を喫した。信長から厳しく叱責された信雄は翌々年、大軍勢を率いて再び襲いかかる。文献を博搜した著者が、強大な外敵と伊賀衆が繰り広げた攻防を描く。

880円
102645-3

2646 ケアとは何か

—看護・福祉で大事なこと

村上靖彦 著

やがて訪れる死や衰弱は、誰にも避けられない。自分や親しい人が苦境に立たされたとき、私たちは「独りでは生きていけない」と痛感する。ケアとは、そうした人間の弱さを前提とした上で、生を肯定し、支える営みである。本書は、ケアを受ける人や医療従事者、ソーシャルワーカーへの聞き取りを通して、より良いケアのあり方を模索。介護や地域活動に通底する「当事者主体の支援」を探り、コロナ後の課題についても論じる。

840円
102646-0

2647 高地文明

—「もう一つの四大文明」の発見

山本紀夫 著

「四大文明」は、ナイルや黄河などの大河のほとりでは生まれたとされる。しかし、これら以外にも、独自の文明が開花し、現代の私たちに大きな影響を与えた地がある。それが熱帯高地だ。本書はアンデス、メキシコ、チベット、エチオピアの熱帯高地に生まれ、発展してきた四つの古代文明を紹介。驚くほど精巧な建築物から、環境に根ざした独特な栽培技術や家畜飼育の方法、特色ある宗教まで、知られざる文明の全貌を解き明かす。

1050円
102647-7

2648 藤原仲麻呂

—古代王権を動かした異能の政治家

仁藤敦史 著

古代王権が安定した奈良時代に現れた異能の権力者、藤原仲麻呂。叔母・光明皇后の寵愛の下、橘奈良麻呂の変などで兄や他氏を肅清し実権を掌握。中国への憧憬から官職名をすべて唐風に改め、藤原氏嫡系に「惠美」姓を賜り准皇族化を推進。自ら惠美押勝と名乗った。養老律令の施行、新羅への外征計画を進める中、怪僧道鏡を慕う孝謙上皇と対立。武装蜂起を試みるが敗死する。息子らを「親王」と呼ばせ、皇位継承をも目論んだ生涯。

860円
102648-4

2649 東京復興ならず

—文化首都構想の挫折と戦後日本

吉見俊哉 著

空襲で焼け野原となった東京は、戦災復興、高度経済成長と一九六四年五輪、バブル経済、そして二〇二〇年五輪とつた機会のために、破壊と大規模開発を繰り返し巨大化してきた。だが、戦後の東京には「文化」を軸とした、現在とは異なる復興の可能性があった……。南原繁や石川栄耀の文化首都構想、丹下健三の「東京計画1960」など、さまざまな「幻の東京計画」をたどりながら、東京の失われた未来を構想しなおす。

960円
102649-1

2650 米中对立

—アメリカの戦略転換と分断される世界

佐橋 亮 著

「中国は唯一の競争相手」——バイデン米大統領がこう明言するように、近年、米中の角逐は激しさを増している。貿易戦争、科学技術開発競争、香港・台湾問題……。米国の対中姿勢は関与・支援から対立へと変化したのか。両国のリーダーが誰になろうとも、今後も対立が続く、緊張緩和はないのか。国交回復から現在まで、五〇年にわたる米中関係をたどり、分断が進む世界のなかで、日本のとるべき針路を考える。

940円
102650-7

2651 政界再編
— 離合集散の30年から何を学ぶか
山本健太郎 著
1993年に細川政権が発足し、日本政治は政界再編の時代に入りました。非自民勢力の結集は新進党で一度挫折するが、二度の合流で伸長した民主党は2009年に政権交代を果たす。しかし政権崩壊後、民主党は四分五裂し、「第三極」も低迷。自公政権のもと「強多弱」に陥った。大同団結しなければ選挙に勝てず、政党が拡大すれば路線対立が激化する。ジレンマを乗り越え、「政権交代可能な日本政治」実現の道を示す。
840円
102651-4

2652 戦争はいかに終結したか
— 二度の大戦から
ベトナム、イラクまで
千々和泰明 著
第二次世界大戦の悲劇を繰り返さない——戦争の抑止を追求してきた戦後日本。しかし先の戦争での日本の過ちは、終戦交渉をめぐる失敗にもあった。戦争はいかに收拾すべきなのか。二度の世界大戦から朝鮮戦争とベトナム戦争、さらに湾岸戦争やイラク戦争まで、20世紀以降の主要な戦争の終結過程を精緻に分析。「根本的解決と妥協的和平のジレンマ」を切り口に、真に平和を回復するための「出口戦略」を考える。
石橋湛山賞受賞
920円
102652-1

2653 中先代の乱
— 北条時行、鎌倉幕府再興の夢
鈴木由美 著
鎌倉幕府滅亡から二年後の一三三五年、北条高時の遺児時行が信濃で挙兵。動搖する後醍醐天皇ら建武政権を尻目に進撃を続け、鎌倉を陥落させた。二十日ほど後、足利尊氏によって鎮圧されるも、この中先代の乱を契機に歴史は南北朝時代へと動き出す。本書は、同時代に起きた各地の北条氏残党による蜂起や陰謀も踏まえ、乱の内実を読み解く。また、その後の時行たちの動向も追い、時流に抗い続けた人々の軌跡を描く。
820円
102653-8

2654 日本の先史時代
— 旧石器 縄文・弥生・古墳時代を
読みなおす
藤尾慎一郎 著
日本史の教科書で最初に出てくる、旧石器・縄文・弥生・古墳時代。三万六〇〇〇年に及ぶ先史の時代区分は、明治から戦後にかけて定着していった。しかし近年、考古学の発展や新資料の発掘に伴い、それぞれの時代の捉え方は大きく塗りかえられている。本書では、各時代の「移行期」に焦点を当て、先史の実像を描き出す。人びとの定住、農耕の開始、祭祀、「都市」の出現、前方後円墳の成立……。研究の最新線を一望する決定版。
940円
102654-5

2655 刀伊の入寇
— 平安時代、最大の対外危機
関 幸彦 著
藤原道長が栄華の絶頂にあった一〇一九年、対馬・杵波と北九州沿岸が突如、外敵に襲われた。東アジアの秩序が揺らぐ状況下、中国東北部の女真族（刀伊）が海賊化し、朝鮮半島を経て日本に侵攻したのだ。道長の甥で大宰府在任の藤原隆家は、有力武者を統率して奮闘。刀伊を撃退するも死傷者・拉致被害者は多数に上った。当時の軍制をふまえて、平安時代最大の対外危機を検証し、武士台頭以前の戦闘の実態を明らかにする。
800円
102655-2

2656 本能
— 遺伝子に刻まれた驚異の知恵
小原嘉明 著
鳥のヒナは親に教わらなくても飛ぶことができる。人間の赤ちゃんも、口を密閉し、口の中を陰圧にしようとして乳を吸うという、複雑な行動を誰にも習わずに行う。これらは全て本能のおかげである。単純な行動だけでなく、あちこちの筋肉やセンサーを総動員する。まるでオペラ・ケストラの演奏のような高度な行動も、実は本能が指揮しているのだ。これら驚くべき行動の数々を紹介し、どのような仕組みで形作られるかを解説する。
860円
102656-9

2657 平沼騏一郎
— 検事総長、首相からA級戦犯へ
萩原 淳 著
司法と行政の頂点を極めた唯一の政治家・平沼騏一郎。東大を首席で卒業後、能吏の関こえ高く、大連事件を処理し、検事総長、大審院長を歴任。政界進出を遂げる右翼団体・開国社を組織する。軍人らの期待を集め、日中戦争下、首相に就任。日米開戦後は重臣、枢密院議長として和平派へ。機会主義と映る行動から右翼に銃撃され、自宅放火にも遭った。天皇崇拜の国家主義者、陰謀家、A級戦犯として断罪され続けた平沼の実像を描く。
900円
102657-6

2658 物語 パリの歴史
— 「芸術と文化の都」の2000年
福井憲彦 著
古代ローマのカエサルのカリア遠征に始まり、フランク王国、ベストの流行、百年戦争、ルネサンス、絶対王政、フランス革命など、常に世界史の中心に位置してきたパリ。「芸術と文化の都」として、世界で最も多くの旅行者を惹きつけている。その尽きせぬ魅力の源は何か。歴史を彩る王たち、たび重なる戦争と疫病の危機、そして文学や思想、芸術、建築……。フランス史の達人とともに訪ねる二〇〇〇年の歴史の旅。
900円
102658-3

2659 経済社会の学び方
— 健全な懐疑の目を養う
猪木武徳 著
私たちが暮らす経済社会——経済的な関係が深く染みこんだ社会とどうつき合うべきか。その仕組みを知り、そこで起こる問題解決のために必要なのは。データの重要性和限界、理論の功罪、因果推論の効果と弱点から、人間心理を扱う難しさ、歴史に学ぶ意義と注意点、政治との距離感まで、経済社会について学ぶためのヒントに満ちた一冊。溢れる情報に「健全な懐疑の目」で接し、社会を少しでも良くしたい全ての人々へ。
860円
102659-0

2660 原 敬
— 「平民宰相」の虚像と実像
清水唯一朗 著
初の「平民」首相として、本格的政党内閣を率いた原敬。戊辰戦争で敗れた盛岡藩出身の原は善学を重ね、新聞記者を経て外務省入省、次官まで栄進する。その後、伊藤博文の政友会に参加、政治家の道を進む。大正政変、米騒動など民意高揚の中、閣僚を経て党の看板として藩閥と時に敵対、時に妥協し改革を主導。首相就任後、未来を見据えた改革途上で凶刃に倒れた。独裁的、権威的と評されるリアリスト原の軌跡とその真意を描く。
900円
102660-6

2661 アケメネス朝ペルシア
—史上初の世界帝国

阿部拓児 著

2500年前、アジア・アフリカ・ヨーロッパの三大陸にまたがる「史上初の世界帝国」として君臨したアケメネス朝ペルシア。エジプト侵攻やバルシヤ戦争など征服と領土拡大をくり返し、王はアフラマズダ神の代行者として地上世界の統治に努めた。古代オリエントで栄華を極めるも、アレクサンドロス大王によって滅ぼされ、220年の歴史は優く幕を閉じた。ダレイオス1世ら9人の王を軸に、大帝国の全貌と内幕を描き出す。

880円
102661-3

2662 荘園

—墾田永年私財法から応仁の乱まで

伊藤俊一 著

荘園は日本の原風景である。公家や寺社、武家など支配層の私有農園をいい、奈良時代に始まる。平安後期から増大し、院政を行う上皇の権力の源となった。鎌倉時代以降、武士勢力に侵食されながらも存続し、応仁の乱後に終焉を迎えた。私利私欲で土地を囲い込み、国の秩序を乱したと見られがちな荘園だが、農業生産力向上や貨幣流通の進展に寄与した面は見逃せない。新知見もふまえて、中世社会の根幹だった荘園制の実像に迫る。

900円
102662-0

2663 物語 イスタンブールの歴史

—「世界帝都」の1600年

宮下 遼 著

ローマ帝国の混乱を取めたコンスタンティヌス1世が三三〇年に建設した「新ローマ」から、一九二二年のオスマン帝国滅亡まで二六〇〇年余り、「世界帝都」として繁栄したイスタンブール。本書は、ビザンツとオスマン、二つの帝国支配の舞台となったこの地の案内記である。城壁に囲まれた旧市街から、西欧化の象徴である新市街、東の玄関口アジア岸、そして近代のメガンティへ——複雑多様な古都を愉しむ時間旅行。

920円
102663-7

2664 歴史修正主義

—ヒトラー賛美、ホロコースト否定論から法規制まで

武井彩佳 著

ナチによるユダヤ人虐殺といった史実について、意図的に歴史を書き替える歴史修正主義。フランスでは反ユダヤ主義の表現、ドイツではナチ擁護として広まる。一九八〇年代以降は、ホロコースト否定論が世界各地で評価。独仏では法規制、英米ではアーヴィン・裁判を始め司法で争われ、近年は共産主義の誹謗をめぐり、東欧諸国で拡大する。本書は、一〇〇年以上に及ぶ欧米の歴史修正主義の実態を追い、歴史とは何かを問う。

840円
102664-4

2665 三好一族—戦国最初の「天下人」

天野忠幸 著

阿波の守護細川氏に仕え、主家に従い畿内に進出した三好氏。全盛期の当主長慶は有能な弟たちや重臣松永久秀と覇業に邁進し、主家を凌ぐ勢力となる。やがて足利将軍家の権威に抱けない政権を樹立し、最初の「天下人」と目された。政権が短命で終わった後も、織田信長の子や羽柴秀吉の甥を養子に迎えるなど名門の存在感は保たれ、その血脈は江戸時代になっても旗本として存続する。信長に先駆けて天下に号令した一族の軌跡。

820円
102665-1

2666 ドイツ・ナシヨナリズム

—「普遍」対「固有」の二千年史

今野 元 著

アメリカの世界覇権が弱りを見せるなか、欧州で主導権を握り、存在感を増すドイツ。だが英仏など周辺国からの反撥は根強い。そこには歴史の経緯や、経済をはじめとする国力の強大化への警戒感だけでなく、放漫財政を指弾し、難民引き受けや環境保護を迫るなど、西歐的「普遍」的価値観に照らした「正しさ」を他国にも求める姿勢がある。二千年にわたる歴史を繙き、ドイツはいかにして「ドイツ」となったのかをさぐる。サントリー学芸賞受賞

960円
102666-8

2667 南北朝時代

—五胡十六国から隋の統一まで

会田大輔 著

中国の南北朝時代とは、五胡十六国後の北魏（439年）から隋の中華再統一（589年）までの150年を指す。北方遊牧民による北朝（北魏・東魏・西魏・北齊・北周）と漢人の貴族社会による南朝（宋・齊・梁・陳）の諸王朝が興っては滅んだ。南北朝の戦争に加え、六鎮の乱や侯景の乱など反乱が続いた一方、漢人と遊牧民の交流から、後世につながる制度・文化が開いた。激動の時代を生きた人々を写す。

900円
102667-5

2668 宗教図像学入門

—十字架、神殿から仏像、怪獣まで

中村圭志 著

十字架、仏像、モスク、曼荼羅、地獄絵図、神話の神々、竜——シンボルマークや聖なる空間、絵画、彫刻、映画などによって形成された「イメージ」は、教義と並ぶ宗教の重要な特徴だ。それを分析する技法が宗教図像学である。本書では、ユダヤ教、キリスト教、仏教をはじめ、世界の主な宗教の図像学的知識を一挙解説。「天界の王族」「聖なる文字」などのトピックごとに、奥深い宗教文化の魅力を余すことなく紹介する。

960円
102668-2

2669 古代中国の24時間

—秦漢時代の衣食住から性愛まで

柿沼陽平 著

始皇帝、項羽と劉邦、曹操ら英雄が活躍した古代の中国。二千年前の人々はどんな日常生活を送っていたのか。気鋭の中国史家が文献史料と出土資料をフル活用し、服装・食卓・住居から宴会・性愛・育児まで、古代中国の一日24時間を再現する。口臭にうるさく、女性たちはイケメンに熱狂、酒に溺れ、食欲に性を愉しみ……。驚きに満ちながら、現代の我々ともどこか通じる古代人の姿を知れば、歴史がもっと愉しくなる。

960円
102669-9

2670 サウジアラビア

—イスラーム世界の盟主の正体

高尾賢一郎 著

1744年にアラビア半島に誕生したサウジアラビア。王政国家、宗教権威国、産油国の貌を持つキメラのような存在だ。王室内の権力闘争や過激主義勢力との抗争、石油マネーをめぐる利権により、内実はヴェールに包まれていた。中東の新興国はいかにして「イスラーム世界の盟主」に上りつめたのか。宗教・経済・女性問題は克服できるか。イスラームの国家観と西洋近代の価値観の狭間で変革に向かう、大国の実像を描き出す。

820円
102670-5

2671 親孝行の日本史

勝又 基著

2672 南極の氷に何が起きているか

杉山 慎著

2673 国造(くにおみやつこ)

篠川 賢著

2674 ジョン・ロールズ

齋藤純一／田中将人著

2675 江戸—平安時代から家康の建設へ

齋藤慎一著

2676 地球外生命

—アストロバイオロジーで探る
生命の起源と未来

小林憲正著

2677 エビはすごい カニもすごい

矢野 勲著

2678 北条義時

—鎌倉殿を補佐した二代目執権

岩田慎平著

2679 資本主義の方程式

—経済停滞と格差拡大の謎を解く

小野善康著

2680 モチベーションの心理学

—「やる気」と「意欲」のメカニズム

鹿毛雅治著

孝とは、親を大切にすることで、儒教の基本的徳目だ。律令で孝行者の表彰が定められ、七十四年に最古の例が見られる。以来、孝子は為政者から顕彰され、人々の尊敬を集めた。特に江戸時代は表彰が盛んに行われ、多くの孝子伝が編まれた。明治以降は入り教育の中心に据えられるが、戦後、軍国主義に結びついたと否定された。それは常に支配者の押しつけだったか。豊富な資料で「孝」を辿り、日本人の家族観や道徳観に迫る。

860円 102671-2

日本の面積の約40倍に及ぶ。地球最大の氷。こと南極氷床。極寒の環境は温暖化の影響を受けにくいと言われてきたが、近年の研究で急速に氷が失われつつある事実が明らかになった。大規模な氷床融解によって、今世紀中に2メートルも海面が上昇するという「最悪のシナリオ」も唱えられている。不安は現実のものとなるか。危機を回避するためにすべきことは。氷床研究の第一人者が、謎多き「氷の大陸」の実態を解き明かす。講談社科学出版賞受賞

860円 102672-9

古墳時代から飛鳥時代にかけて地方行政のトップにあったのが、有力豪族が任命された国造である。だが、その実態は謎も多い。本書は、稲荷山鉄剣銘に刻まれた「ヲワケ」の名や、筑紫の磐井など国造と関連する豪族、記紀の記述を紹介しながら、国造制とは、いつ施行されたどのような制度で、誰が任命され、いつ廃止されたのかまでを描き出す。さらに奈良時代以降に残った国造がどのような存在であったのかなどを解説する。

860円 102673-6

米国の政治哲学者ジョン・ロールズ(1921-2002)。1971年刊行の『正義論』において、独創的な概念を用いて構築した「公正な社会」の構想は、リベラリズムの理論的支柱となった。「平等な自由」を重視する思想はいかに形成されたか。太平洋戦線における従軍体験、広島への原爆投下の記憶がロールズに与えた影響とされた。最新資料から81年の生涯を捉え直し、思想の全体像を解説。その課題や今日的意義にも迫る。

840円 102674-3

徳川家康が入城し、将軍の本拠地として大都市へ変貌した江戸。その始まりは平安時代末、秩父平氏一族の江戸氏が拠点と置く低湿地だった。太田道灌の江戸城築城、戦国大名北条氏の支配を経て、入府した家康の大事業によって、城と町は発展を遂げる。江戸の繁栄はいかにして築かれたのか。本書では新知見をふまえて、中世から近世への変遷過程を解明。平安時代の寒村から、豪華絢爛な都市が成立するまでの500年を描き出す。

820円 102675-0

生命はどう生まれたか。アミノ酸などが生成する過程と生物誕生の間に何があつたか、いまだ明らかではない。しかし、現在その空白は、宇宙で作られた有機物が埋めるといふ見方が有力だ。宇宙が命のふるさとならば、地球外の惑星にも多数存在すると考えた方が自然だろう。本書は、進化のプロセスと、最新の惑星探査での知見をもとに、アストロバイオロジー(宇宙生物学)から、生命の起源と地球外生命に迫る。

900円 102676-7

みんなが大好きなエビとカニ。しかし、その体のしくみや行動は意外に知られていない。なぜエビ・カニは茹でると赤くなるのか。エビがプリプリの理由は? カニの横歩きの秘密は? エビ・カニとシヤコやヤドリカとの違いとは? さらには何百kmも渡りをするエビ、ハサミをパチンと閉じてプラズマを発生させ獲物を倒すエビ、毒を持つイソギンチャクをはさんで身を守るカニ等、多種多様なエビ・カニのすごい生き方を紹介する。

900円 102677-4

北条義時は十八歳で突如、歴史の舞台に立たされる。義兄の源頼朝が平家追討の兵を挙げたのだ。義時は頼朝の側近として鎌倉幕府の樹立に貢献。頼朝没後、父時政に従い比企氏ほか有力御家人を排斥する。さらには父を追放して将軍補佐の執権職を継ぎ、甥の將軍実朝と姉政子を支えて幕政を主導。後鳥羽上皇と対決した承久の乱で鎌倉勢に勝利をもたらした。公武関係の変遷を辿り、武家優位の確立を成し遂げた義時の生涯を描く。

820円 102678-1

順調に成長を続けた日米欧経済はなぜ長期停滞や格差拡大に陥ったのか。従来の経済学ではうまく説明できない。本書ではお金や富の保有願望(「資産運好」)に注目し、経済が豊かになるにつれて人々の興味が消費から蓄財に向かい、経済構造が大きく変貌した経緯を解明。高度成長期を支えた従来型の金融緩和や構造改革、減税やバラマキ、教育方針が、今では無意味か逆効果であることを明らかにし、低成長時代の経済政策を提言する。

820円 102679-8

「やる気が出ない……」。職場で、学校で、家庭で、悩んでいる人は多い。自分だけでなく、他者のやる気も気がかりである。口ではほめるのか、報酬を与えるのか、罰をちらつかせるのか。自らの経験と素朴な理論に基づいて対処して、なかなかうまくいかない。そもそもモチベーションはどのように生じ、何に影響を受け、変化していくのか。目標説、自信説、成長説、環境説など、モチベーション心理学の代表的理論を整理、紹介する。

1000円 102680-4

2681
リヒトホーフエン
— 撃墜王とその一族

森 貴史 著

「赤い男爵」ことマンフレート・フォン・リヒトホーフエンは、真紅の機体で大空を舞った、ドイツの撃墜王だ。弟とともに第一次世界大戦でエースパイロットとして活躍し、戦死後も英雄として尊敬を集めた。その遠縁である姉妹の姉エールゼはマックス・ヴェーバーらと親交を結びつつ影響を与え、妹フリーダは作家D・H・ロレンスと世界を遍歴……。この個性豊かな一族4人の軌跡を通し、戦争と思想の時代の一面を照らす。

880円
102681-1

2682
韓国愛憎

— 激変する隣国と私の30年

木村 幹 著

ここ30年間で韓国は大きく変わった。独裁から民主国家へ、発展途上国から先進国へと。20世紀に日本が「弟」と蔑んだ韓国は過去のものだ。他方、元慰安婦を始め歴史認識問題が顕在化、日韓の対立は熾烈さを増す。21世紀に入り、政治、経済から韓流、韓韓まで常に意識する存在だ。本書は、1980年代末、途上国だった隣国に関心を抱き、韓国研究の第一人者となった著者が自らの体験から描く、日韓関係の変貌と軋轢の30年史である。

860円
102682-8

2683
人類の起源

— 古代DNAが語る
ホモ・サピエンスの「大いなる旅」

篠田謙一 著

古人骨に残されたDNAを解読し、ゲノム（遺伝情報）を手がかりに人類の足跡を辿る古代DNA研究。近年、分析技術の向上によって飛躍的に進展を遂げている。30万年前にアフリカで誕生したホモ・サピエンスは、どのよう全世界に広がったのか。旧人であるネアンデルタール人やデニソワ人と血のつながりはあるのか。アジア集団の遺伝的多様性の理由とは……。人類学の第一人者が、最新の研究成果から起源の謎を解き明かす。

960円
102683-5

2684
中学英語「再」入門

— 日本語と比べて学ぶ14講

澤井康佑 著

「習うより慣れる」！ 中学時代、丸暗記でテストを切り抜けた人も多いでしょう。しかし、大人になった今だからこそ、中学英語を学び直す、英語の理屈が筋道立って見えてきます。「日本語と違って同じ単語が動詞にも名詞にもなる」「副詞は動詞の前に置くか後ろに置くか……」文の構造、修飾語や受動態などの大事なポイントも、日本語と比較しながら、理想的な順番で解説していきます。今度こそ無理なくマスターしましょう！

980円
102684-2

2685
ブラックホール

— 宇宙最大の謎は
どこまで解明されたか

二間瀬敏史 著

ブラックホールとは、重力がきわめて強く光すら脱出できない天体だ。原理は18世紀には考え出されたが、長く存在証明は困難だった。本書は前半で、存在が確認されるまでの歴史をたどりながら基礎をわかりやすく解説。後半では、最先端の物理学からブラックホールの内側へ迫る。「別の宇宙」と、そこへの抜け道である「ワームホール」、さらには熱力学との関係など、さまざまな謎を解き明かす。面白く不思議な、最新の宇宙論。

860円
102685-9

2686
中国哲学史

— 諸子百家から
朱子学、現代の新儒家まで

中島隆博 著

春秋戦国時代に現れた孔子や老子ら諸子百家に始まり、朱子学と陽明学に結実したのち、西洋近代と対峙するなかで現代の儒教復興に至る中国哲学。群雄割拠から統一帝国へ、仏教伝来、キリスト教宣教、そして革命とナショナリズム。社会変動期に紡がれた思想は中国社会の根幹を形づつた。本書は中国3000年の睿智を丹念に読み解き、西洋を含めた世界史の視座から、より深い理解へと読者をいざなう。新しい哲学史への招待。

1050円
102686-6

2687
天皇家の恋愛

— 明治天皇から眞子内親王まで

森 暢平 著

明治天皇まで多妻が容認された天皇家は、一夫一婦制、子どもを家庭で養育する近代家族へと大きく変わった。これは、恋愛結婚で家庭をつくった戦後の明仁皇太子、美智子妃からとされる。だが、実はそれ以前、大正・昭和の皇后をはじめ多くの皇族たちが、近代家族をめざし、その時代なりの恋をしていた。本書は、明治以降、上皇夫妻や眞子内親王まで、皇室の150年に及ぶ歴史を、さまざまな恋愛を切り口に描き出す。

900円
102687-3

2688
戦国日本の軍事革命

— 鉄砲が一変させた戦場と統治

藤田達生 著

16世紀中頃、戦国日本に伝来した鉄砲。砲術師、鉄砲鍛冶・武器商人により国内に広まる。長槍や騎馬隊が主力だった戦場の光景を一変させた。さらに織田信長は檢地地によって巨大兵站システムを整え、鉄砲の大量保有を実現。鉄砲や大砲を活用する新たな戦術を野戦・攻城戦・海戦に導入し、天下統一へと邁進した。軍陣や統治のあり方をも変えたこの「革命」が豊臣秀吉、徳川家康と引き継がれ、近世を到来させるまでを描く。

840円
102688-0

2689
肝臓のはなし

— 基礎知識から病への対処まで

竹原徹郎 著

現代の日本人は、四〜五人に一人の割合で、肝機能に異常があるとされる。「沈黙の臓器」である肝臓の異常に気づかぬまま、慢性の病で死に至る場合も多い。本書では、健康診断以外で意識しづらい肝臓について、基礎知識をイチから解説。飲酒やダイエットとの関係、健診項目の見方、主な肝臓病と最新の治療などを、医学史の流れをふまえて紹介する。健康な毎日のために知っておきたい、人体最大の臓器をめぐる医学講義。

820円
102689-7

2690
北海道を味わう

— 四季折々の「食の王国」

小泉武夫 著

春はニシン、ヤマワサビ。夏はウニ、ジャガイモ。秋はサケ、新米。冬はカニ、クラ。そして通年でジンギスカン、ラーメン……。北海道は、食材本来の良さを生かした料理の数々である。海・川・湖の幸、広大な大地の幸に恵まれ、食材本来の世界を味わう。この個性豊かな、私たちを魅了してやまない。無類の食いしん坊を自認し、北海道中を長年食べ歩いた発酵学の第一人者による、垂涎のうまいもの尽くしエッセイ。

900円
102690-3

2691 日本国会議員

— 政治改革後の限界と可能性

濱本真輔 著

国会議員への不信が高まっている。1990年代以降の一連の政治改革を経て、議員の活動・役割は見えにくく。本書は、人材、選挙、政策形成、価値観、資金、国際比較など、あらゆる観点から国会議員の実態をデータに基づき掘り、世襲や秘書出身者の増加、少数の女性議員、なお不透明な政治資金、憲法・安全保障と異質な社会経済政策を巡る対立軸の不在など、多くの問題と原因を指摘、日本政治に何が必要か改革の方向性を示す。

900円
102691-0

2692 後悔を活かす心理学

— 成長と成功を導く意思決定と対処法

上市秀雄 著

「もっと勉強すればよかった」「あの一言を言わなかったら」……人生は後悔の連続である。後悔は嫌な感情で、後々まで尾を曳く。できれば後悔しないで生きたい。しかし一方で、自分の思考や行動を変えるきっかけとなり、人生の糧ともなる。やらないで後悔するのとやっけて後悔するのとどちらがマシか。後悔とうまく付き合うにはどうすればよいのかなど、効果的な意思決定と対処法を解説する。巻末にチェックリストも掲載。

960円
102692-7

2693 カラー版 クモの世界

— 糸をあやつる8本脚の狩人

浅間 茂 著

日本には1700種類以上のクモがいる。もともとは地中に生活していたが、網を張って待ち伏せするクモに進化し、さらにあちこち歩き回って獲物を捕らえるクモが生まれた。花の蜜を吸うクモ、投げ縄を放つクモ、花嫁をぐるぐる巻きに縛ったり催眠術をかきたたりして交尾し及ぶクモ、我が子に自分の体を与えるクモなど、特徴ある生き方をしているものも多い。その種類から生態、人との関わりまで全てを紹介。カラー写真370点収録。

1000円
102693-4

2694 日本アニメ史

— 手塚治虫、宮崎駿、庵野秀明、新海誠らの100年

津堅信之 著

初の国産アニメが作られてから、100年余り。現在、海外でも人気が高く、関連産業も好調だ。本書は、今や日本を代表するポップカルチャーとなったアニメの通史である。一九一七年の国産第一作に始まり、テレビでの毎週放送を定着させた「鉄腕アトム」、監督の作家性を知らしめた「風の谷のナウシカ」、深夜枠作品を増大させた「新世紀エヴァンゲリオン」など、画期となった名作の数々を取り上げ、その歴史と現在を描く。

940円
102694-1

2695 日本共産党

— 「革命」を夢見た100年

中北浩爾 著

戦前から高度成長期にかけて多くの若者や知識人を惹きつけ、巨大な政治的磁場を作った日本共産党。東欧革命・ソ連崩壊などで深刻な打撃を受けたが、しぶとく生き残り、近年、野党共闘による政権交代を目標に据える。政権を担える事実上の社会民主主義政党になったのか、今なお暴力革命を狙っているのか。本書は、一貫して「革命」を目指しつつも大きく変化した百年の歴史を追い、国際比較と現状分析を交え同党の全貌を描く。

1100円
102695-8

2696 物語 スコットランドの歴史

— イギリスのなかにある「誇り高き国」

中村隆文 著

イングランド、ウェールズ、北アイルランドとともに「イギリス」を構成するスコットランド。一七〇七年の合同法でイングランドと統合しグレートブリテン王国となったが、近年は独立を模索するなど、独自の歴史とナショナル・アイデンティティをもつ。ケルト文化、アイヴィッド・ヒュムやアダム・スミスに代表される啓蒙思想「地酒」ウイスキー、ゴルフ、伝統衣装タータン・キルトなど多様なスコットランドを活写する。

900円
102696-5

2697 戦後日本の安全保障

— 日米同盟 憲法9条からNSCまで

千々和泰明 著

中国の台頭、アメリカの後退、そしてロシアの暴走。国際環境は厳しさを増し、日本が安全保障で果たすべき責任は重くなっている。しかし日本では憲法をはじめ、一度でき上がった独特な仕組みをなかなか変えられない。危機の時代にふさわしい防衛の姿とは。日米安保条約、憲法第9条、防衛大綱、ガイドライン、NSC（国家安全保障会議）という重要トピックの知られざる歴史をたどり、日本の安全保障の「常識」を問い直す。

900円
102697-2

2698 変異ウイルスとの闘い

— コロナ治療薬とワクチン

黒木登志夫 著

変異するウイルス、繰り返された緊急事態宣言、解消されない医療逼迫——。長期化するコロナ禍で、我々は感染症との闘いの難しさを思い知った。一方、人類も無力ではない。比類なきスピードで開発されたmRNAワクチン、変異株のゲノム解析、そして全症状に対応する治療薬。「終盤」へのシナリオは着々と描かれている。本書では最新の研究成果を一瞥し、コロナ危機からの「出口戦略」を探る。山中伸弥氏推薦。

940円
102698-9

2699 新版 大化改新

— 「乙巳の変」の謎を解く

遠山美都男 著

皇極四年（六四五）、中大兄皇子と中臣鎌足は蘇我蝦夷・入鹿父子を武力で排除した。この乙巳の変が国政改革「大化改新」の序幕だったという筋書きはあまりにも有名である。だがこれに関して残された史料は中大兄・鎌足中心に事件を描く極めて偏ったものだった。クイデータの真の目的は何か。その首謀者は誰だったのか。本書は、王位継承をめぐる路線対立に着目して旧版を大幅改稿し、熾烈な権力闘争の内実に迫るものである。

960円
102699-6

2700 新疆ウイグル自治区

— 中国共産党支配の70年

熊倉 潤 著

中国西北部に位置する新疆ウイグル自治区。中国全体の6分の1ほどの面積に、約2500万人が暮らす。1955年にウイグルが成立した当初、中国共産党は少数民族の「解放」を謳った。しかし習近平政権のもと、ウイグル人らへの人権侵害は深刻さを増している。なぜ中国共産党は、多くの人々を「教育施設」へ収容するといった過酷な統治姿勢に転じたのか。新疆地域の歴史を丁寧にたどり、その現在と未来を考える。

860円
102700-9

2701 日本のコメ問題

—5つの転換点と迫りくる最大の危機

小川真如著

稲作伝来以来、日本人はコメ不足に悩まされてきた。1967年、ついに自給自足を達成する。だが、そこに喜びはなかった。直ちに到来したコメ余り時代と減反の開始、ヤミ米の拡大と食糧制度の崩壊、ウルグアイ・ラウンドで生まれた国際秩序への対応、水田フル活用政策の誕生と混乱……。本書は半世紀で大変貌を遂げた日本人とコメの関係を、転換点ごとに整理。そして、残された未解決問題がもたらす最大の危機に警鐘を鳴らす。

960円
102701-6

2702 ミュージカルの歴史

—なぜ突然歌いだすのか

宮本直美著

物語、台詞、歌で構成される舞台、ミュージカル。ヨーロッパの歌劇と大衆的な娯楽ショーをルーツに一九世紀アメリカで誕生した。本書はその本質を音楽に注目して探る。ティン・パン・アレーのブロードウェイへの音楽供給から、一九二〇年代のラジオの流行、統合ミュージカルの成立、六〇年代のロックの影響、八〇年代に隆盛するメガ・ミュージカル、そして二・五次元へ。歴史を辿りつつ「なぜ突然歌いだすのか」という最大の謎に迫る。

840円
102702-3

2703 帝国日本のプロパガンダ

—「戦争熱」を煽った宣伝と報道

貴志俊彦著

日清戦争に始まり、アジア太平洋戦争の敗北で終わった帝国日本。日中開戦以降、戦いは泥沼化し、国力を総動員するため、政府・軍部・報道界は帝国の全面勝利をうたい、プロパガンダ（政治宣伝）を繰り返した。宣伝戦はどのよう先に先鋭化したか。なぜ国民は報道に熱狂し、戦争を支持し続けたのか。錦絵、風刺画、絵巻書、戦況写真、軍事映画など、戦争熱を喚起したビジュアル・メディアから、帝国日本のプロパガンダ史を描きます。

840円
102703-0

2704 転身力

—「新しい自分」の見つけ方、育て方

楠木 新著

人生100年とも言われる長寿化の現代、長期雇用の揺らぎ、コロナ禍の影響などで、生き方や働き方が大きく変わりつつある。だがそれは、誰もが人生二毛作、三毛作を楽しめる豊かな時代でもある。求められるのは、可能性を信じ、自分を変えるための「転身力」だ。「将来のリスクに備えたい」「収入は減っても好きな仕事で食っていくから」「生涯現役で働きたい」といった思いに寄り添い、豊富な事例をもとにヒントを提示する。

840円
102704-7

2705 平 氏 —公家の盛衰、武家の興亡

倉本一宏著

清盛ら平家一門が権力を握ったのはわずか十数年。だが日本史において平氏の存在感は大きい。「源平合戦」で功績を挙げて鎌倉幕府を支えた御家人（北条氏、梶原氏、三浦氏など）の多くは平氏出身とされ、後世の織田信長も平氏の末裔を称した。本書は、平朝臣の姓を賜った天皇の子孫たちに始まり、朝廷に対して反乱を起こした平将門、公卿・実務官人として京都で活躍した堂上平氏など、公家・武家にわたる平氏の名親を描く。

920円
102705-4

2706 マスメディアとは何か

—「影響力」の正体

稲増一憲著

「マスコミを信じるな」。ネットの浸透に伴い、高まるマスメディア不信。長く独占的地位にあった新聞、ラジオ、テレビに、近年は不要論まで語られる。社会にとって、マスメディアとはどのような存在なのか。そもそも、「世論を動かすほどの大きな影響力を持つ」というイメージは真実なのか。長年の研究成果をふまえて、問題視される偏向報道、世論操作などの実態を科学的に検証し、SNS時代のメディアのあり方を問いなおす。

880円
102706-1

2707 大東亜共栄圏

—帝国日本のアジア支配構想

安達宏昭著

大東亜共栄圏とは、第2次世界大戦下、日本を盟主とし、アジアの統合をめざす国策だった。それは独伊と連動し世界分を自論むものでもあった。「自存自衛」を掲げ、石油、鉱業、ゴム、棉花などの生産を占領地域に割り振り、政官財が連携し企業を進出させる。だが戦局悪化後、「アジア解放」をスローガンとし、各地域の代表を招く大東亜会議を開催するなど、変容し迷走する。本書は、立案、実行から破綻までの全貌を描く。

880円
102707-8

2708 最後の審判

—終末思想で読み解くキリスト教

岡田温司著

世界の終末に神が人類を裁く。「最後の審判」。キリストが再臨して、天国で永遠の命を授かる者と地獄へ墮ちて永遠の苦しみを課される者を振り分けることされる。西洋の人々にとって、希望の光であると同時に恐怖の源でもあった。本書は、このキリスト教の重要主題をわかりやすく解説する。同時代の社会からの影響だ。近年はゲノム解析により、縄文／弥生人の図式も明らか。起源を訪ねた研究者たちの足跡を辿り、日本人の自画像を描きます。

840円
102708-5

2709 縄文人と弥生人

—「日本人の起源」論争

坂野 徹著

日本人は、在来の縄文人と渡来系弥生人の混血によって生まれた。「日本人の起源」の定説である。しかし、この縄文／弥生人モデルが二〇世紀後半に定着するまで、人種交替説、固有日本人説、混血説、変形説など、様々な説が唱えられてきた。研究の進展とともに、見え隠れするのは同時代の社会からの影響だ。近年はゲノム解析により、縄文／弥生人の図式も明らか。起源を訪ねた研究者たちの足跡を辿り、日本人の自画像を描きます。

940円
102709-2

2710 日本インテリジェンス史

—旧日本軍から公安、内調、NSCまで

小谷 賢著

国家の政策決定のために、情報分析や防諜活動を行うインテリジェンス。公安や外交、防衛を担う「国家の知性」である。戦後日本では、軍情報部の復活構想が潰えたのち、冷戦期に警察と内閣調査室を軸に再興。公安調査庁や自衛隊・外務省の情報機関と、共産主義陣営に相対した。冷戦後はより強力な組織を目指し、NSC（国家安全保障会議）創設に至る。CIA事案やソ連スパイ事件など豊富な事例を交え、戦後75年の秘史を描く。

900円
102710-8

2711 京都の山と川

―「山紫水明」が伝える千年の都

鈴木康久／肉戸裕行 著

人口150万を数える京都。街を歩けば、どこからでも山が見え、川では子どもが遊んでいる。これほど人々と山河が近い大都市は珍しい。1200年前の遷都時に桓武天皇が「山が襟のように囲んでそびえ、川が帯のようにめぐって流れる自然の要害」であると述べたように、京都の山河は常に人々と共にあった。本書は東山・北山・西山の三山、鴨川・桂川・宇治川・琵琶湖疏水、さらに市中の川を紹介し、知られざる歴史を明かす。

920円
102711-5

2712 韓国併合

―大韓帝国の成立から崩壊まで

森 万佑子 著

日清戦争の結果、朝鮮王朝は清の「属国」から脱し大韓帝国を建国、皇帝高宗のもと独自の近代化を推進した。だが帝国日本は朝鮮半島の利権を狙い侵食。日露戦争下、日韓議定書に始まり、1904・07年に三次にわたる日韓協約によって外交・財政・内政を徐々に掌握し、10年8月の併合条約により完全に植民地化する。本書は日韓双方の視点から韓国併合の軌跡と実態を描く。今なお続く植民地の合法・不法論争についても記す。

860円
102712-2

2713 「美しい」とは何か

―食からひもとく美学入門

源河 亨 著

あるものを「美しい」「醜い」など評価するとき、私たちは何を考えているのか。評価を下す基準となる「センス」とは。こうしたことを考える学問が美学だ。本書は絵画や音楽ではなく、身近な食事からその扉を開く。「美味しい」「まずい」という評価は人それぞれ。レビュースайトの情報があると、純粋に食事を楽しめない？ 美食の感動は言葉にすべきじゃない？ インスタントラーメンは芸術か？ やさしくも奥深い美学入門。

820円
102713-9

2714 国鉄

―「日本最大の企業」の栄光と崩壊

石井幸孝 著

1949年に誕生した国鉄は、復旧途上の設備で旅客・貨物輸送を一手に担い、戦後の高度成長を支え、新幹線もつくった。「鉄道は国家なり」であった。だが交通手段の多様化でシェアは低下、自立的な経営もままならず、赤字が雪だるま式に増え、労使関係も悪化、ついには1987年に分割民営化された。今、人口減、IT化、コロナ禍を受け、鉄道は再び危機に瀕している。国鉄の歴史に何を学ぶか、JR九州初代社長が明かす。

1100円
102714-6

2715 縛られる日本人

―人口減少をもたらす「規範」を打ち破れるか

メアリー・C・ブリントン 著
池村千秋 訳

人口が急減する日本。なぜ出生率も幸福度も低いのか。日本、アメリカ、スウェーデンの子育て世代へのインタビュー調査と、国際比較データをあわせて分析することで、「規範」に縛られる日本の若い男女の姿が見えてきた。日本人は家族を大切にしているのか、男性はなぜ育児休業をとらないのか、職場にどんな問題があるのか、アメリカやスウェーデンに学べることがある。アメリカを代表する日本専門家による書き下ろし。

900円
102715-3

2716 カラー版 絵画で読む

『失われた時を求めて』

吉川一義 著

二〇世紀を代表する作家・プルースト（一八七二～一九二二）。その生涯をかけて執筆した『失われた時を求めて』は著名だが、長大さや難解さから挫折する人も多い。本書は絵画を手がかりにそのエッセンスを紹介し、彼が作品で描いた恋愛、同性愛、死、ユダヤ人、スノビズム、時間、芸術論などの主題をわかりやすく案内する。この大作の個人全訳を成し遂げたプルースト研究の第一人者による最良の入門書。図版六九点収録。

940円
102716-0

2717 アイルランド現代史

―独立と紛争、そしてリベラルな富裕国へ

北野 充 著

多彩なビールやウイスキー、作家ジェイムズ・ジョイスの祖国、ラグビー強豪国としても知られるアイルランド。約七〇年のイングランド／英国支配の後、一九二一年に独立を勝ち取った。貧困や人口流出、北アイルランド紛争などの困難に直面するも、一九九〇年代半ばからの高度経済成長を経て一人当たりGDP世界二位の富裕国へ、同性婚も容認するリベラルな国へと変身する。独立後を中心に、苦心と奮闘の歴史を辿る。

900円
102717-7

2718 カラー版 キリスト教美術史

―東方正教会とカトリックの二天潮流

瀧口美香 著

ローマ帝国時代、信仰表明や葬礼を目的として成立したキリスト教美術。四世紀末に帝国は東西分裂し、やがて二つの大きな潮流が生まれる。一方は、一〇〇〇年にわたって不変の様式美を誇ったビザンティン美術。他方は、ローマesk、ゴシック、ルネサンス、バロックと変革を続けたローマ・カトリックの美術である。本書は、壮大なキリスト教美術の歴史を一

960円
102718-4

2719 近代日本外交史

―幕末の開国から太平洋戦争まで

佐々木雄一 著

1853年にペリーが来航し、日本は開国へと向かう。明治維新後、条約改正や日清・日露戦争、第一次世界大戦を経て、世界の大国となった。だが1930年代以降、満州事変、日中戦争、太平洋戦争に突入し、悲惨な敗戦に終わる。日本は世界とどう関わってきたのか。破局の道回避する術はなかったのか。国際秩序との関係を軸に、幕末の開国から太平洋戦争まで、日本外交の歩みをたどる。近年の研究をふまえた最新の通史。

840円
102719-1

2720 司馬遼太郎の時代

―歴史と大衆教養主義

福岡良明 著

『竜馬がゆく』『坂の上の雲』など、売上げが累計一億冊を超える大ベストセラー作家司馬遼太郎（1923～96）。日本史を主たるテーマに、人物を個性豊かに、現代への教訓を込めて記した作品は、多くの読者を獲得。「司馬史観」と呼ばれる歴史の見方は論争ともなった。本書は、司馬の生涯を辿り、作品を紹介しつつ、その歴史小説の本質、多くの人を魅了した理由を20世紀の時代とともに描く。国民作家の入門書でもある。

900円
102720-7

2721 京都の食文化

—歴史と風土がはぐくんだ
「美味い街」

佐藤洋一郎 著

三方を山に囲まれ、水に恵まれた京都。米や酒は上質で、野菜や川魚も豊かだ。それだけでない。長年、都だつた京都には、瀬戸内のハモ、日本海のニシンをはじめ、各地から食材が運び込まれ、ちりめん山椒やにしんそば等、奇巧の組み合わせが誕生した。近代以降も、個性あふれるコーヒー文化、ラーメン文化、イリアンパン、イタリアンなど、新たな食文化が生まれてい

880円
102721-4

2722 陰謀論

—民主主義を揺るがすメカニズム

秦 正樹 著

ネット上の陰謀論「Qアノン」を妄信する人々によって引き起こされたアメリカ連邦議会襲撃は、世界を震撼させた事件であった。21世紀の今、荒唐無稽な言説が多くの人に信じられ、政治的影響力すら持つのはなぜか。本書は、実証研究の成果に基づき、陰謀論受容のメカニズムを解説。日本で蔓延する陰謀論の実態や、個人の政治観やメディア利用との関連、必要

860円
102722-1

2723 徳川家康の決断

—桶狭間から関ヶ原、大坂の陣まで
10の選択

本多隆成 著

戦国乱世を勝ち抜き、天下を制した徳川家康。だが、その道のりは平坦ではなかった。今川・織田の面雄に挟まれた弱小勢力として出発し、とりわけ前半生の苦悩は色濃い。正妻と嫡男・信康を喪い、重臣の離反も経験する。武田信玄、羽柴秀吉らと鎧を削り、手痛い誤りも犯したが、運も味方にして幾多の難局を切り抜けた。三方原の合戦、本能寺の変、関ヶ原の合戦、大坂の陣ほか、家康が迫られた10の選択を軸に、波瀾の生涯を描く。

900円
102723-8

2724 行動経済学の処方箋

—働き方から日常生活の悩みまで

大竹文雄 著

日々の暮らしや仕事の課題、さらには大きな社会問題まで、その解決策は行動経済学にある。急速に普及したテレワークで生産性を上げるには？ 新型コロナウイルス感染症対策と経済活動を両立させる方策とは？ 偏見や思い込みへの対応は？ 最低賃金の引き上げは所得向上につながる？ 目の前に立ちはだかる大小の課題に、私たちが何気なく行ってしまう「非合理的な選択に、最新の経済理論を駆使して処方箋を示す。

840円
102724-5

2725 奈良時代

—律令国家の黄金期と熾烈な権力闘争

木本好信 著

平城京への遷都で幕を開けた奈良時代。律令体制の充実期で、台頭する藤原氏はその立役者だった。唐の文物が輸入され、国際色豊かな天平文化も花開く。他方で長屋王の変、藤原広嗣の乱、恵美押勝の内乱など政変が相次ぎ、熾烈な権力闘争が繰り返された。飢饉や疫病にも襲われる。仏教を重んじ、遷都を繰り返した聖武天皇、その娘で道鏡の重用など混乱も招いた孝謙(称徳)天皇の治世を軸に、政治と社会が激動した時代を描く。

860円
102725-2

2726 田中耕太郎

—闘う司法の確立者、
世界法の探究者

牧原 出 著

戦前、論壇人、東大教授として大学自治を守ろうとした田中耕太郎。戦後は文相に就き教育基本法制定に尽力。復古主義・共産主義を排し新憲法を強く支持した。参院議員を経て最高裁判官就任後は在任中、松川・砂川事件など重要判決を主導、「反動」と諷られながらも脆弱だった司法権を確立。退任後は国際司法裁判判事に、激動の時代、学界・政界・司法の場で奮闘し戦後日本を形作ったカトリックの自由主義者の生涯。

940円
102726-9

2727 古代オリエント全史

—エジプト、メソポタミアから
ペルシアまで4000年の興亡

小林登志子 著

西はナイル河、北は黒海、東はインダス河、南はアラビア海に囲まれた地域がオリエントである。この地には人類初の文明が誕生し、諸民族が行き来し、数多の王国が栄え滅びていった。シュメルやバビロンを擁したメソポタミア、象形文字や太陽神信仰など独自の文明が発達したエジプト、鉄器を生んだアナトリア、これらに興った国々が激突したシリア、そして東の大國ペルシア……。4000年に及ぶ時代を巨細に解説する。

1100円
102727-6

2728 孫子—「兵法の真髄」を読む

渡邊義浩 著

二千年以上にわたる読み継がれてきた兵法と戦略の名著「孫子」。この古典を整理し、最も重要な注釈を付したのが三国志の英雄・曹操だ。本書は最初に、孫武と孫臏のどちらが著者かという成立の謎に挑む。そして曹操の解釈を踏まえ、合理性・先進性・実践性・普遍性という四つの特徴から読み解く。「孫子」が見抜いた、戦争や組織の本質は今の時代にどう生かせるか。巻末に「孫子」全十三篇の現代語訳を収録。

900円
102728-3

2729 日本史を暴く

—戦国の怪物から幕末の間まで

磯田道史 著

歴史には裏がある。古文書の一つずつ解説すると、教科書に書かれた「表の歴史」では触れられない意外な事実が見えてくる。明智光秀が織田信長を欺けた理由、信長の遺体の行方、江戸でカプトムシが不人気だった背景、忍者の悲惨な死に方、赤穂浪士が「吉良の首」で行った奇妙な儀式、漏洩していた孝明天皇の病床記録……。古文書と格闘し続ける著者が明らかにした、戦国、江戸、幕末の「歴史の裏側」がここにある。

840円
102729-0

2730 大塩平八郎の乱

—幕府を震撼させた武装蜂起の真相

敷田 貫 著

江戸後期、天保の大飢饉が起こり、深刻な米不足から大坂でも餓死者が続出した。大坂町奉行所の元与力で陽明学者の大塩平八郎は、窮民を見かねて奉行所に救済を嘆願したが容れられず、私塾の門弟らと「救民」を掲げて決起。乱は一日で鎮圧された。自決まで一カ月余り大坂市中で潜伏を続けた大塩の真意は何か。密かに江戸へ送った「建議書」で何を訴えようとしたのか。近年発見の史料もふまえ、幕府を震撼させた事件の全容に迫る。

880円
102730-6

2731 物語 遺伝学の歴史

—メンデルからDNA、ゲノム編集まで

平野博之 著

子とはなぜ親に似るのか？ この仕組みを解き明かすことから始まったのが遺伝学だ。メンデル以来約160年とその歴史は浅いものの、遺伝学は生物学の中核となった。遺伝子の子へ伝達される仕組みや体内での働きが明らかとなり、染色体からDNAへと、遺伝子の立体解明も進む。いまや、PCRやゲノム編集などの最新技術にも結実している。遺伝学の研究と発見の歴史を、科学者たちの生涯とともにドラマチックに描く。

980円
102731-3

2732 森林に何が起きているのか

—気候変動が招く崩壊の連鎖

吉川 賢著

2019年、オーストラリアで史上最大級の森林火災が発生。5ヵ月間で17万平方キロメートルの国土が焼失した。近年、温暖化の影響による森林の「異変」が世界中で観測されている。大規模火災が相次ぐのはなぜか。森林破壊がもたらす経済的影響は。豊かな自然を守るため、何をすべきなのか。本書は、森林生態系のメカニズムから、日本の里山の持続可能な保全策まで、森林科学の知見を第一人者が解説。実効的な気候変動対策を論じる。

840円
102732-0

2733 日本の歴史問題

—「帝国」の清算から
靖国、慰安婦問題まで

改題新版

波多野澄雄 著

靖国神社、歴史教科書、慰安婦、領土、そして「犠牲者」個人への補償。戦後七五年を超えてなお残る歴史問題。なぜ「過去」をめぐる認識は衝突し、「アジア太平洋戦争の「清算」」が終わらないのか。本書では、帝国の解体から東京裁判、靖国論争が始まる一九八〇年代、慰安婦や領土をめぐる周辺諸国との軋轢が増す二〇一〇年代以降の歴史問題の全容を丹念に描出。名著「国家と歴史」を改題のうえ全面改稿し、歴史和解の道筋を示す。

1000円
102733-7

2734 新興国は世界を変えるか

—29カ国の経済・民主化・軍事行動

恒川恵市 著

21世紀以降、ますます存在感を強めている「新興国」。特にブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカは「BRICS」と呼ばれ、リーマンショック後の世界経済の牽引役として期待された。他方で中国は海洋進出を進め、ロシアはウクライナに軍事侵攻を行う。力をつけた新興国は世界にどのような影響を与え、どこへ向かうのか。本書はアジア、中南米、東欧など29カ国を新興国とし、経済成長、政治体制、軍事行動を分析する。

860円
102734-4

2735 沖繩のいきもの

—1000を超える固有種が暮らす
「南の楽園」

盛口 満著

青い空、サンゴ礁の海——豊かな自然が広がる沖繩には、珍しい生き物がいっぱい！ 県鳥のノグチゲラはキツツキなのに、なぜ地面をつつくの？ 瑠璃色に輝くゴキブリがいるって本当？ 一度海に沈んだ宮古島に、海水が苦手なサワガニやカタツムリがいるのはなぜ？ イリオモテヤマネコはどのようにやって小さな西表島で生き延びてきたの？ 沖繩・宮古・八重山・大東……鳥々の個性的な生き物たちを魅力たっぷり紹介。

840円
102735-1

2736 ウイルスとは何か

—生物か無生物か、
進化から捉える本当の姿

長谷川政美 著

「ウイルス」という言葉を知らない人はいないだろう。ただし、その定義は曖昧である。目に見えない極小の存在で、ほかの生物の細胞内ではか増殖できないために、通常は生命体とはみなされない。だが、独自のゲノムを有し、突然変異を繰り返す中で、より環境に適した複製子を生み出すメカニズムは、生物の進化と瓜二つだ。恐ろしい病原体が、あらゆる生命の源か——進化生物学の最新線から、その正体迫る。

900円
102736-8

2737 不倫—実証分析が示す全貌

五十嵐 彰／迫田さやか 著

既婚者が配偶者以外と性交渉をもつことを指す「不倫」。毎月のように有名人がスクープされる関心事だが、日本では客観的な研究がほとんどない。本書では、気鋭の社会学者と経済学者が大規模調査を敢行。実験的手法や海外の先行研究も活用して実態に迫る。経験者は何%か。どんな人が不倫しやすいのか。どこで出会い、いかに終わるか。家族にどんな影響があるか。誰が誰をパッシングするのか。実証分析により解き明かす。

820円
102737-5

2738 英語達人列伝Ⅱ

—かくも気高き、日本人の英語

斎藤兆史 著

「英語は学童成功者に学ぶべし」。この鉄則は揺らぐことはない。紹介する嘉納治五郎、夏目漱石、南方熊楠、國弘正雄、山内久明ら8人の「達人」は、工夫と努力によって、日本に居ながらにして、英語力の基礎を築き上げた。彼らはまた日本文化への貢献でも傑出した存在である。本書は、《達人》たちの英語習得法を紹介するが、それは「英語使い」になる明らかな道筋だ。その過程は、英語受容をめぐる格闘の歴史でもある。

840円
102738-2

2739 天誅組の変

—幕末志士の拳兵から生野の変まで

舟久保 藍著

尊王攘夷の風が吹き荒れた幕末。孝明天皇の攘夷親征決定を受け、皇軍の先鋒を志す急進派公家や志士らが討幕を掲げて拳兵した。大和国の五條代官所を制圧し、「新政府」を宣言するが、京都で政変が起き、わずか一日で情勢は暗転。幕府軍に追討され、激戦の末に壊滅した。本書はこの天誅組の変と、呼応して起きた但馬国生野の拳兵事件（生野の変）を明治維新に至る運動の先駆と捉え、その全貌を描く。幕末史の知られざるドラマ。

840円
102739-9

2740 日本語の発音はどう変わってきたか

—「てふてぶ」から「ちようちよう」へ、
音声史の旅

釘貫 亨 著

問題「母とは二度会ったが父とは一度も会わないもの、なーんだ？」（答、くちびる）。この室町時代のなぞなぞから、当時「ハハ」は「ファファ」のように発音されていたことがわかる。では日本語の発音はどのように変化してきたのか。奈良時代には母音が8つあった。「行」を「コウ」と読んだり「ギョウ」と読んだり、なぜ漢字には複数の音読みがあるのか？ 和歌の字余りからわかる古代語の真実とは？ 千三百年に及ぶ音声の歴史を辿る。

840円
102740-5

2741 物語 オーストラリアの歴史 新版

イギリス植民地から多民族国家への200年
竹田いさみ／永野隆行 著

南半球の大陸オーストラリア。1788年以降、英国の植民地としてヨーロッパから移民を迎え、金鉱開発と羊毛貿易によって成長。1901年に建国した。戦後は白豪主義を転換してアジア諸国と結びつき、21世紀は多民族国家として存在感を示している。本書は、英帝国や日本、アメリカ、中国と対峙しながら、豪大陸が国家形成する成長物語である。旧版を刷新し、料理・観光のコラムを追加。「理想社会」の成功と挫折を活写する。

1000円
102741-2

2742 唐—東ユーラシアの大帝国

森部 豊 著

六一八年、李淵(高祖)が隋末の争乱の中から、唐を建国。太宗、高宗の時代に突厥・高句麗を破り、最盛期を築く。武則天、玄宗の治世は国際色豊かな文化を生み、大帝国の偉容をほこった。安史の乱以降は宦官支配や政争により混乱し、遊牧勢力と流賊の反乱に圧され、九〇七年に滅亡した。本書では、歴代皇帝の事績を軸に、対外戦争、経済、社会制度、宮廷内の権謀術数を活写。東ユーラシア帝国二九〇年の興亡を巨細に描く。

1100円
102742-9

2743 入門 開発経済学

グローバルな貧困削減と途上国が起こすイノベーション

山形辰史 著

世界は今なお悲惨さに満ちている。飢餓、感染症、紛争にとどまらず、教育、児童労働、女性の社会参加、環境危機等、課題は山積みだ。途上国への支援は、私たちにどう重要な使命である。一方、途上国自身にも、新たな技術革新の動きが生じている。当事者は、何を求め、それはどうすれば達成できるか? 効果的な支援とは何か? 開発経済学の理論と最新の動向を紹介し、国際協力のあり方や、今こそ必要な理念について提言する。

900円
102743-6

2744 正倉院のしごと

宝物を守り伝える舞台裏

西川明彦 著

奈良時代、光明皇后が聖武天皇遺愛の品々を東大寺大仏に献納したことに始まる正倉院宝物。落雷や台風、源平合戦や戦国時代の兵火、織田信長やGHQなど時の権力者による開扉要求といった、数多くの危機を乗り越えてきた。古墳など土中から出土したのではなく、人々の手で保管されてきた伝世品は世界的にも珍しい。千三百年にわたり宝物を守り伝えてきた正倉院の営みを、保存・修理、調査・模造・公開に分けて紹介する。

900円
102744-3

2745 バレエの世界史

美を追求する舞踊の600年

海野 敏 著

バレエはルネサンス期イタリアで誕生し、今なお進化を続けるダンスの一種だ。当初、王侯貴族が自ら踊り楽しんだが、舞台芸術へと転換。観客も貴族からブルジョワジー、市民へと拡大する。十九世紀の西欧とロシアで成熟し、世界へ広がった。グ・ヴィンチ制作の舞台装置、ルイ十四世が舞った「太陽」役、チャイコフスキーの三大バレエ、シャネルやピカソが参加したバレエ・リュス、そして日本へ——六百年の世界史を通観する。

940円
102745-0

2746 統一教会

性・カネ・恨から実像に迫る

櫻井義秀 著

一九五四年、文鮮明によって創設された統一教会。戦後韓国で勃興したキリスト教系新宗教の中でも小規模な教団だったが、日本に渡ったのち教勢を拡大、巨額の献金を原資に財閥としても存在感を強めた。「合同結婚式」と呼ばれる特異な婚姻儀礼、日本政治への関与、霊感商法や高額献金、二世信者……。異形の宗教団体はいかに生まれ、なぜ社会問題と化したのか。歴史的背景、教義、組織構造、法的観点などから多角的に論じる。

960円
102746-7

2747 戦後教育史

貧困・校内暴力・いじめから、不登校・発達障害問題まで

小国喜弘 著

ここ30年間に不登校といじめの報告件数は、小学生で5.2倍と46倍、中学生で2.5倍と6倍に。特別支援教育対象者は、15年間に小中学生ともに3倍近い。少子化にかかわらず。本書は深刻な混乱の中にある日本社会と教育の歴史を辿る。なぜここまで行き詰まったのか。貧困、日教組、財界主導、校内暴力、政治介入、いじめ、学級崩壊、発達障害の激増など、各時代の問題を描きつつ、現在と未来の教育を考える手掛かりとする。

940円
102747-4

2748 物語 チベットの歴史

天空の仏教国の1400年

石濱裕美子 著

古代に軍事国家だったチベットはインド仏教を受容、12世紀には仏教界が世俗に君臨する社会となった。17世紀に成立したダライ・ラマ政権はモンゴル人や満洲人の帰依を受け、チベットは聖地として繁栄する。だが1950年、人民解放軍のラサ侵入により独立を失い、ダライ・ラマ14世はインドに亡命した。チベットはこれからどうなるのか? 1400年の歴史を辿り、世界で尊敬の念を集めるチベット仏教と文化の未来を考える。

900円
102748-1

2749 帝国図書館

近代日本の「知」の物語

長尾宗典 著

近代国家への道を歩み出した明治日本。国家の「知」を支えるべく政府によって帝国図書館が設立された。しかし、その道のりは多難であった。「東洋一」を目指すも、慢性的な予算不足で書庫も閲覧室も狭く、資料は溢れ、利用者は行列をなした。関東大震災では被災者の受け入れに奮闘。戦時には所蔵資料の疎開に苦しんだ。本書は、その前身の書籍館から一九四九年に国立国会図書館へ統合されるまでの八〇年の歴史を活写する。

920円
102749-8

2750 幕府海軍

ペリー来航から五稜郭まで

金澤裕之 著

ペリー来航などの「西洋の衝撃」を受け、1855年に創設された幕府海軍。長崎海軍伝習所、勝海舟らによる威風凛々な太平洋横断航海、幕末戦争を経て近代海軍へと成長してゆけ。島田・伏見の戦いにより徳川政権は瓦解し、五稜郭で抵抗を続けた榎本武揚らも敗れて歴史的役割を終えるが、人材や構想などの遺産は明治海軍へと引き継がれた。歴史研究者・現役海上自衛官の二つの顔を持つ筆者が、歴史と軍事の両面から描く。

820円
102750-4

2751 入門 環境経済学 新版

— 脱炭素時代の課題と最適解

有村俊秀 / 日引 聡 著

私たちは製品やサービスを消費して豊かな生活を享受する一方で、気候変動や廃棄物汚染、生態系破壊など多くの環境問題に直面している。経済活動と環境保全は相反する関係にあるが、バランスのよい最適解はどこにあるのか？ 本書は経済学の基礎理論を押しさえ、それを環境問題に応用して望ましい政策を検討する。旧版にカーボンプライシングなど最新テーマを大幅加筆して、豊かな環境を引き継ぐための制度設計を提示する。

900円
102751-1

2752 戦後日本政治史

— 占領期から「ネオ55年体制」まで

境家史郎 著

日本国憲法の枠組みの中にある戦後日本政治。自民党と社会党のイデオロギー対立は1960年の安保改定問題で頂点を迎える。以降、自民党は経済成長に専心し、一党支配を盤石にした。80年代末以降は「改革」が争点となるも、民主党政権を経て、第二次安倍政権以降は再び巨大与党と中小野党が防衛問題を主な争点として対峙している。本書は憲法をめぐる対立に着目して戦後政治をたどり、日本政治の現在地を見極める。

960円
102752-8

2753 エルサレムの歴史と文化

— 3つの宗教の聖地をめぐる

浅野和生 著

ユダヤ教やキリスト教、イスラム教の聖典に描かれ、史跡が数多く残る古都エルサレム。今も世界中から巡礼が訪れる。その文化は、古代イスラエル王国が興った紀元前1000年ごろから現在まで、諸民族の激しい攻防をくりげ、受け継がれてきた。本書は、貴重な現地写真など一五〇点以上の図版と共に、「聖なる都市」の唯一無二の魅力を紹介。聖地の起源を物語るエピソードを随所に交え、美術館を巡るよう街を探索する。

1000円
102753-5

2754 関東軍

— 満洲支配への独走と崩壊

及川琢英 著

関東軍は一九一九年に中国・関東州と南満洲鉄道附属地の保護を目的に成立した。しかし、一九二八年の張作霖爆殺事件や三年の満洲事変など、日本政府・陸軍中央の統制から外れて生じたのか。謀略に関与した。「独走」の代名詞として悪名高い組織は、どのようにして行動したのか。軍事・外交史研究の蓄積に、中国側の史料も踏まえ、組織制度、軍人たちの個人的特性、満洲の現地勢力との関係から解き明かす。

920円
102754-2

2755 モンスーンの世界

— 日本、アジア、地球の風土の未来可能性

安成哲三 著

インド洋の季節風がヒマラヤにぶつかって東アジアに流れ、梅雨前線を形成する。冬にはシベリアの冷気がチベット高原に遮られて東に到来し、日本に大雪を降らせる。モンスーンは日本をはじめ東アジアから南アジアにかけて豊かな自然をもたらし、独自の風土を育んだ。今や「モンスーンアジア」は世界の中心となっている一方で、地球規模の環境危機も招いている。この危機を克服するために、いま私たちは何をすべきか。

1150円
102755-9

2756 言語の本質

— ことばはどう生まれ、進化したか

今井むつみ / 秋田喜美 著

日常生活の必需品であり、知性や芸術の源である言語。なぜヒトはことばを持つのか？ 子どもはいつからことばを覚えるのか？ 巨大システムの言語の起源とは？ ヒトとAIや動物の違いは？ 言語の本質を問うことは、人間とは何かを考えることである。鍵は、オノマトペと、アダクシオン（仮説形成）推論という人間特有の学ぶ力だ。認知科学者と言語学者が力を合わせ、言語の誕生と進化の謎を紐解き、ヒトの根源に迫る。

新書大賞受賞

960円
102756-6

2757 J・S・ミル

— 自由を探究した思想家

関口正司 著

19世紀に活躍した英国の思想家、ジョン・スチュアート・ミル（1806～73）。生涯を通じて道徳と政治のあり方を探究し、「自由論」「代議制統治論」「功利主義」をはじめとする膨大な著作で近代社会の立脚点となる理論を打ち立てた。その生涯「父ジェイムスとの確執、ペンサムへの傾倒、精神的危機、伴侶ハリエットとの出会いと別れ、晩年の議員活動」——を丹念に追いつながら、今なお鮮烈な思想の本質を描き出す。

920円
102757-3

2758 柴田勝家

— 織田軍の「総司令官」

和田裕弘 著

織田家随一の重鎮として信長の信頼が厚く、北陸方面軍司令官に任じられた柴田勝家。だが本能寺の変により運命は暗転する。主君の弔い合戦で後れをとり、織田家後継を決める清須会議で羽柴秀吉の独断専行を許す。最後は賤岳で秀吉との決戦に敗れて自害した。「勇猛だが不器用で無策」と評されるなど、勝家には後世作られた負のイメージが根強い。信用しうる同時代史料を中心に事績を検証し、「悲運の名将」の実像に迫る。

860円
102758-0

2759 都会の鳥の生態学

— カラス、ツバメ、スズメ、水鳥、猛禽の栄枯盛衰

唐沢孝一 著

カラスとオオタカの空中戦、コンクリート張りの川で繁殖するカワセミ、高層ビルで子育てするハヤブサ、新たに進出してきたインヨドリ、スズメやツバメの営巣地の栄枯盛衰……。都会は自然の少ない人工的な環境だが、鳥たちははたしたかに適応して生きている。身近な鳥、珍しい鳥、意外な鳥たちの知られざる生態を紹介するとともに、人間と鳥たちとの関係の変化も解説、読めば街歩きが楽しくなる。写真多数、カラー口絵16頁。

1050円
102759-7

2760 諜報国家ロシア

— ソ連KGBからプーチンのFSSB体制まで

保坂三四郎 著

ウクライナへの全面侵攻で世界に衝撃を与えたロシア。なぜ国際法を無視し、蛮行を続けるのか？ その背景には、ソ連時代に国家の根幹を掌握し、かつてプーチンも所属した諜報機関「KGB」と、ロシア連邦でそれを継承した「FSSB」がある。ウクラインで近年公開されたKGBの極秘文書、反体制派やハッカーによるリーク情報、最新のインテリジェンス研究から、「諜報国家」ロシアの社会構造と行動原理に迫る。

980円
102760-3

2761 御成敗式目
鎌倉武士の法と生活

佐藤雄基 著

御成敗式目は一二三二年、鎌倉幕府三代執権の北条泰時により制定された。源頼朝以来の先例や武士社会の道理(慣習や道徳)に基づくとされ、初の武家法として名高い。主たる対象は御家人だったが、その影響力はやがて全国規模に拡大する。画期的と評されるこの法はどのように生まれ、なぜ広く知れ渡ったのか。主要な条文を詳しく解説し、受容の実態や後世への影響を視野に、「最も有名な法」の知られざる実像を明かす。

920円
102761-0

2762 災害の日本近代史

大凶作、風水害、噴火、関東大震災と国際関係

土田宏成 著

東北大凶作、関東大洪水、桜島大噴火、東京湾台風、そして関東大震災……。百年前の日本は、自然の猛威によって膨大な被災者を出していた。この時代は、世界各地でも巨大災害が連続。国際的な支援活動が活発化し、「等国」となった日本も対応に迫られる。本書は、巨大災害の実態から、対応、復興、影響、国際関係まで、民衆と国家の双方の視点から記す。戦争で語られがちな日本近代の「もう一つの現実」を描く。

820円
102762-7

2763 「利他」の生物学

適者生存を超える進化のドラマ

鈴木正彦／末光隆志 著

生物の進化は、自らが生き残り、遺伝子を次世代に継承するための「利己的」なメカニズムとして説明されることが多い。だとすれば、種を超えて観察される「利他的」な行動は、どのように理解すればよいのだろうか? 本書は、植物学者と動物学者がタッグを組み、その謎の答えに迫る。カギとなるのは「共生」という戦略である。互いの強みを融合し、欠点を補い合いながら自然淘汰に打ち克った生物たちのドラマ。

880円
102763-4

2764 教養としての建築入門

見方、作り方、活かし方

坂牛 卓 著

美術館の意匠に感動し、憧れの旅館で心を癒す。名建築で過ごす時間はなぜ格別なのか。建築の見方と作り方を知れば、暮らしては快適になり、楽しみが増す。本書は、日本と西洋の建築史を一望し、観賞・設計・社会という三つのアプローチから建築を堪能する入門書。「機能」と「美」から分け入り、現代に至る建築の画期を読み解く。建築家の世界も惜しみなく紹介。あなたも建築通に。観光や街歩きの良いガイドになる。

840円
102764-1

2765 浄土思想

釈尊から法然、現代へ

岩田文昭 著

阿弥陀仏の極楽浄土に往生し、悟りをえて成仏を目指す浄土教。浄土宗、浄土真宗、時宗などの宗派が属し、日本で最も信者数が多い。なぜこれだけ多くの信仰を集めたのか。本書は、教えの広がりや「物語の力」に着目する。衆生を救うため誓いをたて阿弥陀仏になった「法蔵説話」、家庭不和を主題とする「王舎城の悲劇」などの經典に描かれた話、法然や親鸞ら開祖の物語を読み解きながら、その思想の本質に迫る。

840円
102765-8

2766 オットー大帝

辺境の戦士から

「神聖ローマ帝国」樹立者へ

三佐川亮宏 著

カール大帝の死後、フランク王国は3分割される。そのひとつ、東フランク王国の貴族の子として912年に生まれたオットーは、父による東フランク王位獲得の後、936年、国王に即位する。東方異民族による度重なる侵襲、兄弟や息子たちの叛乱、3度のイタリヤ遠征と、その生涯は戦役の連続だった。カール大帝の伝統を引く皇帝戴冠を受け、のちに神聖ローマ帝国と称される大國の基盤を築いた王者の不屈の生涯を描く。

1100円
102766-5

2767 足利将軍たちの戦国乱世

応仁の乱後、七代の奮闘

山田康弘 著

足利将軍家を支える重臣たちの争いに端を発した応仁の乱。その終結後、将軍家は弱体化し、群雄割拠の戦国時代に突入する。だが、幕府はすぐに滅亡したわけではない。九代義尚から十五代義昭まで、将軍は百年にわたり権威を保持し、影響力を行使したが、その理由は何から。歴代将軍の生涯と事績を丹念にたどり、各地の戦国大名との関係を説明。「無力」「傀儡」というイメージを裏切る、将軍たちの生き残りかけた戦いを描く。

840円
102767-2

2768 ジェンダー格差

実証経済学は何を語るか

牧野百恵 著

歴史・文化・社会的に形成される男女の差異「ジェンダー」。その差別は近年批判が強く集まる。本書は、実証経済学の成果から就業、教育、歴史、結婚、出産など様々な事柄を取り上げ、格差による影響、解消後の可能性について、国際的視点から描く。議員の女性枠導入「クォータ制」が、質の低下より無能な男性議員排除に繋がる、女性への規範が弱い国ほど高学歴女性が出産するなどエビデンスを提示。旧来の慣習や制度を問う。

900円
102768-9

2769 隋—「流星王朝」の光芒

五八一年に誕生した隋王朝。五八九年には文帝楊堅が南朝の陳を滅ぼし、長き分裂の時代に終止符を打った。草原、華北、江南に君臨する帝國の誕生である。二代目の煬帝は大運河を築き親征を行い、帝國を拡大したが、高句麗遠征に失敗して動乱を招き、六一八年には唐に滅ぼされた。南朝、高句麗、突厥といったライバルが割拠したユーラシア大陸東部の変動を視野に、北方から興隆し、流星のように消えた軌跡を描く。

1000円
102769-6

平田陽一郎 著

2770 インド
グローバル・サウスの超大国

近藤正規 著

人口で中国を上回った世界一に、GDPでも英仏を抜き第5位に。近年では「グローバル・サウス」と呼ばれる新興國・途上國のリーダーと目されることも増えたインド。複雑化する国際政治のなかで展開する独自外交も注目される。長くインドを研究する経済学者が、財閥の盛衰や成長を続けるIT産業などビジネス面から、米・中・ロとの外交の検証、さらには格差問題の現状、日印関係の今後まで幅広く解説する入門書。

980円
102770-2

2771 カラー版 美術の愉しみ方

―「好きを見つける」から
「判る判らない」まで

山梨俊夫 著

絵に殉じたゴッホの筆遣い、色彩を見極めたセザンヌの眼、人間の生命を映像にしたロダンの手。優れた絵画・彫刻は、作家の感性と知性が結晶した永遠の芸術である。東西の名品を堪能できる現場が美術館や展覧会だ。本書は、関心を開く・好きを見つめる。読む・比べる・敷居をまたぐ・参加する・判るといふ7つの視点から、読者を現場にいざなう。80点のカラー1図版とともに、美術体験の感動に迫り、愉しみを伝授する。

1000円
102771-9

2772 恐怖の正体

―トラウマ・恐怖症からホラーまで

春日武彦 著

うじゃうじゃと蠢く虫の群れ、密集したブツブツの集合体、鋭い尖歯、高所や閉所、人形、ビエロ、屍体――。なぜ人は「それ」に恐怖を感じるのか。人間心理の根源的な謎に、精神科医・作家として活躍する著者が迫る。恐怖に駆られると、なぜ時間が止まったように感じるのか。グロテスクな描写から目が離せなくなる理由とは。自らの死を考えるとときの恐ろしさ等々、「得体の知れない何か」の正体に肉薄する。

920円
102772-6

2773 実験の民主主義

―トクヴィルの思想から
デジタル・ファンタムへ

宇野重規著／若林 恵聞き手

デジタルが社会を一変させるなか、政治は分断を生み、機能不全が深刻だ。なぜ私たちは民主主義を実感できないのか。本書は、19世紀の大転換期を生きたトクヴィルの思索と行動を手がかりに、平等・結社・行政・市民のイメージを一新し、実験的民主主義を描き出す。新しい技術が人々の想像力を変えた歴史を捉え、民主主義論の第一人者がフランス革命・アメリカ建国後の政治史を解説。AI時代の社会像と人間像を探究する。

1000円
102773-3

2774 ケマル・アタテュルク

―オスマン帝国の英雄、
トルコ建国の父

小笠原弘幸 著

トルコ建国の父、ムスタファ・ケマル（1881〜1938）。オスマン帝国が西欧列強からの脅威にさらされるなか救国の英雄として活躍し、帝国崩壊後はトルコ共和国を建国し大統領に就任する。民族主義と世俗主義を掲げて新国家の建設を進めたケマルは、議会からアタテュルク（父なるトルコ人）という姓を与えられた。今なお国民から敬愛される彼の実像を、愛する家族や、戦いを共にした同志との人間模様を交えて活写する。

1000円
102774-0

2775 英語の発音と綴り

―なぜ「rain」がウオークで、
「work」がワークなのか

大名 力 著

なぜ「rain」がウオームで、「work」がワームなのか。「Tears」はタイガースなのか、タイガーズなのか。live → livingのように、「re」が付けば取ってしまうのに読みもしないeを語末に付けるのはなぜか。不思議だらけの英語の発音と綴りだが、仕組みを知られば規則性が見えてくる。本書では、母音と子音、開音節と閉音節、母音字の読み方、「マジックe」など、学校では習わない英語の発音と綴りの仕組みを基本から解説する。

940円
102775-7

2776 パロック美術

―西洋文化の爛熟

宮下規久朗 著

西洋文化の頂点、パロック様式。17世紀を中心に花開いたパロックの建築・彫刻・絵画は、ルネサンス期の端正で調和のとれた古典主義に対し、豪華絢爛で躍動感あふれる表現を特徴とする。本書は、カラヴァッジョ、ルーベンス、ベルニーニ、ベラスケス、レンブラント、フェルメールらの代表的名作を網羅。美術史上の位置づけ、聖俗の権力がせめぎ合う時代背景など、パロック美術の本質を読み解く。カラー写真200点以上。

1250円
102776-4

2777 山県有朋

―明治国家と権力

小林道彦 著

明治国家で圧倒的な政治権力を振るった山県有朋。陸軍卿・内相として徴兵制・地方自治制を導入し、体制安定に尽力。首相として民党と対峙し、時に提携し、日清戦争では第一軍司令官として、日露戦争では参謀総長として陸軍を指揮した。その間に、枢密院議長を務め、長州閥陸軍や山県系官僚を背景に、最有力の元老として長期にわたり日本政治を動かした。本書は、山県の生涯を通して、興隆する近代日本の光と影を描く。

960円
102777-1

2778 自動車の世界史

―T型フォードからEV、自動運転まで

鈴木 均 著

19世紀末、欧州で誕生した自動車。1908年にT型フォードがアメリカで爆発的に普及したのを機に、各国による開発競争が激化する。フォルクスワーゲン、トヨタ、日産、ルノー、GM、現代、テスラ、上海汽車―トップメーカーの栄枯盛衰は、国際政治の動向が色濃く反映している。本書は、自動車産業の黎明期から、日本車の躍進、低燃費・EV・自動運転の時代における中国の台頭まで、100年の激変を活写する。

960円
102778-8

2779 日蓮

―「闘う仏教者」の実像

松尾剛次 著

地震や疫病、蒙古襲来など、激動の鎌倉時代を生きた日蓮。天台宗ほか諸宗を学び、三二歳で日蓮宗を開いて法華経の信仰を説いた。鎌倉を本拠に辻説法で他宗を攻撃して圧迫を受け、建白書「立正安国論」の筆禍で伊豆に、のちには佐渡に配流された。死をも恐れぬ「闘う仏教者」のイメージがある一方、民衆の苦しみに寄り添う姿も垣間見られる日蓮。自筆の書簡、数多くの著作をはじめ、史料を博搜して、その思想と人物像に迫る。

840円
102779-5

2780 物語 江南の歴史

―もうひとつの中国史

岡本隆司 著

「中国」は古来、大陸に君臨した北方「中原」と経済文化を担った南方「江南」が分立、対峙してきた。潤潤温暖な長江流域で革命が為が起る。楚・呉の争奪から、蜀の開発、六朝の繁華、唐・宋の発展、明の興亡、革命の急が転変へ、江南は多彩な中国史を形成する。北から覆まれた辺境は、いかにして東ユーラシア全域に冠絶した経済文化圏を築いたのか。中国五千年の歴史を江南の視座から描きなおす。

1000円
102780-1

2781 冷戦史(上)

—第二次世界大戦終結から
キューバ危機まで

青野利彦 著

1945年に第二次世界大戦が終わると大國の協力は崩壊し、アメリカ中心の西側陣営とソ連中心の東側陣営による冷戦が始まった。ヨーロッパではドイツが東西に分断され、東アジアでは中国の国共内戦、朝鮮戦争という「熱戦」が勃発。さらに脱植民地化の潮流に米ソが介入し、冷戦は第三世界にも拡大した。上巻では、1996-2年のキューバ・ミサイル危機で核戦争寸前に至るまでを描く。世界的な視野から冷戦を俯瞰する通史。

900円
102781-8

2782 冷戦史(下)

—ベトナム戦争からソ連崩壊まで

青野利彦 著

キューバ・ミサイル危機後、泥沼化するベトナム戦争が世界に衝撃を与えた。1960年代末から米中ソはダタント(緊張緩和)へ向かうものの、70年代末には再び対立が深まり「新冷戦」と呼ばれた。だが、その背後では西側経済の優位と東アジア経済の躍進により、第三世界の国々が社会主義を放棄しつつあった。そしてソ連にゴルバチョフが登場し、冷戦は終焉を迎えるが——。戦争と対立が続く現代に、冷戦は何を遺したのか。

880円
102782-5

2783 謎の平安前期

—桓武天皇から「源氏物語」誕生
までの2000年

榎村寛之 著

平安遷都に始まる2000年は激変の時代だった。律令国家は大きな政府から小さな政府へと変わったが、国家は豊かになった。その富はどこへ行ったのか。奈良時代の宮廷を支えた女官たちはどこへ行ったのか。新しく生まれた摂関家とは何か。桓武天皇、在原業平、菅原道真、藤原基経ら個人的メンバ、齋宮女御、中宮定子、紫式部ら綺羅星の如き女性が織り成すドラマとは? 「この国のかたち」を決めた平安前期の全てが明かされる。

1000円
102783-2

2784 財政・金融政策の転換点

—日本経済の再生プラン

飯田泰之 著

世界の経済政策が大きく転換しつつある。これまで政府支出などの財政政策は抑制的に、金融政策はそれとは独立して行うことを常識としてきたが、昨今、その実効性が疑問視されるようになったのだ。巨額の政府債務と長期の低金利政策で財政破綻さえ囁かれる日本。この苦境をどのように打開すべきなのか。財政・金融政策の現代的意義と機能を考察し、日本再生に必要な両政策の統合運用と高圧経済への移行を提言する。

840円
102784-9

2785 長篠合戦

—鉄砲戦の虚像と実像

金子 拓 著

一五七五年、織田信長・徳川家康の連合軍と、武田勝頼率いる軍勢が激突した長篠合戦。足輕鉄砲隊の一斉射撃という信長の新戦法により、武田の誇る騎馬隊が潰滅した。画期的な戦いとして知られる。小説や映像で繰り返し描かれるこの鮮烈なイメージは、どのように形作られてきたのか。伝来する合戦図屏風ほか、様々な関連史料を検証し、虚飾に彩られた決戦の実像に迫る。最新研究をふまえて提示する、長篠合戦論の総決算。

900円
102785-6

2786 日本の経済政策

—「失われた30年」をいかに克服するか

小林慶一郎 著

バブル崩壊以降、「失われた30年」とも言われる長期停滞から抜け出せない日本。なぜこれほど長く低迷しているのか。日本経済を一九九〇年代から振り返り、繰り返された論争と、実施された政策をマクロ経済学の見地から検証する。一九九〇年代の不良債権処理、二〇〇〇年代の格差論争、二〇一〇年代の低金利政策。私たちはどこで判断を誤り、どのよう

920円
102786-3

2787 カーストとは何か

—インド「不可触民」の実像

鈴木真弥 著

インドに根付く社会的な身分制「カースト」。数千年の歴史のなかで形成され、結婚・食生活・職業など生まれから規制し、今なお影響を与え続ける。カースト問題には「不浄」とされる施業を打つが、その慣習は消えず、移民した世界各国でも問題化している。本書はインドに重くのしかかるカーストについて、歴史から現状まで、具体的な事例を通して描く。

900円
102787-0

2788 生き物の「居場所」はどう決まるか

—攻める、逃げる、生き残るための
すこい知恵

大崎直太 著

世界は広いが、それぞれの生き物が生きられるのは、ほんの小さな場所にすぎない。ウナギは川底の穴にしか棲めないし、モンシロチョウはいつもキャベツ畑を飛んでいる。生き物の居場所「ニッチ」は、なぜそこに決まっているのか。これまで餌や配偶者の存在などの理由が考えられてきたが、実は天敵の不在こそが何よりも重要なのだ。生き物たちの巧妙な生き方から、天敵不在と繁殖干渉という、生態学の核心的概念を紹介する。

1050円
102788-7

2789 在日米軍基地

—米軍と国連軍、「2つの顔」の80年史

川名晋史 著

世界で最も多くの米軍基地を抱え、米兵が駐留する日本。米軍のみならず、終戦後一貫して友軍の「国連軍」も駐留する。なぜ、いつから基地大國になったのか。米軍の裏の顔である国連軍とは。本書は新発見の史料をふまえて、占領期から朝鮮戦争、安保改定、沖縄返還、冷戦終結、現代の普天間移設問題まで、基地と日米関係の軌跡を追う。「日本は基地を提供し、米國は防衛する」という通説を覆し、特異な実態を解明。戦後史を描き直す。

1100円
102789-4

2790 ウマは走る ヒトはコケる

—歩く・飛ぶ・泳ぐ生物学

本川達雄 著

背骨と手足を得て、脊椎動物は速く長距離を移動できるようになった。走る、泳ぐ、飛ぶと方法は異なるが、動物それぞれが素早い動きを可能にする体のデザインを持っている。ヒトはコケつつ歩くが、これがめつぼう効率が良くて速い。なぜ? 鶏の胸肉はササミよりも3倍も大きい。なぜ? 渡り鳥が無着陸で何千kmも飛べる。なぜ? 魚やイルカには頭がなぜ? 皆、納得のいく理由がある。動くための驚きの仕組みが満載!

1000円
102790-0

2791 中国農村の現在

―「14億分の10億」のリアル

田原史起 著

経済発展めざましい中国。だが、農村部は置き去りにされていないか。出稼ぎの「農民工」は逃げられ、「留守児童」は劣悪な環境に置かれていないか。1990年代末から中国各地の農村でフィールドワークを重ねてきた著者が実態に迫る。家族の発展を何より重視する精神、末端幹部たちの奮闘、裏金が飛び交う村の選挙、習近平政権が進める都市化の本当の意

味とは。現場で農民と酒を飲み交わし、初めて見えてくる実像。

2792 三井大坂両替店

―銀行業の先駆け、その技術と挑戦

萬代 悠著

元禄四年（一六九一）に三井高利が開設した三井大坂両替店。当初の業務は江戸幕府に委託された送金だったが、その役得を活かし民間相手の金貸しとして成長する。本書は、三井の膨大な史料から信用調査の技術と法制度を利用した工夫を読み解く。そこからは三井の経営手法のみならず、当時の社会風俗や人々の倫理観がみえてくる。三井はいかにして栄え、日本初の民間銀行創業へと繋げたか。新たな視点で金融史を捉え直す。

1000円
102792-4

2793 化石に眠るDNA

―絶滅動物は復活するか

更科 功著

DNAには不思議な魅力がある。大ヒット映画「ジュラシック・パーク」では、琥珀の中に遺されたDNAから、恐竜を現代に蘇らせた。それは絵空事とは言いつてもいい。マンモスなど絶滅動物の復活をめざす取り組みは今なお続けられている。古代DNAの研究を進展させた新技術はどのようなものか。生命を操作することに重大なリスクはないのか。科学者がたちが織りなしたドラマとともに、起伏に富んだ研究史をたどる。

1000円
102793-1

2794 流出する日本人

―海外移住の光と影

大石奈々 著

日本人の海外「流出」が注目を集めている。ワーキングホリデーの若者、子育て世代、富裕層、技術者や研究者、リタイア世代。日本をなぜ離れるのか。海外移住にはどんなリスクがあるのか。移住研究の第一人者が、当事者へのインタビューやデータをもとに実態に迫る。自由な環境で実力を発揮する人々から、悪徳業者に騙される若者、帰国したくてもできない離婚者まで、海外で暮らす人々の明暗と日本への影響。

840円
102794-8

2795 ナチ親衛隊(SS)

―「政治的エリート」たちの歴史と犯罪

若林美佐知 著

ヒトラーの護衛に過ぎなかつた親衛隊は、ナチ政権発足後、党や全国の警察組織を掌握。強制収容所を創り敵対勢力を弾圧する。第2次世界大戦開始後は行動部隊、アウシュヴィッツなどの絶滅収容所を起動しユダヤ人の大量殺戮を主導、80万人の巨大な軍事組織・武装親衛隊も併せ持った。本書は、ヒトラーに最も忠実な「エリート」たちの選抜から、ホロコーストの実行、カルト的信仰、戦後の姿までその全貌を描く。解題・芝健介

1000円
102795-5

2796 堤康次郎

―西武グループと20世紀日本の開発事業

老川慶喜 著

早稲田大学在学中に起業、卒業するや別荘地や住宅地を精力的に開発した堤康次郎。その軌跡は、公務員・会社員などの新中間層（サラリーマン）の誕生や都市人口の増大と重なる。軽井沢や箱根では別荘地や自動車道を、東京では目白文化村や大泉・国立などの学園都市を開発した。さらに私鉄の経営権を握り、百貨店や化学工業も含めた西武コンツェルンを一代で築くが、事業の本分はまぎれもなく「土地」にあった。膨大な資料から生涯を読み解く。

1200円
102796-2

2797 英語の読み方リスニング篇

―話し言葉を聴きこなす

北村一真 著

音声英語に接し、聴き取れないからと英語習得を断念したことはないだろうか。安心していただきたい。一定の速度で英文が読めれば、自ずとリスニングの力も上達するからだ。本書では、まず読む力を鍛え、話す英語の本質とリスニング力向上のポイントを指南。ニュースや映画予告編、首相・国王や実業家のスピーチなど「本物の英語」を教材に、聴く力を身に付ける。随所に独習のコツ、巻末に即役立つ20の厳選例文を取録。

840円
102797-9

2416	浄土真宗とは何か	小山聡子
2365	禅の教室	藤田一照 伊藤比呂美
134	地獄の思想	梅原 猛
989	儒教とは何か(増補版)	加地伸行
2453	イスラームの歴史 カレン・アームストロング	小林朋則訳
1707	ヒンドゥー教―インドの聖と俗	森本達雄
2076	アメリカと宗教	堀内一史
2360	キリスト教と戦争	石川明人
2642	宗教と過激思想	藤原聖子
2639	宗教と日本人	岡本亮輔
2746	統一教会	櫻井義秀
2306	聖地巡礼	岡本亮輔
2310	山岳信仰	鈴木正崇
2499	仏像と日本人	碧海寿広
2598	倫理学入門	品川哲彦
2494	温泉の日本史	石川理夫
2671	親孝行の日本史	勝又 基
2500	日本史の論点	中公新書 編集部編
1617	歴代天皇総覧(増補版)	笠原英彦
2302	日本人にとって 聖なるものは何か	上野 誠
2619	もののけの日本史	小山聡子
1928	物語―京都の歴史	脇田晴一修
2345	京都の神社と祭り	本多健一
2654	日本の先史時代	藤尾慎一郎
2709	縄文人と弥生人	坂野 徹
482	倭 国	岡田英弘
147	騎馬民族国家(改版)	江上波夫
2164	魏志倭人伝の謎を解く	渡邊義浩
2533	古代日中関係史	河上麻由子
1085	古代朝鮮と倭族	鳥越憲三郎
2470	倭の五王	河内春人
2095	『古事記』神話の謎を解く	西條 勉

2452	齋宮―伊勢斎王たちの 生きた古代史	榎村寛之
2648	藤原仲麻呂	仁藤敦史
2457	光明皇后	瀧浪貞子
2725	奈良時代	木本好信
2563	持統天皇	瀧浪貞子
1502	日本書紀の謎を解く	森 博達
2362	六国史―日本書紀に始まる 古代の「正史」	遠藤慶太
2464	藤原氏―権力中枢の一族	倉本一宏
2353	蘇我氏―古代豪族の興亡	倉本一宏
2168	飛鳥の木簡―古代史の 新たな解明	市 大樹
2371	カラー版 古代飛鳥を歩く	千田 稔
1293	壬申の乱	遠山美都男
2699	新版 大化改新	遠山美都男
1622	奥州藤原氏	(高橋 崇
1041	蝦夷の末裔	高橋 崇
804	蝦夷	高橋 崇
2673	国造 <small>こくにやう</small> ―大和政権と 地方豪族	篠川 賢
2680	モチベーションの心理学	鹿毛雅治
599	無気力の心理学(改版)	波多野諠余夫 稲垣佳世子
318	知的好奇心	波多野諠余夫 大 山 正
1169	色彩心理学入門	加賀乙彦
565	死刑囚の記録	福鳥 章
666	犯罪心理学入門	岡本真二郎
2202	言語の社会心理学	小塩真司
2603	性格とは何か	渡辺正峰
2460	脳の意識 機械の意識	下條信輔
1324	サブリミナル・マインド	山中康裕
515	少年期の心	増本康平
2521	古いと記憶	池田 学
2061	認知症	小此木啓吾
557	対象喪失	河合隼雄
481	無意識の構造(改版)	増本康平
907	人はいかに学ぶか	波多野諠余夫
2238	人はなぜ 集団になると忘れるのか	釘原直樹
1345	考えることの科学	市川伸一
757	問題解決の心理学	安西祐一郎
2386	悪意の心理学	岡本真一郎
2692	後悔を活かす心理学	上市秀雄
2772	恐怖の正体	春日武彦

2517	承久の乱	坂井孝一
2678	北条義時	岩田慎平
2526	源頼朝	元木泰雄
2336	源頼政と木曾義仲	永井 晋
1392	中世都市鎌倉を歩く	松尾剛次
1503	古文書返却の旅	網野善彦
608	613 中世の風景(上下)	阿部謙也/網野善彦 石井進/榊山絃一
2655	刀伊の入寇	関 幸彦
2705	平 氏―公家の盛衰、 武家の興亡	倉本一宏
2573	公家源氏―王権を 支えた名族	倉本一宏
2127	河内源氏	元木泰雄
2662	莊 園	伊藤俊一
2281	怨霊とは何か	山田雄司
2559	菅原道真	滝川幸司
1867	院 政(増補版)	美川 圭
2636	古代日本の官僚	虎尾達哉
2783	謎の平安前期―桓武天皇から 源氏物語	榎村寛之
2321	道路の日本史	武部健一
2389	通貨の日本史	高木久史
2579	米の日本史	佐藤洋一郎
2729	日本史を暴く	磯田道史
2295	天災から日本史を読みなおす	磯田道史
2455	日本史の内幕	磯田道史
2189	歴史の愉しみ方	磯田道史
727	日本史	春日武彦

2712	韓日併合	森万佑子	2728	孫子「兵法の真髓」を読む	渡邊義浩	2748	物語「チベット」の歴史	石濱裕美子	2761	御成敗式目	佐藤雄基	2779	日蓮	松尾剛次	2785	長篠合戦	金子拓	2792	三井大坂両替店	萬代悠	2804	近代日本外交史	佐々木雄一	2812	西太后	宮崎市定	2814	台湾	榎本泰子	2815	上海	榎本泰子	2816	台湾の歴史と文化	大東和重	2817	日清戦争	大谷正	2818	日露戦争	横手慎二	2819	民衆暴力「一揆・暴動・虐殺」の日本近代	藤野裕子	2820	秩父事件	井上幸治	2821	ある明治人の記録(改版)	石光真人 編著	2822	西南戦争	小川原正道	2823	明治六年政変	毛利敏彦	2824	明治の技術官僚	柏原宏紀	2825	近代日本の官僚	清水唯一朗	2826	大隈重信(上下)	伊藤之雄	2827	板垣退助	中元崇智	2828	山原有朋	小林道彦	2829	伊藤博文	龍井一博	2830	元老「近代日本の真の指導者たち」	伊藤之雄	2831	華族	小田部雄次	2832	近代日本外交史	佐々木雄一	2833	贈与の歴史学	桜井英治	2834	戦国日本と大航海時代	平川新	2835	足利将軍たちの戦国乱世	山田康弘	2836	日本神判史	清水克行	2837	徳川家康の決断	本多隆成	2838	戦国武将の手紙を読む	小和田哲男	2839	流浪の戦国貴族 近衛前久	谷口研語	2840	徳仁の乱	呉座勇一	2841	兼好法師	小川剛生	2842	観応の擾乱	亀田俊和	2843	北朝の天皇	石原比伊呂	2844	兼好法師	小川剛生	2845	足利義満	小川剛生	2846	室町の王権	今谷明	2847	徳仁の乱	今谷明	2848	足利将軍たちの戦国乱世	山田康弘	2849	徳仁の乱	呉座勇一	2850	贈与の歴史学	桜井英治	2851	戦国日本と大航海時代	平川新	2852	足利将軍たちの戦国乱世	山田康弘	2853	日本神判史	清水克行	2854	徳川家康の決断	本多隆成	2855	戦国武将の手紙を読む	小和田哲男	2856	流浪の戦国貴族 近衛前久	谷口研語	2857	徳仁の乱	呉座勇一	2858	兼好法師	小川剛生	2859	観応の擾乱	亀田俊和	2860	北朝の天皇	石原比伊呂	2861	兼好法師	小川剛生	2862	足利義満	小川剛生	2863	室町の王権	今谷明	2864	徳仁の乱	今谷明	2865	足利将軍たちの戦国乱世	山田康弘	2866	日本神判史	清水克行	2867	徳川家康の決断	本多隆成	2868	戦国武将の手紙を読む	小和田哲男	2869	流浪の戦国貴族 近衛前久	谷口研語	2870	徳仁の乱	呉座勇一	2871	兼好法師	小川剛生	2872	観応の擾乱	亀田俊和	2873	北朝の天皇	石原比伊呂	2874	兼好法師	小川剛生	2875	足利義満	小川剛生	2876	室町の王権	今谷明	2877	徳仁の乱	今谷明	2878	足利将軍たちの戦国乱世	山田康弘	2879	日本神判史	清水克行	2880	徳川家康の決断	本多隆成	2881	戦国武将の手紙を読む	小和田哲男	2882	流浪の戦国貴族 近衛前久	谷口研語	2883	徳仁の乱	呉座勇一	2884	兼好法師	小川剛生	2885	観応の擾乱	亀田俊和	2886	北朝の天皇	石原比伊呂	2887	兼好法師	小川剛生	2888	足利義満	小川剛生	2889	室町の王権	今谷明	2890	徳仁の乱	今谷明	2891	足利将軍たちの戦国乱世	山田康弘	2892	日本神判史	清水克行	2893	徳川家康の決断	本多隆成	2894	戦国武将の手紙を読む	小和田哲男	2895	流浪の戦国貴族 近衛前久	谷口研語	2896	徳仁の乱	呉座勇一	2897	兼好法師	小川剛生	2898	観応の擾乱	亀田俊和	2899	北朝の天皇	石原比伊呂	2900	兼好法師	小川剛生	2901	足利義満	小川剛生	2902	室町の王権	今谷明	2903	徳仁の乱	今谷明	2904	足利将軍たちの戦国乱世	山田康弘	2905	日本神判史	清水克行	2906	徳川家康の決断	本多隆成	2907	戦国武将の手紙を読む	小和田哲男	2908	流浪の戦国貴族 近衛前久	谷口研語	2909	徳仁の乱	呉座勇一	2910	兼好法師	小川剛生	2911	観応の擾乱	亀田俊和	2912	北朝の天皇	石原比伊呂	2913	兼好法師	小川剛生	2914	足利義満	小川剛生	2915	室町の王権	今谷明	2916	徳仁の乱	今谷明	2917	足利将軍たちの戦国乱世	山田康弘	2918	日本神判史	清水克行	2919	徳川家康の決断	本多隆成	2920	戦国武将の手紙を読む	小和田哲男	2921	流浪の戦国貴族 近衛前久	谷口研語	2922	徳仁の乱	呉座勇一	2923	兼好法師	小川剛生	2924	観応の擾乱	亀田俊和	2925	北朝の天皇	石原比伊呂	2926	兼好法師	小川剛生	2927	足利義満	小川剛生	2928	室町の王権	今谷明	2929	徳仁の乱	今谷明	2930	足利将軍たちの戦国乱世	山田康弘	2931	日本神判史	清水克行	2932	徳川家康の決断	本多隆成	2933	戦国武将の手紙を読む	小和田哲男	2934	流浪の戦国貴族 近衛前久	谷口研語	2935	徳仁の乱	呉座勇一	2936	兼好法師	小川剛生	2937	観応の擾乱	亀田俊和	2938	北朝の天皇	石原比伊呂	2939	兼好法師	小川剛生	2940	足利義満	小川剛生	2941	室町の王権	今谷明	2942	徳仁の乱	今谷明	2943	足利将軍たちの戦国乱世	山田康弘	2944	日本神判史	清水克行	2945	徳川家康の決断	本多隆成	2946	戦国武将の手紙を読む	小和田哲男	2947	流浪の戦国貴族 近衛前久	谷口研語	2948	徳仁の乱	呉座勇一	2949	兼好法師	小川剛生	2950	観応の擾乱	亀田俊和	2951	北朝の天皇	石原比伊呂	2952	兼好法師	小川剛生	2953	足利義満	小川剛生	2954	室町の王権	今谷明	2955	徳仁の乱	今谷明	2956	足利将軍たちの戦国乱世	山田康弘	2957	日本神判史	清水克行	2958	徳川家康の決断	本多隆成	2959	戦国武将の手紙を読む	小和田哲男	2960	流浪の戦国貴族 近衛前久	谷口研語	2961	徳仁の乱	呉座勇一	2962	兼好法師	小川剛生	2963	観応の擾乱	亀田俊和	2964	北朝の天皇	石原比伊呂	2965	兼好法師	小川剛生	2966	足利義満	小川剛生	2967	室町の王権	今谷明	2968	徳仁の乱	今谷明	2969	足利将軍たちの戦国乱世	山田康弘	2970	日本神判史	清水克行	2971	徳川家康の決断	本多隆成	2972	戦国武将の手紙を読む	小和田哲男	2973	流浪の戦国貴族 近衛前久	谷口研語	2974	徳仁の乱	呉座勇一	2975	兼好法師	小川剛生	2976	観応の擾乱	亀田俊和	2977	北朝の天皇	石原比伊呂	2978	兼好法師	小川剛生	2979	足利義満	小川剛生	2980	室町の王権	今谷明	2981	徳仁の乱	今谷明	2982	足利将軍たちの戦国乱世	山田康弘	2983	日本神判史	清水克行	2984	徳川家康の決断	本多隆成	2985	戦国武将の手紙を読む	小和田哲男	2986	流浪の戦国貴族 近衛前久	谷口研語	2987	徳仁の乱	呉座勇一	2988	兼好法師	小川剛生	2989	観応の擾乱	亀田俊和	2990	北朝の天皇	石原比伊呂	2991	兼好法師	小川剛生	2992	足利義満	小川剛生	2993	室町の王権	今谷明	2994	徳仁の乱	今谷明	2995	足利将軍たちの戦国乱世	山田康弘	2996	日本神判史	清水克行	2997	徳川家康の決断	本多隆成	2998	戦国武将の手紙を読む	小和田哲男	2999	流浪の戦国貴族 近衛前久	谷口研語	3000	徳仁の乱	呉座勇一
------	------	------	------	--------------	------	------	-------------	-------	------	-------	------	------	----	------	------	------	-----	------	---------	-----	------	---------	-------	------	-----	------	------	----	------	------	----	------	------	----------	------	------	------	-----	------	------	------	------	---------------------	------	------	------	------	------	--------------	---------	------	------	-------	------	--------	------	------	---------	------	------	---------	-------	------	----------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------------------	------	------	----	-------	------	---------	-------	------	--------	------	------	------------	-----	------	-------------	------	------	-------	------	------	---------	------	------	------------	-------	------	--------------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-----	------	-------------	------	------	------	------	------	--------	------	------	------------	-----	------	-------------	------	------	-------	------	------	---------	------	------	------------	-------	------	--------------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-----	------	-------------	------	------	-------	------	------	---------	------	------	------------	-------	------	--------------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-----	------	-------------	------	------	-------	------	------	---------	------	------	------------	-------	------	--------------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-----	------	-------------	------	------	-------	------	------	---------	------	------	------------	-------	------	--------------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-----	------	-------------	------	------	-------	------	------	---------	------	------	------------	-------	------	--------------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-----	------	-------------	------	------	-------	------	------	---------	------	------	------------	-------	------	--------------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-----	------	-------------	------	------	-------	------	------	---------	------	------	------------	-------	------	--------------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-----	------	-------------	------	------	-------	------	------	---------	------	------	------------	-------	------	--------------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-----	------	-------------	------	------	-------	------	------	---------	------	------	------------	-------	------	--------------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-----	------	-------------	------	------	-------	------	------	---------	------	------	------------	-------	------	--------------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-----	------	-------------	------	------	-------	------	------	---------	------	------	------------	-------	------	--------------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-----	------	------	-----	------	-------------	------	------	-------	------	------	---------	------	------	------------	-------	------	--------------	------	------	------	------

1644	ハワイの歴史と文化	矢口祐人
2545	物語 ナイジェリアの歴史	島田周平
2741	物語 オーストラリアの歴史 (新版)	竹田いさみ 永野隆行
1935	物語 メキシコの歴史	大垣貴志郎
1437	物語 ラテン・アメリカの歴史	増田義郎
2623	古代マヤ文明	鈴木真太郎
2209	アメリカ黒人の歴史	上杉 忍
1042	物語 アメリカの歴史	猿谷 要
1655	物語 ウクライナの歴史	黒川祐次
1758	物語 バルト三国の歴史	志摩園子
2456	物語 フィンランドの歴史	石野裕子
1131	物語 北欧の歴史	武田龍夫
2445	物語 ポーランドの歴史	渡辺克義
1838	物語 チェコの歴史	薩摩秀登
2279	物語 ベルギーの歴史	松尾秀哉
2434	物語 オランダの歴史	桜田美津夫
2546	物語 オーストリアの歴史	山之内克子

632	海軍と日本	池田 清
2482	日本統治下の朝鮮	木村光彦
2309	朝鮮王公族―帝国日本の華皇族	新城道彦
2105	昭和天皇	古川隆久
現代史 I		
2664	歴史修正主義	武井彩佳
2666	ドイツ・ナショナリズム	今野 元
2681	リトホーフエン ―撃墜王とその一族	森 貴史
2368	第一次世界大戦史	飯倉 章
2778	自動車の世界史	鈴木 均
2451	トラクターの世界史	藤原辰史
2590	人類と病	詫摩佳代
518	刑史の社会史	阿部謹也
2442	海賊の世界史	桃井治郎
2561	キリスト教と死	指 昭博

2296	日本占領史1945-1952	福永文夫
2015	「大日本帝国」崩壊	加藤聖文
244	東京裁判(上下)	児島 襄
2525	硫黄島	石原 俊
2465	日本軍兵士―アジア太平洋戦争の現実	吉田 裕
2707	大東亜共栄圏	安達宏昭
84	90 太平洋戦争(上下)	児島 襄
795	南京事件(増補版)	秦 郁彦
1532	新版 日中戦争	白井勝美
2657	平沼騏一郎	萩原 淳
76	二・二六事件(増補改版)	高橋正衛
2587	五・一五事件	小山俊樹
2144	昭和陸軍の軌跡	川田 稔
1138	キメラ―満洲国の肖像(増補版)	山室信一
2192	政友会と民政党	井上寿一
2754	関東軍―独走と崩壊	及川琢英
2703	帝国日本のプロパガンダ	貴志俊彦

2496	物語 アラビアの歴史	部 勇造
1594	物語 中東の歴史	牟田口義郎
2661	アケメネス朝ペルシア ―史上初の世界帝国	阿部 拓児
2613	古代メソポタミア全史	小林登志子
1977	シユメル神話の世界	岡田 明子 小林登志子
1818	シユメル―人類最古の文明	小林登志子
2523	古代オリエントの神々	小林登志子
2727	古代オリエント全史	小林登志子
2323	文明の誕生	小林登志子
2518	オスマン帝国	小笠原弘幸
1551	海の帝国	白石 隆
2249	物語 ビルマの歴史	根本 敬
1913	物語 タイの歴史	柿崎一郎
2208	物語 シンガポールの歴史	岩崎育夫
1372	物語 ヴェトナムの歴史	小倉貞男
1367	物語 フィリピン <small>の歴史</small>	鈴木静夫
925	物語 韓国史	金 岡 基

1635	物語 スペインの歴史	岩根 閑和
2440	バルカン―「ヨーロッパの 火薬庫」の歴史	井上 廣美訳
2152	物語 近現代ギリシャの歴史	村田奈々子
2663	物語 イスタンブールの歴史	宮下 遼
2595	ビザンツ帝国	中谷 功治
1771	物語 イタリアの歴史Ⅱ	藤沢道郎
1045	物語 イタリアの歴史	藤沢道郎
2567	歴史探究のヨーロッパ	佐藤彰一
2516	宣教のヨーロッパ	佐藤彰一
2467	剣と清貧のヨーロッパ	佐藤彰一
2409	贖罪のヨーロッパ	佐藤彰一
2253	禁欲のヨーロッパ	佐藤彰一
2647	高地文明―「もう一つ 四大文明」の発見	山本紀夫
2205	聖書考古学	長谷川修一
2753	エルサレムの歴史と文化	浅野和生
2067	物語 エルサレムの歴史	笈川博一
1931	物語 イスラエルの歴史	高橋正男

2583	鉄道 <small>のドイツ史</small>	鳩澤 歩
2490	ヴェイルヘルム2世	竹中 亨
2304	ビスマルク	飯田洋介
2766	オットー大帝―逆巻の戦士から 「神聖ローマ帝国」創立者へ	三佐川亮宏
1420	物語 ドイツの歴史	阿部謹也
1215	物語 アイルランドの歴史	波多野裕造
2696	物語 スコットランドの歴史	中村隆文
1916	ヴィクトリア女王	君塚直隆
2167	イギリス帝国の歴史	秋田 茂
2318	2319 物語 イギリスの歴史(上下)	君塚直隆
2529	ナポレオン四代	野村啓介
2286	マリ―アントワネット	安達正勝
1963	物語 フランス革命	安達正勝
2658	物語 パリの歴史	福井憲彦
2582	百年戦争	佐藤 猛
1564	物語 カタールニヤの歴史 (増補版)	田澤 耕
1750	物語 スペインの歴史	人物篇 岩根閑和

2411	シベリア抑留	富田 武	1875	「国語」の近代史	安田敏朗	2543	日米地位協定	山本章子
2471	戦前日本のポピュリズム	筒井清忠	2075	歌う国民	渡辺 裕	2649	東京復興ならず	吉見俊哉
2171	治安維持法	中澤俊輔	2332	「歴史認識」とは何か	大江 保昭 江川 潤子 関 手	2733	日本の歴史問題(改題新版)	波多野澄雄
1759	言論統制	佐藤卓己	2624	「徴用工」問題とは何か	波多野澄雄	現代史 II		
828	清沢洌(増補版)	北岡伸一	2359	竹島―もうひとつの 日韓関係史	池内 敏	27	ワイマル共和国	林 健太郎
2638	幣原喜重郎	熊本史雄	1820	丸山眞男の時代	竹内 洋	2719	ナチスの戦争	リチャード・ベッセル 大山 晶沢
1243	石橋湛山	増田 弘	2714	国 鉄―「日本最大の企業」の 栄光と崩壊	石井幸孝	2272	ヒトラー演説	高田 博行
2796	堤康次郎	老川慶喜	2237	四大公害病	政野淳子	2329	ナチス親衛隊(SS)	バステリアン・ハイン 若林美佐知
2687	天皇家の恋愛	森 暢平	1821	安田講堂1968-1969	島 泰三	2272	ヒトラー演説	高田 博行
2570	佐藤栄作	村井良太	2110	日中国交正常化	服部龍二	2795	ナチ親衛隊(SS)	バステリアン・ハイン 若林美佐知
2186	田中角栄	早野 透	2150	近現代日本史と歴史学	成田龍一	1943	ホロコースト	芝 健介
1976	大平正芳	福永文夫	2196	大原孫三郎―善意と 戦略の経営者	兼田麗子	2349	ヒトラーに抵抗した人々	對馬達雄
2351	中曽根康弘	服部龍二	2317	歴史と私	伊藤 隆	2610	ヒトラーの脱走兵	對馬達雄
2726	田中耕太郎 ―闘争司法の確立者、世界法の探求者	牧原 出	2627	戦後民主主義	山本昭宏	2313	ニルンベルク裁判	アンネット・ウァインゲ 板橋拓己訳
2512	高坂正堯―戦後日本と 現実主義	服部龍二	2720	司馬遼太郎の時代	福間良明	2266	アデナウアー	板橋拓己
2710	日本インテリゲンシス史	小谷 賢	2342	沖繩現代史	櫻澤 誠	2615	物語 東ドイツの歴史	河合信晴
1574	海の友情	阿川尚之	2789	在日米軍基地	川名晋史	2274	スターリン	横手慎二
2760	諜報国家ロシア	保坂三四郎	2774	ケマル・アタテュルク	小笠原弘幸	2388	人口と日本経済	吉川 洋
530	チャーチル(増補版)	河合秀和	2415	トルコ現代史	今井宏平	2338	財務省と政治	清水真人
2643	イギリス1960年代	小関 隆	2670	サウジアラビア ―イスラーム世界の盟主の正体	高尾賢一郎	2541	平成金融史	西野智彦
2717	アイルランド現代史	北野 充	2330	チェ・ゲバラ	伊高浩昭	2784	財政・金融政策の転換点	飯田泰之
2221	バチカン近現代史	松本佐保	2163	人種とスポーツ	川島浩平	2041	行動経済学	依田高典
2437	中国ナショナリズム	小野寺史郎	2578	エリザベス女王	君塚直隆	2501	現代経済学	瀧澤弘和
2700	新疆ウイグル自治区	熊倉 潤	経済・経営			2045	競争と公平感	梶井厚志
2600	孫基禎―帝国日本の 朝鮮人メダリスト	金 誠	2000	戦後世界経済史	猪木武徳	2274	行動経済学の処方箋	大竹文雄
1959	韓国現代史	木村 幹	2185	経済学に何が できるか	猪木武徳	1824	経済学的思考のセンス	大竹文雄
2682	韓国愛憎	木村 幹	2659	経済社会の学び方	猪木武徳	1658	戦略的思考の技術	大竹文雄
2602	韓国社会の現在	春木育美	2185	経済学に何が できるか	猪木武徳	2045	競争と公平感	大竹文雄
1596	ベトナム戦争	松岡 完	2000	戦後世界経済史	猪木武徳	2447	競争社会の歩き方	大竹文雄
1664	アメリカの20世紀(上下)	有賀夏紀	1936	アダム・スミス	堂目卓生	2575	移民の経済学	友原章典
2626	フランクリン・ローズヴェルト	佐藤千登勢	2659	資本主義の方程式	小野善康	2473	人口減少時代の都市	諸富 徹
2781	冷戦史(上下)	青野利彦	2307	日本型資本主義	寺西重郎	2751	入門 環境経済学(新版)	日 有村俊 聡 秀
2479	スポーツ国家アメリカ	鈴木 透	2502	ベシック・インカム	原田 泰	2743	入門 開発経済学	山形辰史
2540	食の実験場アメリカ	鈴木 透	2786	日本の経済政策	小林慶一郎	2571	アジア経済とは何か	後藤健太

2770	インド―グローバル・サウスの超大国	近藤正規	2537	日本の地方政府	曾我謙悟	2574	戦争とは何か	多湖 淳
2420	フイリピン―急成長する若き「大国」	井出穰治	2558	日本の地方議会	辻 陽	2652	戦争はいかに終結したか	千々和泰明
290	総裁日記(増補版)	服部正也	1687	日本の選挙	加藤秀治郎	2621	リベラルとは何か	田中拓道
2612	デジタル化する新興国	伊藤亜聖	2752	戦後日本政治史	境家史郎	2410	ポピュリズムとは何か	水島治郎
2200	夫婦格差社会	橋木俊詔 迫田さやか	1845	首相支配―日本政治の変貌	竹中治堅	2207	平和主義とは何か	松元雅和
2701	日本のコメ問題	小川真如	2651	政界再編	山本健太郎	2195	入門 人間の安全保障(増補版)	長 有紀枝
2634	サラ金の歴史	小島庸平	2428	自民党―「二強」の実像	中北浩爾	2576	内戦と和平	東 大作
政治・法律			2695	日本共産党	中北浩爾	2394	難民問題	墓田 桂
125	法と社会	碧海純一	2233	民主党政権 失敗の検証	日本再建イニシアティブ 津村 芳正	2629	ロヒンギャ危機―「民族浄化」の真相	中西嘉宏
819	アメリカン・ロイヤリーの誕生	阿川尚之	2101	国会議員の仕事	高良倉吉編著	2133	文化と外交	渡辺 靖
2773	実験の民主主義	宇野重規 若林 恵聞き手	2418	沖縄問題―リアリズムの視点から	秋吉貴雄	113	日本の外交	入江 昭
2347	代議制民主主義	待鳥聡史	2439	入門 公共政策学	竹中治堅	2402	現代日本外交史	宮城大蔵
2631	現代民主主義	山本 圭	2620	コロナ危機の政治	高坂正堯	2697	戦後日本の安全保障	千々和泰明
1905	日本の統治構造	飯尾 潤	108	国際政治(改版)	中西 寛	2650	米中対立	佐橋 亮
2691	日本の国会議員	濱本真輔	1868	国際政治とは何か	細谷雄一	2405	欧州複合危機	遠藤 乾
			2190	国際秩序	北岡伸一	2568	中国の行動原理	益尾知佐子
			1899	国連の政治力学	北岡伸一	2722	陰謀論	秦 正樹
2215	戦略論の名著	野中郁次郎 編著	2534	漢字の字形	落合淳思	2556	日本近代文学入門	堀 啓子
700	戦略的思考とは何か(改版)	岡崎久彦	2213	漢字再入門	阿辻哲次	2609	現代日本を読む―ノンフィクションの名作・問題作	武田 徹
721	地政学入門(改版)	曾村保信	2430	謎の漢字	阿辻哲次	563	幼い子の文学	瀬田貞二
2566	海の地政学	竹田いさみ	1755	部首のはなし	阿辻哲次	2156	源氏物語の結婚	工藤重矩
2450	現代日本の地政学	日本再建イニシアティブ	2363	外国語を学ぶための言語学の考え方	黒田龍之助	2585	徒然草	川平敏文
2611	アメリカの政党政治	岡山 裕	1833	ラテン語の世界	小林 標	1798	ギリシア神話	西村賀子
1272	アメリカ海兵隊	野中郁次郎	1971	英語の歴史	寺澤 盾	2382	シエイクスピア	河合祥一郎
2734	新興国は世界を変えるか	恒川恵市	1533	英語達人列伝	寺澤 盾	2242	オスカー・ワイルド	宮崎かすみ
言語・文学・エッセイ			2738	英語達人列伝Ⅱ	斎藤兆史	275	マザー・グースの唄	平野敬一
2756	言語の本質	今井むつみ 秋田喜美	1701	英語達人塾	斎藤兆史	2716	カラー版絵画で読む『失われた時を求めて』	吉川 一義
533	日本の方言地図	徳川宗賢 編	2797	英語の読み方	北村 一真	2404	ラテンアメリカ文学入門	寺尾隆吉
433	日本語の個性(改版)	外山滋比古	2637	英語の読み方リスニング篇	北村 一真	1790	批評理論入門	廣野由美子
2740	日本語の発音は どう変わってきたか	釘貫 亨	2684	中学英語「再」入門	澤井康佑	1656	詩歌の森へ	上野 誠
2493	日本語を翻訳するということ	牧野成一	2628	英文法再入門	澤井康佑	2608	万葉集講義	芳賀 徹
500	漢字百話	白川 静	352	日本の名作	小田切進	1729	俳句的生活	長谷川 權

2412	俳句と暮らす	小川 軽舟	118	ファイレンツェ	高階 秀爾	1816	西洋音楽史	岡田 暁生
824	辞世のことば	中西 進	2771	カラー版 美術の愉しみ方	山梨 俊夫	2630	現代音楽史	沼野 雄司
3	アーロン(収容所 改版)	会田 雄次	385	カラー版 近代絵画史(上下) 増補版	高階 秀爾	2009	音楽の聴き方	岡田 暁生
1702	ユーモアのレッスン	外山 滋比古	2718	カラー版 キリスト教美術史	瀧口 美香	2606	音楽の危機	岡田 暁生
2053	老いのかたち	黒井 千次	1781	マグダラのマリア	岡田 温司	2702	ミュージカルの歴史	宮本 直美
2289	老いの味わい	黒井 千次	2188	アダムとイヴ	岡田 温司	2745	バレエの世界史	海野 敏
2548	老いのゆくえ	黒井 千次	2708	最後の審判	岡田 温司	2395	シヨバン・コンクール	青柳 いづみこ
220	詩 経	白川 静	2369	天使とは何か	岡田 温司	2569	古閑裕而―流行作曲家と激動の昭和	刑部 芳則
芸術			2776	パロック美術	宮下 規久朗	2248	日本写真史(上下)	鳥原 学
			2614	カラー版ラファエロルネサンスの天才芸術家	深田 麻里亜	2694	日本アニメ史	津 堅信之
1741	美学への招待(増補版)	佐々木 健一	2513	カラー版 日本画の歴史 近代篇	草薙 奈津子	社会・生活		
2072	日本の感性	佐々木 健一	2514	カラー版 日本画の歴史 現代篇	草薙 奈津子			
1296	美の構成学	三井 秀樹	1827	カラー版 絵の教室	安野 光雅	2484	社会学	加藤 秀俊
2713	「美味しい」とは何か	源 河 亨	2562	現代美術史	山本 浩貴	1242	社会学講義	富永 健一
2764	教養としての建築入門	坂 牛 卓	1103	モーツアルト H.C.ロビンズ・ランドン	石井 宏 訳	1910	人口学への招待	河野 稠果
1220	書とはどういう芸術か	石川 九楊	1585	オペラの運命	岡田 暁生	1704	教養主義の没落	竹内 洋
2282 地方消滅			2488	ヤングケアラー―介護を担う子ども・若者の現実	澁谷 智子	1984	日本の子どもと自尊心	佐藤 淑子
2333 地方消滅 創生戦略篇			2138	ソーシヤル・キャピタル入門	稲葉 陽二	416	ミュンヘンの小学生	子安 美知子
2715 縛られる日本人 メアリー・C・プリントン 池村千秋 訳			2184	コミュニティデザイン時代の	山崎 亮	2066	いじめとは何か	森田 洋司
2446 人口減少と社会保障			1537	不平等社会日本	佐藤 俊樹	2549	海外で研究者になる	増田 直紀
2454 人口減少と社会問題			2489	リサイクルと世界経済	小島 道一	知的戦略・情報		
2580 移民と日本社会			2604	SDGs(持続可能な開発目標)	蟹江 憲史			
2794 流出する日本人			2747 戦後教育史			410	取材学	加藤 秀俊
2607 アジアの国民感情			2218 特別支援教育			136	発想法(改版)	川喜田 二郎
1479 安心社会から信頼社会へ			2477 日本の公教育			210	統一発想法	川喜田 二郎
2322 仕事と家族			2218 特別支援教育			1159	「超」整理法	野口 悠紀雄
2768 ジェンダー格差			2635 文部科学省			1662	「超」文章法	野口 悠紀雄
2737 不倫―実証分析が示す全貌			2218 特別支援教育			210	統一発想法	川喜田 二郎
2431 定年後			2004 2005 大学の誕生(上下)			410	取材学	加藤 秀俊
2486 定年準備			2424 帝国大学―近代日本のエリート育成装置			1216	理科系のための英文作法	杉原 厚吉
2577 定年後のお金			1249 大衆教育社会のゆくえ			624	理科系の作文技術	木下 是雄
2704 転身力			2006 教育と平等			2480	理科系の読書術	鎌田 浩毅
			2605 教育と平等			2480	理科系の読書術	鎌田 浩毅
			2635 文部科学省			1159	「超」整理法	野口 悠紀雄
			2218 特別支援教育			210	統一発想法	川喜田 二郎
			2477 日本の公教育			410	取材学	加藤 秀俊
			2747 戦後教育史			136	発想法(改版)	川喜田 二郎
			2218 特別支援教育			1159	「超」整理法	野口 悠紀雄
			2635 文部科学省			1662	「超」文章法	野口 悠紀雄
			2004 2005 大学の誕生(上下)			410	取材学	加藤 秀俊
			2424 帝国大学―近代日本のエリート育成装置			1216	理科系のための英文作法	杉原 厚吉
			1249 大衆教育社会のゆくえ			624	理科系の作文技術	木下 是雄
			2006 教育と平等			2480	理科系の読書術	鎌田 浩毅
			2605 教育と平等			2480	理科系の読書術	鎌田 浩毅
			2635 文部科学省			1159	「超」整理法	野口 悠紀雄
			2218 特別支援教育			210	統一発想法	川喜田 二郎
			2477 日本の公教育			410	取材学	加藤 秀俊
			2747 戦後教育史			136	発想法(改版)	川喜田 二郎
			2218 特別支援教育			1159	「超」整理法	野口 悠紀雄
			2635 文部科学省			1662	「超」文章法	野口 悠紀雄
			2004 2005 大学の誕生(上下)			410	取材学	加藤 秀俊
			2424 帝国大学―近代日本のエリート育成装置			1216	理科系のための英文作法	杉原 厚吉
			1249 大衆教育社会のゆくえ			624	理科系の作文技術	木下 是雄
			2006 教育と平等			2480	理科系の読書術	鎌田 浩毅

2109	知的文章と プレゼンテーション	黒木登志夫	2676	地球外生命	小林憲正
807	コミュニケーション技術	篠田義明	1566	月をめざした二人の科学者	的川泰宣
2263	オーラル・ヒストリー	御厨 貴	2560	月はすこい	佐伯和人
1636	うわさとは何か	松田美佐	2398 2340	地球の歴史(上中下)	鎌田浩毅
2706	マスメディアとは何か	稲増一憲	1948	電車の運転	宇田賢吉
2749	帝国図書館―近代日本の 「知」の物語	長尾宗典	2384	ビッグデータと人工知能	西垣 通
			2564	統計分布を知れば 世界が分かる	松下 貢
科学・技術			医学・医療		
2547	科学技術の現代史	佐藤 靖	39	医学の歴史	小川鼎三
1843	科学者という仕事	酒井邦嘉	2214	腎臓のはなし	坂井建雄
2375	科学という考え方	酒井邦嘉	2689	肝臓のはなし	竹原徹郎
2373	研究不正	黒木登志夫	2250	睡眠のはなし	内山 真
1912	数学する精神(増補版)	加藤文元	1898	健康・老化・寿命	黒木登志夫
2007	物語 数学の歴史	加藤文元	1290	がん遺伝子の発見	黒木登志夫
1690	科学史年表(増補版)	小山慶太	2314	i P S 細胞	黒木登志夫
2685	ブラックホール	二間瀬敏史			
1087	ゾウの時間 ネズミの時間	本川達雄	2408	醤油・味噌・酢はすこい	小泉武夫
2419	ウニはすこい バッタもすこい	本川達雄	2672	南極の氷に何が起きているか	杉山 慎
2677	エビはすこい カニもすこい	矢野 勲	2790	ウマは走る ヒトはコケる	本川達雄
2759	都会の鳥の生態学	唐沢孝一	2793	化石に眠るDNA	更科 功
2788	生き物の「居場所」は どう決まるか	大崎直太			
2693	カラー版クモの世界 ―糸をあやつる8本脚の狩人	浅間 茂	地域・文化・紀行		
2539	カラー版 虫や鳥が見ている世界 ―紫外線写真が明かす生存戦略	浅間 茂	285	日本人と日本文化	司馬遼太郎 ドナルド・キーン
2174	植物はすこい	塚谷裕一	605	日本庶民生活誌	宮本常一
2328	植物はすこい 七不思議篇	田中 修	799	沖繩の歴史と文化	外間守善
2491	植物のひみつ	田中 修	2298	四国遍路	鈴木康行久 肉戸裕行
2644	植物のいのち	田中 修	2711	京都の山と川	森 正人
2732	森林に何が起きているのか	吉川 賢	2721	京都の食文化	佐藤洋一郎
2572	日本の品種はすこい	盛口 満	2690	北海道を味わう	小泉武夫
1769	苔の話	竹下大学	2151	国土と日本人	大石久和
939	発 酵	秋山弘之	1810	日本の庭園	進士五十八
		小泉武夫	2633	日本の歴史的建造物	光井 渉
2625	新型コロナウイルスの科学	黒木登志夫	2744	正倉院のしごと	西川明彦
2698	変異ウイルスとの闘い ―コロナウイルスとワクチン	黒木登志夫	2791	中国農村の現在	田原史起
2646	ケアとは何か	村上靖彦	1009	トルコのもう一つの顔	小島剛一
691	胎児の世界	三木成夫	2183	アイルランド紀行	榎木伸明
2519	安楽死・尊厳死の現在	松田 純	1670	ドイツ 町から町へ	池内 紀
			1742	ひとり旅は楽し	池内 紀
			2331	カラー版 魔線紀行 ―もうひとつの鉄道旅	梯 久美子
			2472	酒は人の上に人を造らず	吉田 類
			2290	酒場詩人の流儀	吉田 類
			560	文化人類学入門(増補改訂版)	祖父江孝男
			2367	食の人類史	唐澤 太輔
			92	肉食の思想	佐藤洋一郎
			2129	カラー版 地図と愉しむ東京歴史散歩	竹内正浩
			2170	カラー版 地図と愉しむ東京歴史散歩 地形篇	竹内正浩
			2227	地図と愉しむ東京歴史散歩 地形篇	竹内正浩
			2327	カラー版 イースター島を行く ―モアイの謎と未踏の聖地	野村哲也

1869	カラー版 将棋駒の世界	増山雅人
2117	物語 食の文化	北岡正三郎
2787	カーストとは何か	鈴木真弥
596	茶の世界史(改版)	角山 栄
1930	ジャガイモの世界史	伊藤章治
2088	チョコレートの世界史	武田尚子
2361	トウガラシの世界史	山本紀夫
2229	真珠の世界史	山田篤美
1095	コーヒーが廻り 世界史が廻る	臼井隆一郎
1974	毒と薬の世界史	船山信次
2391	競馬の世界史	本村凌二
2755	モンスーンの世界	安成哲三
650	風景学入門	中村良夫

鈴木正彦 (共著) 2763
 鈴木真弥 2787
 鈴木康久 (共著) 2711
 鈴木由美 2653
 関幸彦 2655
 関口正司 2757
 瀬田貞二 563
 千田稔 2371
 曾我謙悟 2537
 園田茂人 2607
 祖父江孝男 560
 曾村保信 721

タ行

高尾賢一郎 2670
 高木久史 2389
 高階秀爾 118, 385, 386
 高田博行 2272
 高橋崇 804, 1041, 1622
 高橋正衛 76
 高橋正男 1931
 高橋睦郎 1891
 高良倉吉 (編著) 2418
 瀧井一博 2051
 滝川幸司 2559
 瀧口美香 2718
 瀧澤弘和 2501
 瀧浪貞子 2457, 2563
 詫摩佳代 2590
 武井彩佳 2664
 竹内正浩 2129, 2170, 2227
 竹内洋 1704, 1820
 竹下大学 2572
 竹田いさみ 2566, (共著) 2741
 武田龍夫 1131
 武田徹 2609
 武田尚子 2088
 竹中亨 2490
 竹中治堅 1845, 2620
 竹原徹郎 2689
 武部健一 2321
 多湖淳 2574

田澤耕 1564
 田尻祐一郎 2097
 橘木俊詔 (共著) 2200
 田中修 2174, 2328, 2491, 2644
 田中康二 2276
 田中拓道 2621
 田中将人 (共著) 2674
 谷口克広 1625, 1782, 1907
 谷口研起 1213
 田原史起 2791
 千々和泰明 2652, 2697
 中公新書編集部 (編) 2500
 津堅信之 2694
 塚谷裕一 2259
 柘植雅義 2218
 辻陽 2558
 對馬達雄 2349, 2610
 筒井清忠 2471
 筒井淳也 2322
 土田宏成 2762
 津止正敏 2632
 恒川恵市 2734
 角山栄 596
 津村啓介 (共著) 2101
 寺尾隆吉 2404
 寺澤盾 1971, 2407
 寺田隆信 1353
 寺西重郎 2502
 堂目卓生 1936
 遠山美都男 1293, 2699
 徳川宗賢 (編) 533
 榎木伸明 2183
 富田武 2411
 富永健一 1242
 富谷至 1695
 富山和彦 (共著) 2333
 友原章典 2575
 外山滋比古 433, 1702
 虎尾達哉 2636
 鳥越憲三郎 1085
 鳥原学 2247, 2248

ナ行

永井晋 2336
 長尾宗典 2749
 中北浩爾 2428, 2695
 中澤俊輔 2171
 中澤涉 2477
 中島隆博 2686
 中谷功治 2595
 永野隆行 (共著) 2741
 中西進 824
 中西寛 1686
 中西嘉宏 2629
 中村彰彦 1227
 中村圭志 2293, 2459, 2668
 中村隆文 2696
 中村良夫 650
 中元崇智 2618
 永吉希久子 2580
 成田龍一 2150
 肉戸裕行 (共著) 2711
 西垣通 2384
 西川明彦 2744
 西野智彦 2541
 西村義樹 (共著) 2220
 西村賀子 1798
 仁藤敦史 2648
 日本再建イニシアティブ 2233, 2450
 沼野雄司 2630
 根本敬 2249
 野内良三 2056
 野口雅弘 2594
 野口悠紀雄 1159, 1662
 野崎昭弘 448
 野中郁次郎 1272, (編著) 2215
 野村啓介 2529
 野村哲也 2327
 野矢茂樹 1862, (共著) 2220

ハ行

ハイン, バステイアン 2795

芳賀徹 (共編) 832, 1656
 墓田桂 2394
 萩原淳 2657
 長谷川權 1729
 長谷川修一 2205
 長谷川宏 2495
 長谷川政美 2736
 秦郁彦 795
 秦正樹 2722
 波多野諠余夫 (共著) 318,
 (共著) 599, (共著) 907
 波多野澄雄 2624, 2733
 波多野裕造 1215
 服部英雄 2461
 服部正也 290
 服部龍二 2110, 2351, 2512
 馬部隆弘 2584
 濱本真輔 2691
 林健太郎 27
 林芳正 (共著) 2101
 早野透 2186
 原田泰 2307
 春木育美 2602
 鳩澤歩 2583
 東大作 2576
 日引聡 (共著) 2751
 平川新 2481
 平田陽一郎 2769
 平野敬一 275
 平野博之 2731
 廣野由美子 1790, 2641
 深田麻里亜 2614
 福井憲彦 2658
 福島章 666
 福島克彦 2622
 福永光司 36
 福永文夫 1976, 2296
 福岡良明 2720
 藤尾慎一郎 2654
 藤沢道郎 1045, 1771
 藤田一照 (共著) 2365
 藤田達生 2552, 2688

柿崎一郎	1913	北野 充	2717	小林慶一郎	2786	佐藤卓己	1759
柿沼陽平	2669	北村一真	2637, 2797	小林憲正	2676	佐藤 猛	2582
梯 久美子	2331	木下晃雄	624	小林 標	1833	佐藤千登勢	2626
鹿毛雅治	2680	木下長宏	2292	小林登志子	1818, (共著)1977, 2323, 2523, 2613, 2727	佐藤俊樹	1537
蔭山 宏	2597	君塚直隆	1916, 2318, 2319, 2578	小林朋則	(訳)2453	佐藤信之	2640
笠原英彦	1617	金誠(キム・ソン)	2600	小林道彦	2777	佐藤靖	2547
梶井厚志	1658	金両基(キム・ヤンギ)	925	子安美知子	416	佐藤洋一郎	2367, 2579, 2721
梶谷 懐	2506	木村 幹	1959, 2682	小山慶太	1690	佐藤淑子	1984
柏原宏紀	2483	木村 敏	674	小山聡子	2416, 2619	佐藤雄基	2761
春日武彦	2772	木村光彦	2482	小山俊樹	2587	佐橋 亮	2650
加地伸行	989	木本好信	2725	近藤正規	2770	鯖田豊之	92
勝又 基	2671	キーン, ドナルド	(共著)285	今野 元	2666	更科 功	2793
加藤聖文	2015	釘貫 亨	2740			猿谷 要	1042
加藤秀治郎	1687	釘原直樹	2238			澤井康佑	2628, 2684
加藤 徹	1812	草薙奈津子	2513, 2514			部 勇造	2496
加藤 秀俊	410, 2484	楠木 新	2431, 2486, 2577, 2704	佐伯和人	2560	品川哲彦	2598
加藤文元	1912, 2007	工藤重矩	2156	西條 勉	2095	篠川 賢	2673
加藤幹郎	1854	熊倉 潤	2700	齋藤純一	(共著)2674	篠田謙一	2683
金澤裕之	2750	熊本史雄	2638	齋藤慎一	2675	篠田義明	807
蟹江憲史	2604	倉地克直	2376	斎藤兆史	1533, 1701, 2738	芝 健介	1943
金子 拓	2785	倉本一宏	2353, 2464, 2573, 2705	佐伯順子	853	司馬遼太郎	(共著)285
兼田麗子	2196	黒井千次	2053, 2289, 2548	佐伯彰一	(共編)832	澁谷智子	2488
樺山紘一	(共著)608, (共著)613	黒川祐次	1655	酒井邦嘉	1647, 1843, 2375	志摩園子	1758
鎌田浩毅	2398, 2399, 2400, 2480	黒木登志夫	1290, 1898, 2109, 2314, 2373, 2625, 2698	坂井孝一	2517	島 泰三	1709, 1821
神島裕子	2505	黒田龍之助	2363	坂井建雄	2214	島田周平	2545
亀田俊和	2443	桑原武夫	(編)1	境家史郎	2752	清水克行	2058
唐沢孝一	2759	源河 亨	2713	坂牛 卓	2764	清水真人	2338
唐澤太輔	2315	小泉武夫	939, 2408, 2690	坂野 徹	2709	清水唯一朗	2212, 2660
荻谷剛彦	1249, 2006	神坂次郎	740	桜井英治	2139	下條信輔	1324
河合祥一郎	2382	高坂正堯	108	櫻井義秀	2746	白石 隆	1551
河合信晴	2615	河内春人	2470	櫻澤 誠	2342	白川 静	220, 500
河合隼雄	481	河野稠果	1910	桜田美津夫	2434	進士五十八	1810
河合秀和	530	小国喜弘	2747	迫田さやか	(共著)2200, (共著)2737	新城道彦	2309
河上麻由子	2533	呉座勇一	2401	佐々木健一	1741, 2072	末光隆志	(共著)2763
川喜田二郎	136, 210	小島剛一	1009	佐々木 克	455	杉原厚吉	1216
川島浩平	2163	小島道一	2489	佐々木雄一	2509, 2719	杉山 慎	2672
川田 稔	2144	児島 襄	84, 90, 244, 248	笹原宏之	2430	鈴木静夫	1367
川名晋史	2789	小島庸平	2634	指 昭博	2561	鈴木真太郎	2623
川平敏文	2585	小関 隆	2643	薩摩秀登	1838	鈴木 透	2479, 2540
貴志俊彦	2703	小谷 賢	2710	佐藤彰一	2253,	鈴木紀之	2433
北岡正三郎	2117	後藤健太	2571		2409, 2467, 2516, 2567	鈴木 均	2778
北岡伸一	828, 881, 1899			佐藤信弥	2396	鈴木正崇	2310

サ 行

中公新書 著訳編者名索引

◆数字は新書番号

ア 行	
会田大輔	2667
会田雄次	3
青木栄一	2635
青野利彦	2781, 2782
碧海純一	125
青柳いづみこ	2395
阿川尚之	819, 1574
秋田喜美	(共著)2756
秋田茂	2167
秋山弘之	1769
秋吉貴雄	2439
麻田雅文	2393
浅野和生	2753
浅間茂	2539, 2693
安達宏昭	2707
安達正勝	1963, 2286
阿辻哲次	1755, 2213
阿部謹也	518, (共著)608, (共著)613, 1420
阿部拓児	2661
天野郁夫	2004, 2005, 2424
天野忠幸	2665
網野善彦	(共著)608, (共著)613, 1503
アームストロング, カレン	2453
有村俊秀	(共著)2751
有賀夏紀	1664, 1665
安西祐一郎	757
安野光雅	1827
飯尾潤	1905
飯倉章	2368
飯島涉	2034
飯田泰之	2784
飯田洋介	2304
五十嵐彰	(共著)2737

池内紀	1670, 1742
池内敏	2359
池田清	632
池田学	2061
池村千秋	(訳)2715
石井進	(共著)608, (共著)613
石井宏	(訳)1103
石井幸孝	2714
石川明人	2360
石川九楊	1220
石川理夫	2494
石川美子	2339
石野裕子	2456
石濱裕美子	2748
石原俊	2525
石原比伊呂	2601
石光真人	(編著)252
磯田道史	2189, 2295, 2455, 2729
依田高典	2041
伊高浩昭	2330
板橋拓己	2266, (訳)2313
市大樹	2168
市川伸一	1345
一坂太郎	1754, 2617
井出穰治	2420
伊藤亜聖	2612
伊藤潔	1144
伊藤邦武	2187
伊藤聡	2158
伊藤章治	1930
伊藤隆	2317
伊藤俊一	2662
伊藤比呂美	(共著)2365
伊藤之雄	2379, 2550, 2551
稲垣佳世子	(共著)318, (共著)599, (共著)907
稲葉陽二	2138

稲増一憲	2706
井上幸治	161
井上栄	1877
井上寿一	2192
井上廣美	(訳)2440
猪木武徳	2000, 2185, 2659
今井宏平	2415
今井むつみ	(共著)2756
今谷明	978
入江昭	113
岩崎育夫	2208
岩田慎平	2678
岩田文昭	2765
岩根園和	1635, 1750
ヴァインケ, アンネッテ	2313
上市秀雄	2692
植木雅俊	2135, 2616
上杉忍	2209
上野誠	2302, 2608
白井勝美	1532
白井隆一郎	1095
宇田賢吉	1948
内井惣七	1829
内山真	2250
宇野重規	2378, 2773
海野敏	2745
梅原猛	134
江上波夫	147
江川紹子	(聞き手)2332
榎本泰子	2030
榎村寛之	2452, 2783
遠藤慶太	2362
遠藤乾	2405
及川琢英	2754
笈川博一	2067
老川慶喜	2269, 2358, 2530, 2796
大石慎三郎	476
大石奈々	2794
大石久和	2151
大石学	1773
大垣貴志郎	1935
大久保喬樹	1696

大崎直太	2788
大竹文雄	1824, 2045, 2447, 2724
大谷正	2270
大名力	2775
大沼保昭	2332
大東和重	2581
碧海寿広	2499
大山晶	(訳)2329
大山正	1169
大和田敢太	2475
岡崎久彦	700
小笠原弘幸	2518, 2774
岡田明子	(共著)1977
岡田暁生	1585, 1816, 2009, 2606
岡田温司	1781, 2188, 2369, 2708
岡田英弘	482
岡本真一郎	2202, 2386
岡本裕一朗	2300
岡本隆司	2392, 2780
岡本亮輔	2306, 2639
岡山裕	2611
小川軽舟	2412
小川剛生	2179, 2463
小川鼎三	39
小川真如	2701
小川原正道	1927
小倉貞男	1372
小此木啓吾	557
長有紀枝	2195
刑部芳則	2569
小塩真司	2603
小田切進	352
小田部雄次	1836
落合淳思	2303, 2534
小野善康	2679
小野寺史郎	2437
小原嘉明	2414, 2656
小和田哲男	784, 2084

カ 行

貝塚茂樹	12
加賀乙彦	565

物語 スペインの歴史 人物篇 (岩根閑和)	1635 1750
物語 タイの歴史 (柿崎一郎)	1913
物語 チェコの歴史 (薩摩秀登)	1838
物語 チベットの歴史 (石濱裕美子)	2748
物語 中国の歴史 (寺田隆信)	1353
物語 中東の歴史 (牟田口義郎)	1594
物語 哲学の歴史 (伊藤邦武)	2187
物語 ドイツの歴史 (阿部謹也)	1420
物語 ナイジェリアの歴史 (島田周平)	2545
物語 バリの歴史 (福井憲彦)	2658
物語 バルト三国の歴史 (志摩園子)	1758
物語 東ドイツの歴史 (河合信晴)	2615
物語 ビルマの歴史 (根本敬)	2249
物語 フィリピンの歴史 (鈴木静夫)	1367
物語 フィンランドの歴史 (石野裕子)	2456
物語 フランス革命 (安達正勝)	1963
物語 ベルギーの歴史 (松尾秀哉)	2279
物語 北欧の歴史 (武田龍夫)	1131
物語 ポーランドの歴史 (渡辺克義)	2445
物語 メキシコの歴史 (大垣貴志郎)	1935
物語 ラテン・アメリカの歴史 (増田義郎)	1437
もののけの日本史 (小山聡子)	2619
モンスーンの世界 (安成哲三)	2755
問題解決の心理学 (安西祐一郎)	757
文部科学省 (青木栄一)	2635
ヤ 行	
安田講堂1968-1969 (鳥泰三)	1821
山県有朋 (小林道彦)	2777
ヤングケアラー—介護を担う子ども	

も・若者の現実 (澁谷智子)	2488
遊女の文化史 (佐伯順子)	853
ユーモアのレッスン (外山滋比古)	1702
四大公害病 (政野淳子)	2237

ラ 行	
ラテンアメリカ文学入門 (寺尾隆吉)	2404
ラテン語の世界 (小林標)	1833
カラー版 ラファエロールネサンス の天才芸術家 (深田麻里亜)	2614
理科系の作文技術 (木下是雄)	624
理科系のための英文作法 (杉原厚吉)	1216
理科系の読書術 (鎌田浩毅)	2480
リサイクルと世界経済 (小島道一)	2489
「利他」の生物学 (鈴木正彦, 末光隆志)	2763
六国史—日本書紀に始まる古代の 「正史」 (遠藤慶太)	2362
リバタリアニズム (渡辺靖)	2522
リヒトホーフエン—撃墜王とその一 族 (森貴史)	2681
リベラルとは何か (田中拓道)	2621
流出する日本人 (大石奈々)	2794
倫理学入門 (品川哲彦)	2598
流浪の戦国貴族 近衛前久 (谷口研語)	1213
ルワンダ中央銀行総裁日記 (増補版) (服部正也)	290
冷戦史 (青野利彦) 上	2781, 下 2782
歴史修正主義 (武井彩佳)	2664
歴史探究のヨーロッパ (佐藤彰一)	2567
歴史と私 (伊藤隆)	2317
「歴史認識」とは何か (大沼保昭著, 江川紹子聞き手)	2332
歴史の愉しみ方 (磯田道史)	2189
歴代天皇総覧 (増補版) (笠原英彦)	1617

ロヒンギャ危機—「民族浄化」の真 相 (中西嘉宏)	2629
ロラン・バルト (石川美子)	2339
ワ 行	
ワイマル共和国 (林健太郎)	27

倭国 (岡田英弘)	482
倭の五王 (河内春人)	2470

バロック美術 (宮下規久朗)	2776	(倉本一宏)	2464
バルカン 「ヨーロッパの火薬庫」 の歴史 (マーク・マゾワー著、井上廣 美訳)	2440	藤原仲麻呂 (仁藤敦史)	2648
バレエの世界史 (海野敏)	2745	仏像と日本人 (碧海寿広)	2499
ハワイの歴史と文化 (矢口祐人)	1644	仏教とは何か (山折哲雄)	1130
犯罪心理学入門 (福島章)	666	仏教、本当の教え (植木雅俊)	2135
藩とは何か (藤田達生)	2552	不平等社会日本 (佐藤俊樹)	1537
ハンナ・アーレント (矢野久美子)	2257	ブラックホール (二間瀬敏史)	2685
美学への招待 (増補版) (佐々木健一)	1741	フランクフルト学派 (細見和之)	2288
ビザンツ帝国 (中谷功治)	2595	フランクリン・ローズヴェルト (佐藤千登勢)	2626
カラー版 美術の愉しみ方 (山梨俊夫)	2771	フランス現代思想史 (岡本裕一朗)	2300
ビスマルク (飯田洋介)	2304	不倫一実証分析が示す全貌 (五十嵐彰、迫田さやか)	2737
ビッグデータと人工知能 (西垣通)	2384	文化人類学入門 (増補改訂版) (祖父江孝男)	560
人はいかに学ぶか (稲垣佳世子、波多野諠余夫)	907	文化と外交 (渡辺靖)	2133
人はなぜ集団になると怠けるのか (釘原直樹)	2238	文明の誕生 (小林登志子)	2323
ヒトラー演説 (高田博行)	2272	平氏一公家の盛衰、武家の興亡 (倉本一宏)	2705
ヒトラーに抵抗した人々 (對馬達雄)	2349	平成金融史 (西野智彦)	2541
ヒトラーの脱走兵 (對馬達雄)	2610	米中対立 (佐橋亮)	2650
ひとり旅は楽し (池内紀)	1742	平和主義とは何か (松元雅和)	2207
美の構成学 (三井秀樹)	1296	ベーシック・インカム (原田泰)	2307
批評理論入門 (廣野由美子)	1790	ベトナム戦争 (松岡完)	1596
百年戦争 (佐藤猛)	2582	変異ウイルスとの闘いーコロナ治療 薬とワクチン (黒木登志夫)	2698
平沼騏一郎 (萩原淳)	2657	北条義時 (岩田慎平)	2678
ヒンドゥー教ーインドの聖と俗 (森本達雄)	1707	法と社会 (碧海純一)	125
フィリピンー急成長する若き「大 国」 (井出穰治)	2420	北朝の天皇 (石原比伊呂)	2601
フィレンツェ (高階秀爾)	118	法華経とは何か (植木雅俊)	2616
風景学入門 (中村良夫)	650	保科正之 (中村彰彦)	1227
夫婦格差社会 (橋木俊詔、迫田さやか)	2200	保守主義とは何か (宇野重規)	2378
部首のはなし (阿辻哲次)	1755	戊辰戦争 (佐々木克)	455
藤原氏ー権力中枢の一族		北海道を味わう (小泉武夫)	2690
		ポピュリズムとは何か (水島治郎)	2410
		ホロコースト (芝健介)	1943
		本能一遺伝子に刻まれた驚異の知恵 (小原嘉明)	2656

マ 行

マグダラのマリア (岡田温司)	1781
マザー・グースの唄 (平野敬一)	275
マスメディアとは何か (稲増一憲)	2706
マックス・ウェーバー (野口雅弘)	2594
マリナー・アントワネット (安達正勝)	2286
丸山眞男の時代 (竹内洋)	1820
万葉集講義 (上野誠)	2608
三井大坂両替店 (萬代悠)	2792
南方熊楠 (唐澤太輔)	2315
源頼朝 (元木泰雄)	2526
源頼政と木曾義仲 (永井晋)	2336
三好一族ー戦国最初の「天下人」 (天野忠幸)	2665
ミュージカルの歴史 (宮本直美)	2702
ミュンヘンの小学生 (子安美知子)	416
民衆暴力ー揆・暴動・虐殺の日本 近代 (藤野裕子)	2605
民主党権 失敗の検証 (日本再建イニシアティブ)	2233
無意識の構造 (改版) (河合隼雄)	481
無気力の心理学 (改版) (波多野諠余夫、稲垣佳世子)	599
カラー版 虫や鳥が見ている世界 ー紫外線写真が明かす生存戦略 (浅間茂)	2539
陸奥宗光 (佐々木雄一)	2509
室町の王権 (今谷明)	978
明治の技術官僚 (柏原宏紀)	2483
明治六年政変 (毛利敏彦)	561
蒙古襲来と神風 (服部英雄)	2461
モチベーションの心理学 (鹿毛雅治)	2680
モーツァルト (H・C・ロビンズ・ラン ドン著、石井宏訳)	1103
本居宣長 (田中康二)	2276

物語 アイルランドの歴史 (波多野裕造)	1215
物語 アメリカの歴史 (猿谷要)	1042
物語 アラビアの歴史 (葦勇造)	2496
物語 イギリスの歴史 (君塚直隆) 上 2318, 下 2319	
物語 イスタンブールの歴史 (宮下遼)	2663
物語 イスラエルの歴史 (高橋正男)	1931
物語 イタリアの歴史 (藤沢道郎)	1045
物語 イタリアの歴史 II (藤沢道郎)	1771
物語 遺伝学の歴史 (平野博之)	2731
物語 ヴェトナムの歴史 (小倉貞男)	1372
物語 ウクライナの歴史 (黒川祐次)	1655
物語 エルサレムの歴史 (爰川博一)	2067
物語 オーストラリアの歴史 (新版) (竹田いさみ、永野隆行)	2741
物語 オーストリアの歴史 (山之内克子)	2546
物語 オランダの歴史 (桜田美津夫)	2434
物語 カタルーニャの歴史 (増補版) (田澤耕)	1564
物語 韓国史 (金両基)	925
物語 京都の歴史 (脇田修、脇田晴子)	1928
物語 近現代ギリシャの歴史 (村田奈々子)	2152
物語 江南の歴史 (岡本隆司)	2780
物語 食の文化 (北岡正三郎)	2117
物語 シンガポールの歴史 (岩崎育夫)	2208
物語 数学の歴史 (加藤文元)	2007
物語 スコットランドの歴史 (中村隆文)	2696
物語 スペインの歴史 (岩根囿和)	

定年準備 (楠木新)	2486
デジタル化する新興国 (伊藤聖聖)	
	2612
鉄道と政治 (佐藤信之)	2640
鉄道のドイツ史 (鳩澤歩)	2583
天災から日本史を読みなおす (磯田道史)	2295
天使とは何か (岡田温司)	2369
電車の運転 (宇田賢吉)	1948
天正伊賀の乱 (和田裕弘)	2645
転身力 (楠木新)	2704
天誅組の変 (舟久保藍)	2739
天皇家の恋愛 (森暢平)	2687
ドイツ 町から町へ (池内紀)	1670
ドイツ・ナショナリズム (今野元)	2666
	2655
刀伊の入侵 (関幸彦)	2655
唐一東ユーラシアの大帝国 (森部豊)	2742
統一教会 (櫻井義秀)	2746
トウガラシの世界史 (山本紀夫)	2361
東京裁判 (児島襄) 上244, 下248	
東京復興ならず (吉見俊哉)	2649
統計分布を知れば世界が分かる (松下貢)	2564
道路の日本史 (武部健一)	2321
都会の鳥の生態学 (唐沢孝一)	2759
徳川家康の決断 (本多隆成)	2723
毒と薬の世界史 (船山信次)	1974
特別支援教育 (栢植雅義)	2218
斗南藩一「朝敵」会津藩士たちの苦 難と再起 (星亮一)	2498
豊臣秀吉 (小和田哲男)	784
トラクターの世界史 (藤原辰史)	2451
トルコ現代史 (今井宏平)	2415
トルコのもう一つの顔 (小島剛一)	1009
ナ 行	
内戦と平和 (東大作)	2576

長篠合戦 (金子拓)	2785
中曽根康弘 (服部龍二)	2351
中先代の乱 (鈴木由美)	2653
謎の漢字 (笹原宏之)	2430
謎の平安前期一桓武天皇から『源氏 物語』誕生までの200年 (榎村寛之)	2783
ナチスの戦争1918-1949 (リチャード・ベッセル著, 大山晶訳)	2329
ナポレオン四代 (野村啓介)	2529
奈良時代 (木本好信)	2725
南極の氷に何が起きているか (杉山慎)	2672
南京事件 (増補版) (秦郁彦)	795
ナチ親衛隊 (SS) (バステリアン・ハイ ン著, 若林美佐知訳)	2795
南北朝時代一五胡十六国から隋の統 一まで (会田大輔)	2667
難民問題 (墓田桂)	2394
肉食の思想 (鯖田豊之)	92
ニーチェーツァラトウストラの謎 (村井則夫)	1939
日米地位協定 (山本章子)	2543
日蓮 (松尾剛次)	2779
日露戦争史 (横手慎二)	1792
日清戦争 (大谷正)	2270
日中国交正常化 (服部龍二)	2110
新版 日中戦争 (臼井勝美)	1532
二・二六事件 (増補改版) (高橋正衛)	76
日本アニメ史 (津堅信之)	2694
日本インテリジェンス史 (小谷賢)	2710
日本型資本主義 (寺西重郎)	2502
カラー版 日本画の歴史 近代篇 (草薙奈津子)	2513
カラー版 日本画の歴史 現代篇 (草薙奈津子)	2514
日本共産党 (中北浩爾)	2695
日本近現代史講義 (山内昌之, 細谷雄一編著)	2554

日本近代文学入門 (堀啓子)	2556
日本軍兵士ーアジア・太平洋戦争の 現実 (吉田裕)	2465
日本語作文術 (野内良三)	2056
日本語の個性 (改版) (外山滋比古)	433
日本語の発音はどう変わってきたか (釘貫亨)	2740
日本語を翻訳するということ (牧野成一)	2493
日本史の内幕 (磯田道史)	2455
日本史の論点 (中公新書編集部編)	2500
日本写真史 (鳥原学) 上2247, 下2248	
日本書紀の謎を解く (森博達)	1502
日本史を暴く (磯田道史)	2729
日本人と日本文化 (司馬遼太郎, ドナルド・キーン)	285
日本人にとって聖なるものとは何か (上野誠)	2302
日本神判史 (清水克行)	2058
日本占領史1945-1952 (福永文夫)	2296
日本の感性 (佐々木健一)	2072
日本鉄道史 昭和戦後・平成篇 (老川慶喜)	2530
日本鉄道史 大正・昭和戦前篇 (老川慶喜)	2358
日本鉄道史 幕末・明治篇 (老川慶喜)	2269
日本統治下の朝鮮 (木村光彦)	2482
日本の外交 (入江昭)	113
日本の経済政策 (小林慶一郎)	2786
日本の公教育 (中澤渉)	2477
日本の国会議員 (濱本真輔)	2691
日本の子どもと自尊心 (佐藤淑子)	1984
日本のコメ問題 (小川真如)	2701
日本の選挙 (加藤秀治郎)	1687
日本の先史時代 (藤尾慎一郎)	2654
日本の地方議会 (辻陽)	2558
日本の地方政府 (曾我謙悟)	2537

日本の庭園 (進士五十八)	1810
日本の統治構造 (飯尾潤)	1905
日本の品種はすごい (竹下大学)	2572
日本の方言地図 (徳川宗賢編)	533
日本の名作 (小田切進)	352
日本の名著 (改版) (桑原武夫編)	1
日本の歴史的建造物 (光井渉)	2633
日本の歴史問題 (改題新版) (波多野澄雄)	2733
日本文化論の系譜 (大久保喬樹)	1696
入門 開発経済学 (山形辰史)	2743
入門 環境経済学 (新版) (有村俊秀, 日引聡)	2751
入門 公共政策学 (秋吉貴雄)	2439
入門! 進化生物学 (小原嘉明)	2414
入門 人間の安全保障 (増補版) (長有紀枝)	2195
入門! 論理学 (野矢茂樹)	1862
ニュルンベルク裁判 (アンネッテ・ ヴァインケ著, 板橋拓己訳)	2313
認知症 (池田学)	2061
脳の意識 機械の意識 (渡辺正峰)	2460
信長軍の司令官 (谷口克広)	1782
信長と消えた家臣たち (谷口克広)	1907

ハ 行

俳句的生活 (長谷川耀)	1729
俳句と暮らす (小川軽舟)	2412
カラー版 麻線紀行ーもうひとつの 鉄道旅 (梯久美子)	2331
白人ナショナリズム (渡辺靖)	2591
幕府海軍 (金澤裕之)	2750
幕末歴史散歩 東京篇 (一坂太郎)	1754
バチカン近現代史 (松本佐保)	2221
発酵 (小泉武夫)	939
発想法 (改版) (川喜田二郎)	136
原敬 (清水唯一朗)	2660

ジョン・ロールズ	
(齋藤純一, 田中将人)	2674
新型コロナの科学 (黒木登志夫)	2625
新疆ウイグル自治区 (熊倉潤)	2700
人口学への招待 (河野禎果)	1910
人口減少時代の都市 (諸富徹)	2473
人口減少時代の土地問題	
(吉原祥子)	2446
人口減少と社会保障 (山崎史郎)	2454
新興国は世界を変えるか	
(恒川恵市)	2734
人口と日本経済 (吉川洋)	2388
人種とスポーツ (川島浩平)	2163
真珠の世界史 (山田篤美)	2229
壬申の乱 (遠山美都男)	1293
新選組 (大石学)	1773
腎臓のはなし (坂井建雄)	2214
信長公記一戦国覇者の一級史料	
(和田裕弘)	2503
神道とは何か (伊藤聡)	2158
森林に何が起きているのか	
(吉川賢)	2732
人類と病 (詫摩佳代)	2590
人類の起源 (篠田謙一)	2683
隋一「流星王朝」の光芒	
(平田陽一郎)	2769
睡眠のはなし (内山真)	2250
数学する精神 (増補版) (加藤文元)	1912
菅原道真 (滝川幸司)	2559
カラー版 スキマの植物図鑑	
(塚谷裕一)	2259
すごい進化 (鈴木紀之)	2433
スターリン (横手慎二)	2274
スポーツ国家アメリカ (鈴木透)	2479
政界再編 (山本健太郎)	2651
性格とは何か (小塩真司)	2603
正義とは何か (神島裕子)	2505
聖書考古学 (長谷川修一)	2205

聖書、コーラン、仏典 (中村圭志)	2459
西太后 (加藤徹)	1812
聖地巡礼 (岡本亮輔)	2306
西南戦争 (小川原正道)	1927
生物多様性 (本川達雄)	2305
政友会と民政党 (井上寿一)	2192
西洋音楽史 (岡田暁生)	1816
宣教のヨーロッパ (佐藤彰一)	2516
戦後教育史 (小国喜弘)	2747
戦国日本と大航海時代 (平川新)	2481
戦国日本の軍事革命 (藤田達生)	2688
戦国武将の手紙を読む (小和田哲男)	2084
戦後世界経済史 (猪木武徳)	2000
戦後日本政治史 (境家史郎)	2752
戦後日本の安全保障 (千々和泰明)	2697
戦後民主主義 (山本昭宏)	2627
戦前日本のポピュリズム	
(筒井清忠)	2471
戦争とは何か (多湖淳)	2574
戦争はいかに終結したか	
(千々和泰明)	2652
禅の教室 (藤田一照, 伊藤比呂美)	2365
戦略的思考とは何か (改版)	
(岡崎久彦)	700
戦略的思考の技術 (梶井厚志)	1658
戦略論の名著 (野中郁次郎編著)	2215
荘子 (福永光司)	36
ゾウの時間 ネズミの時間	
(本川達雄)	1087
贈与の歴史学 (桜井英治)	2139
蘇我氏一古代豪族の興亡	
(倉本一宏)	2353
続・発想法 (川喜田二郎)	210
ソーシャル・キャピタル入門	
(稲葉陽二)	2138
孫基溥一帝国日本の朝鮮人メダリス	

ト (金誠)	2600
孫子一「兵法の真髓」を読む	
(渡邊義浩)	2728
タ 行	
第一次世界大戦史 (飯倉章)	2368
大学の誕生 (天野郁夫)	
上 2004, 下 2005	
新版 大化改新 (遠山美都男)	2699
代議制民主主義 (待鳥聡史)	2347
胎児の世界 (三木成夫)	691
大衆教育社会のゆくえ (荻谷剛彦)	1249
対象喪失 (小此木啓吾)	557
大東亜共栄圏 (安達宏昭)	2707
「大日本帝国」崩壊 (加藤聖文)	2015
太平洋戦争 (児島襄) 上 84, 下 90	
台湾 (伊藤潔)	1144
台湾の歴史と文化 (大東和重)	2581
竹島一もうひとつの日韓関係史	
(池内敏)	2359
田中角栄 (早野透)	2186
田中耕太郎一闘う司法の確立者、世	
界法の探究者 (牧原出)	2726
治安維持法 (中澤俊輔)	2171
チェ・ゲバラ (伊高浩昭)	2330
地球外生命 (小林憲正)	2676
地球の歴史 (鎌田浩毅)	
上 2398, 中 2399, 下 2400	
カラー版 地図と愉しむ東京歴史散	
歩 (竹内正浩)	2129
カラー版 地図と愉しむ東京歴史散	
歩 地形篇 (竹内正浩)	2227
カラー版 地図と愉しむ東京歴史散	
歩 都心の謎篇 (竹内正浩)	2170
地政学入門 (改版) (曾村保信)	721
秩父事件 (井上幸治)	161
知的好奇心	
(波多野諄余夫, 稲垣佳世子)	318
知的文章とプレゼンテーション	
(黒木登志夫)	2109
地方消滅 (増田寛也編著)	2282

地方消滅 創生戦略篇	
(増田寛也, 富山和彦)	2333
チャーチル (増補版) (河合秀和)	530
茶の世界史 (改版) (角山栄)	596
中学英語「再」入門 (澤井康佑)	2684
中国経済講義 (梶谷懐)	2506
中国哲学史 (中島隆博)	2686
中国ナショナリズム (小野寺史郎)	2437
中国農村の現在 (田原史起)	2791
中国の行動原理 (益尾知佐子)	2568
中国の論理 (岡本隆司)	2392
中世都市鎌倉を歩く (松尾剛次)	1392
中世の風景 (阿部謹也, 網野善彦,	
石井進, 樺山紘一) 上 608, 下 613	
「超」整理法 (野口悠紀雄)	1159
朝鮮王公族一帝国日本の準皇族	
(新城道彦)	2309
「超」文章法 (野口悠紀雄)	1662
諜報国家ロシア (保坂三四郎)	2760
「徴用工」問題とは何か	
(波多野澄雄)	2624
チョコレートの世界史 (武田尚子)	2088
通貨の日本史 (高木久史)	2389
月はすごい (佐伯和人)	2560
月をめざした二人の科学者	
(的川泰宣)	1566
堤康次郎 (老川慶喜)	2796
椿井文書一日本最大級の偽文書	
(馬部隆弘)	2584
徒然草 (川平敏文)	2585
帝国大学一近代日本のエリート育成	
装置 (天野郁夫)	2424
帝国図書館一近代日本の「知」の物	
語 (長尾宗典)	2749
帝国日本のプロバガンダ (貴志俊彦)	2703
定年後 (楠木新)	2431
定年後のお金 (楠木新)	2577

言語の脳科学 (酒井邦嘉)	1647
言語の本質 (今井むつみ, 秋田喜美)	2756
源氏物語の結婚 (工藤重矩)	2156
現代音楽史 (沼野雄司)	2630
現代経済学 (瀧澤弘和)	2501
現代日本外交史 (宮城大蔵)	2402
現代日本の地政学 (日本再建イニシアティブ)	2450
現代日本を読む—ノンフィクション の名作・問題作 (武田徹)	2609
現代美術史 (山本浩貴)	2562
現代民主主義 (山本圭)	2631
剣と清貧のヨーロッパ (佐藤彰一)	2467
元老—近代日本の真の指導者たち (伊藤之雄)	2379
元禄御畳奉行の日記 (神坂次郎)	740
言論統制 (佐藤卓己)	1759
五・一五事件 (小山俊樹)	2587
後悔を活かす心理学 (上市秀雄)	2692
高坂正堯—戦後日本と現実主義 (服部龍二)	2512
高地文明—「もう一つの四大文明」 の発見 (山本紀夫)	2647
行動経済学 (依田高典)	2041
行動経済学の処方箋 (大竹文雄)	2724
幸福とは何か (長谷川宏)	2495
光明皇后 (瀧浪貞子)	2457
「国語」の近代史 (安田敏朗)	1875
国際政治 (改版) (高坂正堯)	108
国際政治とは何か (中西寛)	1686
国際秩序 (細谷雄一)	2190
国鉄—「日本最大の企業」の栄光と 崩壊 (石井幸孝)	2714
国土と日本人 (大石久和)	2151
国連の政治力学 (北岡伸一)	1899
苔の話 (秋山弘之)	1769
『古事記』神話の謎を解く (西條勉)	2095

御成敗式目 (佐藤雄基)	2761
古閑裕而—流行作曲家と激動の昭和 (刑部芳則)	2569
カラー版 古代飛鳥を歩く (千田稔)	2371
古代オリエント全史 (小林登志子)	2727
古代オリエントの神々 (小林登志子)	2523
古代中国の24時間 (柿沼陽平)	2669
古代朝鮮と倭族 (鳥越憲三郎)	1085
古代日中関係史 (河上麻由子)	2533
古代日本の官僚 (虎尾達哉)	2636
古代マヤ文明 (鈴木真太郎)	2623
古代メソポタミア全史 (小林登志子)	2613
国会議員の仕事 (林芳正, 津村啓介)	2101
カラー版 ゴッホ〈自画像〉紀行 (木下長宏)	2292
後藤新平 (北岡伸一)	881
コーヒーが廻り 世界史が廻る (白井隆一郎)	1095
コミュニケーション技術 (篠田義明)	807
コミュニティデザインの時代 (山崎亮)	2184
米の日本史 (佐藤洋一郎)	2579
古文書返却の旅 (網野善彦)	1503
コロナ危機の政治 (竹中治堅)	2620

サ 行

災害の日本近代史 (土田宏成)	2762
斎宮—伊勢斎王たちの生きた古代史 (櫻村寛之)	2452
最後の審判 (岡田温司)	2708
菜根譚 (湯浅邦弘)	2042
財政・金融政策の転換点 (飯田泰之)	2784
在日米軍基地 (川名晋史)	2789
財務省と政治 (清水真人)	2338
サウジアラビアー「イスラーム世界	

の盟主」の正体 (高尾賢一郎)	2670
酒場詩人の流儀 (吉田類)	2290
酒は人の上に人を造らず (吉田類)	2472
佐藤栄作 (村井良太)	2570
サブリミナル・マインド (下條信輔)	1324
サラ金の歴史 (小島庸平)	2634
山岳信仰 (鈴木正崇)	2310
三国志 (渡邊義浩)	2099
詩歌の森へ (芳賀徹)	1656
シェイクスピア (河合祥一郎)	2382
ジェンダー格差 (牧野百恵)	2768
時間と自己 (木村敏)	674
史記 (貝塚茂樹)	12
色彩心理学入門 (大山正)	1169
詩経 (白川静)	220
死刑囚の記録 (加賀乙彦)	565
地獄の思想 (梅原猛)	134
四国遍路 (森正人)	2298
仕事と家族 (筒井淳也)	2322
辞世のことば (中西進)	824
実験の民主主義 (宇野重規著, 若林恵聞き手)	2773
幣原喜重郎 (熊本史雄)	2638
持統天皇 (瀧浪貞子)	2563
自動車の世界史 (鈴木均)	2778
柴田勝家 (和田裕弘)	2758
縛られる日本人 (メアリー・C・プリン トン著, 池村千秋訳)	2715
司馬遼太郎の時代 (福岡良明)	2720
シベリア出兵 (麻田雅文)	2393
シベリア抑留 (富田武)	2411
資本主義の方程式 (小野善康)	2679
自民党—「一強」の実像 (中北浩爾)	2428
社会学 (加藤秀俊)	2484
社会学講義 (富永健一)	1242
ジャガイモの世界史 (伊藤章治)	1930
上海 (榎本泰子)	2030

周一理想化された古代王朝 (佐藤信弥)	2396
宗教図像学入門 (中村圭志)	2668
宗教と過激思想 (藤原聖子)	2642
宗教と日本人 (岡本亮輔)	2639
儒教とは何か (増補版) (加地伸行)	989
取材学 (加藤秀俊)	410
首相支配—日本政治の変貌 (竹中治堅)	1845
シュメル—人類最古の文明 (小林登志子)	1818
シュメル神話の世界 (岡田明子, 小林登志子)	1977
荘園 (伊藤俊一)	2662
カラー版 将棋駒の世界 (増山雅人)	1869
承久の乱 (坂井孝一)	2517
小説読解入門 (廣野由美子)	2641
正倉院のしごと (西川明彦)	2744
浄土思想 (岩田文昭)	2765
浄土真宗とは何か (小山聡子)	2416
少年期の心 (山中康裕)	515
縄文人と弥生人 (坂野徹)	2709
醬油・味噌・酢はすごい (小泉武夫)	2408
昭和天皇 (古川隆久)	2105
昭和陸軍の軌跡 (川田稔)	2144
贖罪のヨーロッパ (佐藤彰一)	2409
食の実験場アメリカ (鈴木透)	2540
食の人類史 (佐藤洋一郎)	2367
植物のいのち (田中修)	2644
植物のみみつ (田中修)	2491
植物はすごい (田中修)	2174
植物はすごい 七不思議篇 (田中修)	2328
諸子百家 (湯浅邦弘)	1989
書とはどういう芸術か (石川九楊)	1220
ショパン・コンクール (青柳いづみこ)	2395
J・S・ミル (関口正司)	2757

英語達人塾 (斎藤兆史)	1854
英語達人列伝 (斎藤兆史)	1701
英語達人列伝II (斎藤兆史)	1533
英語の発音と綴り (大名力)	2738
英語の読み方 (北村一真)	2775
英語の読み方 リスニング篇 (北村一真)	2637
英語の歴史 (寺澤盾)	2797
英単語の世界 (寺澤盾)	1971
英文法再入門 (澤井康佑)	2407
SDGs (持続可能な開発目標) (蟹江憲史)	2628
江戸—平安時代から家康の建設へ (齋藤慎一)	2604
江戸時代 (大石慎三郎)	2675
江戸の災害史 (倉地克直)	476
江戸の思想史 (田尻祐一郎)	2376
カラー版 絵の教室 (安野光雅)	2097
エビはすごい カニもすごい (矢野勲)	1827
絵巻物に見る 日本庶民生活誌 (宮本常一)	2677
蝦夷 (高橋崇)	605
蝦夷の末裔 (高橋崇)	804
エリザベス女王 (君塚直隆)	1041
エルサレムの歴史と文化 (浅野和生)	2578
	2753
「美味しい」とは何か (源河亨)	2713
老いと記憶 (増本康平)	2521
老いの味わい (黒井千次)	2289
老いのかたち (黒井千次)	2053
老いのゆくえ (黒井千次)	2548
欧州複合危機 (遠藤紇)	2405
奥州藤原氏 (高橋崇)	1622
応仁の乱 (呉座勇一)	2401
大隈重信 (伊藤之雄) 上 2550, 下 2551	
大御所 徳川家康 (三鬼清一郎)	2565
大塩平八郎の乱 (藪田貴)	2730
大原孫三郎—善意と戦略の経営者 (兼田麗子)	2196
大平正芳 (福永文夫)	1976

沖縄現代史 (櫻澤誠)	2342
沖縄のいきもの (盛口満)	2735
沖縄の歴史と文化 (外間守善)	799
沖縄問題—リアリズムの視点から (高良倉吉編著)	2418
幼い子の文学 (瀬田貞二)	563
オスカー・ワイルド (宮崎かすみ)	2242
オスマン帝国 (小笠原弘幸)	2518
織田信長合戦全録 (谷口克広)	1625
織田信長の家臣団—派閥と人間関係 (和田裕弘)	2421
オットー大帝—辺境の戦士から「神聖ローマ帝国」樹立者へ (三佐川亮宏)	2766
男が介護する (津止正敏)	2632
オペラの運命 (岡田暁生)	1585
親孝行の日本史 (勝又基)	2671
親指はなぜ太いのか (鳥泰三)	1709
オーラル・ヒストリー (御厨貴)	1636
オランダ風説書 (松方冬子)	2047
音楽の危機 (岡田暁生)	2606
音楽の聴き方 (岡田暁生)	2009
温泉の日本史 (石川理夫)	2494
怨霊とは何か (山田雄司)	2281
カ行	
海外で研究者になる (増田直紀)	2549
カラー版 絵画で読む『失われた時を求めて』 (吉川一義)	2716
海軍と日本 (池田清)	632
外国語を学ぶための 言語学の考え方 (黒田龍之助)	2363
外国人による日本論の名著 (佐伯彰一, 芳賀徹編)	832
海賊の世界史 (桃井治郎)	2442
科学技術の現代史 (佐藤靖)	2547
科学史年表 (増補版) (小山慶太)	1690
科学者という仕事 (酒井邦嘉)	1843
科学という考え方 (酒井邦嘉)	2375

科挙 (宮崎市定)	15
カーストとは何か (鈴木真弥)	2787
化石に眠るDNA (更科功)	2793
華族 (小田部雄次)	1836
カール・シュミット (藤山宏)	2597
河内源氏 (元木泰雄)	2127
がん遺伝子の発見 (黒木登志夫)	1290
考えることの科学 (市川伸一)	1345
宦官 (改版) (三田村泰助)	7
韓国愛憎 (木村幹)	2682
韓国現代史 (木村幹)	1959
韓国社会の現在 (春木育美)	2602
韓国併合 (森万佑子)	2712
漢字再入門 (阿辻哲次)	2213
漢字の字形 (落合淳思)	2534
漢詩百首 (高橋睦郎)	1891
漢字百話 (白川静)	500
感染症の中国史 (飯島渉)	2034
肝臓のはなし (竹原徹郎)	2689
漢帝国—400年の興亡 (渡邊義浩)	2542
関東軍—満洲支配への独走と崩壊 (及川琢英)	2754
観応の擾乱 (亀田俊和)	2443
韓非子 (富谷至)	1695
魏志倭人伝の謎を解く (渡邊義浩)	2164
騎馬民族国家 (改版) (江上波夫)	147
詭弁論理学 (改版) (野崎昭弘)	448
キメラ—満洲国の肖像 (増補版) (山室信一)	1138
教育と平等 (荻谷剛彦)	2006
競争社会の歩き方 (大竹文雄)	2447
競争と公平感 (大竹文雄)	2045
京都の食文化 (佐藤洋一郎)	2721
京都の神社と祭り (本多健一)	2345
京都の山と川 (鈴木康久, 肉戸裕行)	2711
恐怖の正体 (春日武彦)	2772
教養主義の没落 (竹内洋)	1704

教養としての建築入門 (坂牛卓)	2764
教養としての宗教入門 (中村圭志)	2293
清沢淵 (増補版) (北岡伸一)	828
ギリシア神話 (西村賀子)	1798
キリスト教と死 (指昭博)	2561
キリスト教と戦争 (石川明人)	2360
カラー版 キリスト教美術史 (瀧口美香)	2718
近現代日本史と歴史学 (成田龍一)	2150
近現代日本を史料で読む (御厨貴編著)	2107
カラー版 近代絵画史 (増補版) (高階秀爾) 上 385, 下 386	
近代日本外交史 (佐々木雄一)	2719
近代日本の官僚 (清水唯一朗)	2212
禁欲のヨーロッパ (佐藤彰一)	2253
公家源氏—王権を支えた名族 (倉本一宏)	2573
国造 (くにもみやつこ) —大和政権と地方豪族 (篠川賢)	2673
カラー版 クモの世界—糸をあやつる 8本脚の狩人 (浅間茂)	2693
ケアとは何か (村上靖彦)	2646
経済学的思考のセンス (大竹文雄)	1824
経済学に何ができるか (猪木武徳)	2185
経済社会の学び方 (猪木武徳)	2659
競馬の世界史 (本村凌二)	2391
刑吏の社会史 (阿部謹也)	518
ケマル・アタテュルク (小笠原弘幸)	2774
研究不正 (黒木登志夫)	2373
兼好法師 (小川剛生)	2463
健康・老化・寿命 (黒木登志夫)	1898
言語学の教室 (西村義樹, 野矢茂樹)	2220
言語の社会心理学 (岡本真一郎)	2202

中公新書 書名索引

◆数字は新書番号

ア 行			
会津落城 (星亮一)	1728	硫黄島 (石原俊)	2525
iPS細胞 (黒木登志夫)	2314	医学の歴史 (小川鼎三)	39
アイルランド紀行 (榎木伸明)	2183	生き物の「居場所」はどう決まるか (大崎直太)	2788
アイルランド現代史 (北野充)	2717	イギリス1960年代 (小関隆)	2643
悪意の心理学 (岡本真一郎)	2386	イギリス帝国の歴史 (秋田茂)	2167
明智光秀 (福島克彦)	2622	石橋湛山 (増田弘)	1243
アケメネス朝ペルシア—史上初の世 界帝国 (阿部拓児)	2661	いじめとは何か (森田洋司)	2066
アジア経済とは何か (後藤健太)	2571	カラー版 イースター島を行く —モアイの謎と未踏の聖地 (野村哲也)	2327
アジアの国民感情 (園田茂人)	2607	イスラームの歴史 (カレン・アームス トロング著, 小林朋則訳)	2453
足利将軍たちの戦国乱世 (山田康弘)	2767	板垣退助 (中元崇智)	2618
足利義満 (小川剛生)	2179	伊藤博文 (瀧井一博)	2051
飛鳥の木簡—古代史の新たな解明 (市大樹)	2168	移民と日本社会 (永吉希久子)	2580
アダム・スミス (堂目卓生)	1936	移民の経済学 (友原章典)	2575
アダムとイヴ (岡田温司)	2188	殷—中国史最古の王朝 (落合淳思)	2303
アデナウアー (板橋拓己)	2266	院政 (増補版) (美川圭)	1867
アメリカ海兵隊 (野中郁次郎)	1272	インド—グローバル・サウスの超大 国 (近藤正規)	2770
アメリカ黒人の歴史 (上杉忍)	2209	陰謀論 (秦正樹)	2722
アメリカと宗教 (堀内一史)	2076	ヴィクトリア女王 (君塚直隆)	1916
アメリカの政党政治 (岡山裕)	2611	ウイルスとは何か (長谷川政美)	2736
アメリカの20世紀 (有賀夏紀)	上1664, 下1665	ヴィルヘルム2世 (竹中亨)	2490
アメリカン・ロイヤルの誕生 (阿川尚之)	819	歌う国民 (渡辺裕)	2075
ある明治人の記録 (改版) (石光真人編著)	252	ウニはすごい バッタもすごい (本川達雄)	2419
アーロン収容所 (改版) (会田雄次)	3	ウマは走る ヒトはコケる (本川達雄)	2790
暗殺の幕末維新史 (一坂太郎)	2617	海の地政学 (竹田いさみ)	2566
安心社会から信頼社会へ (山岸俊男)	1479	海の帝国 (白石隆)	1551
安楽死・尊厳死の現在 (松田純)	2519	海の友情 (阿川尚之)	1574
		うわさとは何か (松田美佐)	2263
		映画館と観客の文化史 (加藤幹郎)	